

白百合女子大学 履修要覧 2024 (2017～2024年度入学者用)

2024年度より 履修要覧の取り扱いを 以下のとおり変更いたします

本冊子は、在籍している間、卒業・修了まで続けて使用することになりますので、各自で大切に保管してください
開講授業科目表、授業時間割表、学事日程（授業日・各種手続日程等）は、大学ホームページで確認してください
大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修（CAMPUS SQUARE のリンクからもアクセス可）

項目をタップするとそのページが開きます

もくじ

文学部・人間総合学部 共通事項

授業・履修.....	4
卒業論文・卒業研究.....	11

文学部

教育課程

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針.....	15
卒業要件単位数.....	23
宗教学科目.....	25
共通科目.....	29
外国語科目.....	33
国語国文学科.....	39
フランス語フランス文学科.....	51
英語英文学科.....	59

資格課程

中等教職課程.....	71
司書課程.....	103
司書教諭課程.....	107

プログラム等

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム.....	113
日本語教育副専攻.....	117
舞台芸術実践プログラム.....	127
グローバルビジネスプログラム.....	131
ホスピタリティ・マネジメントプログラム.....	137
児童英語指導者養成プログラム.....	143
学校司書のモデルカリキュラム.....	149

人間総合学部

教育課程

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針.....	155
卒業要件単位数.....	165
宗教学科目.....	167
共通科目.....	171
外国語科目.....	175
学部共通科目.....	181
児童文化学科.....	183
発達心理学科.....	187
初等教育学科.....	193

資格課程

公認心理師カリキュラム.....	263
司書課程.....	271
司書教諭課程.....	273

プログラム等

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム.....	279
日本語教育副専攻.....	281
グローバルビジネスプログラム.....	283
ホスピタリティ・マネジメントプログラム.....	285
児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）.....	287
学校司書のモデルカリキュラム.....	293

大学院 文学研究科

共通事項

修了認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針.....	300
課程修了および学位取得スケジュール.....	317
指導教員.....	319
修了要件単位数およびカリキュラム.....	320
授業・履修.....	328
大学院科目履修取消申請.....	333
委託特別聴講生制度.....	334
修士論文および特定の課題についての研究の成果.....	335
博士学位論文（課程博士）.....	337
在学延長・単位取得退学.....	341
専修免許状の取得.....	342
公認心理師カリキュラム.....	346
臨床心理士カリキュラム.....	349
臨床発達心理士カリキュラム.....	352

文学部・人間総合学部

共通事項

授業・履修

卒業論文・卒業研究

授業・履修

1. 単位

1) 単位と卒業要件単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算されており(学則第27条)、科目を履修し、試験その他の適切な方法により、合格と評価された者に対して所定の単位が与えられます(学則第29条)。例えば、本学で多く開講されている半期2単位の講義・演習科目において必要な学修時間は90時間で、その内訳は、授業30時間(2時間×15回、90分授業を2時間とみなす)と授業外60時間になります。単位の修得には、授業時間とともに予習・復習・課題への取り組み・自主学習など授業時間外の学修が前提となっている点や、授業科目ごとの達成目標を満たしてはじめて合格と評価される点を理解しておくことが大切です。

卒業要件単位数は、文学部、人間総合学部ともに124単位です。詳細については、各学部の卒業要件単位数のページとともに、各科目区分の卒業の要件を十分に確認してください。

2) 履修登録単位数の上限(CAP)

履修科目として登録することができる単位数の上限が半期ごとに定められています。これは、単位の過剰登録を防ぎ、単位修得のために必要な学修時間を確保することを目的としています。一方で、1・2年次での修得単位数が極めて少ない場合、3・4年次で挽回しようとしても卒業に必要な授業科目・単位数のすべてを履修登録しきれず、4年間での卒業が困難になることも考えられます。計画的な履修と単位修得をこころがけてください。

1年次～4年次 履修登録単位数の上限 半期24単位(資格課程等履修者は30単位)

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

【履修登録単位数の上限への加算対象となる資格課程・プログラム等】

中等教職課程、司書課程、(初等教育学科以外の)司書教諭課程、日本語教育副専攻、グローバルビジネスプログラム
児童英語指導者養成プログラム、児童英語指導者養成プログラム(小学校オプション)

【履修登録単位数の上限への加算対象外となる資格課程・プログラム等】

発達心理学科における公認心理師カリキュラム(学科専門科目の履修・学修に含まれるため)
初等教育学科における初等教職課程、保育士養成課程、司書教諭課程(学科専門科目の履修・学修に含まれるため)
白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラム、舞台芸術実践プログラム、ホスピタリティ・マネジメントプログラム
学校司書のモデルカリキュラム(履修前提である司書課程、中等教職課程、初等教育学科児童コース他学科聴講に対し加算済)

※成績優秀者については、4年次に前年度までの成績が一定の基準を満たしていることを条件に、上限を超えて履修登録することが認められる場合があります。具体的な成績基準については、各学科専門科目の「履修登録単位数の上限」のページを参照してください。

※次の単位は履修登録単位数の上限の中に含めません。

- ・本学入学前に大学等で修得し、本学の単位として認定されたもの
- ・本学と協定のある大学において修得し、本学の単位として認定されたもの
- ・外国留学において修得し、本学の単位として認定されたもの
- ・短期大学または高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修のうち、本学の単位として認定されたもの
- ・集中講義科目

※通年科目の単位数は、各学期につき半年の単位で計算してください。

2. 授業科目

1) 履修要覧

履修要覧は、大学の学修において必要な基本事項、卒業要件単位数、科目区分別カリキュラム、資格課程・プログラム別カリキュラムなどが掲載されています。なお、2024年度履修要覧(冊子)は、在籍している間、卒業まで続けて使用します。大切に保管し、必要に応じて随時確認してください。

2) 開講授業科目表

当該年度に開講される授業科目の一覧表は、科目区分または資格課程・プログラムごとに大学ホームページで確認することができます。開講授業科目表には、授業科目名、担当教員名、科目区分、開講期、開講曜日・時限、必選区分、授業形態、対象年次・クラス、人数制限、他学科開放の有無、履修上の注意事項などが掲載されています。

3) 時間割表

当該年度に開講される授業科目の時間割は、曜日・時限ごとに大学ホームページで確認することができます。

4) シラバス

当該年度に開講される授業科目のシラバスは、CAMPUS SQUAREで確認することができます。シラバスには、授業科目の達成目標・概要・計画、履修上の注意、授業時間外学修の内容、教科書・参考書、成績評価方法・基準などが掲載されています。履修を選択する際のみならず、履修中のコースガイドとしても随時参照するようにしてください。

5) 科目区分

文学部の授業科目は、宗教学科目、共通科目、外国語科目および学科専門科目に区分されています。また、人間総合学部の授業科目は、宗教学科目、共通科目、外国語科目、学部共通科目および学科専門科目に区分されています。その他の区分として、教職科目、司書科目、司書教諭科目が設けられています。

6) 開講期

授業科目には、開講期によって、前期科目、後期科目、通年科目（前期から後期まで通して行われる授業科目）、集中講義（春期または夏期休暇期間等に集中して行われる授業科目）の別があります。

7) 必選区分

授業科目には、必修科目（必ず履修して単位を修得すべき科目）、選択必修科目（指定科目群の中から所定の科目数または単位数以上を選んで履修して単位を修得すべき科目）、選択科目（自由に履修できる科目）の別があります。必選区分は、卒業、資格取得、あるいは、プログラム修了に対し、それぞれの単位修得の優先度合いを表すものです。所属学科や入学年度によっても異なりますので、当該カリキュラムをよく確認してください。なお、必修科目については、単位を修得できなかった場合、次学期または次年度以降に再履修することになります。

8) 対象年次

授業科目には、各カリキュラムにおいて示されている履修するのに望ましい対象年次が示されています。対象年次が指定されている授業科目は、原則としてその年次において履修してください。ただし、自分より下級年次を対象とする授業科目を履修することは可能です。その履修に際しては、特に許可を得る必要はありません。

9) 授業形態

授業科目には、講義、演習、実験、実習、実技、または、それらを2つ以上組み合わせた授業形態があります。

10) 他学部他学科開放科目

各学科専門科目の中には、その学科に所属していない学生の履修が認められている授業科目もあります。開講授業科目表の他学科開放欄に「○」のある授業科目が該当します。自分の所属以外の学科専門科目を履修して修得した単位は、科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）となります。

11) 再度履修できる科目

原則として、過去に単位修得した授業科目を再び履修することはできません。ただし、例外として、年度別に異なる授業テーマが設定されるなどの理由で、単位修得済の同一名称科目を再び履修できる場合があります。開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている授業科目が該当します。

12) 授業科目と卒業認定に関する方針（ディプロマポリシー）の対応

卒業認定に関する方針（ディプロマポリシー）で示す本学での学びで身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を示した一覧を大学ホームページで公開しています。適宜確認の上、体系的な学びを理解し、計画的に学修をすすめてください。

13) 履修系統図

科目区分ごとの学びで身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を示した履修系統図を大学ホームページで公開しています。適宜確認の上、体系的な学びを理解し、計画的に学修をすすめてください。

14) 科目ナンバリング

学問上の分類や学修段階・順序を示した科目ナンバリングを大学ホームページで公開しています。履修科目を選択する際の一助としてください。

3. 科目履修登録申請

1) 科目履修登録申請と履修上の原則

科目履修登録申請（以下、履修登録という）は、その学期に履修するすべての授業科目を所定の期日までに届け出るものです。履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス、開講授業科目表、時間割表や、各種ガイダンスでの説明、学科・センターの指示等をあらかじめよく確認し、自分にとって必要な手続きを確実に行うようにしてください。履修上の原則は、以下のとおりです。

- ・対象年次が指定されている授業科目は、その年次において履修すること
- ・再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、再履修科目を優先して履修すること
- ・合格の評価を受けた科目について、同一授業科目を履修登録することはできない（再度履修可の場合を除く）
- ・設備および授業内容等の都合により履修調整を行うことがある

なお、原則として、所定の期日を過ぎてからの履修科目の登録・変更はできません^{*}。必要な手続きを怠ったことにより発生する履修上の不利益は学生本人の責任とします。所定の期日までに履修登録を行うことのできないやむを得ない事情がある場合は、事前に教務課へ連絡して指示をうけてください。

^{*}進級・卒業・資格取得要件に対してその条件を満たせない状態にある場合に限り、制限人数に達していない授業科目の中から、必要最低限の登録・変更を許可されることがあります。

2) 科目履修登録申請

履修登録の日程（前期 3月下旬～4月初旬、後期 9月中旬）

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修

当該年度の履修登録日程については、大学ホームページで確認することができます。

履修登録の方法

履修登録には「事前登録申請」と「本登録申請」の2つのステップがあり、それぞれCAMPUS SQUAREで行います。操作方法詳細については、大学ホームページを参照してください。

履修計画

履修要覧、シラバス、時間割表などを参照し、あらかじめ履修計画を立てたうえで履修登録期間にのぞんでください。履修科目の決定にあたっては、単にその学期のことだけを考えるのではなく、卒業、資格取得やプログラム修了までに必要な科目や単位を把握し、おおまかにでも見通しをもったうえで検討することが大切です。

履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 履修登録・登録状況照会

当該年次必修科目や履修することが確定している授業科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを事前登録期間内に確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

事前登録申請

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 事前登録 > 事前登録 > カテゴリ選択 > 科目グループ選択 > 優先順位等*入力 > 確認 > 確認
※【優先順位欄】1科目のみの場合は「1」を入力 【合格希望科目数欄】科目グループ内で履修を希望する科目数を入力 (入力欄がなければ入力不要)

人数制限科目 (開講授業科目表に「制」マークのある科目) と再履修科目 (指定された年次に単位を修得できなかった必修科目) を事前登録申請期間に登録します。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、本登録期間になりましたらCAMPUS SQUAREで結果を確認してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録 (先着順科目を登録) を行ってください。

本登録申請

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 履修登録・登録状況照会

のこりすべての授業科目を本登録申請期間に登録します。登録不備がないか十分に確認のうえ、登録作業を終えてください。なお、教室収容人数を超える履修者数となった授業科目のみ、本登録申請期間終了後に履修調整を行います。履修調整対象者へは、代わりの授業科目の追加登録方法とあわせてCAMPUS SQUAREでお知らせします。

履修登録申請内容の最終確認

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 履修登録・登録状況照会

授業開始日より1週間以内に、その学期に履修すべき科目が正しく登録できていることを最終確認してください。万一、重大な登録不備が見つかった場合は、ただちに教務課へ申し出てください。

履修取消申請 (希望する場合のみ)

履修登録済の授業科目の内、単位を修得しない授業科目については、履修取消申請を行ってください。履修取消科目については、成績評価がなされず、GPAの計算にも含まれません。前期科目・集中講義は5月、後期科目は10月の、それぞれ学事日程で示されている期日までにWEBフォームより申請してください。WEBフォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREでお知らせします。

必修科目、卒業論文、卒業研究、卒業レポートおよび実習科目と、4年次後期に履修している授業科目については、履修取消を申請することはできません。また、前期に履修取消した単位数分を後期の履修登録単位数の上限に上乗せすることはできません。進級や卒業に関わる科目を取り消すことのないよう、十分に確認のうえ申請してください。

4. 履修

1) 学事日程

学事日程は、大学ホームページで確認することができます。例年3月中旬に翌年度の学事日程を公開します。授業日程はもちろんのこと、履修登録などの各種申請日程についても、各自でよく確認してください。

2) 休講

授業科目の休講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、教室での対面授業に代えて遠隔授業が行われる場合は、担当教員より連絡します。配信日や配信方法など、担当教員の指示にしたがってください。また、緊急時 (台風など) における休講措置については、大学ホームページ等でお知らせします。緊急時の休講措置基準については、学生生活ガイドブックを参照してください。

3) 補講

授業科目の補講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。補講は、学事日程に示されている補講日だけでなく、通常授業期間内に行われる場合もあります。また、通常と異なる曜日・時限・教室に補講を実施する場合もあります。CAMPUS SQUAREの補講情報とともに、担当教員からの事前連絡についてもよく確認してください。

4) 出席

授業科目ごとの方法により出席を確認します。出欠席の回数については、各自で責任をもって管理してください。なお、各科目につき、出席した時間数が出席すべき時間数の3分の2に満たない者は、学則第29条に定める方法(試験その他の適切な方法)による評価の対象とはならず、その科目修了の認定を受けることもできません(学則第31条、2024年4月改正)。授業科目への一定以上の出席は、あくまでも単位修得の最低条件であり、単位修得を保証するものではないという点を理解しておくようにしてください。

5) 遅刻・早退

授業時間開始後15分までに教室に入室した場合は、遅刻と認められる場合があります。また、授業時間終了予定時刻15分前以降に教室を退出する場合は、事前の申し出により早退と認められる場合があります。遅刻・早退はその種別なく合算し、計3回をもって1回の欠席とみなされます。

交通機関遅延による遅刻(15分以上の遅刻含む)については、当該交通機関窓口発行の遅延証明書を当日中に担当教員へ提出することで遅刻と認められる場合があります。詳細については大学ホームページを確認してください。

6) 欠席

授業科目の欠席については、特に連絡の必要はありません。ただし、試験欠席の場合や授業内発表担当などの場合は、事前に(遅くとも当日中までに)、メール等で担当教員へ直接連絡し、必要な指示を仰いでください。

7) 公認欠席

次にあげるものについては、所定の手続きを行うことにより公認欠席が認められます。公認欠席は「当該科目の出席すべき時間数」から公認欠席時間数を差し引くものとします。ただし、初等教育学科の学生は、保育士養成課程科目に関しては、いかなる場合も公認欠席が認められません。手続方法は、大学ホームページで確認してください。

- ・ 幼稚園教諭、小学校教諭、中学校・高等学校教諭、保育士および日本語教育副専攻に関する実習
- ・ 忌引
- ・ 学校保健安全法施行規則に定められている出席停止を要する感染症への罹患
- ・ 裁判員制度による裁判所への出頭
- ・ その他特別な事情により、大学当局が認めたもの(本学では就職活動による欠席は公認欠席として扱われません)

8) 教室

授業科目が行われる教室は、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールで確認することができます。教室の変更(一時的な変更含む)は、原則としてCAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、授業進行上の理由で、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールには反映されず、担当教員より使用教室を直接指示される場合もあります。特に、授業期間開始直後は多くの授業科目において教室変更が発生します。各自で適宜確認してください。

9) 教科書

授業科目で使用する教科書は、アマカピア(購買部)のWEB販売サイトにて所定の販売期間に購入することができます。WEB販売サイトのURLや販売期間は、CAMPUS SQUAREにてお知らせします。必修科目など履修があらかじめ決まっている科目以外の教科書は、履修が確定してから購入するようにしてください。なお、教科書販売についての質問は、アマカピア(03-5313-1620/1号館地下)へ直接お問い合わせください。

10) 学習支援システム

本学における主な学習支援システムには、CAMPUS SQUARE(履修登録申請のほか、授業科目のシラバス・教室・休講・補講・授業連絡・成績、大学からのお知らせなどを確認できるポータルサイト)、manabacourse(授業科目の資料・コンテンツ配信、リアクションペーパー・レポート提出、オンラインテスト受験、授業指示や意見交換などが行われる学習支援システム)、白百合メール(@shirayuri.ac.jpの個別アカウント)などがあります。また、授業科目によっては、これ以外のツールを使用することもあります。学習支援システムを積極的に活用するとともに、自分にとって必要な情報を、日々責任をもって確認してください。

CAMPUS SQUARE <https://cs.shirayuri.ac.jp/campusweb/>
 manabacourse <https://shirayuri.manaba.jp/>
 白百合メール <https://mail.google.com/>

11) 大学ホームページ（授業・履修に関するページ）

履修要覧をはじめとする授業・履修に関する情報は、大学ホームページでも公開しています。スマートフォンなどから以下のページへアクセスして、必要な情報を適宜確認してください。

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修（CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセス可）

5. 成績評価

1) 成績評価方法

成績評価方法は、試験、レポート、課題、発表、授業内外での取り組みなど、授業科目ごとにそれぞれ適切な方法が設定されています。シラバスに記載されている授業科目ごとの成績評価方法・基準を確認するとともに、評価物の提出期日・内容、試験の日程・出題範囲・条件などについては担当教員からの説明をよく聞いて学修にあたってください。なお、試験の受験上の注意やレポートに関する注意事項については、学生生活ガイドブックで確認することができます。

2) 成績評価

成績評価とその基準は、以下のとおりです。

評 点	表 記	評 価 基 準	合 否
100点～90点	S	達成目標を十分に満たし、秀でている。	合 格
89点～80点	A	達成目標を十分に満たしている。	
79点～70点	B	達成目標をほぼ満たしている。	
69点～60点	C	達成目標の最低水準を満たしている。	
59点～0点	F	達成目標の最低水準を満たしていない。	不 合 格
試験未済	未	試験未済	
欠席超過	超	欠席超過（学則第31条*に基づく）	
成績認定	T	留学等、学外で履修した科目を本学の授業科目として認定する。	認 定

(通年科目の前期末の成績は中間点であり、最終的な成績評価は学年末に確定します。)

* 学則第31条（2024年4月改正）

各科目につき、出席した時間数が出席すべき時間数の3分の2に満たない者は、第29条に定める方法（試験その他の適切な方法）による評価の対象とはならず、その科目修了の認定を受けることもできない。

3) GPA

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）は、授業科目ごとに5段階（S、A、B、C、F）で成績評価を行ったうえで、それぞれに対応するグレード・ポイント（4、3、2、1、0）を付与し、単位あたりの平均をだしたもので、本学では以下の式により計算します。学習状況を振り返る際のひとつの目安としてください。

【2018年度以降入学者】

$$GPA = \frac{(\text{履修登録科目の単位数} \times \text{当該科目のGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数合計}}$$

※授業科目の成績のGPは次のとおりとします。 S：4、A：3、B：2、C：1、F：0、未：0、超：0

※他大学で習得し単位認定された科目（T）、本学が計算式に含めないと認めた科目、および、履修取消科目は、計算に含まれません。

※成績通知書には「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」が、学業成績証明書には「通算GPA」が表示されます。

※年度途中で休学・退学となった場合、履修中の通年科目は「履修取消」となり、GPAへは反映されません。

（ただし、「通年科目の半期履修による成績評価に関する願書（1/2単位認定願）」が適用された場合はGPAへも反映されます。）

また、学期途中で休学・退学となった場合、履修中の当該学期科目は「履修取消」となり、GPAへは反映されません。

4) 成績通知

成績は、前期は9月初旬、後期は3月初旬の学事日程で示されている成績発表日よりCAMPUS SQUAREで通知します。授業科目の成績（通年科目の中間点を含む）については履修成績照会画面、修得済単位数およびGPAについては単位修得状況照会画面で確認してください。3月上旬には保証人へ成績通知書を郵送します。

なお、入学前既修得、留学、編入学、再入学などの理由により、学外で履修した学修を本学における授業科目の履修とみなして単位を認定された場合は、認定学期の成績発表日以降に、CAMPUS SQUAREの単位修得状況照会画面で認定科目名と単位数を確認することができます。

5) 履修指導

直前の学期GPAが1.0未満の場合、または、以下の表に該当する場合は、原則として学期のはじめに担当アドバイザーによる履修指導が行われます。学修上の課題についてアドバイザーへ相談し、今後のよりよい学びへつなげてください。なお、2017年度以前入学者のGPAについては「GPAに準じた数値」を使用します。

国語国文学科	1・2年次：進級要件に含まれる専門科目に不合格のある者 3・4年次：テーマ別研究、卒業論文に不合格のある者
フランス語フランス文学科	2年次：1年次のフランス語共通テストで50点未満の者 3年次：必修フランス語科目で2科目以上不合格のある者 4年次：必修フランス語科目で3科目以上不合格のある者、専門ゼミⅠ・Ⅱ（▽23 専門ゼミ）が不合格の者
英語英文学科	1～3年次：専門必修科目に不合格のある者
児童文化学科	1～4年次：専門必修科目（卒業論文の履修条件である10科目20単位）に不合格のある者
発達心理学科	2年次：専門必修科目に不合格のある者 または 修得単位数の合計が30単位未満の者 3年次：専門必修科目に不合格のある者 または 修得単位数の合計が60単位未満の者 4年次：専門必修科目に不合格のある者 または 修得単位数の合計が90単位未満の者
初等教育学科	1～3年次：履修配当年次の専門必修科目に不合格のある者 または 年間の修得単位数が30単位未満である者

6. その他

1) 学則および各種規程

白百合女子大学学則、各種規程は学生生活ガイドブックの巻末に掲載しています。

2) 授業・履修に関するサポート

授業・履修についての質問は、授業内容に関しては担当教員へ、それ以外は教務課（11号館2F）または各研究室へお問い合わせください。

卒業論文・卒業研究

1. 卒業論文・卒業研究の提出

卒業論文・卒業研究については、その提出を以下のとおりとします。

- 〔提出期間〕 当該年度学事日程に示す 12 月中旬の 3 日間（土日は含まない）
- 〔提出期限〕 上記期間の最終日の 15 時まで（時間厳守）
- 〔提出方法〕 所属学科指定の方法による

2. 卒業論文・卒業研究の提出に関する注意事項

卒業論文・卒業研究の提出に関する注意事項は以下のとおりです。

- ・卒業論文・卒業研究の提出は、所属学科指定の方法により、原則として学生本人が行うものとする。
- ・提出後の卒業論文・卒業研究の題目の変更は認められない。
- ・一度受理した卒業論文・卒業研究は、理由の如何を問わず返却は行わない。

3. 卒業論文・卒業研究の提出における特別措置について

1. に示す提出期限に遅れた卒業論文・卒業研究提出者のうち、以下の条件を満たす者に対しては特別措置を設けます。

- 〔条 件〕 完成した卒業論文・卒業研究を、提出期間最終日の 17 時までに所属学科指定の方法で提出すること
- 〔措置内容〕 特別措置の取り扱いについては以下のとおりとする
 - ① 正規に提出された卒業論文・卒業研究とは別に、受理・審査の手続きを行う
 - ② 成績評価は、「合格」または「不合格」の扱いとする
 - ③ 「合格」の場合、成績は「C」とする。

なお、以上に該当しない卒業論文・卒業研究未提出者は、卒業延期となります。

文学部

文学部

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

文学部 卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

2023年度以降入学者用

1. 卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の年限在学し、各学科が定める所定の単位を修得することで、以下の能力を身につけた学生に、学位を授与する。

- ・建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。
- ・時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。
- ・現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。
- ・専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知識と技能を身につけている。
- ・専攻する言語と文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。
- ・専攻する言語と文学、文化に関する教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

建学の精神と教育理念に基づいて、修得した知識を自己の人格的成長と他者への愛に変えうる豊かな知性と感性を身につけるために、1・2年次に必修科目の「キリスト教学」を、3・4年次に多彩な科目の中から自己の関心と意欲に応じて選択必修科目として履修する「宗教学」を配置する。

1. 「キリスト教学Ⅰ」では、建学の精神を学び、その根底にあるキリスト教的価値観に基づく生き方に触れるとともに、福音書を中心とした聖書の基礎的知識を学ぶ。受講者相互によるプレゼンテーションを実施し、自己理解と他者理解を深める。
2. 「キリスト教学Ⅱ」では、建学の精神の理解を深め、キリスト教的人間観・世界観とその今日的意義について考察する。聖書の主要箇所とキリスト教の歴史的展開を人間の生きる意義と現代世界の多様な課題とに関連づけて学び、現代に生きる私たちの在り方を考える。
3. 「宗教学」では、キリスト教学での基礎的な学びを土台に、本学の教育目標「真・善・美」に向かって諸学問・諸宗教との関連から広い視野で学ぶ。思索の基盤を養い、人間の尊厳といのちの意味について考え、他者の苦しみや痛みを目に向け、地球規模での現代世界の諸問題と対峙し、社会の中での具体的な生き方につなげていく。

幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために以下の科目群を設置する。

1. 初年次科目群
2. 教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）
3. 健康・スポーツ科目群
4. 情報・データサイエンス科目群

グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の選択必修・選択科目を提供する。

1. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。
2. 学生個々のレベルにあわせた習熟度別のクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、ICT設備を利用する。

専攻する言語と文学、文化に関する基本的な知識と技能を習得するために、1・2年次に基礎科目を設置する。

専攻する言語と文学、文化について、自ら調査、研究して考えを発表し、議論を通じて問題解決をはかる力を涵養するために、演習科目を設置する。

専攻する言語と文学、文化を多方面から理解し、多彩な専門知識を身につけるために、講義科目を設置する。

専攻する言語と文学、文化に関して、自ら設定した課題について考究し、卒業論文・レポートを完成させるために、3年次からゼミを設置する。

【国語国文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、国語国文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

古代から現代に至る日本語日本文学の多様な世界を探求し、この学びをとおして、日本語による論理的思考力と想像力、表現能力を育み、そこから見出されるテーマを追究するために、以下の科目を置く。

- ・ 基本的知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培うため、少人数の基礎演習や基礎講読を置く。
- ・ 日本語学、日本文学、日本語教育の幅広い分野に目を向けるとともに、専門的に取り組みたい領域を模索し見定めるため、各領域を総合的に俯瞰する科目（総合研究）を置く。
- ・ 各領域について知見を深め、調査、研究する技能を高めるため、専門性の高い演習やさまざまな内容の講義科目を置く。
- ・ 学びの集大成となる卒業論文を執筆するため、自ら選択した専門領域における特定の問題を掘り下げて調査、研究し、議論を通して問題解決をはかる、ゼミ形式の演習（テーマ別研究）を置く。

【フランス語フランス文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、フランス語フランス文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

世界の共通語の一つであるフランス語を習得し、幅広い時代のフランス文学にアプローチしながら、フランス語圏の社会・文化・歴史を総合的に探究する能力を身につけるために、以下の科目を置く。

- ・ 「リーディング」「ライティング」「ヒアリング」「スピーキング」の4技能をバランスよく伸ばすため、1・2年次に、未習者・既習者別の少人数クラスによるフランス語学習の基礎科目（1年フランス語総合Ⅰ・Ⅱ、1年フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、2年フランス語総合Ⅰ・Ⅱ、2年フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ）を置く。さらに実践的なコミュニケーション力と読解力を身につけるため、3年次にフランス語学習の発展科目（フランス語発展総合Ⅰ・Ⅱ、フランス語発展読解Ⅰ・Ⅱ）を置く。*1
- ・ フランス語圏の文学・文化・歴史・社会への関心を深め、専門的学習の基盤となる知識を習得することを目的とした基礎科目（フランス語圏文化概論Ⅰ・Ⅱ、フランス文学概論）をそれぞれ1年次と2年次前期に置く。*2
- ・ 選択したコースに沿って専門科目を履修することで、それぞれの関心領域に応じて専門知識が体系的に身につくよう、「フランス語特別強化」「フランス文学社会文化」「フランス歴史芸術文化」「フランス生活文化」の4つのコースを設置する。
- ・ フランス語ならびにフランス語圏の文学・文化・歴史・社会について、専門的知見を身につけるために、講義科目（フランス文学歴史研究、フランス社会文化研究、フランス芸術文化研究、フランス生活文化研究）を2～4年次に置く。
- ・ フランス語ならびにフランス語圏の文学・文化・歴史・社会について、自ら調査、研究して考えを発表し、議論を通じて問題解決をはかる力を涵養するために、演習科目（フランス語上級演習、フランス文学歴史演習、フランス社会文化演習、フランス芸術文化演習、フランス生活文化演習）を3～4年次に置く。
- ・ 関心のあるテーマについての研究を掘り下げ、十分な時間をかけてレポート・卒業論文を執筆するため、2年次後期にゼミへの導入科目（専門ゼミ準備研究）を、3～4年次にゼミ（専門ゼミ）をそれぞれ置く。

〔注記〕 通年科目を半期科目へ置き換えたことに伴い（2024年度より全学年へ適用）、*1*2 を変更しています。2023年度の記載は以下のとおりです。

*1・「リーディング」「ライティング」「ヒアリング」「スピーキング」の4技能をバランスよく伸ばすため、1・2年次に、未習者・既習者別の少人数クラスによるフランス語学習の基礎科目（総合Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーションⅠ・Ⅱ）を置く。さらに実践的なコミュニケーション力と読解力を身につけるため、3年次にフランス語学習の発展科目（発展総合Ⅰ・Ⅱ、発展読解Ⅰ・Ⅱ）を置く。

*2・フランス語圏の文学・文化・歴史・社会への関心を深め、専門的学習の基盤となる知識を習得することを目的とした基礎科目（フランス語圏文化概論、フランス文学概論）を1・2年次前期にそれぞれ置く。

【英語英文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、英語英文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

異文化に関する深い知識と確かな英語運用能力を身に付け、日本の魅力を世界に発信できる人材を育てるために、以下の科目を置く。

- ・英語運用能力を総合的かつ効率的に高めるため、1年次より技能別・少人数制の必修英語科目を置く。さらに、4技能の統合を目標とする選択必修科目群「Integrated English」を2～4年次に置き、英語の思考力・表現力を発達させながら、段階的に高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。
- ・言語と文学、文化への視野を広げ、3年次以降の専門分野を決定するために、1・2年次に必修基礎科目「入門セミナー」を設置する。
- ・演習形式でリサーチ・スキル及びプレゼンテーション・スキルの向上を図るために、3年次にゼミ科目「3年セミナー」を置く。4年次には、自ら設定した課題について考究し、卒業論文を完成させるためにゼミ科目「特別演習」を置き、卒業論文の制作に必要な知識を習得する。
- ・専門領域に関する知識・技術を修得するため、下記の通り4つの「コース（科目群）」ごとに、その特徴を備えた講義科目を設ける。

＜ブリティッシュ・スタディーズ＞

イギリスを中心とする英語圏の文学・文化・歴史を学ぶことにより、現代グローバル社会の成立過程を理解し、今日の諸問題を読み解くために必要な歴史的・文化的リテラシーの獲得を目指す。専門的学習の基盤となる「イギリス史」「イギリス文学史」などの基礎科目を1～3年次に置き、専門的知見を深めるための「イギリス文学研究」「イギリス文化研究」などの専門科目を2～4年次に置く。

＜アメリカン・スタディーズ＞

アメリカを中心とする英語圏の文学・文化・歴史を学ぶことにより、現代グローバル社会の成立過程を理解し、今日の諸問題を読み解くために必要な歴史的・文化的リテラシーの獲得を目指す。専門的学習の基盤となる「アメリカ史」「アメリカ文学史」などの基礎科目を1～3年次に置き、専門的知見を深めるための「アメリカ文学講義」「アメリカ文化講義」などの専門科目を2～4年次に置く。

＜ことばとコミュニケーション＞

言語研究と実践的コミュニケーション能力の両面からの養成を目指す。日英語の対照を意識させながら、「英語音声学」や「英語学概論」などの授業を基軸として、早期英語から成人に至る広い年齢層をも視野に入れ、言語そのもの及びその使用の両面からの研究を目指すための専門科目を置く。

＜国際社会・文化＞

日本を中心に国際社会や文化・歴史について多様な視点から学ぶとともに、国際化が進む世界について英語で議論し、発信する力を養うために、（1）課題解決型授業を中心に学びを展開する、（2）コースで開講するすべての授業を英語で行う、（3）国際社会において日本がどのように位置付けられてきたのかを体系的に学ぶための専門科目を置く。

2022年度以前入学者用

1. 卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の年限在学し、各学科が定める所定の単位を修得することで、以下の能力を身につけたものに、学位を授与する。

- ・時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。
- ・時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。
- ・現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。
- ・専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている。
- ・専攻する言語や文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。
- ・専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている。
- ・異文化と自文化とを見渡す豊かな教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

建学の精神の基礎である聖書、およびカトリックの人間観・世界観を学ぶために次の科目を全学年にわたって必修・選択必修としてすべての学生に提供する。

1. キリスト教学Ⅰ・Ⅱ（第1・2学年必修）

- ・出会う他者を共感的に受け入れる力と自己肯定力を養成する。
- ・創立母体・シャルトル聖パウロ修道女会の精神を学びすべての人々、特に困難の中にある人々との連帯の態度を養成する。
- ・白百合学園の歴史を学び本大学のメンバーとしての自覚を涵養する。
- ・聖書についての基礎的な知識を学び、それを実生活に生かす態度を養成する。

2. 宗教学（第3・4学年選択必修）

キリスト教学Ⅰ・Ⅱの学びを前提として建学の精神をさらに発展させた形でとらえるために〈学びの体系〉として以下の6領域を設ける。

「聖書・神学」「哲学・思想」「芸術・文化」「いのちの倫理・霊性」「社会倫理・実践」「諸宗教・その他」

- ・この6領域から学生の自己意欲、将来のライフデザインにしたがって必修選択した科目を通して本学の建学の精神に直接根差した教養と生きる力を養成する。
- ・時流を越えて普遍的に守るべき価値を保ち、自分と世界の未来を創造的に切り開くためには生涯にわたって人格形成に取り組む必要があることを自覚する力を養成する。

深い教養と知性、奉仕の心を持つ自立した女性になるための土台を培う目的で、次の科目を必修・選択必修として全学の学生に提供する。

1. 「白百合事始め」科目：人が人として有意義に生きることを考えるとともに、生活の質をより豊かなものにするための幅広い知識を身につける（生命・健康・福祉・人生観・仕事観に関わる科目）。
2. 「学問の作法」科目：自らの問題を発見し、自ら考え、それを自らの言葉で表現するための理解力と思考力と表現力とを養う（理解力・思考力・表現力養成に関わる科目群）。
3. 「基礎的素養」科目：過去から現代に至る人間精神の多様な所産に目を開くことを通じて様々なものの見方を習得し、文化の基本的な理解を図る（哲学・歴史・文学・社会学・人間科学・芸術・宗教・自然科学に関わる科目群）。
4. 「多角的視点」科目：現代社会において求められている多角的な視点からものごとを探求する能力を、体験や実践を通して修得する（フィールド演習科目、プロジェクト科目、異文化コミュニケーション科目）

グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の選択必修・選択科目を提供する。

1. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。
2. 学生個々のレベルにあわせた習熟度別のクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、LL 教室や情報科学教室など ICT 設備を利用する。

- ・専攻する言語と文学、文化に関する基本的な知識と技能を習得するために、1 年次 2 年次に基礎科目を設置する。
- ・専攻する言語についての高度なコミュニケーション能力を涵養するために、演習科目を設置する。
- ・議論を通じて問題解決をはかる力と、総合的なコミュニケーション能力を涵養するために、演習科目を設置する。
- ・専攻する言語と文学、文化を多方面から理解するために、多彩な専門科目を設置する。
- ・自ら設定した課題について考究し、卒業論文・レポートを完成させるために、3 年次からゼミを設置する。

【国語国文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、国語国文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

古代から現代に至る日本語日本文学の多様な世界を探究し、この学びをとおして、日本語による論理的思考力と想像力、表現能力を育み、そこから見出されるテーマを追究するために、

- ・基本的知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培うため、少人数の基礎演習や基礎講読を置く。
- ・日本語学、日本文学、日本語教育の幅広い分野に目を向けるとともに、専門的に取り組みたい領域を模索し見定めるため、各領域を総合的に俯瞰する科目（総合研究）を置く。
- ・各領域の研究を深めるため、専門性の高い演習やさまざまな内容の講義科目を置く。
- ・学びの集大成となる卒業論文を執筆するため、みずから選択した専門領域を深く実践的に学ぶ演習（テーマ別研究）を置く。

【フランス語フランス文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、フランス語フランス文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

世界の共通語の一つであるフランス語を習得し、幅広い時代のフランス文学にアプローチしながら、フランス語圏の社会・文化・歴史を総合的に探究することをとおして、語学力だけでなく、バランスのとれた国際感覚と広い視野を育むために、以下の科目を置く。

- ・「リーディング」「ライティング」「ヒアリング」「スピーキング」の4技能をバランスよく伸ばすため、1 年次と 2 年次に、未習者・既習者別の少人数クラスによるフランス語学習の基礎科目（総合 I・II、コミュニケーション I・II）を置く。
- ・実践的なコミュニケーション力と読解力を身につけるため、3 年次にフランス語学習の発展科目（発展総合 I・II、発展読解 I・II）を置く。
- ・フランス語圏の文学・文化・歴史・社会への関心を深め、専門的学習の基盤となる知識を習得することを目的とした基礎科目（フランス語圏文化概論、フランス文学概論）を 1 年次と 2 年次前期にそれぞれ置く。
- ・フランス語ならびにフランス語圏の文学・文化・歴史・社会についての専門的知見を深めることを目的とした専門科目（2 年次アトリエ、フランス語上級演習・実践研究、フランス文学歴史演習・研究、フランス社会文化演習・研究、フランス芸術文化演習・研究、フランス生活文化演習・研究）を 2~4 年次に置く。選択したプログラムに沿って専門科目を履修することで、それぞれの関心領域に応じて専門知識が体系的に身につくよう、「フランス語特別強化」「フランス文学社会文化」「フランス歴史芸術文化」「フランス生活文化」の4つのプログラムを設置する。
- ・関心のあるテーマについての研究を掘り下げ、十分な時間をかけてレポート・卒業論文を執筆するため、2

年次後期にゼミへの導入科目（専門ゼミ準備研究）を、3～4年次にゼミ（専門ゼミ）をそれぞれ置く。

【英語英文学科】

〔2021・2022年度入学者〕

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、英語英文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

- ・英語運用能力を総合的かつ効率的に高めるため、必修英語科目は技能別・少人数制とする。
- ・リサーチ・スキル及びプレゼンテーション・スキルを絶えず向上させるため、セミナー科目は4年間を通じて必修とする。
- ・専門領域に関する知識・技術を修得するため、下記の通り4つの「コース（科目群）」を設ける。

＜ブリティッシュ・スタディーズ＞

イギリスを中心とする英語圏の文学・文化を学ぶことにより、グローバルキャリアを歩む上で不可欠な教養を身につける。

＜アメリカン・スタディーズ＞

アメリカを中心とする英語圏の文学・文化を学ぶことにより、グローバルキャリアを歩む上で不可欠な教養を身につける。

＜ことばとコミュニケーション＞

言語研究と実践的コミュニケーション能力の両面からの養成を目指す。日英語の対照を意識させながら、「英語音声学」や「英語学概論」などの授業を基軸として、早期英語から成人に至る広い年齢層をも視野に入れ、言語そのもの及びその使用の両面からの研究を目指すための専門科目を置く。

＜国際社会・文化＞

日本を中心に国際社会や文化・歴史について多様な視点から学ぶとともに、国際化が進む世界について英語で議論し、発信する力を養うために、(1) 課題解決型授業を中心に学びを展開する、(2) コースで開講するすべての授業を英語で行う、(3) 国際社会において日本がどのように位置付けられてきたのかを体系的に学ぶための専門科目を置く。

〔2018・2019・2020年度入学者〕

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、英語英文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

- ・英語運用能力を総合的かつ効率的に高めるため、必修英語科目は技能別・少人数制とする。
- ・リサーチ・スキル及びプレゼンテーション・スキルを絶えず向上させるため、セミナー科目は4年間を通じて必修とする。
- ・専門領域に関する知識・技術を修得するため、下記の通り4つの「コース（科目群）」を設ける。

＜ブリティッシュ・スタディーズ＞

イギリスを中心とする英語圏の文学・文化を学ぶことにより、グローバルキャリアを歩む上で不可欠な教養を身につける。

＜アメリカン・スタディーズ＞

アメリカを中心とする英語圏の文学・文化を学ぶことにより、グローバルキャリアを歩む上で不可欠な教養を身につける。

＜ことばとコミュニケーション＞

言語研究と実践的コミュニケーション能力の両面からの養成を目指す。日英語の対照を意識させながら、「英語音声学」や「英語学概論」などの授業を基軸として、早期英語から成人に至る広い年齢層をも視野に入れ、言語そのもの及びその使用の両面からの研究を目指すための専門科目を置く。

＜比較文化・文学＞

日本の社会や文化・歴史について多様な視点から学ぶとともに、日本について英語で議論あるいは発信する力を養うために、(1) 課題解決型授業を中心に学びを展開する、(2) コースで開講するすべての授業を英語で行う、(3) 他のアジア諸国や欧米諸国において日本がどのように表象されてきたのかを体系的に学ぶための専門科目を置く。

〔2016・2017年度入学者〕

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、英語英文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

- ・英語の基礎力を養うための語学学習科目と、1・2年次のセミナー科目をつうじて、各コースで学びを深めるために必要な語学力・基礎知識と研究方法を身につける。
- ・「英米文学・文化」「ことばとコミュニケーション」「比較文化・文学」の3つのコースを設置し、各コースが提供するセミナーに属しながら専門科目を履修する。この学びをとおして、高度な異文化対応能力と、それを支える語学力、グローバル化する社会で活躍できる知識と教養を身につける。

【英米文学・文化コース】

英米文学の世界を深く味わうことのできる知性と感性を涵養し、同時に文化全般にわたる広い視野をそなえた豊かな人間性を養成することにより、他者を理解できる共感力と、未知の状況・場面を想像できる自由な発想力を育成するために、「コース選択への基礎分野」「英米文学・文化専門分野及び関連分野」「卒業研究分野」の3分野から編成し、それぞれの科目群を置く。

【ことばとコミュニケーションコース】

言語研究と実践的コミュニケーション能力の両面からの養成を目指す。日英語の対照を意識させながら、「英語音声学」や「英語学概論」などの授業を基軸として、早期英語から成人に至る広い年齢層をも視野に入れ、言語そのもの及びその使用の両面からの研究を目指すための専門科目を置く。

【比較文化・文学コース】

日本の社会や文化・歴史について多様な視点から学ぶとともに、日本について英語で議論あるいは発信する力を養うために、(1) 課題解決型授業を中心に学びを展開する、(2) コースで開講するすべての授業を英語で行う、(3) 他のアジア諸国や欧米諸国において日本がどのように表象されてきたのかを体系的に学ぶための専門科目を置く。

文学部

卒業要件単位数

文学部 卒業要件単位数

文学部に在籍する学生は、以下の表に示す科目区分ごとの要件を満たした上で、合計 124 単位以上修得することが卒業の要件となります。「科目区分を特定しない自由選択単位」とは、「各科目区分の要件単位数の合計」と「卒業要件単位数（124 単位）」との「差」にあたる単位です。本学で開講されているすべての科目より履修可能な科目を選んで履修し、その差をうめるよう単位を修得してください。

なお、入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目の修得単位について本学での単位認定を希望する場合は、入学年度前期の履修登録申請期間終了時まで、教務課へ申し出てください。

科目区分 \ 学 科	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
宗 教 学 科 目	8		
共 通 科 目	20		
外 国 語 科 目	8		
所 属 学 科 専 門 科 目	82		
科目区分を特定しない自由選択単位 (各科目区分の要件単位数合計と卒業要件単位数との「差の単位」)	6		
卒 業 要 件 単 位	124		

文学部

宗教学科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

文学部 宗教学科目

1. カリキュラム

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ	キリスト教の基礎を学び、建学の精神について理解します。	キリスト教の人間観・価値観、建学の精神について理解を深めます。	聖書、神学、哲学、歴史、芸術、倫理、社会課題、霊性、宗教学等に関わる種々のテーマを扱う開設科目から選択し、キリスト教学Ⅰ、Ⅱでの学びを各自の問題関心に応じて発展・深化させます。			
	キリスト教学Ⅰ、Ⅱを通して、私たちの生きる基盤がどこにあるかをイエス・キリストの教えを通じて学びます。自分を越えた存在からの関わりに気づくことで、出会った他者を共感的に受け入れ、他者を自分と同じように大切にすることを養います。					
必修	キリスト教学ⅠA (1) キリスト教学ⅠB (1)	キリスト教学ⅡA (1) キリスト教学ⅡB (1)			4単位	
選択必修			宗教学ⅠA (1) 宗教学ⅠN (1) 宗教学ⅠB (1) 宗教学ⅠO (1) 宗教学ⅠC (1) 宗教学ⅠP (1) 宗教学ⅠD (1) 宗教学ⅠQ (1) 宗教学ⅠE (1) 宗教学ⅠR (1) 宗教学ⅠF (1) 宗教学ⅠS (1) 宗教学ⅠG (1) 宗教学ⅠT (1) 宗教学ⅠH (1) 宗教学ⅠU (1) 宗教学ⅠI (1) 宗教学ⅠV (1) 宗教学ⅠJ (1) 宗教学ⅠW (1) 宗教学ⅠK (1) 宗教学ⅠX (1) 宗教学ⅠL (1) 宗教学ⅠY (1) 宗教学ⅠM (1) 宗教学ⅠZ (1)		1単位	
			宗教学ⅡA (1) 宗教学ⅡN (1) 宗教学ⅡB (1) 宗教学ⅡO (1) 宗教学ⅡC (1) 宗教学ⅡP (1) 宗教学ⅡD (1) 宗教学ⅡQ (1) 宗教学ⅡE (1) 宗教学ⅡR (1) 宗教学ⅡF (1) 宗教学ⅡS (1) 宗教学ⅡG (1) 宗教学ⅡT (1) 宗教学ⅡH (1) 宗教学ⅡU (1) 宗教学ⅡI (1) 宗教学ⅡV (1) 宗教学ⅡJ (1) 宗教学ⅡW (1) 宗教学ⅡK (1) 宗教学ⅡX (1) 宗教学ⅡL (1) 宗教学ⅡY (1) 宗教学ⅡM (1) 宗教学ⅡZ (1)		1単位	
				宗教学ⅢA (1) 宗教学ⅢN (1) 宗教学ⅢB (1) 宗教学ⅢO (1) 宗教学ⅢC (1) 宗教学ⅢP (1) 宗教学ⅢD (1) 宗教学ⅢQ (1) 宗教学ⅢE (1) 宗教学ⅢR (1) 宗教学ⅢF (1) 宗教学ⅢS (1) 宗教学ⅢG (1) 宗教学ⅢT (1) 宗教学ⅢH (1) 宗教学ⅢU (1) 宗教学ⅢI (1) 宗教学ⅢV (1) 宗教学ⅢJ (1) 宗教学ⅢW (1) 宗教学ⅢK (1) 宗教学ⅢX (1) 宗教学ⅢL (1) 宗教学ⅢY (1) 宗教学ⅢM (1) 宗教学ⅢZ (1)		1単位
				宗教学ⅣA (1) 宗教学ⅣN (1) 宗教学ⅣB (1) 宗教学ⅣO (1) 宗教学ⅣC (1) 宗教学ⅣP (1) 宗教学ⅣD (1) 宗教学ⅣQ (1) 宗教学ⅣE (1) 宗教学ⅣR (1) 宗教学ⅣF (1) 宗教学ⅣS (1) 宗教学ⅣG (1) 宗教学ⅣT (1) 宗教学ⅣH (1) 宗教学ⅣU (1) 宗教学ⅣI (1) 宗教学ⅣV (1) 宗教学ⅣJ (1) 宗教学ⅣW (1) 宗教学ⅣK (1) 宗教学ⅣX (1) 宗教学ⅣL (1) 宗教学ⅣY (1) 宗教学ⅣM (1) 宗教学ⅣZ (1)		1単位

8
単
位

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

文学部に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、宗教学科目を8単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は、指定された年次・学期に履修し、単位を修得してください。

科目名	履修すべき年次・学期	指定された年次・学期に単位を修得できなかった場合の履修方法
宗教学Ⅰ A～Z	3年次前期	次学期以降、宗教学ⅠまたはⅡを履修することで、修得できなかった分を補うことができます 例：3年次前期「宗教学Ⅰ」単位未修得 → 3年次後期「宗教学Ⅱ」を2科目履修 (1科目は指定年次・学期分として、1科目は「宗教学Ⅰ」の未修得単位を補う分として履修)
宗教学Ⅱ A～Z	3年次後期	例：3年次後期「宗教学Ⅱ」単位未修得 → 4年次前期「宗教学Ⅲ」と「宗教学Ⅰ」を履修 (「宗教学Ⅲ」は指定年次・学期分として、「宗教学Ⅰ」は「宗教学Ⅱ」の未修得単位を補う分として履修)
宗教学Ⅲ A～Z	4年次前期	次学期以降、宗教学ⅢまたはⅣを履修することで、修得できなかった分を補うことができます 例：4年次前期「宗教学Ⅲ」単位未修得 → 4年次後期「宗教学Ⅳ」を2科目履修 (1科目は指定年次・学期分として、1科目は「宗教学Ⅲ」の未修得単位を補う分として履修)
宗教学Ⅳ A～Z	4年次後期	

なお、宗教学は3・4年次合同で授業が行われるため、「Ⅰ」と「Ⅲ」、「Ⅱ」と「Ⅳ」の組み合わせにおいて、前年度までに単位を修得した科目と同じアルファベットの科目を履修することはできません。

3) アセンブリー行事「修養会」

「キリスト教学ⅠB」「キリスト教学ⅡB」の履修者(再履修者含む)は、後期に行われるアセンブリー行事「修養会」へ必ず出席してください。修養会での取り組みも成績評価に含まれます。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ(キャンパスライフ > 授業・履修)で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目(指定された年次に単位を修得できなかった必修科目)については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目(開講授業科目表に「制」マークのある科目)については、**事前登録**を行ってください。事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してく

ださい。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) 宗教学科目の履修・登録に関するサポート

宗教学科目の履修・登録についての質問は、カトリック教育センター（2号館1F）へお問い合わせください。

文学部

共通科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

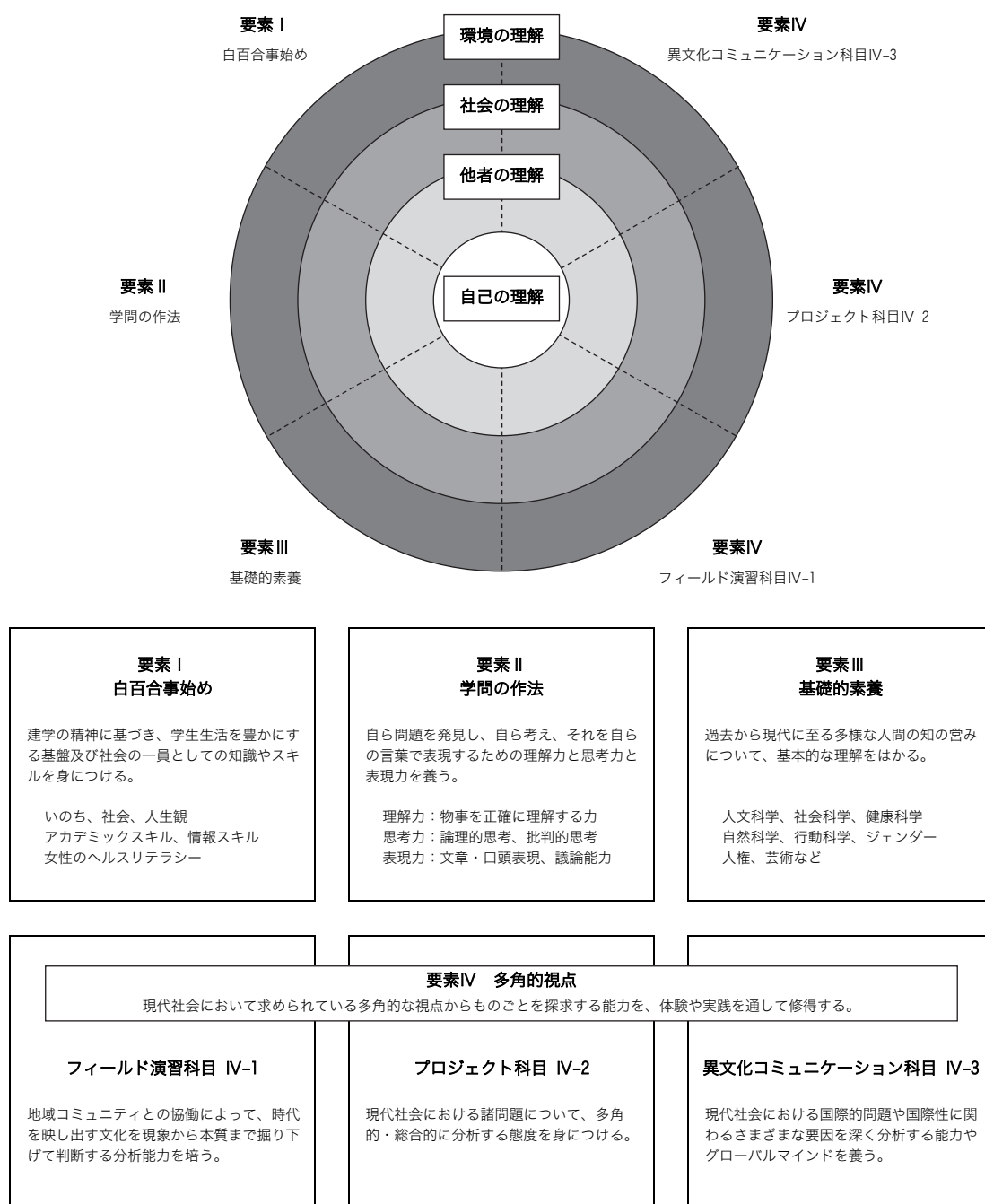
文学部 共通科目

1. カリキュラム

共通科目は、人間的・知的基盤を提供するもので、幅広い見識のもと、課題を見つけ出し解決策を自分で考え、自立的に行動できる女性の育成にその教育目標をおいています。

この目標達成のために、カリキュラムを4つの要素に分類し、要素ごとに習得目標を明示しました。この分類は、シラバスの備考欄に記載されていますので、履修科目を決めるにあたり参考にして、4つの要素からバランスよく学習するようにして下さい。

共通科目習得要素分類表



2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

文学部に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、共通科目を20単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。なお、共通科目において開講されている、資格課程等に関連する科目の単位を修得した場合、それらはすべて共通科目の単位となります。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学ホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 共通科目の履修・登録に関するサポート

共通科目の履修・登録についての質問は、基礎教育センター（4号館1F）へお問い合わせください。

文学部

外国語科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

文学部 外国語科目

1. カリキュラム

2024年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
必修 (選択言語別)	英 語 <input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> フ *1	英語コミュニケーションⅠ (1) 英語コミュニケーションⅡ (1) 総合英語Ⅰ (1) 総合英語Ⅱ (1)	英語コミュニケーションⅢ (1) 英語コミュニケーションⅣ (1) 総合英語Ⅲ (1) 総合英語Ⅳ (1)			8単位	8 単 位
	フ ラ ン ス 語 <input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 英 *1	フランス語AⅠ (1) フランス語AⅡ (1) フランス語BⅠ (1) フランス語BⅡ (1)	フランス語AⅢ (1) フランス語AⅣ (1) フランス語BⅢ (1) フランス語BⅣ (1)			8単位	
	ド イ ツ 語 <input type="checkbox"/> フ <input type="checkbox"/> 英 *1	ドイツ語AⅠ (1) ドイツ語AⅡ (1) ドイツ語BⅠ (1) ドイツ語BⅡ (1)	ドイツ語AⅢ (1) ドイツ語AⅣ (1) ドイツ語BⅢ (1) ドイツ語BⅣ (1)			8単位	
	中 国 語 <input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> フ <input type="checkbox"/> 英 *1	中国語AⅠ (1) 中国語AⅡ (1) 中国語BⅠ (1) 中国語BⅡ (1)	中国語AⅢ (1) 中国語AⅣ (1) 中国語BⅢ (1) 中国語BⅣ (1)			8単位	
	韓 国 語 <input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> フ <input type="checkbox"/> 英 *1	韓国語AⅠ (1) 韓国語AⅡ (1) 韓国語BⅠ (1) 韓国語BⅡ (1)	韓国語AⅢ (1) 韓国語AⅣ (1) 韓国語BⅢ (1) 韓国語BⅣ (1)			8単位	
選択	選択フランス語Ⅰ (1) 選択フランス語Ⅱ (1)		選択フランス語Ⅲ (1) 選択フランス語Ⅳ (1)				
	選択中国語Ⅰ (2)*2 選択中国語Ⅱ (2)*2		選択中国語Ⅲ (1) 選択中国語Ⅳ (1)				
	選択韓国語Ⅰ (2)*2 選択韓国語Ⅱ (2)*2		選択韓国語Ⅲ (1) 選択韓国語Ⅳ (1)				
	海外研修(韓国) (2) 海外研修(中国語圏) (2)						
					English for JFL TeachersAⅠ (1) English for JFL TeachersAⅡ (1)	English for JFL TeachersBⅠ (1) English for JFL TeachersBⅡ (1)	

*1 は、その言語を選択可能な学科を示しています (国語国文学科、 フランス語フランス文学科、 英語英文学科)。

*2 週2回授業です。

2023年度以前入学者用

2024年度より 通年科目を廃止し 半期科目へ変更しました

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
必修 (選択言語別)	英 語 国 フ *1	英語コミュニケーションⅠ (1) 英語コミュニケーションⅡ (1) 総合英語Ⅰ (1) 総合英語Ⅱ (1) 英講読文法A (2)*2 英講読文法B (2)*2	英語コミュニケーションⅢ (1) 英語コミュニケーションⅣ (1) 総合英語Ⅲ (1) 総合英語Ⅳ (1)			8単位	8 単 位
	フ ラ ン ス 語 国 英 *1	フランス語AⅠ (1) フランス語AⅡ (1) (▽23 フランス語Ⅰ(会話) (2)) フランス語BⅠ (1) フランス語BⅡ (1) (▽23 フランス語Ⅰ(文法・講読) (2))	フランス語AⅢ (1) フランス語AⅣ (1) (▽23 フランス語Ⅱ(会話) (2)) フランス語BⅢ (1) フランス語BⅣ (1) (▽23 フランス語Ⅱ(文法・講読) (2))			8単位	
	ド イ ツ 語 フ 英 *1	ドイツ語AⅠ (1) ドイツ語AⅡ (1) (▽23 ドイツ語ⅠA (2)) ドイツ語BⅠ (1) ドイツ語BⅡ (1) (▽23 ドイツ語ⅠB (2))	ドイツ語AⅢ (1) ドイツ語AⅣ (1) (▽23 ドイツ語ⅡA (2)) ドイツ語BⅢ (1) ドイツ語BⅣ (1) (▽23 ドイツ語ⅡB (2))			8単位	
	中 国 語 国 フ 英 *1	中国語AⅠ (1) 中国語AⅡ (1) (▽23 中国語ⅠA (2)) 中国語BⅠ (1) 中国語BⅡ (1) (▽23 中国語ⅠB (2))	中国語AⅢ (1) 中国語AⅣ (1) (▽23 中国語ⅡA (2)) 中国語BⅢ (1) 中国語BⅣ (1) (▽23 中国語ⅡB (2))			8単位	
選択		選択フランス語Ⅰ (1) 選択フランス語Ⅱ (1) (▽23 フランス語入門 (2))	選択フランス語Ⅲ (1) 選択フランス語Ⅳ (1) (▽23 初級フランス語 (2))	(▽23 中級フランス語 (2))			
		選択中国語Ⅰ (2)*4 選択中国語Ⅱ (2)*4 (▽23 中国語(初級) (4))	選択中国語Ⅲ (1) 選択中国語Ⅳ (1) (▽23 中国語(中級)A (2)) (▽23 中国語(中級)B (2))				
		選択韓国語Ⅰ (2)*4 選択韓国語Ⅱ (2)*4 (▽23 韓国語(初級) (4))	選択韓国語Ⅲ (1) 選択韓国語Ⅳ (1) (▽23 韓国語(中級)A (2)) (▽23 韓国語(中級)B (2))				
		海外研修(韓国) (2) (▽23 海外研修(韓国語) (2)) (▽22 韓国の言語と文化 (2)) 海外研修(中国語圏) (2)					
				English for JFL Teachers AⅠ (1) English for JFL Teachers AⅡ (1) (▽23 English for JFL TeachersⅠ (2))	English for JFL Teachers BⅠ (1) English for JFL Teachers BⅡ (1) (▽23 English for JFL TeachersⅡ (2))		

▽→以前開講科目(最終開講年度を西暦下2桁で表示)

- *1 □ は、その言語を選択可能な学科を示しています(国 国語国文学科、フ フランス語フランス文学科、英 英語英文学科)。
- *2 高等学校卒業までに英語科目を修得していないフランス語フランス文学科入学者のための必修科目です(入学時面談で認められた場合のみ履修可)。
- *3 フランス語・ドイツ語・中国語の必修科目(通年科目)を再履修する場合は、対応する半期科目を2科目とも履修し、それぞれの単位を修得する必要があります。新旧科目の対応については、上記 2023年度以前入学者用のカリキュラム表で確認してください。

例)	フランス語BⅠ (1) フランス語BⅡ (1) (▽23 フランス語Ⅰ(文法・講読) (2))	→	「フランス語Ⅰ(文法・講読)」を再履修する場合は、 「フランス語BⅠ」と「フランス語BⅡ」の両方を履修し、それぞれの単位を修得する必要があります。 なお、再履修の結果、「フランス語BⅠ」は合格、「フランス語BⅡ」は不合格だった場合は、 「フランス語BⅡ」のみあらためて再履修し、単位を修得してください。
----	---	---	--

*4 週2回授業です。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

文学部に在籍する学生は、カリキュラム表に示すとおり、入学時（または外国語選択言語変更申請時）に選択した言語において、外国語必修科目を8単位修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

なお、英語の必修科目については、入学時（全入学者対象）と1年次学年末（英語選択者および受験希望者のみ対象）に実施される英語プレースメントテストの結果に基づきクラス分けが行われます。英語プレースメントテストの実施詳細については、対象者へ別途通知いたします。

2) 必修科目の選択言語変更

1年次必修科目のうち単位を修得できなかった科目がある場合には、翌年度4月から選択言語を変更することができます。変更を希望する場合は、前期の事前登録期間が始まる前までに、外国語選択言語変更願を教務課へ提出してください。なお、選択言語を変更した場合、変更後の言語のみで必修科目8単位を修得することが卒業の要件となります。

また、フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語へ言語変更した場合は、変更初年度に1年次科目を、翌年度に2年次科目を順に履修し、単位を修得してください。英語へ言語変更した場合は、1年次科目と2年次科目の同時履修を可とします。（2023年度以前入学者は、韓国語へ言語変更することはできません。）

3) 必修科目の単位認定（TOEICの点数による外国語科目「英語」単位認定について）

TOEIC（TOEIC-IPテスト含む）の点数を自ら申し出ることにより、以下の表のとおり外国語科目「英語」の単位認定を受けることができます（再履修科目を除く）。単位認定を希望する場合は、事前登録期間が始まる前までに教務課へ連絡し、指示された方法で申請書類（①TOEICの点数による単位認定申請書、②申請より1年以内に発行された「Official Score Certificate（公式認定証、デジタル公式認定証のいずれも可）」）を提出してください。なお、申請は年度ごとに行う必要があります。

単位認定可能科目		最大認定単位	認定基準
1年次科目	英語コミュニケーションⅠ（1） 総合英語Ⅰ（1）	4単位	TOEIC 600点以上
	英語コミュニケーションⅡ（1） 総合英語Ⅱ（1）		
2年次科目	英語コミュニケーションⅢ（1） 総合英語Ⅲ（1）	4単位	TOEIC 700点以上
	英語コミュニケーションⅣ（1） 総合英語Ⅳ（1）		

※単位認定科目の成績は「T（成績認定）」となります。

※認定単位数は履修登録単位数の上限には含まれません。

※認定単位は資格取得のための単位とすることができない場合があります。詳細については各資格課程のページを参照してください。

※本制度で単位を認定された場合には、英語英文学科専門科目「TOEIC上級A」「TOEIC上級B」を履修することを推奨します。

4) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラム等に必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、相応の学習歴がある場合は、Ⅰ・Ⅱ（初級程度）を履修せずに、Ⅲ・Ⅳ（中級程度）から履修を開始することも可能です。

また、ドイツ語の選択科目は開講されていませんが、必修用のクラスを選択科目として履修することができます。システム上、自分では履修登録できませんので、希望者は事前登録・本登録期間中に教務課へ申し出てください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。
CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。
英語は再履修用クラス、その他の言語は通常クラスで再履修することになります。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、当該年次必修科目と再履修科目を同時履修する場合など、やむを得ない場合にはこの限りではありません。

【2023年度以前入学者】フランス語・ドイツ語・中国語の必修科目（通年科目）を再履修する方法

2024年度より、通年科目を廃止し、半期科目へ変更しました。

通年科目を再履修する場合は、対応する半期科目を2科目とも履修し、それぞれの単位を修得する必要があります。

新旧科目の対応については、「1. カリキュラム」の2023年度以前入学者用のカリキュラム表で確認してください。

例)	フランス語BⅠ	(1)
	フランス語BⅡ	(1)
	(▽23 フランス語Ⅰ(文法・講読)	(2)

「フランス語Ⅰ(文法・講読)」を再履修する場合は、「フランス語BⅠ」と「フランス語BⅡ」の両方を履修し、それぞれの単位を修得する必要があります。
なお、再履修の結果、「フランス語BⅠ」は合格、「フランス語BⅡ」は不合格だった場合は、「フランス語BⅡ」のみあらためて再履修し、単位を修得してください。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 外国語科目の履修・登録に関するサポート

外国語科目の履修・登録についての質問は、教務課（11号館2F）へお問い合わせください。内容により、教務課より各言語担当へ連携いたします。

文学部

国語国文学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 進級の条件
4. 履修の方法・留意事項
5. 登録

文学部 国語国文学科

1. カリキュラム

2024年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	少人数クラスの基礎演習科目で、国語国文学科で学ぶために必要な基礎知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培う。	国語学や国文学の幅広い分野に目を向けるとともに、「総合研究Ⅰ・Ⅱ」を履修して、自分が専門的に取り組みたい領域を模索する。	専門性の高い演習科目「テーマ別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、自分の興味を掘り下げながら、4年次の卒業論文執筆につながる研究を実践する。	さらに発展的な「テーマ別研究Ⅲ・Ⅳ」で担当教員の指導を受けながら、4年間の学びの集大成となる卒業論文を執筆する。	
必修	国語国文学入門 (1) 基礎演習(古典)Ⅰ (1) 基礎演習(古典)Ⅱ (1) 基礎演習(近代)Ⅰ (1) 基礎演習(近代)Ⅱ (1) 基礎演習(日本語) (1) 基礎演習(変体仮名) (1) 基礎演習(漢文)A (1) または 基礎演習(漢文)B (1) *1	総合研究Ⅰ (1) 総合研究Ⅱ (1) キャリア研究 (2)	テーマ別研究Ⅰ (2) テーマ別研究Ⅱ (2)	テーマ別研究Ⅲ (2) テーマ別研究Ⅳ (2) 卒業論文 (4)	28単位
選択必修Ⅰ	文学史(上代・中古)Ⅰ (2) 文学史(上代・中古)Ⅱ (2) 文学史(中世・近世)Ⅰ (2) 文学史(中世・近世)Ⅱ (2) 文学史(近代)Ⅰ (2) 文学史(近代)Ⅱ (2) *2				8単位以上
選択必修Ⅱ	基礎講読A (2) 基礎講読B (2) 基礎講読C (2) 基礎講読D (2)				4単位以上
選択必修Ⅲ		上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) 中古文学演習CⅠ (2) 中古文学演習CⅡ (2) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2) 近世文学演習AⅠ (2) 近世文学演習AⅡ (2) 近世文学演習BⅠ (2) 近世文学演習BⅡ (2)	近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) 近代文学演習DⅠ (2) 近代文学演習DⅡ (2) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2) 近代文学演習GⅠ (2) 近代文学演習GⅡ (2)	国語学演習AⅠ (2) 国語学演習AⅡ (2) 国語学演習BⅠ (2) 国語学演習BⅡ (2) 漢文学演習Ⅰ (2) 漢文学演習Ⅱ (2)	8単位以上 2年次4単位以上 3年次4単位以上 *6
選択必修Ⅳ		上代文学講義AⅠ (2) 上代文学講義AⅡ (2) 上代文学講義BⅠ (2) 上代文学講義BⅡ (2) 中古文学講義AⅠ (2) 中古文学講義AⅡ (2) 中古文学講義BⅠ (2) 中古文学講義BⅡ (2) 中古文学講義CⅠ (2) 中古文学講義CⅡ (2) 中世文学講義AⅠ (2) 中世文学講義AⅡ (2) 中世文学講義BⅠ (2) 中世文学講義BⅡ (2) 中世文学講義CⅠ (2) 中世文学講義CⅡ (2) 近世文学講義AⅠ (2) 近世文学講義AⅡ (2)	近代文学講義AⅠ (2) 近代文学講義AⅡ (2) 近代文学講義BⅠ (2) 近代文学講義BⅡ (2) 近代文学講義CⅠ (2) 近代文学講義CⅡ (2) 近代文学講義DⅠ (2) 近代文学講義DⅡ (2)	国語学講義(言語と社会)Ⅰ (2) 国語学講義(言語と社会)Ⅱ (2) 言語学概論Ⅰ (2) 言語学概論Ⅱ (2) 言語学各論(言語地理学) (2) 言語学各論(地域言語文化論) (2) 言語学各論(接触場面研究) (2) 対照言語学 (2) 日本語史Ⅰ (2) 日本語史Ⅱ (2)	8単位以上 2年次4単位以上 3年次4単位以上 *6

選択	日本中世Ⅰ (2) 日本近代Ⅰ (2) 日本中世Ⅱ (2) 日本近代Ⅱ (2)		
	国語科教育法特講A (2) 国語科教育法特講B (2)	国語科教育法ⅠA (2)*3 国語科教育法ⅠB (2)*3 書道 (1)*4	書道Ⅱ (2)
	国語学特講(現代語文法)Ⅰ (2) 国語学特講(現代語文法)Ⅱ (2) 日本語教育教授法Ⅰ (2) 日本語教育教授法Ⅱ (2)	日本語教育研究 (2) 日本語教育実習 (1)	
	第二言語習得 (2) 異文化とコミュニケーション (2)		
		国語国文学特講(表現学)Ⅰ (2)*4 国語国文学特講(表現学)Ⅱ (2)*4 国語国文学特講(民俗学)Ⅰ (2) 国語国文学特講(民俗学)Ⅱ (2)	国語国文学特講(演劇)Ⅰ (2) 国語国文学特講(演劇)Ⅱ (2)
留学生対象	総合日本語ⅠA (2)*5 総合日本語ⅠB (2)*5	総合日本語ⅡA (2)*5 総合日本語ⅡB (2)*5	

- *1 中等教職課程履修者が「基礎演習(漢文)B」を修得した場合、中高の教職免許状を取得するためには「基礎演習(漢文)B」を修得した年次の後に「基礎演習(漢文)A」を修得する必要があります。
- *2 中等教職課程履修者は、選択必修科目Ⅰの12単位をすべて履修することになります。
- *3 中等教職課程履修者のみ履修可能です。
- *4 中等教職課程履修者は、3年次に履修すべき選択科目の1科目として「書道」を、3、4年次のいずれかに履修すべき選択科目の科目として「国語国文学特講(表現学)Ⅰ」、および「国語国文学特講(表現学)Ⅱ」を、それぞれ履修することになります。
- *5 留学生のみ履修可能です。
- *6 学修上、履修するのが望ましい年次・単位数を示すもので、進級の要件とは異なります。やむを得ず対象年次での履修・単位修得ができなかった場合は、翌年度以降に履修可能です。

2021・2022・2023 年度入学者用 2024 年度より 通年科目を廃止し 半期科目へ変更しました（卒業論文を除く）

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位
学びの流れ	少人数クラスの基礎演習科目で、国語国文学科で学ぶために必要な基礎知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培う。	国語学や国文学の幅広い分野に目を向けるとともに、「総合研究Ⅰ・Ⅱ」を履修して、自分が専門的に取り組みたい領域を模索する。	専門性の高い演習科目「テーマ別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、自分の興味を掘り下げながら、4年次の卒業論文執筆につながる研究を実践する。	さらに発展的な「テーマ別研究Ⅲ・Ⅳ」で担当教員の指導を受けながら、4年間の学びの集大成となる卒業論文を執筆する。	
必修	国語国文学入門 (1) 基礎演習(古典)Ⅰ (1) 基礎演習(古典)Ⅱ (1) 基礎演習(近代)Ⅰ (1) 基礎演習(近代)Ⅱ (1) 基礎演習(日本語) (1) 基礎演習(変体仮名) (1) 基礎演習(漢文)A (1) または 基礎演習(漢文)B (1) *1	総合研究Ⅰ (1) 総合研究Ⅱ (1) キャリア研究 (2)	テーマ別研究Ⅰ (2) テーマ別研究Ⅱ (2)	テーマ別研究Ⅲ (2) テーマ別研究Ⅳ (2) 卒業論文 (4)	28 単位
選択必修Ⅰ	文学史(上代・中古)Ⅰ (2) 文学史(上代・中古)Ⅱ (2) (▽23 文学史(上代・中古) (4)) 文学史(中世・近世)Ⅰ (2) 文学史(中世・近世)Ⅱ (2) (▽23 文学史(中世・近世) (4)) 文学史(近代)Ⅰ (2) 文学史(近代)Ⅱ (2) (▽23 文学史(近代) (4)) *2				8 単位以上 1 年次 4 単位以上 2 年次 4 単位以上 *6
選択必修Ⅱ	基礎講読A (2) 基礎講読B (2) 基礎講読C (2) 基礎講読D (2)				4 単位以上
選択必修Ⅲ		上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) (▽23 上代文学演習A (4)) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) (▽23 中古文学演習A (4)) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) (▽23 中古文学演習B (4)) 中古文学演習CⅠ (2) 中古文学演習CⅡ (2) (▽23 中古文学演習C (4)) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) (▽23 中世文学演習A (4)) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2) (▽23 中世文学演習B (4)) 近世文学演習AⅠ (2) 近世文学演習AⅡ (2) (▽23 近世文学演習A (4)) 近世文学演習BⅠ (2) 近世文学演習BⅡ (2) (▽23 近世文学演習B (4))	近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) (▽23 近代文学演習A (4)) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) (▽23 近代文学演習B (4)) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) (▽23 近代文学演習C (4)) 近代文学演習DⅠ (2) 近代文学演習DⅡ (2) (▽23 近代文学演習D (4)) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) (▽23 近代文学演習E (4)) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2) (▽23 近代文学演習F (4)) 近代文学演習GⅠ (2) 近代文学演習GⅡ (2) (▽23 近代文学演習G (4))	国語学演習AⅠ (2) 国語学演習AⅡ (2) (▽23 国語学演習A (4)) 国語学演習BⅠ (2) 国語学演習BⅡ (2) (▽23 国語学演習B (4)) 漢文学演習Ⅰ (2) 漢文学演習Ⅱ (2) (▽23 漢文学演習 (4)) (▽23 近世文学演習C (4))	8 単位以上 2 年次 4 単位以上 3 年次 4 単位以上 *6

82 単位

選択 必修 Ⅳ	上代文学講義AⅠ (2)	上代文学講義AⅡ (2)	〔▽23 上代文学講義A (4)〕	近代文学講義AⅠ (2)	近代文学講義AⅡ (2)	〔▽23 近代文学講義A (4)〕	国語学講義 (言語と社会)Ⅰ (2)	国語学講義 (言語と社会)Ⅱ (2)	8単位以上 2年次4単位以上 3年次4単位以上 *6	
	上代文学講義BⅠ (2)	上代文学講義BⅡ (2)	〔▽23 上代文学講義B (4)〕	近代文学講義BⅠ (2)	近代文学講義BⅡ (2)	〔▽23 近代文学講義B (4)〕	言語学概論Ⅰ (2)	言語学概論Ⅱ (2)		
	〔▽23 上代文学講義B (4)〕						〔▽23 言語学概論 (4)〕			
	中古文学講義AⅠ (2)	中古文学講義AⅡ (2)	〔▽23 中古文学講義A (4)〕	近代文学講義CⅠ (2)	近代文学講義CⅡ (2)	〔▽23 近代文学講義C (4)〕	言語学各論 (言語地理学) (2)	言語学各論 (地域言語文化論) (2)		言語学各論 (接触場面研究) (2)
	中古文学講義BⅠ (2)	中古文学講義BⅡ (2)	〔▽23 中古文学講義B (4)〕	近代文学講義DⅠ (2)	近代文学講義DⅡ (2)	〔▽23 近代文学講義D (4)〕	対照言語学 (2)	日本語史Ⅰ (2)		日本語史Ⅱ (2)
	中古文学講義CⅠ (2)	中古文学講義CⅡ (2)	〔▽23 中古文学講義C (4)〕	国語学講義AⅠ (2)	国語学講義AⅡ (2)	〔▽23 国語学講義A (4)〕				
	中世文学講義AⅠ (2)	中世文学講義AⅡ (2)	〔▽23 中世文学講義A (4)〕	国語学講義BⅠ (2)	国語学講義BⅡ (2)	〔▽23 国語学講義B (4)〕				
	中世文学講義BⅠ (2)	中世文学講義BⅡ (2)	〔▽23 中世文学講義B (4)〕	漢文学講義Ⅰ (2)	漢文学講義Ⅱ (2)	〔▽23 漢文学講義 (4)〕				
	中世文学講義CⅠ (2)	中世文学講義CⅡ (2)	〔▽23 中世文学講義A (4)〕	中国文学講義Ⅰ (2)	中国文学講義Ⅱ (2)	〔▽23 中国文学講義 (4)〕				
	近世文学講義AⅠ (2)	近世文学講義AⅡ (2)	〔▽23 近世文学講義A (4)〕				〔▽23 中古文学講義D (4)〕	〔▽23 近世文学講義B (4)〕		
選択	日本中世史Ⅰ (2)	日本中世史Ⅱ (2)	〔▽23 日本中世史 (4)〕	日本近代史Ⅰ (2)	日本近代史Ⅱ (2)	〔▽23 日本近代史 (4)〕				
	国語科教育法特講A (2)	国語科教育法特講B (2)		国語科教育法ⅠA (2)*3	国語科教育法ⅠB (2)*3	書道Ⅱ (2)				
	国語学特講 (現代語文法)Ⅰ (2)	国語学特講 (現代語文法)Ⅱ (2)	〔▽23 国語学特講 (現代語文法) (4)〕	日本語教育研究 (2)	日本語教育実習 (1)					
	日本語教育教授法Ⅰ (2)	日本語教育教授法Ⅱ (2)	〔▽23 日本語教育教授法 (4)〕							
	第二言語習得 (2)	異文化とコミュニケーション (2)								
				国語国文学特講 (表現学)Ⅰ (2)*4	国語国文学特講 (表現学)Ⅱ (2)*4	〔▽23 国語国文学特講 (表現学) (4)〕	国語国文学特講 (演劇)Ⅰ (2)	国語国文学特講 (演劇)Ⅱ (2)	〔▽23 国語国文学特講 (演劇) (4)〕	
				国語国文学特講 (民俗学)Ⅰ (2)	国語国文学特講 (民俗学)Ⅱ (2)	〔▽23 国語国文学特講 (民俗学) (4)〕				
留学生対象	総合日本語ⅠA (2)*5	総合日本語ⅠB (2)*5		総合日本語ⅡA (2)*5	総合日本語ⅡB (2)*5					

▽→以前開講科目 (最終開講年度を西暦下2桁で表示)

- *1 中等教職課程履修者が「基礎演習 (漢文) B」を修得した場合、中高の教職免許状を取得するためには「基礎演習 (漢文) B」を修得した年次の後に「基礎演習 (漢文) A」を修得する必要があります。
- *2 中等教職課程履修者は、選択必修科目Ⅰの12単位をすべて履修することになります。
- *3 中等教職課程履修者のみ履修可能です。
- *4 中等教職課程履修者は、3年次に履修すべき選択科目の1科目として「書道」を、3、4年次のいずれかに履修すべき選択科目の科目として「国語国文学特講 (表現学)Ⅰ」、および「国語国文学特講 (表現学)Ⅱ」〔▽23 国語国文学特講 (表現学)〕を、それぞれ履修することになります。
- *5 留学生のみ履修可能です。
- *6 学修上、履修するのが望ましい年次・単位数を示すもので、進級の要件とは異なります。やむを得ず対象年次での履修・単位修得ができなかった場合は、翌年度以降に履修可能です。

2020年度以前入学者用 2024年度より 通年科目を廃止し 半期科目へ変更しました (卒業論文を除く)

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	少人数クラスの基礎演習科目で、国語国文学科で学ぶために必要な基礎知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培う。	国語学や国文学の幅広い分野に目を向けるとともに、「総合研究Ⅰ・Ⅱ」を履修して、自分が専門的に取り組みたい領域を模索する。	専門性の高い演習科目「テーマ別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、自分の興味を掘り下げながら、4年次の卒業論文執筆につながる研究を実践する。	さらに発展的な「テーマ別研究Ⅲ・Ⅳ」で担当教員の指導を受けながら、4年間の学びの集大成となる卒業論文を執筆する。	
必修	基礎演習(古典)Ⅰ (1) 基礎演習(古典)Ⅱ (1) 基礎演習(近代)Ⅰ (1) 基礎演習(近代)Ⅱ (1) 基礎演習(変体仮名) (1) 基礎演習(漢文)A (1) または 基礎演習(漢文)B (1) *1 基礎講読A (2) 基礎講読B (2) 基礎講読C (2) 基礎講読D (2)	総合研究Ⅰ (1) 総合研究Ⅱ (1) 国語学概論Ⅰ (2) 国語学概論Ⅱ (2) (▽23 国語学概論 (4)) キャリア研究 (2)	テーマ別研究Ⅰ (2) テーマ別研究Ⅱ (2)	テーマ別研究Ⅲ (2) テーマ別研究Ⅳ (2) 卒業論文 (4)	34単位
選択必修Ⅰ	文学史(上代・中古)Ⅰ (2) 文学史(上代・中古)Ⅱ (2) (▽23 文学史(上代・中古) (4)) 文学史(中世・近世)Ⅰ (2) 文学史(中世・近世)Ⅱ (2) (▽23 文学史(中世・近世) (4)) 文学史(近代)Ⅰ (2) 文学史(近代)Ⅱ (2) (▽23 文学史(近代) (4)) *2				1年次4単位以上 2年次4単位以上
選択必修Ⅱ		上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) (▽23 上代文学演習A (4)) (▽18 上代文学演習 (4)) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) (▽23 中古文学演習A (4)) (▽18 中古文学演習 (4)) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) (▽23 中古文学演習B (4)) (▽18 中古文学演習 (4)) 中古文学演習CⅠ (2) 中古文学演習CⅡ (2) (▽23 中古文学演習C (4)) (▽18 中古文学演習 (4)) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) (▽23 中世文学演習A (4)) (▽18 中世文学演習 (4)) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2) (▽23 中世文学演習B (4)) (▽18 中世文学演習 (4)) 近世文学演習AⅠ (2) 近世文学演習AⅡ (2) (▽23 近世文学演習A (4)) (▽18 近世文学演習 (4)) 近世文学演習BⅠ (2) 近世文学演習BⅡ (2) (▽23 近世文学演習B (4)) (▽18 近世文学演習 (4))	近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) (▽23 近代文学演習A (4)) (▽18 近代文学演習 (4)) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) (▽23 近代文学演習B (4)) (▽18 近代文学演習 (4)) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) (▽23 近代文学演習C (4)) (▽18 近代文学演習 (4)) 近代文学演習DⅠ (2) 近代文学演習DⅡ (2) (▽23 近代文学演習D (4)) (▽18 近代文学演習 (4)) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) (▽23 近代文学演習E (4)) (▽18 近代文学演習 (4)) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2) (▽23 近代文学演習F (4)) (▽18 近代文学演習 (4)) 近代文学演習GⅠ (2) 近代文学演習GⅡ (2) (▽23 近代文学演習G (4)) (▽18 近代文学演習 (4))	国語学演習AⅠ (2) 国語学演習AⅡ (2) (▽23 国語学演習(古典語) (4)) 国語学演習BⅠ (2) 国語学演習BⅡ (2) (▽23 国語学演習(近代語) (4)) 漢文学演習Ⅰ (2) 漢文学演習Ⅱ (2) (▽23 漢文学演習 (4))	82単位
					2年次4単位以上 3年次4単位以上

選択 必修 Ⅲ	上代文学講義 A I (2) 上代文学講義 A II (2) 〔▽23 上代文学講義 A (4)〕 〔▽18 上代文学講義 (4)〕	中世文学講義 C I (2) 中世文学講義 C II (2) 〔▽23 中世文学演習 A (4)〕 〔▽18 中世文学講義 (4)〕	国語学講義 A I (2) 国語学講義 A II (2) 〔▽23 国語学講義 (古典語) (4)〕	国語学講義 B I (2) 国語学講義 B II (2) 〔▽23 国語学講義 (近代語) (4)〕	漢文学講義 I (2) 漢文学講義 II (2) 〔▽23 漢文学講義 (4)〕	中国文学講義 I (2) 中国文学講義 II (2) 〔▽23 中国文学講義 (4)〕	2年次4単位以上 3年次4単位以上
	上代文学講義 B I (2) 上代文学講義 B II (2) 〔▽23 上代文学講義 B (4)〕 〔▽18 上代文学講義 (4)〕	近代文学講義 A I (2) 近代文学講義 A II (2) 〔▽23 近代文学講義 A (4)〕 〔▽18 近代文学講義 (4)〕	国語学講義 (言語と社会) I (2) 国語学講義 (言語と社会) II (2) 〔▽17 国語学講義 (言語と社会) (4)〕				
	中古文学講義 A I (2) 中古文学講義 A II (2) 〔▽23 中古文学講義 A (4)〕 〔▽18 中古文学講義 (4)〕	近代文学講義 A I (2) 近代文学講義 A II (2) 〔▽23 近代文学講義 A (4)〕 〔▽18 近代文学講義 (4)〕					
	中古文学講義 B I (2) 中古文学講義 B II (2) 〔▽23 中古文学講義 B (4)〕 〔▽18 中古文学講義 (4)〕	近代文学講義 B I (2) 近代文学講義 B II (2) 〔▽23 近代文学講義 B (4)〕 〔▽18 近代文学講義 (4)〕					
	中古文学講義 C I (2) 中古文学講義 C II (2) 〔▽23 中古文学講義 C (4)〕 〔▽18 中古文学講義 (4)〕	近代文学講義 C I (2) 近代文学講義 C II (2) 〔▽23 近代文学講義 C (4)〕 〔▽18 近代文学講義 (4)〕					
	中世文学講義 A I (2) 中世文学講義 A II (2) 〔▽23 中世文学講義 A (4)〕 〔▽18 中世文学講義 (4)〕	近代文学講義 D I (2) 近代文学講義 D II (2) 〔▽23 近代文学講義 D (4)〕 〔▽18 近代文学講義 (4)〕					
	中世文学講義 B I (2) 中世文学講義 B II (2) 〔▽23 中世文学講義 B (4)〕 〔▽18 中世文学講義 (4)〕		〔▽23 中古文学講義 D (4)〕 〔▽23 近世文学講義 B (4)〕				
	日本中世史 I (2) 日本中世史 II (2) 〔▽23 日本中世史 (4)〕	日本近代史 I (2) 日本近代史 II (2) 〔▽23 日本近代史 (4)〕					
	国語科教育法特講 A (2) 国語科教育法特講 B (2)	国語科教育法 I A (2) *3 国語科教育法 I B (2) *3 書道 (1) *4	書道 II (2)				
	国語学特講 (現代語文法) I (2) 国語学特講 (現代語文法) II (2) 〔▽23 国語学特講 (現代語文法) (4)〕	日本語教育研究 (2) 日本語教育実習 (1) 〔▽18 日本語教育研究 A (4)〕 〔▽18 日本語教育研究 B (4)〕 〔▽18 日本語教育実習 A (2)〕 〔▽18 日本語教育実習 B (2)〕 〔▽19 対照言語学 (4)〕					
言語学概論 I (2) 言語学概論 II (2) 〔▽23 国語学特講 (言語学概論) (4)〕	言語学各論 (言語地理学) (2) 言語学各論 (地域言語文化論) (2) 言語学各論 (接触場面研究) (1)	日本語史 I (2) 日本語史 II (2) 異文化とコミュニケーション (2)					
対照言語学 (2) 第二言語習得 (2)							
		国語国文学特講 (表現学) I (2) *4 国語国文学特講 (表現学) II (2) *4 〔▽23 国語国文学特講 (表現学) (4)〕	国語国文学特講 (演劇) I (2) 国語国文学特講 (演劇) II (2) 〔▽23 国語国文学特講 (演劇) (4)〕				
		国語国文学特講 (民俗学) I (2) 国語国文学特講 (民俗学) II (2) 〔▽23 国語国文学特講 (民俗学) (4)〕					
留学生対象	総合日本語 I A (2) *5	総合日本語 I B (2) *5	総合日本語 II A (2) *5	総合日本語 II B (2) *5			

▽→以前開講科目 (最終開講年度を西暦下 2 桁で表示)

- *1 中等教職課程履修者が「基礎演習 (漢文) B」を修得した場合、中高の教職免許状を取得するためには「基礎演習 (漢文) B」を修得した年次の後に「基礎演習 (漢文) A」を修得する必要があります。
- *2 中等教職課程履修者は、選択必修科目 I の 12 単位をすべて履修することになります。
- *3 中等教職課程履修者のみ履修可能です。
- *4 中等教職課程履修者は、3 年次に履修すべき選択科目の 1 科目として「書道」を、3、4 年次のいずれかに履修すべき選択科目の科目として「国語国文学特講 (表現学) I」、および「国語国文学特講 (表現学) II」 (▽23 国語国文学特講 (表現学)) を、それぞれ履修することになります。
- *5 留学生のみ履修可能です。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

国語国文学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、国語国文学科専門科目を82単位以上修得することが卒業の要件となります。

2) 「卒業論文」の提出条件（「テーマ別研究Ⅰ～Ⅳ」の再履修と関連して）

「テーマ別研究Ⅰ～Ⅳ」は、原則として3年次へ進級する時に決められた担当教員（当該教員がサバティカルの年度は代わりの教員）の授業のみ履修できます。したがって、3年次に「テーマ別研究Ⅰ」「テーマ別研究Ⅱ」の単位を得られなかった場合、4年次にこれを再履修することになるため、「テーマ別研究Ⅲ」「テーマ別研究Ⅳ」、および、卒業論文の提出は、次年度以降となります。つまり、4年間で卒業できないことになるので、注意してください。なお、「テーマ別研究Ⅳ」の再履修だけを残して卒業延期となった場合は、「テーマ別研究Ⅲ」を「テーマ別研究Ⅳ」として履修することができます。この場合は、卒業論文を前期中に提出することができます。

3. 進級の条件

1) 進級の条件

【2024年度入学者】

2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

(1) 国語国文学科専門科目1、2年次必修科目のうち「国語国文学入門」「基礎演習（古典）Ⅰ」「基礎演習（古典）Ⅱ」「基礎演習（近代）Ⅰ」「基礎演習（近代）Ⅱ」「基礎演習（日本語）」「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」の単位をすべて修得していること、

(2) それ以外の1、2年次必修・選択必修Ⅰ・Ⅱの14科目中7科目以上単位を修得していること、この両方を満たさなければ3年次に進級することができない。

※「キャリア研究」は進級要件科目に含みません。

【2021・2022・2023年度入学者】

2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

(1) 国語国文学科専門科目1・2年次必修科目のうち「国語国文学入門」「基礎演習（古典）Ⅰ」「基礎演習（古典）Ⅱ」「基礎演習（近代）Ⅰ」「基礎演習（近代）Ⅱ」「基礎演習（日本語）」「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」の単位をすべて修得していること、

(2) それ以外の1・2年次必修・選択必修Ⅰ・Ⅱの14科目中7科目以上〔▽23 10科目中5科目以上〕単位を修得していること、

この両方を満たさなければ3年次に進級することができない。

※「キャリア研究」は進級要件科目に含みません。

【2020年度以前入学者】

2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

(1) 国語国文学科専門科目1・2年次必修科目のうち「基礎演習（古典）Ⅰ」「基礎演習（古典）Ⅱ」「基礎演習（近代）Ⅰ」「基礎演習（近代）Ⅱ」「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」の単位をすべて修得していること、

(2) それ以外の1・2年次必修・選択必修Ⅰの14科目中9科目以上〔▽23 10科目中7科目以上〕単位を修得していること、

この両方を満たさなければ3年次に進級することができない。

※「キャリア研究」は進級要件科目に含みません。

4. 履修の方法・留意事項

【2024 年度入学者】

1) 履修登録単位数の上限

1 年次～4 年次において、半期で 24 単位を超えて履修することはできません。

1 年次～4 年次 半期 24 単位（資格課程等履修者は 30 単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で 6 単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4 年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。国語国文学科の成績基準は次のとおりです。

「学科の 1～3 年次必修科目合計 15 科目中、12 科目以上の成績が「S」または「A」であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。ただし、「国語国文学入門」については、次学期に再履修してください。

3) 選択必修科目Ⅰの履修（文学史）

1・2 年次のうちに計画的に履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

4) 選択必修科目Ⅱの履修（基礎講読）

1・2 年次のうちに計画的に履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

5) 選択必修科目Ⅲの履修（演習）

少なくとも 2 年次に 4 単位以上、3 年次に 4 単位以上履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、演習科目の履修にあたっては、それぞれ基礎にあたる科目の単位を修得していることが前提条件となっています。前提となる科目の単位を前学期までに修得していない場合は、対応する演習科目を履修できません。

演習科目名	演習科目を履修するための前提条件
上代文学演習 AⅠ・AⅡ 中古文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ 中世文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ 近世文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	← 基礎演習（古典）Ⅰ・Ⅱ の 両方の単位を修得していること
近代文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡ EⅠ・EⅡ・FⅠ・FⅡ・GⅠ・GⅡ	← 基礎演習（近代）Ⅰ・Ⅱ の 両方の単位を修得していること
国語学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	← 基礎演習（日本語）の 単位を修得していること
漢文学演習Ⅰ・Ⅱ	← 基礎演習（漢文）A・B の いずれかの単位を修得していること

また、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

6) 選択必修科目Ⅳの履修（講義）

少なくとも 2 年次に 4 単位以上、3 年次に 4 単位以上履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

7) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、資格課程・プログラム等に必要科目や学修を希望する科目を履修してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

8) その他

必修科目、選択必修科目Ⅰ～Ⅳの要件を満たした上で 82 単位に満たない分は、選択必修科目Ⅰ～Ⅳの科目をさらに履修する、もしくは、選択科目を履修することで、残りの単位を修得してください。

【2021・2022・2023 年度入学者】

1) 履修登録単位数の上限

1 年次～4 年次において、半期で 24 単位を超えて履修することはできません。

1 年次～4 年次 半期 24 単位（資格課程等履修者は 30 単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で 6 単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4 年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。国語国文学科の成績基準は次のとおりです。

「学科の 1～3 年次必修科目合計 15 科目中、12 科目以上の成績が「S」または「A」であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。ただし、「国語国文学入門」については、次学期に再履修してください。

3) 選択必修科目Ⅰの履修（文学史）

1 年次に 4 単位以上 8 単位まで、2 年次に 4 単位以上に分けて履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

4) 選択必修科目Ⅱの履修（基礎講読）

1・2 年次のうちに計画的に履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

5) 選択必修科目Ⅲの履修（演習）

少なくとも 2 年次に 4 単位以上、3 年次に 4 単位以上履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、演習科目の履修にあたっては、それぞれ基礎にあたる科目の単位を修得していることが前提条件となっています。前提となる科目の単位を前学期までに修得していない場合は、対応する演習科目を履修できません。

演習科目名	演習科目を履修するための前提条件
上代文学演習 AⅠ・AⅡ 中古文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ 中世文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ 近世文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ (▽23 上代文学演習 A) (▽23 中古文学演習 A・B・C) (▽23 中世文学演習 A・B) (▽23 近世文学演習 A・B・C)	← 基礎演習（古典）Ⅰ・Ⅱ の 両方の単位を修得していること
近代文学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡ EⅠ・EⅡ・FⅠ・FⅡ・GⅠ・GⅡ (▽23 近代文学演習 A・B・C・D・E・F・G)	← 基礎演習（近代）Ⅰ・Ⅱ の 両方の単位を修得していること
国語学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ (▽23 国語学演習 A・B)	← 基礎演習（日本語）の 単位を修得していること
漢文学演習Ⅰ・Ⅱ (▽23 漢文学演習)	← 基礎演習（漢文）A・B の いずれかの単位を修得していること

また、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

6) 選択必修科目Ⅳの履修（講義）

少なくとも 2 年次に 4 単位以上、3 年次に 4 単位以上履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

7) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、資格課程・プログラム等に必要科目や学修を希望する科目を履修してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目

は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

8) その他

必修科目、選択必修科目Ⅰ～Ⅳの要件を満たした上で82単位に満たない場合、選択必修科目Ⅰ～Ⅳの科目をさらに履修する、もしくは、選択科目を履修することで、残りの単位を修得してください。

【2020年度以前入学者】

1) 履修登録単位数の上限

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。国語国文学科の成績基準は次のとおりです。

「学科の1～3年次必修科目合計17科目中、14科目以上（▽23 16科目中、13科目以上）の成績が「S」または「A」であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目Ⅰの履修（文学史）

1年次に4単位以上8単位まで、2年次に4単位以上に分けて履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

4) 選択必修科目Ⅱの履修（演習）

少なくとも2年次に4単位以上、3年次に4単位以上履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、演習科目の履修にあたっては、それぞれ基礎にあたる科目の単位を修得していることが前提条件となっています。前提となる科目の単位を前学期までに修得していない場合は、対応する演習科目を履修できません。

演習科目名	演習科目を履修するための前提条件
上代文学演習AⅠ・AⅡ 中古文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ 中世文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ 近世文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ (▽23 上代文学演習A) (▽23 中古文学演習A・B・C) (▽23 中世文学演習A・B) (▽23 近世文学演習A・B・C)	← 基礎演習（古典）Ⅰ・Ⅱの両方の単位を修得していること
近代文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡ EⅠ・EⅡ・FⅠ・FⅡ・GⅠ・GⅡ (▽23 近代文学演習A・B・C・D・E・F・G)	← 基礎演習（近代）Ⅰ・Ⅱの両方の単位を修得していること
漢文学演習Ⅰ・Ⅱ (▽23 漢文学演習)	← 基礎演習（漢文）A・Bのいずれかの単位を修得していること

また、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

5) 選択必修科目Ⅲの履修（講義）

少なくとも2年次に4単位以上、3年次に4単位以上履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

6) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、資格課程・プログラム等に必要な科目や

学修を希望する科目を履修してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

7) その他

必修科目、選択必修科目Ⅰ～Ⅲの要件を満たした上で82単位に満たない分は、選択必修科目Ⅰ～Ⅲの科目をさらに履修する、もしくは、選択科目を履修することで、残りの単位を修得してください。

5. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

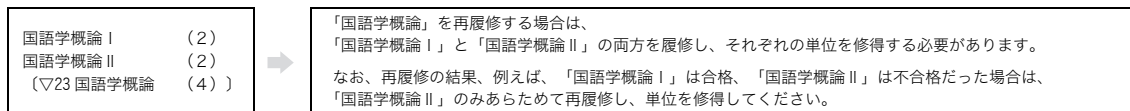
2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。ただし、必修科目のうち「国語学概論Ⅰ」「国語学概論Ⅱ」については自身で履修登録をする必要があります。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。なお、「基礎演習（漢文）A」の単位を修得できなかった場合は、「基礎演習（漢文）B」で再履修してください。また、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、国語国文学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

【2023年度以前入学者】「国語学概論（通年科目）」の再履修方法



4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 国語国文学科専門科目の履修・登録に関するサポート

国語国文学科専門科目の履修・登録についての質問は、国語国文学科研究室（本館4F）へお問い合わせください。

文学部

フランス語フランス文学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 進級の条件
4. 履修の方法・留意事項
5. 登録

文学部 フランス語フランス文学科

1. カリキュラム

2024年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ		未習者・既習者別の少人数語学クラスで基礎を固め、「読む」「書く」「聞く」「話す」というフランス語の4技能をバランス良く伸ばす。「フランス語圏文化概論」でフランス語圏の基礎知識とともに、調査や口頭発表の仕方を学ぶ。	フランス語の4技能をさらに伸ばしながら、「フランス文学概論」でフランス文学の概略とともに、レポート執筆の方法を学ぶ。文学・社会・歴史・生活文化に関する専門科目の履修を開始。「専門ゼミ準備研究」とあわせて、3・4年次での学びの方向を決めていく。	必修フランス語科目でフランス語の運用能力をさらに高める。選択必修科目は、「フランス語特別強化」、「文学社会文化」、「歴史芸術文化」、「生活文化」のいずれかのコースに沿って履修し、関心領域の能力・知識を体系的に身につける。「専門ゼミ」では、関心領域のテーマを自分の力で深く掘り下げ、意欲のある学生は4年次に卒業論文を執筆する。			
必修	未習者	1年フランス語総合ⅠA (2) 1年フランス語総合ⅠB (2) 1年フランス語総合ⅡA (2) 1年フランス語総合ⅡB (2) 1年フランス語総合ⅠC (2) 1年フランス語総合ⅡC (2) 1年フランス語コミュニケーションⅠA (1) 1年フランス語コミュニケーションⅡA (1) 1年フランス語コミュニケーションⅠB (1) 1年フランス語コミュニケーションⅡB (1)	2年フランス語総合ⅠA (2) 2年フランス語総合ⅡA (2) 2年フランス語総合ⅠB (2) 2年フランス語総合ⅡB (2) 2年フランス語コミュニケーションⅠA (1) 2年フランス語コミュニケーションⅡA (1) 2年フランス語コミュニケーションⅠB (1) 2年フランス語コミュニケーションⅡB (1)	フランス語発展総合ⅠA (2) フランス語発展総合ⅠB (2) フランス語発展総合ⅡA (2) フランス語発展総合ⅡB (2) フランス語発展読解Ⅰ (2) フランス語発展読解Ⅱ (2) 専門ゼミⅠ (2) 専門ゼミⅡ (2)	専門ゼミⅠ (2) 専門ゼミⅡ (2)	58単位	
	既習者	フランス語圏文化概論Ⅰ (2) フランス語圏文化概論Ⅱ (2) 1年フランス語総合ⅠA (既習) (2) 1年フランス語総合ⅡA (既習) (2) 1年フランス語総合ⅠB (既習) (2) 1年フランス語総合ⅡB (既習) (2) 1年フランス語総合ⅠC (既習) (2) 1年フランス語総合ⅡC (既習) (2) 1年フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (1) 1年フランス語コミュニケーションⅡA (既習) (1) 1年フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (1) 1年フランス語コミュニケーションⅡB (既習) (1)	フランス文学概論 (2) 専門ゼミ準備研究 (2) キャリア研究 (2) 2年フランス語総合ⅠA (既習) (2) 2年フランス語総合ⅡA (既習) (2) 2年フランス語総合ⅠB (既習) (2) 2年フランス語総合ⅡB (既習) (2) 2年フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (1) 2年フランス語コミュニケーションⅡA (既習) (1) 2年フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (1) 2年フランス語コミュニケーションⅡB (既習) (1)				
選択必修Ⅰ*1				フランス語上級演習ⅠA (2) フランス語上級演習ⅠB (2) フランス語上級演習ⅡA (2) フランス語上級演習ⅡB (2) フランス文学歴史演習ⅠA (2) フランス文学歴史演習ⅠB (2) フランス文学歴史演習ⅠC (2) フランス文学歴史演習ⅡA (2) フランス文学歴史演習ⅡB (2) フランス社会文化演習ⅠA (2) フランス社会文化演習ⅠB (2) フランス社会文化演習ⅠC (2) フランス社会文化演習ⅡA (2) フランス社会文化演習ⅡB (2)	フランス芸術文化演習ⅠA (2) フランス芸術文化演習ⅠB (2) フランス芸術文化演習ⅠC (2) フランス芸術文化演習ⅡA (2) フランス芸術文化演習ⅡB (2) フランス生活文化演習ⅠA (2) フランス生活文化演習ⅠB (2) フランス生活文化演習ⅠC (2) フランス生活文化演習ⅡA (2) フランス生活文化演習ⅡB (2)	8単位	82単位
選択必修Ⅱ*1		オンライン海外研修(フランス語圏) (2)	フランス文学歴史研究A (2) フランス文学歴史研究B (2) フランス文学歴史研究C (2) フランス文学歴史研究D (2) フランス文学歴史研究E (2) フランス文学歴史研究F (2) フランス文学歴史研究G (2) フランス社会文化研究A (2) フランス社会文化研究B (2) フランス社会文化研究C (2) フランス社会文化研究D (2) フランス社会文化研究E (2) フランス社会文化研究F (2) フランス社会文化研究G (2)	フランス芸術文化研究A (2) フランス芸術文化研究B (2) フランス芸術文化研究C (2) フランス芸術文化研究D (2) フランス芸術文化研究E (2) フランス芸術文化研究F (2) フランス芸術文化研究G (2) フランス生活文化研究A (2) フランス生活文化研究B (2) フランス生活文化研究C (2) フランス生活文化研究D (2) フランス生活文化研究E (2) フランス生活文化研究F (2) フランス生活文化研究G (2)	資格のためのフランス語ⅠA (2) 資格のためのフランス語ⅠB (2) 資格のためのフランス語ⅠC (2) 資格のためのフランス語ⅡA (2) 資格のためのフランス語ⅡB (2) 資格のためのフランス語ⅡC (2) フランス語アトリエA (2) フランス語アトリエB (2) 舞台芸術実践演習 (2) 海外研修(フランス語圏)A (2) 海外研修(フランス語圏)B (2)	12単位 又は 16単位	
				フランス語実践研究A (2) フランス語実践研究B (2) フランス語実践研究C (2) フランス語実践研究D (2) フランス語実践研究E (2)	フランス語実践研究F (2) フランス語実践研究G (2) フランス語実践研究H (2) フランス語教育実践研究A (2) フランス語教育実践研究B (2)		
				仏語科教育法ⅠA (2) 仏語科教育法ⅠB (2) *2	仏語科教育法特講A (2) 仏語科教育法特講B (2) *2		
選択					卒業論文 (4)	4単位 又は 0単位	
		フランス語・文化入門演習 (1) *3					

- *1 選択必修科目Ⅰ・Ⅱは、3年次進級時に選択するコースによって、履修科目が決まってきます。
詳細は「4. 履修の方法・留意事項 3) 選択必修科目Ⅰ・Ⅱおよび選択科目の履修」を参照してください。
- *2 中等教職課程履修者のみ履修可能です。
- *3 入学前科目等履修生のみ履修可能です。

2023年度以前入学者用 2024年度より 通年科目を廃止し 半期科目へ変更しました (卒業論文を除く)

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ		未習者・既習者別の少人数語学クラスで基礎を固め、「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」というフランス語の4技能をバランス良く伸ばす。「フランス語圏文化概論」でフランス語圏の基礎知識とともに、調査や口頭発表の仕方を学ぶ。	フランス語の4技能をさらに伸ばしながら、「フランス文学概論」でフランス文学の概略とともに、レポート執筆の方法を学ぶ。文学・社会・歴史・生活文化に関する専門科目の履修を開始。「専門ゼミ準備研究」とあわせて、3・4年次での学びの方向を決めていく。	必修フランス語科目でフランス語の運用能力をさらに高める。選択必修科目は、「フランス語特別強化」、「文学社会文化」、「歴史芸術文化」、「生活文化」のいずれかのコースに沿って履修し、関心領域の能力・知識を体系的に身につける。「専門ゼミ」では、関心領域のテーマを自分の力で深く掘り下げ、意欲のある学生は4年次に卒業論文を執筆する。		
必修	未習者	1年フランス語総合ⅠA (2) 1年フランス語総合ⅠA (2) (▽23 フランス語総合ⅠA (4)) 1年フランス語総合ⅠB (2) 1年フランス語総合ⅠB (2) (▽23 フランス語総合ⅠB (4)) 1年フランス語総合ⅠC (2) 1年フランス語総合ⅠC (2) (▽23 フランス語総合ⅠC (4)) 1年フランス語コミュニケーションⅠA (1) 1年フランス語コミュニケーションⅠA (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠA (2)) 1年フランス語コミュニケーションⅠB (1) 1年フランス語コミュニケーションⅠB (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB (2))	2年フランス語総合ⅠA (2) 2年フランス語総合ⅠA (2) (▽23 フランス語総合ⅠA (4)) 2年フランス語総合ⅠB (2) 2年フランス語総合ⅠB (2) (▽23 フランス語総合ⅠB (4)) 2年フランス語コミュニケーションⅠA (1) 2年フランス語コミュニケーションⅠA (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠA (2)) 2年フランス語コミュニケーションⅠB (1) 2年フランス語コミュニケーションⅠB (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB (2))	フランス語発展総合ⅠA (2) フランス語発展総合ⅠB (2) フランス語発展総合ⅡA (2) フランス語発展総合ⅡB (2) フランス語発展読解Ⅰ (2) フランス語発展読解Ⅱ (2) 専門ゼミⅠ (2) 専門ゼミⅡ (2) (▽23 専門ゼミ (4))	専門ゼミⅠ (2) 専門ゼミⅡ (2) (▽23 専門ゼミ (4))	58単位
	既習者	フランス語圏文化概論Ⅰ (2) フランス語圏文化概論Ⅱ (2) (▽23 フランス語圏文化概論 (4)) 1年フランス語総合ⅠA (既習) (2) 1年フランス語総合ⅠA (既習) (2) (▽23 フランス語総合ⅠA (既習) (4)) 1年フランス語総合ⅠB (既習) (2) 1年フランス語総合ⅠB (既習) (2) (▽23 フランス語総合ⅠB (既習) (4)) 1年フランス語総合ⅠC (既習) (2) 1年フランス語総合ⅠC (既習) (2) (▽23 フランス語総合ⅠC (既習) (4)) 1年フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (1) 1年フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (2)) 1年フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (1) 1年フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (2))	フランス文学概論 (2) 専門ゼミ準備研究 キャリア研究 (2) 2年フランス語総合ⅠA (既習) (2) 2年フランス語総合ⅠA (既習) (2) (▽23 フランス語総合ⅠA (既習) (4)) 2年フランス語総合ⅠB (既習) (2) 2年フランス語総合ⅠB (既習) (2) (▽23 フランス語総合ⅠB (既習) (4)) 2年フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (1) 2年フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠA (既習) (2)) 2年フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (1) 2年フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (1) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB (既習) (2))			
選択必修 Ⅰ *1				フランス語上級演習ⅠA (2) フランス語上級演習ⅠB (2) フランス語上級演習ⅡA (2) フランス語上級演習ⅡB (2) フランス文学歴史演習ⅠA (2) フランス文学歴史演習ⅠB (2) フランス文学歴史演習ⅡA (2) フランス文学歴史演習ⅡB (2) フランス社会文化演習ⅠA (2) フランス社会文化演習ⅠB (2) フランス社会文化演習ⅠC (2) フランス社会文化演習ⅡA (2) フランス社会文化演習ⅡB (2)	フランス芸術文化演習ⅠA (2) フランス芸術文化演習ⅠB (2) フランス芸術文化演習ⅠC (2) フランス芸術文化演習ⅡA (2) フランス芸術文化演習ⅡB (2) フランス生活文化演習ⅠA (2) フランス生活文化演習ⅠB (2) フランス生活文化演習ⅠC (2) フランス生活文化演習ⅡA (2) フランス生活文化演習ⅡB (2)	8単位

選択必修 Ⅱ *1	オンライン海外研修（フランス語圏）（2） （▽22 フランス語圏海外研修（オンライン）（2））				12単位 又は 16単位				
		2年次アトリエⅠA 2年次アトリエⅠB 2年次アトリエⅠC 2年次アトリエⅠD 2年次アトリエⅡA 2年次アトリエⅡB 2年次アトリエⅡC 2年次アトリエⅡD	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	*2					
		フランス文学歴史研究A フランス文学歴史研究B フランス文学歴史研究C フランス文学歴史研究D フランス文学歴史研究E フランス文学歴史研究F フランス文学歴史研究G フランス社会文化研究A フランス社会文化研究B フランス社会文化研究C フランス社会文化研究D フランス社会文化研究E フランス社会文化研究F フランス社会文化研究G	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	フランス芸術文化研究A フランス芸術文化研究B フランス芸術文化研究C フランス芸術文化研究D フランス芸術文化研究E フランス芸術文化研究F フランス芸術文化研究G		(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	資格のためのフランス語ⅠA 資格のためのフランス語ⅠB 資格のためのフランス語ⅠC 資格のためのフランス語ⅡA 資格のためのフランス語ⅡB 資格のためのフランス語ⅡC	(2) (2) (2) (2) (2) (2)	*3
				フランス語実践研究A フランス語実践研究B フランス語実践研究C フランス語実践研究D フランス語実践研究E		(2) (2) (2) (2) (2)	フランス語実践研究F フランス語実践研究G フランス語実践研究H フランス語教育実践研究A フランス語教育実践研究B	(2) (2) (2) (2) (2)	
				仏語科教育法ⅠA 仏語科教育法ⅠB		(2) (2)	仏語科教育法特講A 仏語科教育法特講B	(2) (2)	*4
選択					卒業論文	(4)	4単位 又は 0単位		
	フランス語・文化入門演習	(1) *5							

- *1 選択必修科目Ⅰ・Ⅱは、3年次進級時に選択するコースによって、履修科目が決まってきます。
詳細は「4. 履修の方法・留意事項 3) 選択必修科目Ⅰ・Ⅱおよび選択科目の履修」を参照してください。
- *2 2022年度以前入学者対象科目です。
- *3 2023年度入学者対象科目です。
- *4 中等教職課程履修者のみ履修可能です。
- *5 入学前科目等履修生のみ履修可能です。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

フランス語フランス文学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、フランス語フランス文化学科専門科目を82単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 進級の条件

1) 進級の条件

【2024年度入学者】

2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

「1年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB・ⅠC・ⅡC」と「1年フランス語コミュニケーションⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB」のうち少なくとも8科目、「2年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB」のうち少なくとも2科目、「2年フランス語コミュニケーションⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB」のうち少なくとも2科目の単位を修得していること。これを満たさなければ、3年次に進級することができない。

【2022・2023年度入学者】

1年次から2年次および2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

- ア) 「1年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語総合ⅠA・ⅠB〕」の単位のすべてを修得していること。これを満たさなければ、2年次に進級することができない。
- イ) 「1年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB・ⅠC・ⅡC〔▽23 フランス語総合ⅠA・ⅠB・ⅠC〕」と「1年フランス語コミュニケーションⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語コミュニケーションⅠA・ⅠB〕」のうち少なくとも8科目〔▽23 4科目〕、「2年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語総合ⅡA・ⅡB〕」のうち少なくとも2科目〔▽23 1科目〕、「2年フランス語コミュニケーションⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語コミュニケーションⅡA・ⅡB〕」のうち少なくとも2科目〔▽23 1科目〕の単位を修得していること。これを満たさなければ、3年次に進級することができない。

【2021年度以前入学者】

1年次から2年次および2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

- ア) 1年次における必修科目（「フランス語圏文化概論」は含まない）のうち、「フランス語総合ⅠA・ⅠB・ⅠC」のうちの少なくとも2つと、「フランス語コミュニケーションⅠA・ⅠB」のうちの少なくとも1つの単位を修得していない場合、2年次に進級することができない。
- イ) 1・2年次における必修科目（「フランス語圏文化概論Ⅰ・Ⅱ〔▽23 フランス語圏文化概論〕」、「フランス文学概論」、「専門ゼミ準備研究」、「キャリア研究」は含まない）のうち、「1年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB・ⅠC・ⅡC〔▽23 フランス語総合ⅠA・ⅠB・ⅠC〕」と「1年フランス語コミュニケーションⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語コミュニケーションⅠA・ⅠB〕」のすべて、「2年フランス語総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語総合ⅡA・ⅡB〕」のうち少なくとも2科目〔▽23 1科目〕、「2年フランス語コミュニケーションⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB〔▽23 フランス語コミュニケーションⅡA・ⅡB〕」のうち少なくとも2科目〔▽23 1科目〕の単位を修得していない場合、3年次に進級することができない。

4. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。
 ※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。フランス語フランス文学科の成績基準は次のとおりです。

【2024年度入学者】

「学科の1～3年次必修科目合計31科目中、25科目以上の成績が「S」または「A」であること」

【2023年度以前入学者】

「学科の1～3年次必修科目合計31科目中、25科目以上（▽23 20科目中、12科目以上）の成績が「S」または「A」であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度（または次学期）以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目Ⅰ・Ⅱおよび選択科目の履修

選択必修科目Ⅰ・Ⅱは、3年次進級時に選択するコースによって次の表のとおり履修し、単位を修得してください。選択必修Ⅱについては、4年次に選択科目として「卒業論文」を履修する場合は12単位、「卒業論文」を履修しない場合は16単位を修得しなければなりません。

区分名	選択必修Ⅰ（8単位のみ） ⇒ コース指定科目から選択すること	選択必修Ⅱ（12単位または16単位） ⇒ うち、8単位以上をコース指定科目から選択すること	選択
フランス語特別強化	フランス語上級演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB	資格のためのフランス語ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC フランス語アトリエA・B フランス語実践研究A～H フランス語教育実践研究A・B 仏語科教育法ⅠA・ⅠB 仏語科教育法特講A・B 2年次アトリエⅠA～D・ⅡA～D フランス語実践研究A～H フランス語教育実践研究A・B 仏語科教育法ⅠA・ⅠB 仏語科教育法特講A・B	(卒業論文)
フランス文学社会文化	フランス文学歴史演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB フランス社会文化演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB	フランス文学歴史研究A～G フランス社会文化研究A～G	
フランス歴史芸術文化	フランス芸術文化演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB フランス文学歴史演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB	フランス芸術文化研究A～G フランス文学歴史研究A～G	
フランス生活文化	フランス生活文化演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB フランス社会文化演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB	フランス生活文化研究A～G フランス社会文化研究A～G	

※中等教職課程履修者は「フランス語特別強化コース」を履修してください。

※「舞台芸術実践演習」「海外研修（フランス語圏）A」「海外研修（フランス語圏）B」「オンライン海外研修（フランス語圏）（▽22 フランス語海外研修（オンライン）」の修得単位数は、選択必修Ⅱ（コース指定科目外）として算入することができます。

5. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。
 CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）のうち「フランス語圏文化概論Ⅰ」「フランス語圏文化概論Ⅱ」「フランス文学概論」については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。それ以外の再履修科目は、各自の履修登録・登録照会画面にあらかじめ表示されています。

【2023年度以前入学者】通年科目の再履修方法

例) フランス語圏文化概論Ⅰ(2) フランス語圏文化概論Ⅱ(2) (▽23フランス語圏文化概論(4))	➔	「フランス語圏文化概論」を再履修する場合は、 「フランス語圏文化概論Ⅰ」と「フランス語圏文化概論Ⅱ」の両方を履修し、それぞれの単位を修得する必要があります。 なお、再履修の結果、例えば、「フランス語圏文化概論Ⅰ」は合格、「フランス語圏文化概論Ⅱ」は不合格だった場合は、 「フランス語圏文化概論Ⅱ」のみあらためて再履修し、単位を修得してください。
---	---	---

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) フランス語フランス文学科専門科目の履修・登録に関するサポート

フランス語フランス文学科専門科目の履修・登録についての質問は、フランス語フランス文学科研究室（本館3F）へお問い合わせください。

文学部

英語英文学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 進級の条件
4. 履修の方法・留意事項
5. 登録

文学部 英語英文学科

1. カリキュラム

2024年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ		英語の基礎力を養うための必修科目を中心に履修。しっかりとした英語力を身につける。	それぞれのコースの専門科目の履修が始まり、幅広い知識と視野を持って学び始める。	各コースでの学びを深める。セミナーでは、自ら調べ、研究した内容を論文にまとめる技能を修得することに力を入れ、4年次の「卒業論文」の執筆に備える。	すべての学生は4年間の学びの集大成となる「卒業論文」を執筆。「特別演習」では、そのための指導が中心に行われる。		
		4つのコースの入門セミナーに参加し、コースでの学びについて概要を理解し、大学で英語や英米文化や国際社会について学んでいくための基礎知識や研究方法を身につける。各コースのセミナーで、今後自分が専門的に研究したいテーマを模索する。					
必修		インテンシヴ・リーディングⅠ (1) インテンシヴ・リーディングⅡ (1) エクステンシヴ・リーディングⅠ (1) エクステンシヴ・リーディングⅡ (1) ライティングⅠ (1) ライティングⅡ (1) オーラル・コミュニケーションⅠ (1) オーラル・コミュニケーションⅡ (1) プレゼンテーションⅠ (1) プレゼンテーションⅡ (1) Grammar & ListeningⅠ (1) Grammar & ListeningⅡ (1)	リーディングA (1) リーディングB (1) ライティングⅢ (1) ライティングⅣ (1) Digital Presentation A (1) Digital Presentation B (1) キャリア研究 (2)	3年セミナーⅠ (2) 3年セミナーⅡ (2)	特別演習Ⅰ (2) 特別演習Ⅱ (2) 卒業論文 (4)	40単位	
選択必修Ⅰ			Integrated EnglishⅠA (1) Integrated EnglishⅠB (1) Integrated EnglishⅠC (1) Integrated EnglishⅠD (1) Integrated EnglishⅠE (1) Integrated EnglishⅠF (1) Integrated EnglishⅠG (1) Integrated EnglishⅠH (1) Integrated EnglishⅠI (1) Integrated EnglishⅠA (1) Integrated EnglishⅠB (1) Integrated EnglishⅠC (1) Integrated EnglishⅠD (1) Integrated EnglishⅠE (1) Integrated EnglishⅠF (1) Integrated EnglishⅠA (1) Integrated EnglishⅠB (1) Integrated EnglishⅠC (1) Integrated EnglishⅠD (1) Integrated EnglishⅠE (1)	Integrated EnglishⅡF (1) Integrated EnglishⅡG (1) Integrated EnglishⅡH (1) Integrated EnglishⅡI (1) Advanced Integrated EnglishⅠA (1) Advanced Integrated EnglishⅠB (1) Advanced Integrated EnglishⅠC (1) Advanced Integrated EnglishⅠD (1) Advanced Integrated EnglishⅠE (1) Advanced Integrated EnglishⅠF (1) Advanced Integrated EnglishⅡA (1) Advanced Integrated EnglishⅡB (1) Advanced Integrated EnglishⅡC (1) Advanced Integrated EnglishⅡD (1)	Advanced Integrated EnglishⅡE (1) Advanced Integrated EnglishⅡF (1) Advanced Integrated WritingⅠA (1) Advanced Integrated WritingⅠB (1) Advanced Integrated WritingⅠC (1) Advanced Integrated WritingⅠD (1) Advanced Integrated WritingⅠE (1) Advanced Integrated WritingⅠF (1) Advanced Integrated WritingⅡA (1) Advanced Integrated WritingⅡB (1) Advanced Integrated WritingⅡC (1) Advanced Integrated WritingⅡD (1) Advanced Integrated WritingⅡE (1) Advanced Integrated WritingⅡF (1)	6単位以上	
選択必修Ⅱ	ブリティッシュ・スタディーズ	イギリス史Ⅰ (2) イギリス史Ⅱ (2)	イギリス文学史A (2) イギリス文学史B (2)	イギリス文化史Ⅰ (2) イギリス文化史Ⅱ (2) 異文化理解 (2)	Irish Culture A (2) Irish Culture B (2) Australian Studies A (2) Australian Studies B (2) Postcolonial Literature A (2)	30単位以上 (全コースから24単位、選択していないコースから各2単位 計6単位)	
	アメリカン・スタディーズ	アメリカ史 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2) アメリカ文学史Ⅱ (2)	アメリカ文化概論Ⅰ (2) アメリカ文化概論Ⅱ (2) 英語圏文学 (2)	American Literature (2) American Drama (2) American Culture (2) American Society (2) Postcolonial Literature B (2)		
	ことばとコミュニケーション	英語史Ⅰ (2) 英語史Ⅱ (2)	英語学概論Ⅰ (2) 英語学概論Ⅱ (2)	児童英語入門 (2) 子どもに教えるための英語Ⅰ (2)	Journalism EnglishⅠ (2) Journalism EnglishⅡ (2) 異文化コミュニケーションⅠ (2) 異文化コミュニケーションⅡ (2) 英語教育の理論と実践Ⅰ (2) 英語教育の理論と実践Ⅱ (2)		
	国際社会・文化(ISC)	国際関係論 (2) 国際交流論 (2)	Japanese Studies (2)	Japanese Pop Culture A (2) Japanese Pop Culture B (2) Japanese Films A (2) Japanese Films B (2) East Asian Studies A (2) East Asian Studies B (2)	東アジア映画研究 (2) Introduction to Global History (2) J-E TranslationⅠ (2) J-E TranslationⅡ (2) J-E TranslationⅢ (2) J-E TranslationⅣ (2) J-E Translation Workshop (2)		

選択 必修 Ⅲ	TOEIC入門 (2) TOEIC初級 (2)	TOEIC中級A (2) TOEIC中級B (2)	TOEIC上級A (2) TOEIC上級B (2) TOEIC S&W (2)	アメリカ留学試験準備 (2) アメリカ留学試験対策 (2)	6単位以上
		ビジネスコミュニケーションⅠ (2) ビジネスコミュニケーションⅡ (2)	English through DramaⅠ (2) English through DramaⅡ (2)	英日翻訳演習Ⅰ (2) 英日翻訳演習Ⅱ (2) 通訳基礎 (2) 通訳実践 (2)	
選択	実用英語文法Ⅰ (2) 実用英語文法Ⅱ (2)	英語科教育法特講A (2) 英語科教育法特講B (2)	英語科教育法ⅠA (2)*1 英語科教育法ⅠB (2)*1 実践キャリア研究 (2)		
	英語教師のための英文法Ⅰ (2)*2	英語教師のための英文法Ⅱ (2)*2			
	海外研修(英語圏)A (2) 海外研修(英語圏)B (2)	オンライン海外研修(英語圏)A (2) オンライン海外研修(英語圏)B (2)	海外異文化体験研修 (4)		
児童英語指導者養成 プログラム (選必Ⅱにも科目あり)	児童英語観察実習 (1)				
		児童英語教材研究 (2)			
			児童英語教育法 (2) 子どもに教えるための英語Ⅱ (2)	児童英語指導法ワークショップⅠ (4) 児童英語指導法ワークショップⅡ (4)	
				児童英語アシスタント実習Ⅰ (4) 児童英語アシスタント実習Ⅱ (4)	
グローバルビジネス プログラム	EBCⅠ (2) EBCⅡ (2) リーダーシップ入門 (2)	リーダーシップ応用 (2) ビジネスの基礎知識 (2) ビジネススキル (2) 海外企業実地研修準備講座 (2)	物語力ワークショップ (2) ビジネス・マーケティングA (2) 海外企業実地研修 (2)		
		ビジネス・マーケティングB (2) 英語メディアで学ぶビジネス (2)	英語で考えるSDGs (2) 自己表現の技術と知識 (2)		
	海外文化共創研修 (2)				
ホスピタリティ・マネジメント プログラム	ホスピタリティの英語Ⅰ (2)	ホスピタリティマネジメント概論 (2)	ホスピタリティマネジメント特講A (2)	ホスピタリティマネジメント特講B (2)	
		ホスピタリティの英語Ⅱ (2)	ホスピタリティマネジメント演習 (2)	ホスピタリティインターンシップ研修 (2)	
	海外ホスピタリティ研修 (2)				

*1 中等教職課程履修者のみ履修可能です。

*2 中等教職課程履修者は、1～3年次に「英語教師のための英文法Ⅰ／Ⅱ」を履修することを推奨します。

2021・2022・2023 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位		
学びの流れ		英語の基礎力を養うための必修科目を中心に履修。しっかりとした英語力を身につける。	それぞれのコースの専門科目の履修が始まり、幅広い知識と視野を持って学び始める。	各コースでの学びを深める。セミナーでは、自ら調べ、研究した内容を論文にまとめる技能を修得することに力を入れ、4 年次の「卒業論文」の執筆に備える。	すべての学生は 4 年間の学びの集大成となる「卒業論文」を執筆。「特別演習」では、そのための指導が中心に行われる。			
		4 つのコースの入門セミナーに参加し、コースでの学びについて概要を理解し、大学で英語や英米文化や国際社会について学んでいくための基礎知識や研究方法を身につける。各コースのセミナーで、今後自分が専門的に研究したいテーマを模索する。						
必修		インテンシヴ・リーディングⅠ (1) インテンシヴ・リーディングⅡ (1) エクステンシヴ・リーディングⅠ (1) エクステンシヴ・リーディングⅡ (1) ライティングⅠ (1) ライティングⅡ (1) オーラル・コミュニケーションⅠ (1) オーラル・コミュニケーションⅡ (1) プレゼンテーションⅠ (1) プレゼンテーションⅡ (1) Grammar & ListeningⅠ (1) Grammar & ListeningⅡ (1)	リーディングA (1) リーディングB (1) ライティングⅢ (1) ライティングⅣ (1) Digital Presentation A (1) Digital Presentation B (1) キャリア研究 (2)	3 年セミナーⅠ (2) 3 年セミナーⅡ (2)	特別演習Ⅰ (2) 特別演習Ⅱ (2) 卒業論文 (4)	40 単位		
		入門セミナー・イギリス (2) 入門セミナー・アメリカ (2)	入門セミナー・ことば (2) 入門セミナー・国際 (2)					
選択必修Ⅰ			Integrated EnglishⅠA (1) Integrated EnglishⅠB (1) Integrated EnglishⅠC (1) Integrated EnglishⅠD (1) Integrated EnglishⅠE (1) Integrated EnglishⅠF (1) Integrated EnglishⅠG (1) Integrated EnglishⅠH (1) Integrated EnglishⅠI (1) Integrated EnglishⅠJ (1) Integrated EnglishⅠK (1) Integrated EnglishⅠL (1) Integrated EnglishⅠM (1) Integrated EnglishⅠN (1)	Integrated EnglishⅢF (1) Integrated EnglishⅢG (1) Integrated EnglishⅢH (1) Integrated EnglishⅢI (1) Advanced Integrated EnglishⅠA (1) Advanced Integrated EnglishⅠB (1) Advanced Integrated EnglishⅠC (1) Advanced Integrated EnglishⅠD (1) Advanced Integrated EnglishⅠE (1) Advanced Integrated EnglishⅠF (1) Advanced Integrated EnglishⅠG (1) Advanced Integrated EnglishⅠH (1) Advanced Integrated EnglishⅠI (1) Advanced Integrated EnglishⅠJ (1) Advanced Integrated EnglishⅠK (1) Advanced Integrated EnglishⅠL (1) Advanced Integrated EnglishⅠM (1) Advanced Integrated EnglishⅠN (1)	Advanced Integrated EnglishⅡE (1) Advanced Integrated EnglishⅡF (1) Advanced Integrated WritingⅠA (1) Advanced Integrated WritingⅠB (1) Advanced Integrated WritingⅠC (1) Advanced Integrated WritingⅠD (1) Advanced Integrated WritingⅠE (1) Advanced Integrated WritingⅠF (1) Advanced Integrated WritingⅡA (1) Advanced Integrated WritingⅡB (1) Advanced Integrated WritingⅡC (1) Advanced Integrated WritingⅡD (1) Advanced Integrated WritingⅡE (1) Advanced Integrated WritingⅡF (1)	6 単位以上		
			← 対象年次：2～4 年次 →			2024.04.01 訂正		
選択必修Ⅱ	ブリテイッシュ・スタディーズ	イギリス史Ⅰ (2) イギリス史Ⅱ (2)	イギリス文学史A (2) イギリス文学史B (2)	イギリス文化史Ⅰ (2) イギリス文化史Ⅱ (2) 異文化理解 (2)			30 単位以上 (主コースから 24 単位、 選択していないコースから各 2 単位、 計 6 単位)	82 単位
			イギリス文学鑑賞A (2) イギリス文学鑑賞B (2) イギリス文学講義A (2) イギリス文学講義B (2) イギリス文学研究A (2) イギリス文学研究B (2)	イギリス文化講義 (2) イギリス文化研究 (2) イギリス演劇講義 (2) British Literature (2) British CulturesⅠ (2) British CulturesⅡ (2)	Irish Culture A (2) Irish Culture B (2) Australian Studies A (2) Australian Studies B (2) Postcolonial Literature A (2)			
	アメリカン・スタディーズ	アメリカ史 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2) アメリカ文学史Ⅱ (2)	アメリカ文化概論Ⅰ (2) アメリカ文化概論Ⅱ (2) 英語圏文学 (2)				
			アメリカ小説鑑賞A (2) アメリカ小説鑑賞B (2) アメリカ文学講義A (2) アメリカ文学講義B (2) アメリカ文学講義C (2) アメリカ文学講義D (2)	アメリカ文学研究A (2) アメリカ文学研究B (2) アメリカ文化講義 (2) アメリカ文化研究 (2) アメリカ文化の中のキリスト教 (2) 文学批評講義 (2)	American Literature (2) American Drama (2) American Culture (2) American Society (2) Postcolonial Literature B (2)			
	ことばとコミュニケーション	英語史Ⅰ (2) 英語史Ⅱ (2)	英語学概論Ⅰ (2) 英語学概論Ⅱ (2)	児童英語入門 (2) 子どもに教えるための英語Ⅰ (2)				
			英語音声学Ⅰ (2) 英語音声学Ⅱ (2) 言語習得論Ⅰ (2) 言語習得論Ⅱ (2) 英語の言語変化 (2) 社会言語学 (2)	コミュニケーション概論Ⅰ (2) コミュニケーション概論Ⅱ (2) 異文化コミュニケーションⅠ (2) 異文化コミュニケーションⅡ (2) World Englishes (2)	Journalism EnglishⅠ (2) Journalism EnglishⅡ (2) 英語教育の理論と実践Ⅰ (2) 英語教育の理論と実践Ⅱ (2)			
	国際社会・文化 (ISC)	国際関係論 (2) 国際交流論 (2)	Japanese Studies (2)					
			Japanese Society (2) Japanese History (2) Japanese Literature A (2) Japanese Literature B (2) Japanese Culture A (2) Japanese Culture B (2)	Japanese Pop Culture A (2) Japanese Pop Culture B (2) Japanese Films A (2) Japanese Films B (2) East Asian Studies A (2) East Asian Studies B (2)	東アジア映画研究 (2) Introduction to Global History (2) J-E TranslationⅠ (2) J-E TranslationⅡ (2) J-E TranslationⅢ (2) J-E TranslationⅣ (2) J-E Translation Workshop (2)			

選択必修Ⅲ	TOEIC入門 (2) TOEIC初級 (2)	TOEIC中級A (2) TOEIC中級B (2)	TOEIC上級A (2) TOEIC上級B (2) TOEIC S&W (2)	アメリカ留学試験準備 (2) アメリカ留学試験対策 (2)	6単位以上
	グローバル文化研究A (2) グローバル文化研究B (2) グローバル文化研究C (2) グローバル文化研究D (2) グローバル文化研究E (2) グローバル文化研究F (2) グローバル文化研究G (2)	グローバル文化研究H (2) グローバル文化研究I (2) グローバル文化研究J (2) グローバル文化研究K (2) ビジネスコミュニケーションⅠ (2) ビジネスコミュニケーションⅡ (2)	English through DramaⅠ (2) English through DramaⅡ (2) 英日翻訳演習Ⅰ (2) 英日翻訳演習Ⅱ (2) 通訳基礎 (2) 通訳実践 (2)		
	Academic Writing (2) Advanced Presentation (2) Advanced Oral Communication AⅠ (2) Advanced Oral Communication AⅡ (2) Advanced Oral Communication BⅠ (2) Advanced Oral Communication BⅡ (2)	日英翻訳Ⅰ (2) 日英翻訳Ⅱ (2) 通訳演習上級A (2) 通訳演習上級B (2)			
選択	実用英語文法Ⅰ (2) 実用英語文法Ⅱ (2)	英語科教育法特講A (2) 英語科教育法特講B (2)	英語科教育法ⅠA (2)*1 英語科教育法ⅠB (2)*1		
	英語教師のための英文法Ⅰ (2)*2 英語教師のための英文法Ⅱ (2)*2				
	ホスピタリティの英語初級Ⅰ (2)*3 ホスピタリティの英語初級Ⅱ (2)*3	ホスピタリティマネジメント概論 (2)			
	海外ホスピタリティ研修A (2)*3 海外ホスピタリティ研修B (2)*3				
	ホスピタリティマネジメント特講A (2) ホスピタリティマネジメント特講B (2)				
			ホスピタリティの英語中級Ⅰ (2)*3 ホスピタリティの英語中級Ⅱ (2)*3		
			実践キャリア研究 (2) ホスピタリティマネジメント演習A (2)*3 ホスピタリティマネジメント演習B (2)*3		
海外研修(英語圏)A (2) 海外研修(英語圏)B (2)	オンライン海外研修(英語圏)A (2) オンライン海外研修(英語圏)B (2)	海外異文化体験研修 (4) 海外文化共創研修 (2)	(▽22 英語圏の言語と文化) (4)		
児童英語指導者養成プログラム (選必Ⅱにも科目あり)	児童英語観察実習 (1)				
		児童英語教材研究 (2)			
			児童英語教育法 (2) 子どもに教えるための英語Ⅱ (2)	児童英語指導法ワークショップⅠ (4) 児童英語指導法ワークショップⅡ (4)	
				児童英語アシスタント実習Ⅰ (4) 児童英語アシスタント実習Ⅱ (4)	
グローバルビジネスプログラム	EBCⅠ (2) EBCⅡ (2) グローバルビジネスⅠ (2)	EBCⅢ (2) グローバルビジネスⅡ (2) グローバルビジネスⅢ (2) ビジネスの基礎知識 (2) ビジネススキル (2) 海外企業実地研修準備講座 (2)	海外企業実地研修 (2)		
		EBCⅣ (2) ビジネス・マーケティングB (2) ビジネス・マナー演習 (2)*5	ビジネス・マナー演習 (2)*4 ビジネスの中国語 (2)*5 ホスピタリティの中国語Ⅰ (2)*4	メディアで学ぶビジネス英語A (2) メディアで学ぶビジネス英語B (2)	
			ビジネス・マーケティングA (2)	物語力ワークショップ (2)	
ホスピタリティ・マネジメントプログラム (2023年度以降入学者対象)	ホスピタリティの英語Ⅰ (2)	ホスピタリティマネジメント概論 (2)	ホスピタリティマネジメント特講A (2)	ホスピタリティマネジメント特講B (2)	
		ホスピタリティの英語Ⅱ (2)	ホスピタリティマネジメント演習 (2)	ホスピタリティインターンシップ研修 (2)	
	海外ホスピタリティ研修 (2)				

▽→以前開講科目(最終開講年度を西暦下2桁で表示)

- *1 中等教職課程履修者のみ履修可能です。
- *2 中等教職課程履修者は、1～3年次に「英語教師のための英文法Ⅰ/Ⅱ」を履修することを推奨します。
- *3 2021・2022年度入学者対象科目です。
- *4 2021年度入学者対象科目です。
- *5 2022年度以降入学者対象科目です。

2020 年度以前入学用

()内の数字は科目の単位数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ		英語の基礎力を養うための必修科目を中心に履修。しっかりとした英語力を身につける。	それぞれのコースの専門科目の履修が始まり、幅広い知識と視野を持って学び始める。	各コースでの学びを深める。セミナーでは、自ら調べ、研究した内容を論文にまとめる技能を修得することに力を入れ、4 年次の「卒業論文」または「卒業レポート」の執筆に備える。	すべての学生は 4 年間の学びの集大成となる「卒業論文」または「卒業レポート」を執筆。「特別演習」では、そのための指導が中心に行われる。		
		4 つのコースの入門セミナーに参加し、コースでの学びについて概要を理解し、大学で英語や英文学を学んでいくための基礎知識や研究方法を身につける。各コースのセミナーで、今後自分が専門的に研究したいテーマを模索する。					
必修		インテンシブ・リーディングⅠ (1) インテンシブ・リーディングⅡ (1) エクステンシブ・リーディングⅠ (1) エクステンシブ・リーディングⅡ (1) ライティングⅠ (1) ライティングⅡ (1) オーラル・コミュニケーションⅠ (1) オーラル・コミュニケーションⅡ (1) プレゼンテーションⅠ (1) プレゼンテーションⅡ (1) Grammar & ListeningⅠ (1) Grammar & ListeningⅡ (1)	リーディング A (1) リーディング B (1) ライティングⅢ (1) ライティングⅣ (1) オーラル・コミュニケーションⅢ (1) オーラル・コミュニケーションⅣ (1) Digital Presentation A (1) Digital Presentation B (1) キャリア研究 (2)	Advanced English AⅠ (1) Advanced English AⅡ (1) Advanced English BⅠ (1) Advanced English BⅡ (1) 3 年セミナーⅠ (1) 3 年セミナーⅡ (1)	特別演習Ⅰ (1) 特別演習Ⅱ (1)	34 単位	
		入門セミナー・イギリス (1) 入門セミナー・アメリカ (1)	入門セミナー・ことば (1) 入門セミナー・比較 (1)				
選択必修Ⅰ					卒業論文 (8) 卒業レポート (2)	8 単位 又は 2 単位	
選択必修Ⅱ	ブリティッシュ・スタディーズ	イギリス史Ⅰ (2) イギリス史Ⅱ (2)	イギリス文学史 A (2) イギリス文学史 B (2)	イギリス文化史Ⅰ (2) イギリス文化史Ⅱ (2) 異文化理解 (2)	Irish Culture A (2) Irish Culture B (2) Australian Studies A (2) Australian Studies B (2) Postcolonial Literature A (2)	30 単位以上 (主コースから 24 単位、 選択していないコースから各 2 単位計 6 単位)	82 単位
	アメリカン・スタディーズ	アメリカ史 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2) アメリカ文学史Ⅱ (2)	アメリカ文化概論Ⅰ (2) アメリカ文化概論Ⅱ (2) 英語圏文学 (2)	American Literature (2) American Drama (2) American Culture (2) American Society (2) Postcolonial Literature B (2)		
	ことばとコミュニケーション	英語史Ⅰ (2) 英語史Ⅱ (2)	英語学概論Ⅰ (2) 英語学概論Ⅱ (2)	児童英語入門 (2) 子どもに教えるための英語Ⅰ (2)	Journalism EnglishⅠ (2) Journalism EnglishⅡ (2) 英語教育の理論と実践Ⅰ (2) 英語教育の理論と実践Ⅱ (2)		
	比較文化・文学	国際関係論 (2) 国際交流論 (2)	Japanese Studies (2)	Japanese Pop Culture A (2) Japanese Pop Culture B (2) Japanese Films A (2) Japanese Films B (2) East Asian Studies A (2) East Asian Studies B (2)	東アジア映画研究 (2) Introduction to Global History (2) J-E TranslationⅠ (2) J-E TranslationⅡ (2) J-E TranslationⅢ (2) J-E TranslationⅣ (2) J-E Translation Workshop (2)		

選択 必修 Ⅲ	TOEIC入門 (2) TOEIC初級 (2)	TOEIC中級A (2) TOEIC中級B (2)	TOEIC上級A (2) TOEIC上級B (2) TOEIC S&W (2)	アメリカ留学試験準備 (2) アメリカ留学試験対策 (2) ホスピタリティの英語初級Ⅰ (2) ホスピタリティの英語初級Ⅱ (2)	10単位以上
	グローバル文化研究A (2) グローバル文化研究B (2) グローバル文化研究C (2) グローバル文化研究D (2) グローバル文化研究E (2) グローバル文化研究F (2) グローバル文化研究G (2)	グローバル文化研究H (2) グローバル文化研究I (2) グローバル文化研究J (2) グローバル文化研究K (2) ビジネスコミュニケーションⅠ (2) ビジネスコミュニケーションⅡ (2)	English through DramaⅠ (2) English through DramaⅡ (2) 英日翻訳演習Ⅰ (2) 英日翻訳演習Ⅱ (2) 通訳基礎 (2) 通訳実践 (2)		
	Academic Writing (2) Advanced Presentation (2) Advanced Oral Communication AⅠ (2) Advanced Oral Communication AⅡ (2) Advanced Oral Communication BⅠ (2) Advanced Oral Communication BⅡ (2)	日英翻訳Ⅰ (2) 日英翻訳Ⅱ (2) 通訳演習上級A (2) 通訳演習上級B (2) ホスピタリティの英語中級Ⅰ (2) ホスピタリティの英語中級Ⅱ (2)*3			
選択	実用英語文法Ⅰ (2) 実用英語文法Ⅱ (2)	英語科教育法特講A (2) 英語科教育法特講B (2)	英語科教育法ⅠA (2)*1 英語科教育法ⅠB (2)*1		
	英語教師のための英文法Ⅰ (2)*2 英語教師のための英文法Ⅱ (2)*2				
	ホスピタリティマネジメント概論 (2)				
	海外ホスピタリティ研修A (2) 海外ホスピタリティ研修B (2)				
	ホスピタリティマネジメント特講A (2) ホスピタリティマネジメント特講B (2)				
	実践キャリア研究 (2)		ホスピタリティマネジメント演習A (2) (▽19 ホスピタリティマネジメント演習B (2)) ホスピタリティマネジメント演習B (2)		
	海外研修(英語圏)A (2) 海外研修(英語圏)B (2)	オンライン海外研修(英語圏)A (2) オンライン海外研修(英語圏)B (2)	海外異文化体験研修 (4) 海外文化共創研修 (2)	(▽22 英語圏の言語と文化 (4)) (▽19 米国の言語と文化 (4)) (▽19 英国の言語と文化 (4))	
児童英語指導者養成 プログラム (選必Ⅱにも科目あり)	児童英語観察実習 (1)				
	児童英語教材研究 (2)				
	児童英語教育法 (2) 子どもに教えるための英語Ⅱ (2)		児童英語指導法ワークショップⅠ (4) 児童英語指導法ワークショップⅡ (4)		
	児童英語アシスタント実習Ⅰ (4) 児童英語アシスタント実習Ⅱ (4)				
グローバルビジネス プログラム	EBCⅠ (2) EBCⅡ (2) グローバルビジネスⅠ (2)	EBCⅢ (2) グローバルビジネスⅡ (2) グローバルビジネスⅢ (2) ビジネスの基礎知識 (2) ビジネススキル (2) (▽19 ビジネスプレゼンテーション (2)) 海外企業実地研修準備講座 (2)	海外企業実地研修 (2)		
	EBCⅣ (2) ビジネス・マーケティングB (2) (▽19 ビジネス・スタティーズB (2))	ビジネスマナーと礼儀演習 (2) ホスピタリティの中国語Ⅰ (2)	メディアで学ぶビジネス英語A (2) メディアで学ぶビジネス英語B (2)		
	ビジネス・マーケティングA (2) (▽19 ビジネス・スタティーズA (2))	物語力ワークショップ (2)			

▽→以前開講科目(最終開講年度を西暦下2桁で表示)

*1 中等教職課程履修者のみ履修可能です。

*2 中等教職課程履修者は、1～3年次に「英語教師のための英文法Ⅰ/Ⅱ」を履修することを推奨します。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

英語英文学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、英語英文学科専門科目を82単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 進級の条件

1) 進級の条件

3年次から4年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

英語英文学科専門科目の1, 2年次に修得すべき必修科目（但し「キャリア研究」を除く）すべての単位を3年次終了までに修得できなかった場合、4年次に進級することができない。

4. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。英語英文学科の成績基準は次のとおりです。

【2021年度以降入学者】

「学科の1・2年次必修科目の半数（23科目中12科目）以上の成績が「S」または「A」、かつ「F」が5科目以下であること」

【2020年度以前入学者】

「学科の1・2年次必修科目の半数（25科目中13科目）以上の成績が「S」または「A」、かつ「F」が5科目以下であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目Ⅰの履修

選択必修科目Ⅰは2～4年次のあいだに計画的に履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

4) 選択必修科目Ⅱの履修

選択必修科目Ⅱは1～4年次のあいだに計画的に履修し、コースごとに定められた要件を満たすよう単位を修得してください。なお、主コースについては、「3年セミナーⅠ・Ⅱ」のクラス希望調査にあわせて、2年次後期に決定します。

5) 選択必修科目Ⅲの履修

選択必修科目Ⅲは1～4年次のあいだに計画的に履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。なお、「TOEIC入門」「TOEIC初級」「TOEIC中級A」「TOEIC中級B」「TOEIC上級A」「TOEIC上級B」「TOEIC S&W」については、各科目のシラバスを確認の上、自分のプレイメントテストのスコアに合致している科目、または、自分が目標とするスコアに対応している科目を選んで履修してください。

6) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、資格課程・プログラム等に必要科目や学修を希望する科目を履修してください。

7) その他

【2020年度以前入学者】

必修科目、選択必修科目Ⅰ～Ⅲの要件を満たした上で82単位に満たない分は、選択必修科目Ⅰ～Ⅲの科目をさらに履修する、もしくは、選択科目を履修することで、残りの単位を修得してください。

5. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。
CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、当該年次必修科目と再履修科目を同時履修する場合など、やむを得ない場合にはこの限りではありません。再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、英語英文学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 英語英文学科専門科目の履修・登録に関するサポート

英語英文学科専門科目の履修・登録についての質問は、英語英文学科研究室（本館3F）へお問い合わせください。

文学部

資格課程

教職課程（中学校・高等学校教諭 一種）

司書課程

司書教諭課程

1. 文学部で取得できる資格

文学部で取得できる資格については、以下のとおりです。

それぞれの資格課程の履修にあたっては、学修上の順序性や系統性が厳格に定められていますので、各自で十分にスケジュールを管理するよう心がけてください。

2. 履修上の注意

- 1) 複数の資格（プログラムを含む。以下、資格等）を取得しようとする場合、時間割上で授業が重複すること等により、卒業までに一部又は全部の資格等を取得することが困難となる可能性があります。よって、複数の資格等の取得を目指す場合は、これらのことに十分留意をしてください。
- 2) 資格課程に関わる連絡は、原則として CAMPUS SQUARE の掲示板で行います。掲示は適時確認するようにしてください。掲示を確認しなかったために起こる不利益は本人の責任となります。

①教職課程

		国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
中等教職課程	中学校教諭一種	○（国語）	○（フランス語）	○（英語）
	高等学校教諭一種	○（国語）	○（フランス語）	○（英語）
初等教職課程	幼稚園教諭一種	▲	▲	▲
	小学校教諭一種	▲	▲	▲

○＝履修可能（履修後に適性試験あり）

▲＝選考で合格した者のみ履修可能

②司書課程、司書教諭課程

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
司書課程	○	○	○
司書教諭課程	※	※	※

○＝履修可能

※＝教職課程（幼稚園教諭を除く）履修者のみ履修可能

中等教職課程

国語国文学科・フランス語フランス文学科・英語英文学科

1. 中等教職課程について
2. 中等教職課程履修費
3. 教育職員免許状の種類及び教科について
4. 教育職員免許状を取得するための条件
5. 履修方法
6. 教育実習
7. 教職実践演習（中・高）
8. 教育職員免許状取得
9. 登録
10. 辞退
11. 中等教職課程年間予定

文学部 中等教職課程

1. 中等教職課程について

中等教職課程とは、教育職員免許法に定められた科目の単位を修得し、中学校及び高等学校の教育職員免許状を取得するための課程です。

中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状を取得するために必要な科目等は若干異なりますが、本学では中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状の両免許状を併せて取得することを原則としています。これらの免許状を取得するにあたっては、3～4週間（15日以上）の教育実習や、合計7日間の介護等体験を行う必要があります。実習や体験の日程は、受け入れ先の学校や施設の都合に合わせて設定されます。

中等教職課程履修者は、学内はもとより、教育実習校や介護等体験先等において、「教員を目指す者」とみなされます。中等教職課程の履修を希望する場合は、これらを十分認識し、自覚を持って臨むとともに、計画的に授業科目の履修を進めていくことが必要です。

なお、中等教職課程を履修するにあたっては、必ず履修申請を行ってください。申請方法等につきましては、入学時のお知らせ等を参照してください。入学時以外の申請も不可能ではありませんが、時期によっては、4年間での免許状取得が困難となります。

また、最終的な履修者（教育実習実施者）は、各学科の選考等により決定されます（選考時期は各学科により異なります）。

2. 中等教職課程履修費

中等教職課程を履修するには、中等教職課程履修費が必要となります。なお、一旦納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません（納入時期・納入金額等は2023年度の実績）。

納入時期： 教育実習実施年度 4月（原則4年次）

納入金額： 22,000円

納入方法： 証明書発行機（11号館2階）にて期限内に納入

3. 教育職員免許状の種類及び教科について

本学において取得できる免許状と学科の組み合わせは、以下のとおりです。

認定を受けた学科	免許状の種類	免許教科
国語国文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語
フランス語フランス文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（フランス語）
英語英文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（英語）

4. 教育職員免許状を取得するための条件

本学において中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修
- ⑤ 介護等体験の実施
- ⑥ 基礎資格を有する(学士の学位を取得=大学を卒業すること)

2019・2020・2021・2022・2023・2024 年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑥ 基礎資格	最低修得単位数及び科目										⑤ 介護等体験の実施
		① 教科及び教科の指導法に関する科目	② 教育の基礎的理解に関する科目等	③ 大学が独自に設定する科目	①②③ 合計	④ 教育職員免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目				⑤ 介護等体験の実施		
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作			
											④	
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	28	27	4	59	2	2	2	2	必要	
		本学における最低修得単位数	国語	32	31	*	63	2	2	2	2	必要
			フランス語	28	31	*	59					
			英語	28	31	*	59					
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	24	23	12	59	2	2	2	2		
		本学における最低修得単位数	国語	31	29	2*	62	2	2	2	2	
			フランス語	28	29	2*	59					
			英語	28	29	2*	59					

* 「大学が独自に設定する科目」の単位の修得方法は、「5. ③ 大学が独自に設定する科目」を参照してください。

注) 高等学校教諭一種免許状取得にあたっては、中学校教諭一種免許状を取得することを前提としています。

5. 履修方法

上記①～④の科目は、さらに免許状の種類や教科に応じて各科目区分ごとに履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法及び介護等体験の詳細については後述します。

また、本学では、中学校教諭及び高等学校教諭の両免許状を併せて取得するよう指導しています。中学校教諭と高等学校教諭では免許状取得のために必要な科目等が若干異なりますので、履修計画を立て、両免許状取得に必要な科目等を履修してください。

※ 本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、教務課(資格担当)に申し出て指導を受けてください。

※ 留学等において認定された単位や TOEIC 等の点数により認定された単位等は、①～④の授業科目として使用することはできません。

① 教科及び教科の指導法に関する科目：国語

認定を受けた学科：国語国文学科

2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 ()内の数字は単位数				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目		最低修得単位数	
		中学	高校			中学	高校
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	28	24	◎国語学概論Ⅰ (2)	◎国語学概論Ⅱ (2)	8	8
	◎国語国文学特講（表現学）Ⅰ (2)			◎国語国文学特講（表現学）Ⅱ (2)			
	国語学演習AⅠ (2)			国語学演習AⅡ (2)			
	国語学演習BⅠ (2)			国語学演習BⅡ (2)			
国文学（国文学史を含む。）	28	24	◎文学史（上代・中古）Ⅰ (2)	◎文学史（上代・中古）Ⅱ (2)	12	12	
			◎文学史（中世・近世）Ⅰ (2)	◎文学史（中世・近世）Ⅱ (2)			
			◎文学史（近代）Ⅰ (2)	◎文学史（近代）Ⅱ (2)			
			上代文学演習AⅠ (2)	上代文学演習AⅡ (2)			
			中古文学演習AⅠ (2)	中古文学演習AⅡ (2)			
			中古文学演習BⅠ (2)	中古文学演習BⅡ (2)			
			中古文学演習CⅠ (2)	中古文学演習CⅡ (2)			
			中世文学演習AⅠ (2)	中世文学演習AⅡ (2)			
			中世文学演習BⅠ (2)	中世文学演習BⅡ (2)			
			近世文学演習AⅠ (2)	近世文学演習AⅡ (2)			
			近世文学演習BⅠ (2)	近世文学演習BⅡ (2)			
			近代文学演習AⅠ (2)	近代文学演習AⅡ (2)			
			近代文学演習BⅠ (2)	近代文学演習BⅡ (2)			
			近代文学演習CⅠ (2)	近代文学演習CⅡ (2)			
			近代文学演習DⅠ (2)	近代文学演習DⅡ (2)			
			近代文学演習EⅠ (2)	近代文学演習EⅡ (2)			
			近代文学演習FⅠ (2)	近代文学演習FⅡ (2)			
			近代文学演習GⅠ (2)	近代文学演習GⅡ (2)			
			上代文学講義AⅠ (2)	上代文学講義AⅡ (2)			
			上代文学講義BⅠ (2)	上代文学講義BⅡ (2)			
中古文学講義AⅠ (2)	中古文学講義AⅡ (2)						
中古文学講義BⅠ (2)	中古文学講義BⅡ (2)						
中古文学講義CⅠ (2)	中古文学講義CⅡ (2)						
中世文学講義AⅠ (2)	中世文学講義AⅡ (2)						
中世文学講義BⅠ (2)	中世文学講義BⅡ (2)						
中世文学講義CⅠ (2)	中世文学講義CⅡ (2)						
近世文学講義AⅠ (2)	近世文学講義AⅡ (2)						
近世文学講義BⅠ (2)	近世文学講義BⅡ (2)						
近代文学講義AⅠ (2)	近代文学講義AⅡ (2)						
近代文学講義BⅠ (2)	近代文学講義BⅡ (2)						
近代文学講義CⅠ (2)	近代文学講義CⅡ (2)						
近代文学講義DⅠ (2)	近代文学講義DⅡ (2)						
漢文学	28	24	◎基礎演習（漢文）A (1)	漢文学講義Ⅱ (2)	1	1	
			漢文学講義Ⅰ (2)	中国文学講義Ⅱ (2)			
			中国文学講義Ⅰ (2)				
書道（書写を中心とする。）	28	24	◎書道 (1)	書道Ⅱ (2)	1	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8 単位以上	4 単位以上	◎国語科教育法特講A (2)	◎国語科教育法ⅠA (2)	10	10	
			◎国語科教育法特講B (2)	◎国語科教育法ⅠB (2) ◎国語科教育法Ⅱ (2)			
合計	28	24	本学が定める最低修得単位数		32	31	

◎：教職課程履修者必修科目、_（下線）：一般的包括的な内容を含む科目

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「教科に関する専門的事項」において、高等学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「国語学」においては「国語学概論Ⅰ・Ⅱ」及び「国語国文学特講（表現学）Ⅰ・Ⅱ」（合計8単位）が教職課程上の必修科目となります。
- 「国文学」においては「文学史（上代・中古）Ⅰ・Ⅱ」「文学史（中世・近世）Ⅰ・Ⅱ」及び「文学史（近代）Ⅰ・Ⅱ」（合計12単位：すべての単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したこととなります。）が教職課程上の必修科目となります。
- 「書道（書写を中心とする。）」は、高等学校教諭免許状取得のために必要な科目として含めることはできません。
- 「国語科教育法Ⅱ」は「国語科教育法ⅠA」及び「国語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2023 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	
		中学	高校		中学	高校
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）			◎国語学概論Ⅰ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅰ (2) ◎国語学概論Ⅱ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅱ (2) (▽23◎国語学概論 (4)) (▽23◎国語国文学特講（表現学）(4)) 国語学演習AⅠ (2) 国語学講義AⅠ (2) 国語学演習AⅡ (2) 国語学講義AⅡ (2) (▽23 国語学演習A (4)) (▽23 国語学講義A (4)) 国語学演習BⅠ (2) 国語学講義BⅠ (2) 国語学演習BⅡ (2) 国語学講義BⅡ (2) (▽23 国語学演習B (4)) (▽23 国語学講義B (4))	8	8
	国文学（国文学史を含む。）	28	24	◎文学史（上代・中古）Ⅰ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅰ (2) ◎文学史（上代・中古）Ⅱ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（上代・中古）(4)) (▽23◎文学史（中世・近世）(4)) ◎文学史（近代）Ⅰ (2) ◎文学史（近代）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（近代）(4)) 上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) 中古文学演習CⅠ (2) 中古文学演習CⅡ (2) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2) 近世文学演習AⅠ (2) 近世文学演習AⅡ (2) 近世文学演習BⅠ (2) 近世文学演習BⅡ (2) 近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) 近代文学演習DⅠ (2) 近代文学演習DⅡ (2) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2) 近代文学演習GⅠ (2) 近代文学演習GⅡ (2) 上代文学講義AⅠ (2) 上代文学講義AⅡ (2) 上代文学講義BⅠ (2) 上代文学講義BⅡ (2) 中古文学講義AⅠ (2) 中古文学講義AⅡ (2) 中古文学講義BⅠ (2) 中古文学講義BⅡ (2) 中古文学講義CⅠ (2) 中古文学講義CⅡ (2) 中世文学講義AⅠ (2) 中世文学講義AⅡ (2) 中世文学講義BⅠ (2) 中世文学講義BⅡ (2) 中世文学講義CⅠ (2) 中世文学講義CⅡ (2) 近世文学講義AⅠ (2) 近世文学講義AⅡ (2) 近代文学講義AⅠ (2) 近代文学講義AⅡ (2) 近代文学講義BⅠ (2) 近代文学講義BⅡ (2) 近代文学講義CⅠ (2) 近代文学講義CⅡ (2) 近代文学講義DⅠ (2) 近代文学講義DⅡ (2) (▽23 上代文学演習A (4)) (▽23 上代文学講義A (4)) (▽23 中古文学演習A (4)) (▽23 上代文学講義B (4)) (▽23 中古文学演習B (4)) (▽23 中古文学講義A (4)) (▽23 中古文学演習C (4)) (▽23 中古文学講義B (4)) (▽23 中世文学演習A (4)) (▽23 中古文学講義C (4)) (▽23 中世文学演習B (4)) (▽23 中世文学講義A (4)) (▽23 近世文学演習A (4)) (▽23 中世文学講義B (4)) (▽23 近世文学演習B (4)) (▽23 中世文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習A (4)) (▽23 近代文学講義A (4)) (▽23 近代文学演習B (4)) (▽23 近代文学講義B (4)) (▽23 近代文学演習C (4)) (▽23 近代文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習D (4)) (▽23 近代文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習E (4)) (▽23 近代文学講義D (4)) (▽23 近代文学演習F (4)) (▽23 近代文学演習G (4))	12	12

漢文学	書道（書写を中心とする。）	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎基礎演習（漢文）A (1)				
				漢文学講義Ⅰ (2)	中国文学講義Ⅰ (2)			1
				漢文学講義Ⅱ (2)	中国文学講義Ⅱ (2)			
				〔▽23 漢文学講義 (4)〕	〔▽23 中国文学講義 (4)〕			
				◎書道 (1)				
				書道Ⅱ (2)				1
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎国語科教育法特講A (2)	◎国語科教育法ⅠA (2)			
				◎国語科教育法特講B (2)	◎国語科教育法ⅠB (2)			10
					◎国語科教育法Ⅱ (2)			
合 計		28	24	本学が定める最低修得単位数			32	31

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

◎：教職課程履修者必修科目

__（下線）：一般的包括的な内容を含む科目

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「教科に関する専門的事項」において、高等学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「国語学」においては「国語学概論」又は「国語学概論Ⅰ・Ⅱ」及び「国語国文学特講（表現学）」又は「国語国文学特講（表現学）Ⅰ・Ⅱ」（合計8単位）が教職課程上の必修科目となります。
- 「国文学」においては「文学史（上代・中古）」又は「文学史（上代・中古）Ⅰ・Ⅱ」、「文学史（中世・近世）」又は「文学史（中世・近世）Ⅰ・Ⅱ」及び「文学史（近代）」又は「文学史（近代）Ⅰ・Ⅱ」（合計12単位：12単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。）が教職課程上の必修科目となります。
- 中学校教諭免許状取得のために必要な「書道（書写を中心とする。）」は、高等学校教諭免許状取得のために必要な科目として含めることはできません。
- 「国語科教育法Ⅱ」は「国語科教育法ⅠA」及び「国語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2022 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	
		中学	高校		中学	高校
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）			◎国語学概論Ⅰ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅰ (2) ◎国語学概論Ⅱ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅱ (2) (▽23◎国語学概論 (4)) (▽23◎国語国文学特講（表現学）(4)) 国語学演習 AⅠ (2) 国語学講義 AⅠ (2) 国語学演習 AⅡ (2) 国語学講義 AⅡ (2) (▽23 国語学演習 A (4)) (▽23 国語学講義 A (4)) 国語学演習 BⅠ (2) 国語学講義 BⅠ (2) 国語学演習 BⅡ (2) 国語学講義 BⅡ (2) (▽23 国語学演習 B (4)) (▽23 国語学講義 B (4))	8	8
	国文学（国文学史を含む。）	28	24	◎文学史（上代・中古）Ⅰ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅰ (2) ◎文学史（上代・中古）Ⅱ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（上代・中古）(4)) (▽23◎文学史（中世・近世）(4)) ◎文学史（近代）Ⅰ (2) ◎文学史（近代）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（近代）(4)) 上代文学演習 AⅠ (2) 上代文学演習 AⅡ (2) 中古文学演習 AⅠ (2) 中古文学演習 AⅡ (2) 中古文学演習 BⅠ (2) 中古文学演習 BⅡ (2) 中古文学演習 CⅠ (2) 中古文学演習 CⅡ (2) 中世文学演習 AⅠ (2) 中世文学演習 AⅡ (2) 中世文学演習 BⅠ (2) 中世文学演習 BⅡ (2) 近世文学演習 AⅠ (2) 近世文学演習 AⅡ (2) 近世文学演習 BⅠ (2) 近世文学演習 BⅡ (2) 近代文学演習 AⅠ (2) 近代文学演習 AⅡ (2) 近代文学演習 BⅠ (2) 近代文学演習 BⅡ (2) 近代文学演習 CⅠ (2) 近代文学演習 CⅡ (2) 近代文学演習 DⅠ (2) 近代文学演習 DⅡ (2) 近代文学演習 EⅠ (2) 近代文学演習 EⅡ (2) 近代文学演習 FⅠ (2) 近代文学演習 FⅡ (2) 近代文学演習 GⅠ (2) 近代文学演習 GⅡ (2) 上代文学講義 AⅠ (2) 上代文学講義 AⅡ (2) 上代文学講義 BⅠ (2) 上代文学講義 BⅡ (2) 中古文学講義 AⅠ (2) 中古文学講義 AⅡ (2) 中古文学講義 BⅠ (2) 中古文学講義 BⅡ (2) 中古文学講義 CⅠ (2) 中古文学講義 CⅡ (2) 中世文学講義 AⅠ (2) 中世文学講義 AⅡ (2) 中世文学講義 BⅠ (2) 中世文学講義 BⅡ (2) 中世文学講義 CⅠ (2) 中世文学講義 CⅡ (2) 近世文学講義 AⅠ (2) 近世文学講義 AⅡ (2) 近代文学講義 AⅠ (2) 近代文学講義 AⅡ (2) 近代文学講義 BⅠ (2) 近代文学講義 BⅡ (2) 近代文学講義 CⅠ (2) 近代文学講義 CⅡ (2) 近代文学講義 DⅠ (2) 近代文学講義 DⅡ (2) (▽23 上代文学演習 A (4)) (▽23 上代文学講義 A (4)) (▽23 中古文学演習 A (4)) (▽23 上代文学講義 B (4)) (▽23 中古文学演習 B (4)) (▽23 中古文学講義 A (4)) (▽23 中古文学演習 C (4)) (▽23 中古文学講義 B (4)) (▽23 中世文学演習 A (4)) (▽23 中古文学講義 C (4)) (▽23 中世文学演習 B (4)) (▽23 中世文学講義 A (4)) (▽23 近世文学演習 A (4)) (▽23 中世文学講義 B (4)) (▽23 近世文学演習 B (4)) (▽23 中世文学講義 C (4)) (▽23 近代文学演習 A (4)) (▽23 近世文学講義 A (4)) (▽23 近代文学演習 B (4)) (▽23 近代文学講義 A (4)) (▽23 近代文学演習 C (4)) (▽23 近代文学講義 B (4)) (▽23 近代文学演習 D (4)) (▽23 近代文学講義 C (4)) (▽23 近代文学演習 E (4)) (▽23 近代文学講義 D (4)) (▽23 近代文学演習 F (4)) (▽23 近代文学演習 G (4))	12	12

漢文学	書道（書写を中心とする。）	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎基礎演習（漢文）A (1)				
				漢文学講義Ⅰ (2)	中国文学講義Ⅰ (2)	1	1	
				漢文学講義Ⅱ (2)	中国文学講義Ⅱ (2)			
				〔▽23 漢文学講義 (4)〕	〔▽23 中国文学講義 (4)〕			
				◎書道 (1)				
				〔▽22 ◎書道Ⅰ (2)〕				
				書道Ⅱ (2)				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎国語科教育法特講A (2)	◎国語科教育法ⅠA (2)	10	10	
				◎国語科教育法特講B (2)	◎国語科教育法ⅠB (2)			
					◎国語科教育法Ⅱ (2)			
合 計		28	24	本学が定める最低修得単位数			32	31

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

◎：教職課程履修者必修科目

—（下線）：一般的包括的な内容を含む科目

履修上の注意事項

- 1) 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 2) 「教科に関する専門的事項」において、高等学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 3) 「国語学」においては「国語学概論」又は「国語学概論Ⅰ・Ⅱ」及び「国語国文学特講（表現学）」又は「国語国文学特講（表現学）Ⅰ・Ⅱ」（合計8単位）が教職課程上の必修科目となります。
- 4) 「国文学」においては「文学史（上代・中古）」又は「文学史（上代・中古）Ⅰ・Ⅱ」、「文学史（中世・近世）」又は「文学史（中世・近世）Ⅰ・Ⅱ」及び「文学史（近代）」又は「文学史（近代）Ⅰ・Ⅱ」（合計12単位：12単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。）が教職課程上の必修科目となります。
- 5) 中学校教諭免許状取得のために必要な「書道（書写を中心とする。）」は、高等学校教諭免許状取得のために必要な科目として含めることはできません。
- 6) 「国語科教育法Ⅱ」は「国語科教育法ⅠA」及び「国語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 7) 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目		最低修得単位数	
		中学	高校			中学	高校
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）			◎国語学概論Ⅰ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅰ (2) ◎国語学概論Ⅱ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅱ (2) (▽23◎国語学概論 (4)) (▽23◎国語国文学特講（表現学）(4)) 国語学演習AⅠ (2) 国語学講義AⅠ (2) 国語学演習AⅡ (2) 国語学講義AⅡ (2) (▽23 国語学演習A (4)) (▽23 国語学講義A (4)) 国語学演習BⅠ (2) 国語学講義BⅠ (2) 国語学演習BⅡ (2) 国語学講義BⅡ (2) (▽23 国語学演習B (4)) (▽23 国語学講義B (4))	8	8	
	国文学（国文学史を含む。）	28	24	◎文学史（上代・中古）Ⅰ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅰ (2) ◎文学史（上代・中古）Ⅱ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（上代・中古）(4)) (▽23◎文学史（中世・近世）(4)) ◎文学史（近代）Ⅰ (2) ◎文学史（近代）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（近代）(4)) 上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) 中古文学演習CⅠ (2) 中古文学演習CⅡ (2) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2) 近世文学演習AⅠ (2) 近世文学演習AⅡ (2) 近世文学演習BⅠ (2) 近世文学演習BⅡ (2) 近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) 近代文学演習DⅠ (2) 近代文学演習DⅡ (2) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2) 近代文学演習GⅠ (2) 近代文学演習GⅡ (2) 上代文学講義AⅠ (2) 上代文学講義AⅡ (2) 上代文学講義BⅠ (2) 上代文学講義BⅡ (2) 中古文学講義AⅠ (2) 中古文学講義AⅡ (2) 中古文学講義BⅠ (2) 中古文学講義BⅡ (2) 中古文学講義CⅠ (2) 中古文学講義CⅡ (2) 中世文学講義AⅠ (2) 中世文学講義AⅡ (2) 中世文学講義BⅠ (2) 中世文学講義BⅡ (2) 中世文学講義CⅠ (2) 中世文学講義CⅡ (2) 近世文学講義AⅠ (2) 近世文学講義AⅡ (2) 近代文学講義AⅠ (2) 近代文学講義AⅡ (2) 近代文学講義BⅠ (2) 近代文学講義BⅡ (2) 近代文学講義CⅠ (2) 近代文学講義CⅡ (2) 近代文学講義DⅠ (2) 近代文学講義DⅡ (2) (▽23 上代文学演習A (4)) (▽23 上代文学講義A (4)) (▽23 中古文学演習A (4)) (▽23 上代文学講義B (4)) (▽23 中古文学演習B (4)) (▽23 中古文学講義A (4)) (▽23 中古文学演習C (4)) (▽23 中古文学講義B (4)) (▽23 中世文学演習A (4)) (▽23 中古文学講義C (4)) (▽23 中世文学演習B (4)) (▽23 中世文学講義A (4)) (▽23 近世文学演習A (4)) (▽23 中世文学講義B (4)) (▽23 近世文学演習B (4)) (▽23 中世文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習A (4)) (▽23 近世文学講義A (4)) (▽23 近代文学演習B (4)) (▽23 近代文学講義A (4)) (▽23 近代文学演習C (4)) (▽23 近代文学講義B (4)) (▽23 近代文学演習D (4)) (▽23 近代文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習E (4)) (▽23 近代文学講義D (4)) (▽23 近代文学演習F (4)) (▽23 近代文学演習G (4))	12	12	

漢文学	書道（書写を中心とする。）	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎基礎演習（漢文）A (1)			
				漢文学講義Ⅰ (2)	中国文学講義Ⅰ (2)	1	1
				漢文学講義Ⅱ (2)	中国文学講義Ⅱ (2)		
				〔▽23 漢文学講義 (4)〕	〔▽23 中国文学講義 (4)〕		
				◎書道 (1)			
				〔▽22 ◎書道Ⅰ (2)〕		1	
				書道Ⅱ (2)			
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎国語科教育法特講A (2)	◎国語科教育法ⅠA (2)	10	10
				◎国語科教育法特講B (2)	◎国語科教育法ⅠB (2)		
					◎国語科教育法Ⅱ (2)		
合 計	28	24		本学が定める最低修得単位数		32	31

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

◎：教職課程履修者必修科目

—（下線）：一般的包括的な内容を含む科目

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「教科に関する専門的事項」において、高等学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「国語学」においては「国語学概論」又は「国語学概論Ⅰ・Ⅱ」及び「国語国文学特講（表現学）」又は「国語国文学特講（表現学）Ⅰ・Ⅱ」（合計8単位）が教職課程上の必修科目となります。
- 「国文学」においては「文学史（上代・中古）」又は「文学史（上代・中古）Ⅰ・Ⅱ」、「文学史（中世・近世）」又は「文学史（中世・近世）Ⅰ・Ⅱ」及び「文学史（近代）」又は「文学史（近代）Ⅰ・Ⅱ」（合計12単位：12単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したこととなります。）が教職課程上の必修科目となります。
- 中学校教諭免許状取得のために必要な「書道（書写を中心とする。）」は、高等学校教諭免許状取得のために必要な科目として含めることはできません。
- 「国語科教育法Ⅱ」は「国語科教育法ⅠA」及び「国語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2019・2020 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数			
科目区分	各科目に含まれることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	
		中学	高校		中学	高校
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）			◎国語学概論Ⅰ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅰ (2) ◎国語学概論Ⅱ (2) ◎国語国文学特講（表現学）Ⅱ (2) (▽23◎国語学概論 (4)) (▽23◎国語国文学特講（表現学）(4)) 国語学演習AⅠ (2) 国語学講義AⅠ (2) 国語学演習AⅡ (2) 国語学講義AⅡ (2) (▽23 国語学演習（古典語）(4)) (▽23 国語学講義（古典語）(4)) 国語学演習BⅠ (2) 国語学講義BⅠ (2) 国語学演習BⅡ (2) 国語学講義BⅡ (2) (▽23 国語学演習（近代語）(4)) (▽23 国語学講義（近代語）(4))	8	8
	国文学（国文学史を含む。）	28	24	◎文学史（上代・中古）Ⅰ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅰ (2) ◎文学史（上代・中古）Ⅱ (2) ◎文学史（中世・近世）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（上代・中古）(4)) (▽23◎文学史（中世・近世）(4)) ◎文学史（近代）Ⅰ (2) ◎文学史（近代）Ⅱ (2) (▽23◎文学史（近代）(4)) 上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) 中古文学演習CⅠ (2) 中古文学演習CⅡ (2) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2) 近世文学演習AⅠ (2) 近世文学演習AⅡ (2) 近世文学演習BⅠ (2) 近世文学演習BⅡ (2) 近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) 近代文学演習DⅠ (2) 近代文学演習DⅡ (2) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2) 近代文学演習GⅠ (2) 近代文学演習GⅡ (2) 上代文学講義AⅠ (2) 上代文学講義AⅡ (2) 上代文学講義BⅠ (2) 上代文学講義BⅡ (2) 中古文学講義AⅠ (2) 中古文学講義AⅡ (2) 中古文学講義BⅠ (2) 中古文学講義BⅡ (2) 中古文学講義CⅠ (2) 中古文学講義CⅡ (2) 中世文学講義AⅠ (2) 中世文学講義AⅡ (2) 中世文学講義BⅠ (2) 中世文学講義BⅡ (2) 中世文学講義CⅠ (2) 中世文学講義CⅡ (2) 近世文学講義AⅠ (2) 近世文学講義AⅡ (2) 近代文学講義AⅠ (2) 近代文学講義AⅡ (2) 近代文学講義BⅠ (2) 近代文学講義BⅡ (2) 近代文学講義CⅠ (2) 近代文学講義CⅡ (2) 近代文学講義DⅠ (2) 近代文学講義DⅡ (2) (▽23 上代文学演習A (4)) (▽23 上代文学講義A (4)) (▽23 中古文学演習A (4)) (▽23 上代文学講義B (4)) (▽23 中古文学演習B (4)) (▽23 中古文学講義A (4)) (▽23 中古文学演習C (4)) (▽23 中古文学講義B (4)) (▽23 中世文学演習A (4)) (▽23 中古文学講義C (4)) (▽23 中世文学演習B (4)) (▽23 中世文学講義A (4)) (▽23 近世文学演習A (4)) (▽23 中世文学講義B (4)) (▽23 近世文学演習B (4)) (▽23 中世文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習A (4)) (▽23 近世文学講義A (4)) (▽23 近代文学演習B (4)) (▽23 近代文学講義A (4)) (▽23 近代文学演習C (4)) (▽23 近代文学講義B (4)) (▽23 近代文学演習D (4)) (▽23 近代文学講義C (4)) (▽23 近代文学演習E (4)) (▽23 近代文学講義D (4)) (▽23 近代文学演習F (4)) (▽23 近代文学演習G (4))	12	12

漢文学	書道（書写を中心とする。）	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎基礎演習（漢文）A (1)				
				漢文学講義Ⅰ (2)	中国文学講義Ⅰ (2)	1	1	
				漢文学講義Ⅱ (2)	中国文学講義Ⅱ (2)			
				〔▽23 漢文学講義 (4)〕	〔▽23 中国文学講義 (4)〕			
				◎書道 (1)				
				〔▽22 ◎書道Ⅰ (2)〕				
				書道Ⅱ (2)				
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎国語科教育法特講A (2)	◎国語科教育法ⅠA (2)	10	10	
				◎国語科教育法特講B (2)	◎国語科教育法ⅠB (2)			
					◎国語科教育法Ⅱ (2)			
合 計	28	24		本学が定める最低修得単位数			32	31

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

◎：教職課程履修者必修科目

—（下線）：一般的包括的な内容を含む科目

履修上の注意事項

- 1) 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 2) 「教科に関する専門的事項」において、高等学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 3) 「国語学」においては「国語学概論」又は「国語学概論Ⅰ・Ⅱ」及び「国語国文学特講（表現学）」又は「国語国文学特講（表現学）Ⅰ・Ⅱ」（合計8単位）が教職課程上の必修科目となります。
- 4) 「国文学」においては「文学史（上代・中古）」又は「文学史（上代・中古）Ⅰ・Ⅱ」、「文学史（中世・近世）」又は「文学史（中世・近世）Ⅰ・Ⅱ」及び「文学史（近代）」又は「文学史（近代）Ⅰ・Ⅱ」（合計12単位：12単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。）が教職課程上の必修科目となります。
- 5) 中学校教諭免許状取得のために必要な「書道（書写を中心とする。）」は、高等学校教諭免許状取得のために必要な科目として含めることはできません。
- 6) 「国語科教育法Ⅱ」は「国語科教育法ⅠA」及び「国語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 7) 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

① 教科及び教科の指導法に関する科目：フランス語

認定を受けた学科：フランス語フランス文学科

2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 ()内の数字は単位数								
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目				最低修得単位数			
		中学	高校					中学	高校		
教科に関する専門的事項	仏語学	28	24	◎フランス語発展読解Ⅱ (2) フランス語上級演習ⅠA (2) フランス語上級演習ⅡA (2) フランス語上級演習ⅠB (2) フランス語上級演習ⅡB (2)				2	選択科目から	2	選択科目から
	仏語文学			◎フランス文学概論 (2) フランス文学歴史研究A (2) フランス文学歴史研究B (2)				2	6	2	6
	仏語コミュニケーション			◎フランス語発展総合ⅡA (2) ◎フランス語発展総合ⅡB (2) フランス語実践研究A (2) フランス語実践研究B (2)				4	単位以上	4	単位以上
	異文化理解			◎フランス語圏文化概論Ⅰ (2) ◎フランス語圏文化概論Ⅱ (2) フランス社会文化研究A (2) フランス芸術文化研究A (2) フランス社会文化研究B (2) フランス芸術文化研究B (2) フランス社会文化研究C (2) フランス芸術文化研究C (2) フランス社会文化研究D (2) フランス芸術文化研究D (2)				4	修得	4	修得
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8 単位以上	4 単位以上	◎仏語科教育法ⅠA (2) ◎仏語科教育法特講A (2) ◎仏語科教育法ⅠB (2) ◎仏語科教育法特講B (2) ◎仏語科教育法Ⅱ (2)				10		10	
合計		28	24	本学が定める最低修得単位数				28		28	

◎：教職課程履修者必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください。

*2 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください(法定上は2単位以上で良いが、中高の両免許状を取得することを前提に6単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「仏語コミュニケーション」においては「フランス語発展総合ⅡA」及び「フランス語発展総合ⅡB」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「異文化理解」においては「フランス語圏文化概論Ⅰ」及び「フランス語圏文化概論Ⅱ」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「仏語科教育法Ⅱ」は「仏語科教育法ⅠA」及び「仏語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2022・2023 年度入学用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		
		中学	高校		中学	高校	
教科に関する専門的事項	仏語学	28	24	◎フランス語発展読解Ⅱ (2) フランス語上級演習ⅠA (2) フランス語上級演習ⅡA (2) フランス語上級演習ⅠB (2) フランス語上級演習ⅡB (2)	2	2	
	仏語文学			◎フランス文学概論 (2) フランス文学歴史研究A (2) フランス文学歴史研究B (2)	2	2	
	仏語コミュニケーション			◎フランス語発展総合ⅡA (2) ◎フランス語発展総合ⅡB (2) フランス語実践研究A (2) フランス語実践研究B (2)	4	4	
	異文化理解			◎フランス語圏文化概論Ⅰ (2) ◎フランス語圏文化概論Ⅱ (2) (▽23◎フランス語圏文化概論 (4)) フランス社会文化研究A (2) フランス芸術文化研究A (2) フランス社会文化研究B (2) フランス芸術文化研究B (2) フランス社会文化研究C (2) フランス芸術文化研究C (2) フランス社会文化研究D (2) フランス芸術文化研究D (2)	4	4	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8 単位以上	4 単位以上	◎仏語科教育法ⅠA (2) ◎仏語科教育法特講A (2) ◎仏語科教育法ⅠB (2) ◎仏語科教育法特講B (2) ◎仏語科教育法Ⅱ (2)	10	10	
合計		28	24	本学が定める最低修得単位数		28	28

◎：教職課程履修者必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください。

*2 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください(法定上は2単位以上で良いが、中高の両免許状を取得することを前提に6単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「仏語コミュニケーション」においては「フランス語発展総合ⅡA」及び「フランス語発展総合ⅡB」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「異文化理解」においては「フランス語圏文化概論」又は「フランス語圏文化概論Ⅰ」及び「フランス語圏文化概論Ⅱ」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「仏語科教育法Ⅱ」は「仏語科教育法ⅠA」及び「仏語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2019・2020・2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数										
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数								
		中学	高校		中学	高校							
教科に関する専門的事項	仏語学	28	24	◎フランス語発展読解Ⅱ (2)	2	2	フランス語上級演習ⅠA (2)	フランス語上級演習ⅡA (2)	選択科目から6単位以上修得*1	フランス語上級演習ⅡB (2)	選択科目から6単位以上修得*2		
	仏語文学			◎フランス文学概論 (2)			2	2		フランス文学歴史研究A (2)		フランス文学歴史研究B (2)	
	仏語コミュニケーション			◎フランス語発展総合ⅡA (2)			4	4		◎フランス語発展総合ⅡB (2)		フランス語実践研究A (2)	フランス語実践研究B (2)
	異文化理解			◎フランス語圏文化概論Ⅰ (2)						4		4	◎フランス語圏文化概論Ⅱ (2)
◎仏語科教育法ⅠA (2)	◎仏語科教育法特講A (2)	10	10	◎仏語科教育法ⅠB (2)	◎仏語科教育法特講B (2)	◎仏語科教育法Ⅱ (2)							
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				8単位以上	4単位以上								
合計	28			24	本学が定める最低修得単位数		28	28					

◎：教職課程履修者必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください。

*2 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください(法定上は2単位以上で良いが、中高の両免許状を取得することを前提に6単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「仏語コミュニケーション」においては「フランス語発展総合ⅡA」及び「フランス語発展総合ⅡB」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「異文化理解」においては「フランス語圏文化概論」又は「フランス語圏文化概論Ⅰ」及び「フランス語圏文化概論Ⅱ」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「仏語科教育法Ⅱ」は「仏語科教育法ⅠA」及び「仏語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

① 教科及び教科の指導法に関する科目：英語

認定を受けた学科：英語英文学科

2022・2023・2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数								
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数							
		中学	高校		中学	高校						
教科に関する専門的事項	英語学	28	24	○英語学概論Ⅰ (2)	○：1科目以上選択必修 履修上の注意事項 ²⁾ 参照	2	選択科目から選択必修科目として履修した科目を除き8単位以上修得 ^{*1}	2	選択科目から選択必修科目として履修した科目を除き8単位以上修得 ^{*2}			
	○英語学概論Ⅱ (2)			英語教師のための英文法Ⅰ (2)						英語教師のための英文法Ⅱ (2)		
	英語文学			◎英語圏文学 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2)					イギリス文学史A (2)	2	2
	アメリカ文学史Ⅱ (2)			イギリス文学史B (2)								
英語コミュニケーション	◎ライティングⅠ (1)	ライティングⅢ (1)	4	4								
◎ライティングⅡ (1)	ライティングⅣ (1)											
◎オーラル・コミュニケーションⅠ (1)	プレゼンテーションⅠ (1)											
◎オーラル・コミュニケーションⅡ (1)	プレゼンテーションⅡ (1)											
異文化理解	◎異文化理解 (2)	2	2	アメリカ文化概論Ⅰ (2)	イギリス文化史Ⅰ (2)	2	2					
アメリカ文化概論Ⅱ (2)	イギリス文化史Ⅱ (2)											
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8単位以上	4単位以上	◎英語科教育法特講A (2)	◎英語科教育法ⅠA (2)	10	10						
		◎英語科教育法特講B (2)	◎英語科教育法ⅠB (2)									
			◎英語科教育法Ⅱ (2)									
合計		28	24	本学が定める最低修得単位数		28	28					

◎：教職課程履修者必修科目

○：教職課程履修者選択必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き8単位以上修得してください。

*2 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き8単位以上修得してください(法定上は4単位以上が良いが、中高の両免許状を取得することを前提に8単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「英語学」においては「英語学概論Ⅰ」又は「英語学概論Ⅱ」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「英語コミュニケーション」においては「ライティングⅠ」「ライティングⅡ」「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「オーラル・コミュニケーションⅡ」の単位をすべて修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「英語科教育法Ⅱ」は「英語科教育法ⅠA」及び「英語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数										
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数								
		中学	高校		中学	高校							
教科に関する専門的事項	英語学	28	24	○英語学概論Ⅰ (2)	○: 1科目以上選択必修 履修上の注意事項 ²⁾ 参照	2	選択科目から選択必修科目として履修した科目を除き8単位以上修得 *1	2	選択科目から選択必修科目として履修した科目を除き8単位以上修得 *2				
				○英語学概論Ⅱ (2)						英語教師のための英文法Ⅰ (2)	英語教師のための英文法Ⅱ (2)		
	英語文学			◎英語圏文学 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2)					イギリス文学史A (2)	アメリカ文学史Ⅱ (2)	イギリス文学史B (2)	2
	英語コミュニケーション			◎ライティングⅠ (1)	ライティングⅢ (1)					◎ライティングⅡ (1)	ライティングⅣ (1)	◎オーラル・コミュニケーションⅠ (1)	プレゼンテーションⅠ (1)
異文化理解			◎異文化理解 (2)	アメリカ文化概論Ⅰ (2)	イギリス文化史Ⅰ (2)	アメリカ文化概論Ⅱ (2)	イギリス文化史Ⅱ (2)	2					
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	8単位以上	4単位以上	◎英語科教育法特講A (2)	◎英語科教育法ⅠA (2)	◎英語科教育法ⅠB (2)	◎英語科教育法Ⅱ (2)	10	10					
合計		28	24	本学が定める最低修得単位数		28	28						

◎: 教職課程履修者必修科目

○: 教職課程履修者選択必修科目

— (下線): 一般的包括的な内容を含む科目

*1 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き8単位以上修得してください。

*2 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き8単位以上修得してください(法定上は4単位以上が良いが、中高の両免許状を取得することを前提に8単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「英語学」においては「英語学概論Ⅰ」又は「英語学概論Ⅱ」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「英語コミュニケーション」においては「ライティングⅠ」「ライティングⅡ」「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「オーラル・コミュニケーションⅡ」の単位をすべて修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「英語科教育法Ⅱ」は「英語科教育法ⅠA」及び「英語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

2019・2020 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 () 内の数字は単位数					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数			
		中学	高校		中学	高校		
教科に関する専門的事項	英語学	28	24	○英語学概論Ⅰ (2)	○：1科目以上選択必修 履修上の注意事項 ²⁾ 参照	2	2	
	○英語学概論Ⅱ (2)			英語教師のための英文法Ⅰ (2)				英語教師のための英文法Ⅱ (2)
	英語文学			◎英語圏文学 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2)	イギリス文学史A (2)	2	2
	○ライティングⅠ (1)			ライティングⅢ (1)	○ライティングⅡ (1)	ライティングⅣ (1)	4	4
◎オーラル・コミュニケーションⅠ (1)	オーラル・コミュニケーションⅢ (1)	◎オーラル・コミュニケーションⅡ (1)	オーラル・コミュニケーションⅣ (1)					
プレゼンテーションⅠ (1)	プレゼンテーションⅡ (1)	◎異文化理解 (2)	アメリカ文化概論Ⅰ (2)	イギリス文化史Ⅰ (2)	2	2		
アメリカ文化概論Ⅱ (2)	イギリス文化史Ⅱ (2)							
異文化理解	◎英語科教育法特講A (2)	◎英語科教育法ⅠA (2)	◎英語科教育法ⅠB (2)	◎英語科教育法Ⅱ (2)	10	10		
◎英語科教育法特講B (2)								
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	8単位以上	4単位以上	◎英語科教育法Ⅱ (2)					
合計	28	24	本学が定める最低修得単位数		28	28		

◎：教職課程履修者必修科目

○：教職課程履修者選択必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き8単位以上修得してください。

*2 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き8単位以上修得してください(法定上は4単位以上で良いが、中高の両免許状を取得することを前提に8単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「英語学」においては「英語学概論Ⅰ」又は「英語学概論Ⅱ」の単位を修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「英語コミュニケーション」においては「ライティングⅠ」「ライティングⅡ」「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「オーラル・コミュニケーションⅡ」の単位をすべて修得することで「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「英語科教育法Ⅱ」は「英語科教育法ⅠA」及び「英語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2022・2023・2024 年度入学者用

■ 教育の基礎的理解に関する科目等のカリキュラム（「各教科の指導法」を含む）

（ ）内の数字は単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
本 学 に お け る 開 設 授 業 科 目 等	教職論（中・高）（2） 教育心理学（中・高）（2） 特別支援教育概論（中・高）（2）	教育原理（中・高）（2） 教育の制度と経営（中・高）（2） 総合的な学習・探究 の時間の指導法（中・高）（2） 教育方法（ICT 活用の理論と 実践を含む。）（中・高）（2）	教育課程論（中・高）（2） 道徳教育（中）（2） 特別活動（中・高）（2） 生徒指導・進路指導（中・高）（2） 教育相談（中・高）（2）	教育実習 A（中・高）*1（5） （教育実習 B（中・高）*1（3）） 教職実践演習（中・高）（2）
		{各教科の指導法} 国語科教育法特講 A *2（2） 国語科教育法特講 B *2（2） 英語科教育法特講 A *2（2） 英語科教育法特講 B *2（2）	{各教科の指導法} 国語科教育法 I A *2（2） 国語科教育法 I B *2（2） 仏語科教育法 I A *2（2） 仏語科教育法 I B *2（2） 英語科教育法 I A *2（2） 英語科教育法 I B *2（2）	{各教科の指導法} 国語科教育法 II（2） 仏語科教育法 II（2） 仏語科教育法特講 A *2（2） 仏語科教育法特講 B *2（2） 英語科教育法 II（2）

*1 中高の両免許状を併せて取得するため、「教育実習 A（中・高）」（5 単位）を履修します。

*2 「各学科の専門科目」として開講されています。

履修上の注意事項

- 1) 教育の基礎的理解に関する科目等は、特別な場合（学科の必修科目等と重複し、曜日・時限を変更することができない場合など）を除き、原則として指定された年次に履修してください。
- 2) 各教科の指導法は、当該免許教科によって「教育法特講 A」「教育法特講 B」「教育法 I A」「教育法 I B」及び「教育法 II」が必修となります。特別な場合を除き、必ず指定された年次に履修してください。
- 3) 「各教科の指導法 II」は「各教科の指導法 I A」及び「各教科の指導法 I B」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
詳細については『9. 2)「国語科教育法 II」「仏語科教育法 II」「英語科教育法 II」について』を参照してください。
- 4) 「教科に関する専門的事項」のカリキュラムは、各学科のカリキュラムを参照してください。

■ 教育の基礎的理解に関する科目等

2023・2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが 必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する 開設授業科目	最低修得単位数			対象 学年
		中一種	高一種		中一種	高一種		
						必修	必修	
教育の基礎的理解 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	教育原理（中・高）	2	2		2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職論（中・高）	2	2		1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育の制度と経営（中・高）	2	2		2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学（中・高）	2	2		1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育概論（中・高）	2	2		1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論（中・高）	2	2		3
道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	道徳の理論及び指導法	10	8	道徳教育（中）	2			3
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習・探究 の時間の指導法（中・高）	2			2
	総合的な探求の時間の指導法					2		
	特別活動の指導法			特別活動（中・高）	2	2		3
	教育の方法及び技術			教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）（中・高） *1	2	2		2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			*1				
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導・進路指導（中・高） *2	2	2		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談（中・高）	2	2		3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			*2				
教育実践に関する 科目	教育実習	5	3	教育実習A（中・高） *3	5	5		4
				教育実習B（中・高） *3			3	4
	教職実践演習			2	2	教職実践演習（中・高） *4	2	2
合 計		27	23	本学が定める最低修得単位数	31	29		

*1 「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）（中・高）」に「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項を1単位含みます。

*2 「生徒指導・進路指導（中・高）」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*3 「教育実習A（中・高）」及び「教育実習B（中・高）」には、事前及び事後の指導を1単位含みます。

*4 「教職実践演習（中・高）」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

※ 高等学校教諭一種免許状取得のために本学が定める最低修得単位数は29単位となります（「教育実習A（中・高）」（5単位）を履修）。ただし、本学においては、中学校教諭一種免許及び高等学校教諭一種免許の両免許状を併せて取得するよう指導していますので、中学校教諭免許状取得のために必要な最低修得単位数（31単位）を修得してください。

2022 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが 必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数			対象 学年
		中一種	高一種		中一種	高一種		
						必修	必修	
教育の基礎的理解 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び 思想	10	10	教育原理（中・高）	2	2		2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チ ーム学校運営への対応を含む。）			教職論（中・高）	2	2		1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的 事項（学校と地域との連携及び学校安全 への対応を含む。）			教育の制度と経営（中・高）	2	2		2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学 習の過程			教育心理学（中・高）	2	2		1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び 生徒に対する理解			特別支援教育概論（中・高）	2	2		1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキ ュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論（中・高）	2	2		3
道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関する 科目	道徳の理論及び指導法	10	8	道徳教育（中）	2	/		3
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習・探究 の時間の指導法（中・高）	2	2		2
	特別活動の指導法			特別活動（中・高）	2	2		3
	教育の方法及び技術			教育方法（ICT 活用の理論と 実践を含む。）（中・高） *1	2	2		2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び 方法			*1				
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導・進路指導（中・高） *2	2	2		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎 的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談（中・高）	2	2		3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方 法			*2				
教育実践に関する 科目	教育実習	5	3	教育実習 A（中・高） *3	5	5		4
				教育実習 B（中・高） *3			3	4
	教職実践演習	2	2	教職実践演習（中・高） *4	2	2		4
合 計		27	23	本学が定める最低修得単位数	31	29		/

*1 「教育方法（ICT 活用の理論と実践を含む。）（中・高）」に「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項を 1 単位含みます。

*2 「生徒指導・進路指導（中・高）」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*3 「教育実習 A（中・高）」及び「教育実習 B（中・高）」には、事前及び事後の指導を 1 単位含みます。

*4 「教職実践演習（中・高）」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

※ 高等学校教諭一種免許状取得のために本学が定める最低修得単位数は 29 単位となります（「教育実習 A（中・高）」（5 単位）を履修）。ただし、本学においては、中学校教諭一種免許及び高等学校教諭一種免許の両免許状を併せて取得するよう指導していますので、中学校教諭免許状取得のために必要な最低修得単位数（31 単位）を修得してください。

■ 教育の基礎的理解に関する科目等のカリキュラム（「各教科の指導法」を含む）

（ ）内の数字は単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
本学における開設授業科目等	教職論（中・高）（2） 教育心理学（中・高）（2） 特別支援教育概論（中・高）（2）	教育原理（中・高）（2） 教育の制度と経営（中・高）（2） 総合的な学習・探究の時間の指導法（中・高）（2） 教育方法（中・高）（2）	教育課程論（中・高）（2） 道徳教育（中）（2） 特別活動（中・高）（2） 生徒指導・進路指導（中・高）（2） 教育相談（中・高）（2）	教育実習 A（中・高）*1（5） （教育実習 B（中・高）*1（3）） 教職実践演習（中・高）（2）
		（各教科の指導法） 国語科教育法特講 A *2（2） 国語科教育法特講 B *2（2） 英語科教育法特講 A *2（2） 英語科教育法特講 B *2（2）	（各教科の指導法） 国語科教育法 I A *2（2） 国語科教育法 I B *2（2） 仏語科教育法 I A *2（2） 仏語科教育法 I B *2（2） 英語科教育法 I A *2（2） 英語科教育法 I B *2（2）	（各教科の指導法） 国語科教育法 II（2） 仏語科教育法 II（2） 仏語科教育法特講 A *2（2） 仏語科教育法特講 B *2（2） 英語科教育法 II（2）

*1 中高の両免許状を併せて取得するため、「教育実習 A（中・高）」（5 単位）を履修します。

*2 「各学科の専門科目」として開講されています。

履修上の注意事項

- 1) 教育の基礎的理解に関する科目等は、特別な場合（学科の必修科目等と重複し、曜日・時限を変更することができない場合など）を除き、原則として指定された年次に履修してください。
- 2) 各教科の指導法は、当該免許教科によって「教育法特講 A」「教育法特講 B」「教育法 I A」「教育法 I B」及び「教育法 II」が必修となります。特別な場合を除き、必ず指定された年次に履修してください。
- 3) 「各教科の指導法 II」は「各教科の指導法 I A」及び「各教科の指導法 I B」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
詳細については『9. 2)「国語科教育法 II」「仏語科教育法 II」「英語科教育法 II」について』を参照してください。
- 4) 「教科に関する専門的事項」のカリキュラムは、各学科のカリキュラムを参照してください。
- 5) 卒業までに「教育方法（中・高）」を履修できなかった場合は、2022 年度以降入学者用の免許法施行規則が適用されます。

■ 教育の基礎的理解に関する科目等

2019・2020・2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが 必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数			対象 学年
		中一種	高一種		中一種	高一種		
					必修	必修	選択	
教育の基礎的理解 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び 思想	10	10	教育原理（中・高）	2	2		2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チ ーム学校運営への対応を含む。）			教職論（中・高）	2	2		1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的 事項（学校と地域との連携及び学校安全 への対応を含む。）			教育の制度と経営（中・高）	2	2		2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学 習の過程			教育心理学（中・高）	2	2		1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び 生徒に対する理解			特別支援教育概論（中・高）	2	2		1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキ ュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論（中・高）	2	2		3
道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	道徳の理論及び指導法	10	8	道徳教育（中）	2			3
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習・探究 の時間の指導法（中・高）	2	2		2
	特別活動の指導法			特別活動（中・高）	2	2		3
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材 の活用を含む。）			教育方法（中・高）	2	2		2
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導・進路指導（中・高）*1	2	2		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎 的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談（中・高）	2	2		3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方 法			*1				
教育実践に関する 科目	教育実習	5	3	教育実習A（中・高）*2	5	5		4
				教育実習B（中・高）*2			3	4
	教職実践演習	2	2	教職実践演習（中・高）*3	2	2		4
合 計		27	23	本学が定める最低修得単位数	31	29		

*1 「生徒指導・進路指導（中・高）」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*2 「教育実習A（中・高）」及び「教育実習B（中・高）」には、事前及び事後の指導を1単位含みます。

*3 「教職実践演習（中・高）」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

※ 高等学校教諭一種免許状取得のために本学が定める最低修得単位数は29単位となります（「教育実習A（中・高）」（5単位）を履修）。ただし、本学においては、中学校教諭一種免許及び高等学校教諭一種免許の両免許状を併せて取得するよう指導していますので、中学校教諭免許状取得のために必要な最低修得単位数（31単位）を修得してください。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて法定単位数以上を修得してください。

■ 大学が独自に設定する科目

2019・2020・2021・2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目区分	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数				対象学年
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状		中学校教諭 一種免許状		高等学校教諭 一種免許状		
				必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	4	12	道徳教育（中）				2	3
			教育体験Ⅰ（中・高）		2		2	1-4
			教育体験Ⅱ（中・高）		2		2	1-4
合計	4	12	本学が定める最低修得単位数	—		2*		

* 「道徳教育（中）」の2単位を示します。

※中学校教諭一種免許状を取得する場合の具体的な単位の修得方法

本学の場合は、「教育の基礎的理解に関する科目等」において、本学が定める最低修得単位数を修得することにより、免許法施行規則に定める「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（4単位）を満たすことになります。よって、必要に応じて各科目区分の選択科目を履修してください。

※高等学校教諭一種免許状を取得する場合の具体的な単位の修得方法（中学校教諭一種免許状も取得することを前提）

本学の場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」（「道徳教育（中）」は中学校教諭一種免許状を取得するための必修科目）において、本学が定める最低修得単位数を修得することにより、免許法施行規則に定める「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（12単位）を満たすことになります。よって、必要に応じて各科目区分の選択科目を履修してください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等				
科目区分	最低修得単位数 (中高共通)	左記に対応する開設授業科目等	本学における 科目区分	最低修得単位数 (中高共通)		備考
				必修	選択 必修	
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2		
体育	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ フランス語AⅠ フランス語AⅡ フランス語AⅢ フランス語AⅣ ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ 中国語AⅠ 中国語AⅡ 中国語AⅢ 中国語AⅣ 韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	はじめてのデータサイエンス	共通科目	2		

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位数や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位数等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。

2022・2023 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等							
科目区分	最低修得単位数 (中高共通)	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数 (中高共通)		備考			
				必修	選択必修				
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2					
体育	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修			
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修			
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 2				
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1				
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 2				
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1				
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2				
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2				
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2		

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。
- TOEICの点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。

2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等							
科目区分	最低修得 単位数 (中高共通)	左記に対応する開設授業科目等	本学における 科目区分	最低修得単位数 (中高共通)		備考			
				必修	選択 必修				
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2					
体育 *1	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D ▽21 身体運動の科学	共通科目	1 3	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修			
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修			
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2				
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1				
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 1 2				
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1				
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2				
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2				
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2		

▽以前開講科目(最終開講年度を西暦下2桁で表示)

*1: 「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数(2単位)を満たしてください。2021年度に「身体運動の科学」の単位を修得した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。(「身体運動の科学」を既に履修した場合は、「スポーツ科学概論」を履修することはできません。)

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- TOEICの点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修(夏期・春期)による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数(2単位)は本学で修得してください(他の科目区分も同様)。

2019・2020 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等				
科目区分	最低修得単位数 (中高共通)	左記に対応する開設授業科目等	本学における 科目区分	最低修得単位数 (中高共通)		備考
				必修	選択 必修	
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2		
体育 *1	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D ▽21 身体運動の科学	共通科目	1 3	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 2	
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1	
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 2	
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1	
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2	
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 2	
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ オーラル・コミュニケーションⅢ オーラル・コミュニケーションⅣ	英語英文学科専門科目		1 1 1 1	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目	2		

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

*1：「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。2021年度までに「身体運動の科学」の単位を修得した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。（「身体運動の科学」を既に履修した場合は、「スポーツ科学概論」を履修することはできません。）

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- TOEICの点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。

⑤ 介護等体験

■介護等体験とは

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）」により、1998（平成10）年度以降に入学した者が、小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする場合は、7日間（原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等の体験を行う必要があります。本学では原則として2年次に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の体験を実施しています。介護等体験を行うにあたっては、介護等体験実施の前年度（1年次）に行われる「次年度介護等体験実施予定者説明会」（12月を予定）に出席し、体験実施年度（2年次）に行われる「介護等体験の事前事後指導」（4回程度を予定）に必ず出席してください。

なお、介護等体験の実施にあたっては、体験実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。詳細は上記の説明会でお知らせします。

*本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、体験先から体験実施年度の証明書を求められた場合は、体験先の指示に従ってください。

※介護等体験が免除される者

以下の該当する者は介護等体験が免除されます（希望があれば体験することは可能）。

ア) 保健師、助産師、看護師、准看護師、特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者。

イ) 身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるものとして記載されている者。

■介護等体験費

介護等体験を行うためには、介護等体験費が必要となります。その他に、腸内細菌検査費・交通費・食事代・証明書発行手数料等の実費が必要となる場合がありますが、それらの費用は自己負担となります。

なお、一旦納入された費用は、いかなる理由があっても返還することはできません（納入時期・納入金額等は2023年度の実績）。

納入時期： 介護等体験実施前年度 1月（原則1年次）

納入金額： 15,000円

納入方法： 証明書発行機(11号館2階)にて期限内に納入

6. 教育実習

教育実習は「実習校での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。

なお、中学校教諭免許と高等学校教諭免許では、免許状取得に必要な教育実習の単位数が異なります。本学においては、中学校教諭と高等学校教諭の両免許状を取得できるよう、中学校又は高等学校において3～4週間（15日以上）の実習を行い、5単位を修得してください。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けていただきます。

*本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

免許状の種類	免許状取得に必要な実習期間	免許状取得に必要な授業科目及び単位数	備考
中学校教諭免許状 及び 高等学校教諭免許状	3～4週間 (15日以上)	「教育実習A（中・高）」 (5単位)	実習事前指導 4月～5月 実習校実習 主に5月～9月（実習校による） 実習事後指導 7月～11月

注：本学では中学校教諭免許状と高等学校教諭免許状の両免許状を併せて取得することとしているので、「教育実習A（中・高）」（5単位）を履修することで、両免許状取得に必要な単位数を満たすことができます。

【実習実施条件】

- ① 教育実習事前指導にすべて出席していること。
- ② 中等教職課程に関するガイダンスに出席し、諸手続きをすべて行っていること。なお、やむを得ない理由により欠席（又は提出遅延）する場合は、事前に教務課（資格担当）に届け出ること。
- ③ 教育実習を実施する資質・能力が備わっていること（当該学科により判断）。
- ④ 以下に指定する授業科目を履修済であること。

国語国文学科	「国語科教育法特講A」「国語科教育法特講B」 「国語科教育法ⅠA」「国語科教育法ⅠB」「国語科教育法Ⅱ」
フランス語フランス文学科	「仏語科教育法ⅠA」「仏語科教育法ⅠB」「仏語科教育法Ⅱ」
英語英文学科	「英語科教育法特講A」「英語科教育法特講B」 「英語科教育法ⅠA」「英語科教育法ⅠB」「英語科教育法Ⅱ」

「各教科の教育法ⅠA」及び「各教科の教育法ⅠB」の単位を修得できなかった場合は、「各教科の教育法Ⅱ」を受講することはできません。ただし、学則に定める留学をした場合は、履修順序が変わることがあります。

「各教科の教育法Ⅱ」の詳細は、「9. 2）「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」について」を参照してください。

- ⑤ 原則として、3年次（教育実習実施の前年度）までに、4年次必修科目を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位をすべて修得済であること。

7. 教職実践演習（中・高）

「教職実践演習（中・高）」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、原則として、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

- ① 教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態であること。
- ② 既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）に入力済であること。

8. 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

9. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

「国語科教育法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」、「仏語科教育法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」、「英語科教育法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」、「教育実習A（中・高）」「教職実践演習（中・高）」

については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。授業履修すべき科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

4) その他の授業科目の登録

2)～3)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

5) 「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」

次年度に教育実習を行う学生（主に学部3年生）を対象とし、2月後半（5日間程度）に集中で行われる予定です。日程等の詳細につきましては、担当教員の指示に従ってください。なお、この授業科目の履修登録及び評価は次年度（主に学部4年生）に行います。

6) 「教育体験Ⅰ（中・高）」「教育体験Ⅱ（中・高）」

「教育体験Ⅰ（中・高）」「教育体験Ⅱ（中・高）」は、曜日・時限が定められていません。そのため、この授業科目を履修登録した場合は、各自で考えて時間割を調整する必要があります。詳細は、中等教職課程ガイダンス等で説明します。

7) 中等教職課程科目の履修・登録に関するサポート

中等教職課程科目の履修・登録についての質問は、教務課（11号館2F）へお問い合わせください。

10. 辞退

やむを得ず中等教職課程の履修を辞退する場合は、担当教員と相談のうえ、所定用紙に必要事項を記入し、教務課（資格担当）に提出してください。ただし、教育実習先が既に決まっている場合や、介護等体験の申し込みを行った場合は、自己都合による実習等の辞退は原則として認められませんので、責任をもって実習等を行ってください。

11. 中等教職課程年間予定

年次	時期	内容	備考
1年次	4月	中等教職課程ガイダンス、履修申請	中等教職課程全体の説明等、履修開始
	9月	「学校一体験」（日本カトリック学校連合会）	希望者
	12月	次年度介護等体験実施予定者説明会	介護等体験の概要及び事務手続きについての説明
	1月	介護等体験費納入	期限内に所定の金額を証明書発行機で納入
	3月	中等教職課程履修者決定（国文） 中等教職課程ガイダンス（新2年生）	中等教職課程全体の説明及び登録等
2年次	4月	介護等体験事前指導（全般） 介護等体験事前指導（特別支援学校）	介護等体験全般について 特別支援学校について
	5月	介護等体験日程決定及び体験開始（特別支援学校）	5月から11月頃の2日間（連続とは限らない。）
	6月	介護等体験日程決定（社会福祉施設） 介護等体験事前指導（社会福祉施設）	中旬頃（決定までは8月以降の予定を入れないこと。） 社会福祉施設について
	8月	介護等体験開始（社会福祉施設）	8月から11月頃の5日間（原則、5日間連続）
	9月	「学校一体験」（日本カトリック学校連合会）	希望者
	10月	教職採用試験対策講座の開講（～翌年6月）	キャリア支援課主催（大学3年生前倒し選考準備）
	1月	中等教職課程ガイダンス（2年生）	教育実習校依頼手続き、誓約書提出等について
	2月	教育実習依頼開始	結果や経過等について随時教務課（資格担当）に連絡
	3月	中等教職課程ガイダンス（新3年生） 教員採用候補者選考実施要綱発表（下旬） ^{*1}	履修に関する注意事項、教育実習依頼状況の確認等について 中等教職課程関連授業科目の履修状況確認（各自）
3年次	4月	教員採用候補者選考受験申込（上旬～） ^{*1}	
	7月	教員採用候補者選考（第一次選考） ^{*1}	教職教養、専門教養
	8月	教員採用候補者選考（第一次選考）合格発表 ^{*1}	
	9月	「学校一体験」（日本カトリック学校連合会）	希望者
	10月	教員採用試験対策講座の開講（～翌年6月）	キャリア支援課主催
	11月	東京都等次年度教員採用試験説明会（学内）	キャリア支援課主催
	12月	東京都立学校教育実習受入決定等	
	2月	中等教職課程履修者決定（フ文） 「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」	集中授業（履修登録と評価は4年次）、面談
	3月	中等教職課程ガイダンス（新4年生） 教育実習期間等の確認（未定の学生） 教員採用候補者選考実施要綱発表（下旬） ^{*2}	履修に関する注意事項、教育実習に関する関係書類の配付、教育実習に関する事務手続等について 中等教職課程関連授業科目の履修状況確認（各自） 随時、教務課（資格担当）に連絡
4年次	4月	中等教職課程履修費納入 （教育実習事前指導） 教員採用候補者選考学長推薦学内選考試験 教員採用候補者選考受験申込（上旬～） ^{*2}	期限内に所定の金額を証明書発行機で納入 キャリア支援課主催
	5月	教育実習開始	実習校による
	7月	（教育実習事後指導） 教員採用候補者選考（第一次選考） ^{*2}	7月～（予定）
	8月	教員採用候補者選考（第一次選考）結果発表 ^{*2} 教員採用候補者選考（第二次選考） ^{*2}	
	9月	「学校一体験」（日本カトリック学校連合会） 教員採用候補者選考（第二次選考）結果発表（下旬） ^{*2}	希望者
	11月	教育職員免許状大学一括申請関係手続 免許状交付手数料等納入	宣誓書への署名、本籍地の確認等 期限内に所定の金額を証明書発行機で納入
	3月	教育職員免許状受領	学位授与式当日（各学科経由）

注：本履修要覧作成時の予定であり、変更になる場合があります。変更が生じた場合は、必要に応じて、CAMPUS SQUAREの掲示板等でお知らせします。

特に教員採用候補者選考関係の日程等は、必ず各自で確認してください（教育委員会により異なります。今後、大幅に変更となる可能性があります）。

*1：東京都立学校教員採用候補者選考（大学3年生前倒し選考）の予定

*2：東京都立学校教員採用候補者選考の予定

文学部

司書課程

1. 司書課程について
2. 司書に関する科目
3. 司書課程の履修について

司書課程

1. 司書課程について

1) 概要

司書課程は図書館法に定められた「司書となる資格を得るための課程を履修するコース」です。司書とは、図書館法第4条に規定されている図書館において専門的事務に従事する職員のことをいい、都道府県や市町村の公共図書館等で図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、読書案内等を行う専門的職員です。

2. 司書に関する科目

	図書館法施行規則科目	単位数	本学における開講科目	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2・3・4	2	2
	図書館概論	2	図書館情報学概論 *1	2・3・4	2	2
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2・3・4	2	2
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2・3・4	2	2
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論 *1	2・3・4	2	2
	情報サービス論	2	情報サービス論 *1	2・3・4	2	2
	児童サービス論	2	児童サービス論	3・4	2	2
	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	3・4	2	2
			情報サービス演習Ⅱ	3・4	2	2
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2・3・4	2	2
	情報資源組織論	2	情報資源組織論 *1	2・3・4	2	2
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習(目録)	3・4	2	2
情報資源組織演習(分類)			3・4	2	2	
選択必修 (2科目のみ履修可) *2	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	3・4	2	4 (5) *4
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論(学校) *3	3・4	2	
	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論	2・3・4	2	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	2・3・4	2	
	図書館施設論	1	図書館施設論	2・3・4	2	
	図書館総合演習	1	図書館総合演習	3・4	2	
	図書館実習	1	図書館実習	3・4	3	
本学における司書課程修了に必要な単位数 合計						30 (31) *4

*1 「図書館情報学概論」「図書館サービス概論」「情報サービス論」「情報資源組織論」は、できるかぎり2年次で履修してください。

*2 選択必修科目は「2科目のみ」履修可能です。3科目以上は履修できません。また、選択必修科目は2024年度以降隔年開講となります（「図書館実習」を除く）。履修希望科目については、開講された年度に先送りすることなく履修してください。

*3 学校司書のモデルカリキュラム履修者は、「図書館サービス特論(学校)」の単位を修得する必要があります。司書課程選択必修として履修可能な2科目のうち1科目として、同科目を必ず含めるようにしてください。また、本科目は2024年度以降隔年開講となります。学校司書のモデルカリキュラムの修了のためには、開講された年度に先送りすることなく必ず履修してください。

*4 選択必修科目として履修可能な2科目のうち1科目として「図書館実習」の単位を修得した場合のみ、修了に必要な単位数が()内の単位数となります。

3. 司書課程の履修について

1) 対象

司書課程は文学部ならびに人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次（編入生の場合は3年次）からのみとなります。

2) 修了要件

必修科目13科目（26単位）と選択必修科目2科目（4単位または5単位）のあわせて15科目（30単位または31単位）修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、図書館法施行規則第9条により卒業時に司書資格証明書が授与されます。

3) 履修登録単位数の上限（加算あり）

司書課程は、履修登録単位数の上限への加算があります。司書課程履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

司書に関する科目は、「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」として卒業の単位に含まれます。

5) 履修開始までの流れ

司書課程の履修開始までの流れは以下のとおりです。

登録説明会への参加

司書課程の履修を希望する学生は、1年次後期実施の登録説明会へ必ず参加してください。

履修申込書の提出 および 履修費の納入

4月の指定期日までに履修申込書の提出と司書課程履修費の納入を行ってください。

履修登録

司書に関する科目は、事前登録申請期間に履修登録してください。

なお、編入生、大学院学生、科目等履修生については、4月の事前登録申請期間終了前日までに、基礎教育センターへ連絡し、指定期日までに履修開始に必要な手続きを行ってください。

6) 履修費

司書課程を履修するには、履修費45,000円（履修初年度4月納入）が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。また、「図書館実習」の履修者は、司書課程履修費とは別に、図書館実習費2,000円（履修年度4月納入）が必要です。

7) 留意事項

司書課程への履修者登録は、卒業時までには課程修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、司書課程に関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

8) 辞退

司書課程の履修を辞退する場合は、基礎教育センターへ辞退届を提出してください。

9) 司書課程に関するサポート

司書課程に関する質問は、基礎教育センター（4号館1F）へお問い合わせください。

文学部

司書教諭課程

1. 司書教諭課程について
2. 司書教諭に関する科目
3. 司書教諭課程の履修について

文学部 司書教諭課程

1. 司書教諭課程について

1) 概要

司書教諭課程は、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するコース」です。司書教諭とは、学校図書館法第5条の規定に基づいて設けられている（小・中・高等）学校図書館において専門職務に従事する教員のことをいいます。本学では、履修資格として「教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）を有する者、または卒業時に教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）取得見込みである者」であることが求められます。

2. 司書教諭に関する科目（文学部）

	学校図書館司書教諭講習規程の科目	単位数	本学における開講科目	対象年次	単位数
必	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	3・4	2
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2・3・4	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2・3・4	2
修	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2・3・4	2
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	3・4	2
本学における司書教諭課程修了に必要な単位数 合計					10

3. 司書教諭課程の履修について

1) 対象

司書教諭課程は中等教職課程履修者が履修できます。履修開始は3年次からとなります。

なお、文学部に所属していても人間総合学部初等教育学科児童教育コースを他学科履修している学生は、「人間総合学部 司書教諭課程」のページを確認してください。

2) 修了要件

必修科目5科目（10単位）を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、学校図書館司書教諭講習規程第6条により修了証書が文部科学省より交付されます。なお、修了証書の交付はすべての単位を修得した年度末から1年後（予定）となります。

3) 履修登録単位数の上限（加算あり）

司書教諭課程は、履修登録単位数の上限への加算があります。司書教諭課程履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

司書教諭に関する科目は、「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」として卒業の単位に含まれます。

5) 履修開始までの流れ

司書教諭課程の履修開始までの流れは以下のとおりです。

履修手続きの確認

中等教職課程ガイダンスにて配布される資料「『司書教諭課程』履修手続き」をよく読んでください。

履修申込フォームの入力・送信 および 履修費の納入

3月末の指定期日までに履修申込フォームの入力・送信を、4月の指定期日までに司書教諭課程履修費の納

入を行ってください。

6) 履修費

司書教諭課程を履修するには、履修費 20,000 円（履修初年度 4 月納入）が必要となります。納入期間・方法等詳細は CAMPUS SQUARE にて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

7) 留意事項

司書教諭課程への履修者登録は、卒業時までには課程修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、司書課程に関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

8) 辞退

司書教諭課程の履修を辞退する場合は、基礎教育センターへ辞退届を提出してください。

9) 司書教諭課程に関するサポート

司書教諭課程に関する質問は、基礎教育センター（4 号館 1 F）へお問い合わせください。

文学部

プログラム等

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

日本語教育副専攻

舞台芸術実践プログラム

グローバルビジネスプログラム

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

児童英語指導者養成プログラム

学校司書のモデルカリキュラム

1. 文学部で学べるプログラム

文学部で学べるプログラムについては、以下のとおりです。

それぞれのプログラムの履修にあたっては、学修上の順序性や系統性が厳格に定められていますので、各自で十分にスケジュールを管理するよう心がけてください。

2. 履修上の注意

- 1) 複数のプログラム（資格を含む。以下、プログラム等）を取得しようとする場合、時間割上で授業が重複すること等により、卒業までに一部又は全部のプログラム等を取得することが困難となる可能性があります。よって、複数のプログラム等の取得を目指す場合は、これらのことに十分留意をしてください。
- 2) プログラムに関わる連絡は、原則として CAMPUS SQUARE の掲示板で行います。掲示は適時確認するようにしてください。掲示を確認しなかったために起こる不利益は本人の責任となります。

①白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム	○	○	○

○=履修可能

②日本語教育副専攻

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
日本語教育副専攻	○	○	○

○=履修可能

③舞台芸術実践プログラム

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
舞台芸術実践プログラム	○	○	○

○=履修可能

④グローバルビジネスプログラム

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
グローバルビジネスプログラム	○	○	○

○=履修可能

⑤ホスピタリティ・マネジメントプログラム

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
ホスピタリティ・マネジメントプログラム	○	○	○

○=履修可能

⑥児童英語指導者養成プログラム

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
児童英語指導者養成プログラム	※	※	○

○=履修可能 ※=小学校教諭免許状取得予定者のみ履修可能

⑦学校司書のモデルカリキュラム

	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
学校司書のモデルカリキュラム	※	※	※

※=司書課程又は教職課程（幼稚園教諭を除く）履修者のみ履修可能

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

1. 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて
2. 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの履修について
3. 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関する科目
4. 情報関連科目

白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

1. 白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、適切に理解し、それを活用する基礎的な能力（リテラシーレベル）を育成することを目的としたプログラムです。近年、コンピュータやネットワーク、スマートフォンの普及と技術革新により、私たちが手にすることができる情報は飛躍的に増大しました。その結果、収集・蓄積された膨大な情報（ビッグデータ）は、人工知能（AI）の技術によって分析・加工され、新しい価値やサービスを生み出し、社会に大きな影響を与えています。AIに関する正しい知識を持ち、それを日常生活や仕事の場で使いこなすための基礎的なリテラシーを習得することを最終目標としています。なお、本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定されています（2028年3月31日まで有効）。



2. 白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部ならびに人間総合学部のすべての学生が履修できます。

2) 修了要件

プログラム必修科目「はじめてのデータサイエンス」の単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、3月中旬以降に本学が発行する学修証明書を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、共通科目として開講しており、修得した単位は共通科目の単位となります。

5) プログラム履修の届出

履修の届出は必要ありません。科目の履修をもってプログラム履修の届出とみなします。

6) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、基礎教育センター（4号館1F）へお問い合わせください。

3. 白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する科目

	開講科目	単位数	対象年次	備考
必修	はじめてのデータサイエンス	2	2024年度入学者 1 2023年度以前入学者 1・2・3・4	AIとデータ活用のための基礎的な知識（統計）とスキルの習得 * 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠した内容です。 * 対応する資格：ビジネス統計検定ベーシック
	プログラム修了に必要な単位数	2		

4. 情報関連科目

	開講科目	単位数	対象年次	備考
情報 関 連 科 目	データ分析演習	2	1・2・3・4	Excelを利用した情報分析 * 対応する資格：MOS Excel (MOS：Microsoft Office Specialist)
	コンピュータ概論	2	1・2・3・4	コンピュータで情報を表現するための基礎：アルゴリズムとデータ構造、論理回路、ハードウェア * 対応する資格：ITパスポート試験、基本情報技術者試験
	ICTベーシック	2	1・2・3・4	Office系ソフトトレーニング
	プログラミングA	2	1・2・3・4	Python入門
	プログラミングB	2	1・2・3・4	Python基礎
	Webデザインとマルチメディア	2	1・2・3・4	Webとマルチメディア実習 (HTML, CSS, JavaScript) * 対応する資格：Webデザイナー検定 (CG-Arts)
	情報ネットワークとセキュリティ	2	1・2・3・4	ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験
	IT実務演習	2	1・2・3・4	ITパスポート試験

※上記は本プログラムの理解をさらに深めるための関連科目群です。

文学部

日本語教育副専攻

1. 日本語教育副専攻について
2. 日本語教育副専攻に関する科目
3. 日本語教育副専攻の履修について

文学部 日本語教育副専攻

1. 日本語教育副専攻について

1) 概要

日本の国内外で日本や日本の文化に興味を持つ人が増えています。本学の日本語教育副専攻は、社会的状況や学生の学びたいという要望に合わせ、1996年に設置された歴史ある養成課程です。これまでに多くの先輩たちが学び、国内外問わずさまざまな形で日本語教育に携わっています。

現在、多くの日本語教育機関では、日本語教員を採用する際に、①大学で主・副専攻の日本語教育課程を修了していること、②日本語教育養成講座420時間を修了していること、③日本語教育能力検定試験に合格していること、のいずれかの条件にあてはまる人材を求めています。

2024年4月からは「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律（令和5年法律第41号）」が施行されることとなり、これを受けて、「登録日本語教員」という国家資格が設けられることとなりました。本学の日本語教育副専攻も文化庁が推奨している教育内容に沿ったカリキュラムを設定しています。

2) 目標

本学の日本語教育副専攻は、日本語を母語としない人たちに日本語を教えるため、日本語に関する知識や日本語を教える技術を修得することを目標とします。ふだん使い慣れている「日本語」を一つの言語という視点から捉え直すとともに、日本語の教え方、異文化理解についても学びを深めます。また、教育実習という実践の機会を設けることで、日本語教員を目指す学生の学びをサポートします。

2. 日本語教育副専攻に関する科目

2024 年度入学者用

領域 *1	区分 *1	本学で開講する科目	科目区分	対象年次	必修	選択必修	選択
社会・文化・地域	社会・文化・地域	日本語教育研究 *4	文国	3	2		
		日本語史Ⅰ	文国	2・3・4		2	
		文化人類学Ⅰ	共通	1・2・3・4			2
		文化人類学Ⅱ	共通	1・2・3・4			2
		日本史概説Ⅰ	共通	1・2・3・4			2
		日本史概説Ⅱ	共通	1・2・3・4			2
		歴史からみた現代	共通	1・2・3・4			2
	言語と社会	国際交流論	文英	1・2・3・4 *6			2
		言語学各論（言語地理学）	文国	2・3 *6	2		
		言語学各論（地域言語文化論）	文国	2・3 *6	2		
		国語学講義（言語と社会）Ⅰ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義（言語と社会）Ⅱ	文国	2・3・4		2	
		国語国文学特講（表現学）Ⅰ	文国	3・4			2
		国語国文学特講（表現学）Ⅱ	文国	3・4			2
		教育	言語と心理	第二言語習得	文国	2・3 *6	2
言語学各論（接触場面研究）	文国			2・3・4		2	
社会・集団・家族心理学	人発			3・4			2
言語と教育	日本語教育教授法Ⅰ *2 *3		文国	2	2		
	日本語教育教授法Ⅱ *2 *3		文国	2	2		
	日本語教育実習 *3 *4		文国	3	1		
	異文化とコミュニケーション		文国	2・3・4		2	
言語	言語	国語学概論Ⅰ	文国	1・2・3 *6	2		
		国語学概論Ⅱ	文国	1・2・3 *6	2		
		国語学特講（現代語文法）Ⅰ *2 *3	文国	2	2		
		国語学特講（現代語文法）Ⅱ *2 *3	文国	2	2		
		言語学概論Ⅰ	文国	2・3・4		2	
		言語学概論Ⅱ	文国	2・3・4		2	
		対照言語学	文国	2・3・4		2	
		日本語史Ⅱ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義 AⅠ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義 AⅡ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義 BⅠ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義 BⅡ	文国	2・3・4		2	
		English for JFL Teachers AⅠ *5	外国	3	1		
		English for JFL Teachers AⅡ *5	外国	3	1		
		English for JFL Teachers BⅠ *5	外国	4	1		
English for JFL Teachers BⅡ *5	外国	4	1				
日本語教育副専攻の修了に必要な単位数					25 (21) *7	10	2
					37 (33) 単位以上 *7		

- *1 本学の日本語教育副専攻カリキュラムは、法務省「日本語教育機関の告示基準」ならびに文化庁により示された日本語教員の養成における「必須の教育内容」に基づき、設定しています。
- *2 「日本語教育教授法Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「日本語教育教授法Ⅱ」の履修はできません。同様に、「国語学特講（現代語文法）Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「国語学特講（現代語文法）Ⅱ」の履修はできません。
- *3 「日本語教育実習」は、「日本語教育教授法Ⅰ」「日本語教育教授法Ⅱ」「国語学特講（現代語文法）Ⅰ」「国語学特講（現代語文法）Ⅱ」のすべての単位を修得していることが履修の条件となります。
- *4 「日本語教育研究」と「日本語教育実習」は同じ年度・学期にあわせて履修しなければなりません。
- *5 「English for JFL Teachers AⅠ」「English for JFL Teachers AⅡ」「English for JFL Teachers BⅠ」「English for JFL Teachers BⅡ」は、国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生にとってのみ必修科目となります。フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生は、履修の必要はありません。
- *6 学科の定める対象年次とは別に、日本語教育副専攻で履修するのに望ましい対象年次を示しています。なお、「国語学概論Ⅰ」「国語学概論Ⅱ」については、国語国文学科の学生は学科の必修科目として1・2年次に、それ以外の学科の学生は2・3年次に履修してください。
- *7 国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生にとって修了に必要な単位数を示しています。（ ）内は、フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生にとって修了に必要な単位数を示しています。

2023 年度入学者用

領域 *1	区分 *1	本学で開講する科目	科目区分	対象年次	必修	選択必修	選択	
社会・文化・地域	社会・文化・地域	日本語教育研究 *4	文国	3	2			
		日本語史Ⅰ	文国	2・3・4		2		
		文化人類学Ⅰ	共通	1・2・3・4			2	
		文化人類学Ⅱ	共通	1・2・3・4			2	
		日本史概説Ⅰ	共通	1・2・3・4			2	
		日本史概説Ⅱ	共通	1・2・3・4			2	
		歴史からみた現代	共通	1・2・3・4			2	
		国際交流論	文英	1・2・3・4 *6			2	
		▽23 日本中世文化史	共通	1・2・3・4			4	
		▽23 日本近代文化史	共通	1・2・3・4			4	
	言語と社会	言語学各論（言語地理学）	文国	2・3 *6	2			
		言語学各論（地域言語文化論）	文国	2・3 *6	2			
		国語学講義（言語と社会）Ⅰ	文国	2・3・4		2		
		国語学講義（言語と社会）Ⅱ	文国	2・3・4		2		
		国語国文学特講（表現学）Ⅰ	文国	3・4			2	
		国語国文学特講（表現学）Ⅱ	文国	3・4			2	
	教育	言語と心理	第二言語習得	文国	2・3 *6	2		
			言語学各論（接触場面研究）	文国	2・3・4		2	
			社会・集団・家族心理学	人発	3・4			2
▽23 現代心理学概論			共通	1・2・3・4			4	
言語と教育		日本語教育教授法Ⅰ *2 *3	文国	2	2			
		日本語教育教授法Ⅱ *2 *3	文国	2	2			
		日本語教育実習 *3 *4	文国	3	1			
		異文化とコミュニケーション	文国	2・3・4		2		
言語	言語	国語学概論Ⅰ	文国	1・2・3 *6	2			
		国語学概論Ⅱ	文国	1・2・3 *6	2			
		国語学特講（現代語文法）Ⅰ *2 *3	文国	2	2			
		国語学特講（現代語文法）Ⅱ *2 *3	文国	2	2			
		言語学概論Ⅰ	文国	2・3・4		2		
		言語学概論Ⅱ	文国	2・3・4		2		
		対照言語学	文国	2・3・4		2		
		日本語史Ⅱ	文国	2・3・4		2		
		国語学講義AⅠ	文国	2・3・4		2		
		国語学講義AⅡ	文国	2・3・4		2		
		国語学講義BⅠ	文国	2・3・4		2		
		国語学講義BⅡ	文国	2・3・4		2		
English for JFL Teachers AⅠ *5	外国	3	1					

	English for JFL Teachers A II	*5	外国	3	1		
	English for JFL Teachers B I	*5	外国	4	1		
	English for JFL Teachers B II	*5	外国	4	1		
日本語教育副専攻の修了に必要な単位数					25 (21) *7	10	2
					37 (33) 単位以上 *7		

▽→日本語教育副専攻として以前開講していた科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

- *1 本学の日本語教育副専攻カリキュラムは、法務省「日本語教育機関の告示基準」ならびに文化庁により示された日本語教員の養成における「必須の教育内容」に基づき、設定しています。
- *2 「日本語教育教授法Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「日本語教育教授法Ⅱ」の履修はできません。同様に、「国語学特講（現代語文法）Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「国語学特講（現代語文法）Ⅱ」の履修はできません。
- *3 「日本語教育実習」は、「日本語教育教授法Ⅰ」「日本語教育教授法Ⅱ」「国語学特講（現代語文法）Ⅰ」「国語学特講（現代語文法）Ⅱ」のすべての単位を修得していることが履修の条件となります。
- *4 「日本語教育研究」と「日本語教育実習」は同じ年度・学期にあわせて履修しなければなりません。
- *5 「English for JFL Teachers AⅠ」「English for JFL Teachers AⅡ」「English for JFL Teachers BⅠ」「English for JFL Teachers BⅡ」は、国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生にとってのみ必修科目となります。フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生は、履修の必要はありません。
- *6 学科の定める対象年次とは別に、日本語教育副専攻で履修するのに望ましい対象年次を示しています。なお、「国語学概論Ⅰ」「国語学概論Ⅱ」については、国語国文学科の学生は学科の必修科目として1・2年次に、それ以外の学科の学生は2・3年次に履修してください。
- *7 国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生にとって修了に必要な単位数を示しています。（ ）内は、フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生にとって修了に必要な単位数を示しています。

2022年度以前入学者用

領域 *1	区分 *1	本学で開講する科目	科目区分	対象年次	必修	選択必修	選択
社会・文化・地域	社会・文化・地域	対照言語学	文国	2・3・4		2	
		日本語史Ⅰ	文国	2・3・4		2	
		文化人類学Ⅰ *8	共通	1・2・3・4			2
		文化人類学Ⅱ *8	共通	1・2・3・4			2
		日本史概説Ⅰ *8	共通	1・2・3・4			2
		日本史概説Ⅱ *8	共通	1・2・3・4			2
		歴史からみた現代 *8	共通	1・2・3・4			2
		国際交流論	文英	1・2・3・4 *5			2
		▽23 日本中世文化史	共通	1・2・3・4			4
		▽23 日本近代文化史	共通	1・2・3・4			4
	言語と社会	国語学講義（言語と社会）Ⅰ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義（言語と社会）Ⅱ	文国	2・3・4		2	
		言語学各論（言語地理学）	文国	2・3・4		2	
		言語学各論（地域言語文化論）	文国	2・3・4		2	
		国語国文学特講（表現学）Ⅰ （▽23 国語国文学特講（表現学）（4））	文国	3・4			2
		国語国文学特講（表現学）Ⅱ （▽23 国語国文学特講（表現学）（4））	文国	3・4			2
		▽23 社会言語学	文英	2・3・4			2
		▽23 コミュニケーション概論Ⅰ	文英	2・3・4			2
		▽23 コミュニケーション概論Ⅱ	文英	2・3・4			2
	教育	言語と心理	第二言語習得	文国	2・3 *5	2	
言語学各論（接触場面研究）			文国	2・3・4		2	
社会・集団・家族心理学			人発	3・4			2
▽23 現代心理学概論			共通	1・2・3・4			4
言語と教育		日本語教育教授法Ⅰ *2 （▽23 日本語教育教授法（4））	文国	2	2		
		日本語教育教授法Ⅱ *2 （▽23 日本語教育教授法（4））	文国	2	2		
		日本語教育研究 *3	文国	3	2		
		日本語教育実習 *2 *3	文国	3	1		
		異文化とコミュニケーション	文国	2・3・4			2

言	言	国語学概論Ⅰ (▽23 国語学概論 (4))	文国	1・2・3 *5	2		
		国語学概論Ⅱ (▽23 国語学概論 (4))	文国	1・2・3 *5	2		
		言語学概論Ⅰ (▽23 言語学概論 (4)) (▽23 国語学特講 (言語学概論) (4))	文国	2・3 *5	2		
		言語学概論Ⅱ (▽23 言語学概論 (4)) (▽23 国語学特講 (言語学概論) (4))	文国	2・3 *5	2		
		国語学特講 (現代語文法)Ⅰ (▽23 国語学特講 (現代語文法) (4))	文国	2	2		
		国語学特講 (現代語文法)Ⅱ (▽23 国語学特講 (現代語文法) (4))	文国	2	2		
		日本語史Ⅱ	文国	2・3・4		2	
		国語学講義AⅠ *7 (▽23 国語学講義A (4))	文国	2・3・4		2	
		国語学講義AⅡ *7 (▽23 国語学講義A (4))	文国	2・3・4		2	
		国語学講義BⅠ *7 (▽23 国語学講義B (4))	文国	2・3・4		2	
		国語学講義BⅡ *7 (▽23 国語学講義B (4))	文国	2・3・4		2	
		English for JFL Teachers AⅠ *4 (▽23 English for JFL TeachersⅠ (2))	外国	3	1		
		English for JFL Teachers AⅡ *4 (▽23 English for JFL TeachersⅠ (2))	外国	3	1		
		English for JFL Teachers BⅠ *4 (▽23 English for JFL TeachersⅡ (2))	外国	4	1		
		English for JFL Teachers BⅡ *4 (▽23 English for JFL TeachersⅡ (2))	外国	4	1		
日本語教育副専攻の修了に必要な単位数					25 (21) *6	10	2
					37 (33) 単位以上 *6		

▽→日本語教育副専攻として以前開講していた科目 (最終開講年度を西暦下2桁で表示)

- *1 本学の日本語教育副専攻カリキュラムは、法務省「日本語教育機関の告示基準」に対応しています。また、領域・区分は、文化庁「日本語教員のための教育養成について」に基づき、設定しています。
- *2 「日本語教育実習」は、「日本語教育教授法Ⅰ」「日本語教育教授法Ⅱ」(▽23 日本語教育教授法)「国語学特講 (現代語文法)Ⅰ」「国語学特講 (現代語文法)Ⅱ」(▽23 国語学特講 (現代語文法))のすべての単位を修得していることが履修の条件となります。
- *3 「日本語教育研究」と「日本語教育実習」は同じ年度・学期にあわせて履修しなければなりません。
- *4 「English for JFL Teachers AⅠ」「English for JFL Teachers AⅡ」(▽23 English for JFL TeachersⅠ)「English for JFL Teachers BⅠ」「English for JFL Teachers BⅡ」(▽23 English for JFL TeachersⅠ)は、国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生にとってのみ必修科目となります。フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生は、履修の必要はありません。
- *5 学科の定める対象年次とは別に、日本語教育副専攻で履修するのに望ましい対象年次を示しています。なお、「国語学概論Ⅰ」「国語学概論Ⅱ」については、国語国文学科の学生は学科の必修科目として1・2年次に、それ以外の学科の学生は2・3年次に履修してください。
- *6 国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生にとって修了に必要な単位数を示しています。()内は、フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生にとって修了に必要な単位数を示しています。
- *7 2023年度から選択必修科目に「国語学講義AⅠ」「国語学講義AⅡ」(▽23 国語学講義A)、「国語学講義BⅠ」「国語学講義BⅡ」(▽23 国語学講義B)が加わっています。
- *8 2024年度から選択科目に「文化人類学Ⅰ」「文化人類学Ⅱ」「日本史概説Ⅰ」「日本史概説Ⅱ」「歴史からみた現代」が加わっています。

3. 日本語教育副専攻の履修について

1) 対象

本プログラムは文学部ならびに人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は原則2年次からとなります。

2) 修了要件

【2023・2024年度入学者】

国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生は、必修科目15科目(25単位)、選択必修科目10単位、選択科目2単位をあわせて37単位以上を修得することが修了の要件となります。

フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生は、必修科目11科目(21単位)、選択必修科目10単位、選択科目2単位をあわせて33単位以上を修得することが修了の要件となります。

修了要件を満たした履修者には、本学が発行する日本語教育副専攻修了認定証を授与します。

【2022年度以前入学者】

国語国文学科、児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科の学生は、必修科目25単位、選択必修科目10単位、選択科目2単位をあわせて37単位以上を修得することが修了の要件となります。

フランス語フランス文学科および英語英文学科の学生は、必修科目21単位、選択必修科目10単位、選択科目2単位をあわせて33単位以上を修得することが修了の要件となります。

修了要件を満たした履修者には、本学が発行する日本語教育副専攻修了認定証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限(加算あり)

日本語教育副専攻は、履修登録単位数の上限への加算があります。履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

日本語教育副専攻に関する科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。なお、共通科目については、所属学科に関わらず、修得した単位は共通科目の単位となります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分が所属しない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位(「科目区分を特定しない自由選択単位(差の単位)」となります。)

5) 日本語副専攻履修開始までの流れ

日本語教育副専攻の履修を開始するまでの流れは以下のとおりです。

履修希望者対象説明会への参加 と「履修希望届」の提出

履修を希望する学生は、1年次12月実施のガイダンスへ必ず参加し、必要書類を提出してください。

日本語教育副専攻・履修エントリー

「日本語教育副専攻・履修エントリー(履修開始時点の学修状況を確認するもの)」は1年次1月に実施し、3月中旬にCAMPUS SQUAREにて履修決定者をお知らせします。

履修者対象ガイダンスへの参加

3月末実施の履修者対象ガイダンスへ必ず参加してください。

履修費の納入

指定期日までに履修費を納入してください。

なお、編入生、大学院学生で履修を希望する場合は、入学後、指定の日時までに教務課へ申し出てください。

6) 日本語教育副専攻履修に関する費用

日本語教育副専攻を履修するには、履修初年度4月に履修費が必要となります(参考:2023年度45,000円、以降変更の可能性あり)。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦納入された

履修費はいかなる理由があっても返還することはできません。また、期日までに納入されない場合、履修を取り消されることがあります。

このほか、国内・海外実習に必要な交通費（渡航費）・滞在費・研修費等は、実費負担となります。

7) 日本語教育実習について

2年次に「日本語教育教授法Ⅰ」「日本語教育教授法Ⅱ」〔▽23 日本語教育教授法〕「国語学特講（現代語文法）Ⅰ」「国語学特講（現代語文法）Ⅱ」〔▽23 国語学特講（現代語文法）〕のすべての単位を修得した学生が、3年次に「日本語教育研究」「日本語教育実習」を履修し、教育実習を行うことができます。

教育実習は、国内または海外で行います。実習先については、2年次末の実習参加予定者ガイダンスで配布する希望調査に基づき決定します。また、実習先、実習内容は、状況等により変更となる可能性があります。

8) 留意事項

日本語教育副専攻への登録は、卒業時まで副専攻修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、日本語教育副専攻に関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

9) 辞退

日本語教育副専攻の履修を辞退する場合は、国際交流オフィス日本語教育副専攻担当へお申し出ください。

10) 日本語教育副専攻に関するサポート

日本語教育副専攻に関する質問は、国際交流オフィス日本語教育副専攻担当（1号館1F）へ問い合わせてください。

文学部

舞台芸術実践プログラム

1. 舞台芸術実践プログラムについて
2. 舞台芸術実践プログラムに関する科目
3. 舞台芸術実践プログラムの履修について

文学部 舞台芸術実践プログラム

1. 舞台芸術実践プログラムについて

1) 概要

舞台芸術実践プログラムは、現役の演出家を講師に招いて一つの舞台を実際に制作する実習科目を必修に据え、国語国文学科・フランス語フランス文学科・英語英文学科でそれぞれ開講されている舞台芸術系の科目を組み合わせ、履修をすすめていく文学部ならではのプログラムです。日本の伝統芸能である歌舞伎や文楽から、フランス古典演劇、シェークスピア、オペラ、バレエまで、世界の舞台芸術に関心ある学生同士の学科の垣根を超えた積極的な学び合いを期待しています。

2) 目標

本プログラムを履修することで、舞台芸術、演劇に関する深い知識と国際的な視野を身につけること、所属学科で習得する知識や能力も活かしながら日本あるいは外国の文化や社会、歴史などの知識と教養をさらに高めることを目標とします。

2. 舞台芸術実践プログラムに関する科目

舞台芸術実践プログラムに関する科目は、当該年度に文学部で開講される舞台芸術系科目によって構成されます。選択必修科目は年度毎に変更の可能性があります。当該年度プログラム対象科目一覧は、3月下旬にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

【参考：2023・2024年度プログラム対象科目】

必修区分	開講科目	科目区分	対象年次	2023	2024	単位数	修了に必要な単位数
必修	舞台芸術実践演習	文フ	2・3・4	○	○	2	2
選択必修	近世文学講義AⅠ	文国	2・3・4		○	2	6 <small>少なくとも 2学科が設置する 科目を含むこと</small>
	近世文学講義AⅡ	文国	2・3・4		○	2	
	近世文学講義A	文国	2・3・4	○		4	
	近代文学講義CⅠ	文国	2・3・4		休講	2	
	近代文学講義CⅡ	文国	2・3・4		休講	2	
	近代文学講義C	文国	2・3・4	○		4	
	国語国文学特講（演劇）Ⅰ	文国	3・4		○	2	
	国語国文学特講（演劇）Ⅱ	文国	3・4		○	2	
	国語国文学特講（演劇）	文国	3・4	○		4	
	フランス社会文化研究E	文フ	2・3・4	○	○	2	
	フランス文学歴史研究E	文フ	2・3・4	○	○	2	
	フランス芸術文化研究B	文フ	2・3・4	○	○	2	
	フランス芸術文化研究E	文フ	2・3・4		○	2	
	フランス芸術文化研究F	文フ	2・3・4		○	2	
	フランス芸術文化研究G	文フ	2・3・4	○	○	2	
	イギリス文学史A	文英	2・3・4	○	○	2	
グローバル文化研究J	文英	2・3・4	○		2		
プログラム修了に必要な単位数 合計							8

3. 舞台芸術実践プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からとなります。

2) 修了要件

必修科目1科目(2単位)と選択必修科目6単位のあわせて8単位以上修得すること、選択必修科目の履修には少なくとも2学科が設置する科目を含むこと、この2つが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限(加算なし)

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分が所属しない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位(「科目区分を特定しない自由選択単位(差の単位)」となります。)

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、前年度後期11月頃実施のガイダンスへ必ず参加してください。

プログラム必修科目「舞台芸術実践演習」の履修登録

プログラム必修科目「舞台芸術実践演習」の事前登録を行い、抽選結果を確認してください。

なお、ガイダンス参加者のみ履修可とします。

プログラム履修届の提出 および プログラム履修費の納入

「舞台芸術実践演習」履修者は、4月の指定期日までにプログラム履修費を納入し、納付書とプログラム履修届をフランス語フランス文学科研究室へ提出してください。詳細はCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

なお、一旦納入された履修費はいかなる理由があっても返還することはできません。また、期日までに納入されない場合、プログラム履修を取り消されることがあります。

6) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

7) プログラム履修の辞退

本プログラム履修を辞退する場合は、フランス語フランス文学科研究室へお申し出ください。

8) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、フランス語フランス文学科研究室(本館3F)へお問い合わせください。

グローバルビジネスプログラム

1. グローバルビジネスプログラムについて
2. グローバルビジネスプログラムに関する科目
3. グローバルビジネスプログラムの履修について

グローバルビジネスプログラム

1. グローバルビジネスプログラムについて

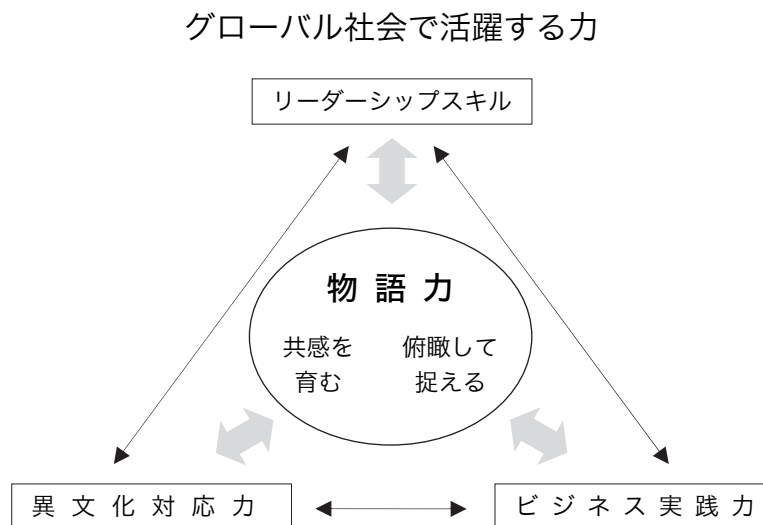
1) 概要

グローバルビジネスプログラム（GBP）は、学内の専門教育によって養われる力のひとつである「物語力（モノガタリリョク）」を基盤として、グローバル社会で活躍する人材の育成をめざすものです。

「物語力」とは、「共感を育み、物事を俯瞰（ふかん）して捉えることができる力」のことです。企業のAI化、グローバル化が顕著に進む現在だからこそ、今まで以上にその重要性も高まっています。この力は、生涯にわたるキャリアを見据え、社会に出てからもさまざまな場面で活躍できる人材となるための基礎となります。グローバルビジネスプログラムでは、本学の学びであるこの物語力を体感し、実践できるようなアウトプットの場を設けています。そしてこの強みを生かして主体的にキャリアを構築できるように支援します。

2) 目標

本プログラムは、「物語力」を土台に、グローバル社会で活躍するための基礎を育みます。この力を援用して、キャリア形成の際にはみなさんの素養を十分に発揮できる準備を行います。さらにグローバルに活躍できる人材に不可欠な知識と実践とを重視した科目群を通し、「リーダーシップスキル」「ビジネス実践力」「異文化対応力」の3つを身につけられるようになることを目標とします。実践力を高めるために、企業との連携によるプロジェクトや海外で実際に働くことのできるインターンシップなども用意しています。



2. グローバルビジネスプログラムに関する科目

2024年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	EBC I *1	文英	1	2	14
	EBC II *1		1	2	
	リーダーシップ入門		1	2	
	リーダーシップ応用		2	2	
	ビジネスの基礎知識		2	2	
	ビジネススキル		2	2	
	物語カワークショップ		3	2	
選択必修	データ分析演習	共通	1・2・3 *4	2	4
	ビジネス・マーケティングA *2	文英	3	2	
	ビジネス・マーケティングB *2		2・3	2	
	英語メディアで学ぶビジネス		2・3	2	
	英語で考えるSDGs		2・3	2	
	自己表現の技術と知識		2・3	2	
	海外企業実地研修準備講座 *3		2	2	
	海外企業実地研修 *3		3	2	
	海外文化共創研修		1・2・3 *4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					18単位以上

- *1 「EBC I」「EBC II」「EBC III」については、TOEICのスコアが一定以上であり、かつ、その旨プログラム支援センターに申し出があれば履修免除となります。その場合のプログラム修了に必要な単位数は、修了に必要な単位数の合計より免除となった単位数を差し引くものとします。
 EBC I・・・TOEIC 650点以上
 EBC II・・・TOEIC 700点以上
- *2 「ビジネス・マーケティングA」と「ビジネス・マーケティングB」は、いずれか一方のみしか履修できません。
- *3 「海外企業実地研修」の履修を希望する学生は、「海外企業実地研修準備講座」をあわせて履修しなくてはなりません（長期留学により履修できない場合を除く）。なお、「海外企業実地研修」の履修を希望しない場合でも、「海外企業実地研修準備講座」のみ履修することは可能です。
- *4 各科目区分の対象年次とは別に、本プログラムで履修するのに望ましい対象年次を示しています。

2023 年度以前入学者用

	開講科目	単位数	対象年次	備考
必修	EBC I *2	2	1 年	夏期集中講義
	EBC II *2	2	1 年	
	グローバルビジネス I *1	2	1 年	再履修不可
	EBC III *2	2	2 年	
	グローバルビジネス II *1	2	2 年	再履修不可
	グローバルビジネス III *1	2	2 年	再履修不可
	ビジネスの基礎知識	2	2 年	
	ビジネススキル	2	2 年	
	物語カワークショップ	2	3・4 年	
選択	ビジネスの中国語	2	2・3・4 年	2022 年度以降入学者対象
	ホスピタリティの中国語 I	2	2・3・4 年	2021 年度以前入学者対象
	EBC IV *3	2	2・3・4 年	
	ビジネス・マーケティング B *4	2	2・3・4 年	
	ビジネスマナー演習	2	2・3・4 年	2022 年度以降入学者対象
	ビジネスマナーとホスピタリティ演習	2	2・3・4 年	2021 年度以前入学者対象
	メディアで学ぶビジネス英語 A	2	2・3・4 年	
	メディアで学ぶビジネス英語 B	2	2・3・4 年	
	海外企業実地研修準備講座 *5	2	2 年	後期集中講義
	海外企業実地研修 *5	2	3 年	2～3 月(新3年生対象)と8月に米国等を実施予定。 ※詳細は『3.7)「海外企業実地研修」について』を参照のこと。
	ビジネス・マーケティング A *4	2	3・4 年	
プログラム修了に必要な単位数		22 単位以上	(必修 18 単位+選択必修 4 単位)	

- *1 「グローバルビジネス I」「グローバルビジネス II」「グローバルビジネス III」の3つの必修科目は再履修不可の科目であるため、配当年次に単位を修得できなかった場合は、グローバルビジネスプログラムを修了できません。(ただし、留学等特別な事情により配当年次に単位を修得できなかった場合を除く。)
- *2 「EBC I」「EBC II」「EBC III」については、TOEICのスコアが一定以上であり、かつ、その旨プログラム支援センターに申し出があれば履修が免除となります。ただし、その分の単位数を他の選択科目の単位で補うことが必要です。
EBC I・・・TOEIC 650 点以上
EBC II, EBC III・・・TOEIC 700 点以上
- *3 「EBC IV」の履修にあたっては、TOEICのスコアが600点以上であることが条件となります。
- *4 「ビジネス・マーケティング A」と「ビジネス・マーケティング B」はいずれか一方のみしか履修できません。
- *5 「海外企業実地研修」を履修希望の学生は、「海外企業実地研修準備講座」を必ず履修する必要があります。(ただし、長期留学により履修できない場合を除く。)
- なお、「海外企業実地研修」を履修しない場合でも、「海外企業実地研修準備講座」を履修することは可能です。

3. グローバルビジネスプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部ならびに人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は1年次からとなりますが、希望すれば2年次からでも履修を開始することが可能です。

なお、プログラムに登録していない学生でも、定員に余裕がある場合は、一部科目を履修することが可能です。

2) 修了要件

【2024年度入学者】

必修科目7科目(14単位)と選択必修科目4単位をあわせて18単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

【2023年度以前入学者】

必修科目9科目(18単位)と選択必修科目をあわせて22単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限(加算あり)

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算があります。プログラム履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。なお、共通科目については、所属学科に関わらず、修得した単位は共通科目の単位となります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分が所属しない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位(「科目区分を特定しない自由選択単位(差の単位)」となります。)

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、4月実施のガイダンスへ必ず参加してください。

課題レポートの提出(履修者選抜)

ガイダンスで説明されたとおり、指定日時までに課題レポートを提出してください。

提出されたレポートおよび英語プレイズメントテストを参考に履修者の選抜を行い、結果を通知します。

オリエンテーションへの参加

プログラム履修者として選抜された学生は、5月実施のオリエンテーションへ必ず参加してください。

履修費の納入

指定期日までにプログラム履修費を納入してください。

1年次夏期集中講義「EBC I」より履修開始

1年次夏期集中講義として開講される「EBC I」より履修がスタートします。

同科目については、プログラム履修者決定後にプログラム支援センターにて履修登録を行います。

その他の科目については、自身で履修をすすめてください。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するには、プログラム履修費8,000円(「EBC I」履修年度6~7月納入)が必要となります。納入方法詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

また、学外における授業・研修のために必要な交通費(渡航費)・滞在費・研修費等は、実費負担となります。そ

のほか、学内実施のTOEIC IPテストを受験の際は、別途受験料がかかります。（参考：海外企業実地研修 約30～80万円、TOEIC IPテスト受験料〔学内実施〕3,130円/回※）

※本学はTOEICを運営する（財）国際ビジネスコミュニケーション協会の賛助会員となっています。そのため、本学学生は、通常4,230円のIPテスト受験料について賛助会員割引が適用されます。学内におけるテストは年6回（5月・6月・10月・12月・2月・3月）の実施が予定されています。

7) 「海外企業実地研修」について

「海外企業実地研修」は、3～4週間にわたり海外で実施する企業実習のため、一定の語学力が必要です。以下の履修条件を確認してください。

「海外企業実地研修」の履修条件（2年次10月頃の履修者募集時点）

【2024年度入学者】

- ① 海外企業実地研修準備講座を履修すること
- ② 「EBC I」「EBC II」を履修済であること
- ③ 海外研修参加にあたっての事前選考面接を受け、研修に参加する明確な目的と意志を持っていること

※2年次に長期留学をしていた場合、上記①～③の条件が一部免除されることがあります。

※プログラム支援センターでは、英語力向上のための教材なども用意しています。積極的に活用して、事前の準備を十分に行ってください。

【2023年度以前入学者】

- ① 海外企業実地研修準備講座を履修すること
- ② 原則としてTOEICのスコアが550点以上であること（2年次9月実施のTOEIC IPテストのスコアまで有効）
- ③ 「EBC I」「EBC II」「EBC III」を履修済であること
- ④ 海外研修参加にあたっての事前選考面接を受け、研修に参加する明確な目的と意志を持っていること
- ⑤ 英語の条件を満たしていない者については、事前面接で参加可能と判断された者

※2年次に長期留学をしていた場合、上記①～⑤の条件について一部免除されることがあります。

※プログラム支援センターでは、英語力向上のための教材なども用意しています。積極的に活用して、事前の準備を十分に行ってください。

「海外企業実地研修」の履修が決定した学生は、「事前・事後指導」と「研修報告プレゼンテーション」へ必ず出席してください。研修レポートとプレゼンテーションによって成績評価が行われます。なお、2～3月研修の場合は翌年度前期科目として、8月研修の場合は同年度後期科目として、プログラム支援センターによって履修登録が行われ、その成績はそれぞれの学期末に通知されます。

8) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

9) プログラム履修の辞退

本プログラム履修を辞退する場合は、担当教員と相談の上、プログラム支援センターへ辞退届を提出してください。

10) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、プログラム支援センター（1号館1F）へお問い合わせください。

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

1. ホスピタリティ・マネジメントプログラムについて
2. ホスピタリティ・マネジメントプログラムに関する科目
3. ホスピタリティ・マネジメントプログラムの履修について

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

1. ホスピタリティ・マネジメントプログラムについて

1) 概要

ホスピタリティ・マネジメントプログラムは、ホスピタリティを学問的・実務的に幅広く学ぶことを通して、ホスピタリティ業界に優秀な人材を輩出することをめざすものです。ホスピタリティ業界とは、人の移動や交流によって生み出される経済現象に関わる業界のことで、主に旅行、宿泊、交通（航空）などの接客サービスを伴う業種のことですが、教育、医療、福祉などの業種にも応用が可能です。そもそも「ホスピタリティ」とは、他者の幸せを願い、共感し、役に立ちたいと思う心です。「おもてなし」や歓待、気配りなどは押しつけになることもあります。ホスピタリティは決して押しつけない、相手の心に寄り添う「深い思いやり」です。これは「人間一人ひとりをかけがえのない存在として大切に思い、自ら進んで他者に仕え、社会に貢献しようとする心」というシャルトル聖パウロ修道女会の精神や本学の建学の精神（＝「白百合のこころ」）ともつながるものです。本プログラムを通して、「白百合のこころ」をもって社会に貢献する卒業生の活躍の場が広がることを強く期待しています。

2) 目標

本プログラムは、相手の心に寄り添う「深い思いやり」の心、すなわち「ホスピタリティの心」をベースとして、ホスピタリティの「語学」「理論」「実務」をバランスよく学び、学問的・実践的な力を身につけることを目標とします。

1. 「ホスピタリティの語学」では、英語を中心に、国内外のホスピタリティ業界で働くために必要な実践的語学力を身につけ、その過程でホスピタリティの基礎を学びます。
2. 「ホスピタリティの理論」では、「ホスピタリティ」の概念とその歴史をたどり、現代社会において持つ意味を理解します。そのうえで、企業活動としてホスピタリティを実践するためには何が必要かを考えます。
3. 「ホスピタリティの実務」では、産官学連携の授業や学外授業としての企業視察を通して、ホスピタリティ業界の実務に対する理解を深めます。

また、本プログラムには必修科目のほかに任意で履修や参加ができるオプション科目や授業外産官学連携イベントがあります。応用に踏み込んだ実践的語学力のほか、ホスピタリティ産業におけるサービスやコミュニケーション、ホスピタリティ業界と関わりの深い観光についての理論と実践、さらには国内外での研修などの授業がオプションとして用意され、自由参加の授業外イベントでも多様な知識や経験を積むことができます（イベントによっては参加費用がかかります）。さらに、本プログラムは学生一人ひとりが自分の専攻で習得する知識や能力を活かせる内容になっています。文学部で学ぶ日本あるいは外国の文化や社会、歴史の知識、人間総合学部で学ぶ人の成長や人への支援に関わるさまざまな知見は、「ホスピタリティの心」と結びつくことで、実社会との接点を獲得し、専門性に裏打ちされた実践的教養として、その価値をさらに高めることでしょう。

2. ホスピタリティ・マネジメントプログラムに関する科目

2023年度以降入学者

	開講科目	科目区分	単位数	対象年次	備 考
必 修	ホスピタリティの英語Ⅰ	文英	2	1・2・3・4	語学 観光・ホスピタリティ産業に関わる英語を通してホスピタリティの基礎を学びます。
	ホスピタリティマネジメント概論	文英	2	1・2・3・4	理論 ホスピタリティとは何かを学ぶ科目です。ホスピタリティという概念への理解を深め、現代社会における意義を理解します。さらに実際の企業活動とホスピタリティとの関係も学びます。
	ホスピタリティマネジメント演習	文英	2	2・3・4	実務 ホスピタリティ業界の多くと関わりの深い観光について、理論と実践を学びます。学外授業として企業視察も行います。「概論」を修得してからの履修を原則とします。
プログラム修了に必要な単位数			6		

	開講科目	科目区分	単位数	対象年次	備 考
オ プ シ ヨ ン	ホスピタリティの英語Ⅱ	文英	2	2・3・4年	語学 「ホスピタリティの英語Ⅰ」を踏まえ、実践的な英語力をさらに伸ばします。
	ホスピタリティマネジメント特講A	文英	2	1・2・3・4	理論 ホスピタリティのチカラを発揮するためのコミュニケーション能力を学びながら自文化・異文化についても理解を深めます。キャリア形成に必要な実践的な知識と技能を修得します。
	ホスピタリティマネジメント特講B	文英	2	1・2・3・4	理論 「ホスピタリティ」「観光」に関わるモード（陸海空の交通機関、旅行者宿泊業者、地方自治体）がどう福祉に取り組んでいるのか、また、介助士や補助犬などの福祉のサポートシステムがどう関わっているのか具体例を挙げながらその現状を学びます。「ホスピタリティ」と「福祉」との接点から、多様な取り組みの現状への理解を深め、これからの課題を考えます。
	ホスピタリティインターンシップ研修	文英	2	2・3・4	実務 2～4年次の夏期休暇に約2～3週間、海外あるいは国内で職業的な訓練や実習を集中的に行います。
	海外ホスピタリティ研修	文英	2	1・2・3	実務 1～3年次の春期休暇に約2～3週間実施します。単位認定は次学年の前期になります。語学学校で英語力を向上させながら、職業的な訓練や実習も行います。
	海外文化共創研修	文英	2	1・2・3・4	実務 世界に誇るエンターテインメントの本場ディズニーワールドで、来場者に最高の感動を届けるために必要不可欠なホスピタリティ精神やチームワークについて学びます。
	Webデザインとマルチメディア	共通	2	1・2・3・4	実務 Web制作を通じて適切なメディアの扱い方と情報発信の方法を学びます。Web技術全体を理解し「デザインすること」でホスピタリティに求められる感性を磨くと同時に、相手の要望によりよく応えるためのコンピュータースキルを身に着けます。
	フランス語実践研究F	文フ	2	3・4	語学 ホスピタリティ産業で、フランス語圏のお客様に対応するためのビジネスフランス語、フランス語コミュニケーション能力を習得します。
				—	(オプション科目の履修は任意、修得すべき単位数なし)

3. ホスピタリティ・マネジメントプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは 2023年度以降入学者の文学部ならびに人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は1年次からとなりますが、希望すれば2・3年次からでも履修を開始することが可能です。

2) 修了要件

必修科目3科目（6単位）を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) オプション科目

修了に必須ではありませんが、プログラムと深くかかわる内容を学ぶオプション科目があります。オプション科目の一部は、プログラムに登録していない学生でも定員に余裕がある場合は履修することが可能です。

4) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

5) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。なお、共通科目については、所属学科に関わらず、修得した単位は共通科目の単位となります。

自分の所属している学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分が所属していない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

6) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、4月実施のガイダンスへ必ず参加してください。

課題レポートの提出（履修者選抜）

ガイダンスで説明されたとおり、指定日時までに課題レポートを提出してください。

提出されたレポートおよび英語プレイスメントテストを参考に履修者の選抜を行い、結果を通知します。

履修費の納入

指定期日までにプログラム履修費を納入してください。

1年次後期「ホスピタリティの英語Ⅰ」より履修開始

1年次後期に開講される「ホスピタリティの英語Ⅰ」より履修がスタートします。

（時間割重複等の理由で、同科目の履修が翌年度以降になる場合もあります。）

同科目については、プログラム履修者決定後にプログラム支援センターにて履修登録を行います。

その他の科目については、自身で履修をすすめてください。

7) プログラム履修費

本プログラムを履修するには、プログラム履修費8,000円（「ホスピタリティの英語Ⅰ」履修年度6～7月納入）が必要となります。納入方法詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

8) 「海外ホスピタリティ研修」について

2月～3月実施の「海外ホスピタリティ研修」の履修を希望する学生は、前年度後期中に行われる説明会へ必ず参加してください。なお、同科目については、翌年度前期科目としてプログラム支援センターにより履修登録が行わ

れ、その成績は前期末に通知されます。

9) 「ホスピタリティインターンシップ研修」について

8月～9月実施の「ホスピタリティインターンシップ研修」の履修を希望する学生は、前期中に行われる説明会へ必ず参加してください。なお、同科目については、後期科目としてプログラム支援センターにより履修登録が行われ、その成績は学期末に通知されます。

10) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

11) プログラム履修の辞退

本プログラム履修を辞退する場合は、プログラム支援センターへ辞退届を提出してください。

12) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、プログラム支援センター（1号館1F）へお問い合わせください。

児童英語指導者養成プログラム

1. 児童英語指導者養成プログラムについて
2. 児童英語指導者養成プログラムに関する科目
3. 児童英語指導者養成プログラムの履修について

児童英語指導者養成プログラム

1. 児童英語指導者養成プログラムについて

1) 概要

子どもに英語を教えることに関心のある人を対象とするプログラムです。世界の多くの国では、公立・私立の小学校ばかりでなく、民間の教育機関や小グループでの指導を含めた子どもたちへの外国語指導の実践がなされてきました。日本においても、2020年度より小学校において外国語（英語）教育が始まりました。それに伴い、子どもたちを対象とする外国語教育の必要性がますます高まっています。

プログラム修了後に想定されるキャリア・プランとしては、児童英語教室で教える、小学校の外国語・外国語活動の授業支援者（アシスタント）となる、児童英語教材のデザイナーになる等の幅広い分野での活動が期待できます。

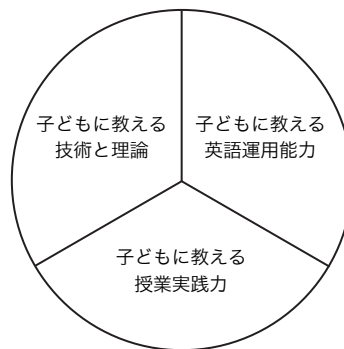
2) 目標

本プログラムでは、子どもたちに英語を教える指導者に求められる資質を、

1. 子どもに教える技術と理論
2. 子どもに教える英語運用力
3. 子どもに教える授業実践力

の3つの領域から成るものと考え、これら3つの力をバランスよく身に付けた上で、実際に小学生を相手に英語の授業を行うことを目標としています。

子どもに英語を教える力



3) 小学校英語教育推進協議会（J-SHINE）に対応した2つのコース

本学は「小学校での英語教育の普及と発展を支援する」という趣旨のもとに指導者の資格認定を行う特定非営利法人「小学校英語教育推進協議会（J-SHINE）」への登録団体です。本プログラムでは、J-SHINEの小学校英語準認定指導者資格に対応した「基礎コース」と小学校英語指導者資格・小学校英語指導者+（プラス）に対応した「実践コース」の2つのコースを設定しています。本プログラム修了者には、白百合女子大学児童英語指導者養成プログラムの修了証書を授与すると同時に、希望者についてはJ-SHINEの資格認定を申請することも可能です。

本プログラムにおけるコースとJ-SHINE認定資格の対応表

	基礎コース	実践コース
プログラム修了に必要な単位数	21単位	27単位（基礎コース21単位+6単位）
目標とする英語運用能力	指導者としての基本的英語運用能力	英語で教えることができる英語運用能力
小学校における指導体験時間数	20時間程度	50時間程度
対応するJ-SHINE認定資格	小学校英語準認定指導者資格	小学校英語指導者資格 小学校英語指導者+（プラス）*

* 小学校英語指導者+（プラス）は、CEFR B2以上の英語運用能力と50時間以上の指導体験時間数が要件となります。申請には以下のいずれかの提出が必要です。

実用英語技能検定	準1級以上の合格証明書
TOEIC L&W/S&W	1560点以上の公式認定書
TOEFL (iBT)	72点以上のスコアレポート（発行後2年以内）
Cambridge English	160点以上のCertificate Statement of Results
IELTS	5.5以上の成績証明書
TEAP	309点以上の成績表（発行後2年以内）
TEAP (CBT)	600点以上の成績表（発行後2年以内）

2. 児童英語指導者養成プログラムに関する科目

種別	科目区分	科目名	対象年次	単位数	プログラム修了に必要な単位数	
					基礎コース	実践コース
基礎	文英	児童英語入門	1・2・3	2	2	21 単位 27 単位
	文英	子どもに教えるための英語Ⅰ	1・2・3	2	2	
	文英	児童英語観察実習	1・2・3	1	1	
発展	文英	児童英語教育法 *1	3・4	2	2	
	文英	児童英語指導法ワークショップⅠ *1	3・4	4	4	
	文英	児童英語指導法ワークショップⅡ *1	3・4	4	4	
その他	文英	児童英語教材研究	2・3・4	2	2	
	文英	英語教育の理論と実践Ⅰ *2	2・3・4	2	2	
	文英	英語教育の理論と実践Ⅱ *3	2・3・4	2	2	
	文英	言語習得論Ⅰ	2・3・4	2	2	
	文英	言語習得論Ⅱ	2・3・4	2		
	文英	英語音声学Ⅰ	2・3・4	2	2	
	文英	英語音声学Ⅱ	2・3・4	2		
英語運用	文英	子どもに教えるための英語Ⅱ *4	3・4	2	2	
指導体験	文英	児童英語アシスタント実習Ⅰ *5	4	4	4 *6	
	文英	児童英語アシスタント実習Ⅱ *5	4	4		

- *1 基礎3科目（「児童英語入門」「子どもに教えるための英語Ⅰ」「児童英語観察実習」）のすべての単位を修得していることが履修の要件となります。
- *2 中等教職課程履修者は、「英語教育の理論と実践Ⅰ」の代わりに「英語科教育法ⅠA」の単位を修得することで要件単位数を満たすことができます。
- *3 中等教職課程履修者は、「英語教育の理論と実践Ⅱ」の代わりに「英語科教育法ⅠB」の単位を修得することで要件単位数を満たすことができます。
- *4 「子どもに教えるための英語Ⅰ」の単位を修得していることが履修の要件となります。
- *5 「児童英語指導法ワークショップⅠ」「児童英語ワークショップⅡ」のいずれか一方の単位を修得していることが履修の要件となります。
- *6 3年次に「児童英語指導法ワークショップⅠ」「児童英語指導法ワークショップⅡ」の両方の単位を修得した場合は、「児童英語アシスタント実習Ⅰ」または「児童英語アシスタント実習Ⅱ」の代わりに、「児童英語指導法ワークショップⅡ」の修得済単位をもって要件単位数を満たすことができます。

3. 児童英語指導者養成プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは原則として文学部英語英文学科の学生が履修できます。英語英文学科以外で履修を希望する学生は、履修方法や修了の可能性についてプログラム担当者と十分に事前相談を行うことで履修を認められることがあります。履修開始は1年次からとなりますが、希望すれば2・3年次からでも履修を開始することが可能です。

なお、文学部に所属していても人間総合学部初等教育学科児童教育コースを他学科履修している学生は「児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）」のページを参照してください。

2) 修了要件

基礎コースは10科目（21単位）以上修得すること、実践コースは基礎コースに2科目（6単位）を加えて合計12科目（27単位）以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算あり）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算があります。プログラム履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は英語英文学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

英語英文学科の学生

英語英文学科専門科目の単位

プログラム履修を認められた英語英文学科以外の学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、3・4月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し出

4月の指定期日までに児童英語指導者養成プログラム担当教員（jidoeigo@shirayuri.ac.jp）へメールでプログラム履修を希望する旨を申し出てください。

なお、本プログラム（小学校英語オプション含む）の定員40名を超える申し出があった場合のみ、①小学校教諭免許状の取得予定者 ②英語英文学科の学生 の優先基準をもとに履修者数の調整を行います。

6) プログラムに関する費用

本プログラムを履修にあたり、学外における授業や研修のために必要な交通費等は実費負担となります。また、本学のプログラムの修了をもってJ-SHINEの資格認定を希望する場合は、J-SHINE資格認定審査料（6,000円程度）がかかります。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

8) プログラム履修の辞退

原則として年度途中でのプログラム辞退は認められません。毎年度末（2月～3月）、履修者全員へメールにて翌年度もプログラム履修を継続するか意思確認を行います。辞退を希望する場合はそのタイミングで申し出てください。なお、年度途中で辞退の意思を固めている場合は、プログラム科目を自身で履修取消申請してもかまいません。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、児童英語指導者養成プログラム担当教員 (jidoeigo@shirayuri.ac.jp) へお問い合わせください。

文学部

学校司書のモデルカリキュラム

1. 学校司書のモデルカリキュラムについて
2. 学校司書のモデルカリキュラムに関する科目（文学部）
3. 学校司書のモデルカリキュラムの履修について

文学部 学校司書のモデルカリキュラム

1. 学校司書のモデルカリキュラムについて

1) 概要

学校司書とは、学校図書館を運営していくために必要な専門的・技術的職務に従事しながら、学校図書館を活用した授業やその他の教育活動を教員とともに進める職員です。学校図書館法（1953年・法律185号）が2014年に改正され、学校には学校司書を置くよう努めなければならないと規定されました。

本学の学校司書のモデルカリキュラムは「学校司書のモデルカリキュラム」（2016年・文部科学省通知[28文科初第1172号]）に基づいており、司書課程、司書教諭課程、中等教職課程の科目区分より所定の科目を履修することで学校司書のモデルカリキュラムの履修証明を得ることができます。

2. 学校司書のモデルカリキュラムに関する科目（文学部）

	学校司書のモデルカリキュラム (文部科学省通知科目)	単位数	本学における開講科目	科目区分	対象年次	単位数
必修	学校図書館概論	2	学校経営と学校図書館	司教	3・4	2
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	司書	2・3・4	2
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習（目録）	司書	3・4	2
			情報資源組織演習（分類）	司書	3・4	2
	学校図書館サービス論	2	図書館サービス特論（学校）*1	司書	3・4	2
	学校図書館情報サービス論	2	情報サービス論	司書	2・3・4	2
			情報サービス演習Ⅰ	司書	3・4	2
			情報サービス演習Ⅱ	司書	3・4	2
	学校教育概論	2	教育原理（中・高）	教職	2 *2	2
			教育心理学（中・高）	教職	1 *2	2
			特別支援教育概論（中・高）	教職	1 *2	2
			教育課程論（中・高）	教職	3 *2	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	司教	3・4	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	司教	3・4	2	
本学における学校司書のモデルカリキュラム修了に必要な単位数 合計						32

*1 司書課程を履修している学生は、司書課程選択必修として履修可能な2科目のうちの1科目として、「図書館サービス特論（学校）」を必ず含めるようにしてください。また、本科目は2024年度以降隔年開講となります。学校司書のモデルカリキュラムの修了のためには、開講された年度に先送りすることなく必ず履修してください。

*2 中等教職課程における対象学年を示しています。中等教職課程を履修していない学生は、上の表で示されている対象学年以降に履修してもかまいません。

3. 学校司書のモデルカリキュラムの履修について

1) 対象

文学部の学校司書のモデルカリキュラムは司書課程および中等教職課程を履修している学生が履修できます。履修開始は原則2年次からとなります。3年次以降の履修開始を希望する場合は、前期の事前登録期間終了までに基礎教育センターへ申し出ることによって履修を認められることがあります。

なお、文学部に所属していても人間総合学部初等教育学科児童教育コースを他学科履修している学生は、「人間総合学部 学校司書のモデルカリキュラム」のページを確認してください。

2) 修了要件

本カリキュラムは、必修科目16科目(32単位)を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたカリキュラム履修者には、卒業時に本学が発行する「学校司書のモデルカリキュラム修了証」を授与します。

3) 履修登録単位数の上限(加算なし)

本カリキュラムは、すでに履修登録単位数の上限への加算(半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位)が認められている司書課程および中等教職課程の履修者が対象であり、それ以上のさらなる加算はありません。

4) 単位の取り扱い

本カリキュラムの科目は、司書に関する科目、司書教諭に関する科目、教職に関する科目から成り、修得した単位は「科目区分を特定しない自由選択単位(差の単位)」として卒業の単位に含まれます。

5) カリキュラム履修開始までの流れ

本カリキュラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

登録説明会への参加

カリキュラム履修を希望する学生は、1年次後期実施の登録説明会へ必ず参加してください。

履修届の提出

指定期日までに履修届を提出してください。

履修登録

本カリキュラムの科目のうち、司書に関する科目は、事前登録申請期間に履修登録してください。

6) カリキュラム履修の留意事項

本カリキュラムへの登録は、卒業時までカリキュラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、カリキュラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

7) カリキュラム履修の辞退

本カリキュラムの履修を辞退する場合は、基礎教育センターへ辞退届を提出してください。

8) カリキュラムに関するサポート

本カリキュラムに関する質問は、基礎教育センター(4号館1F)へお問い合わせください。

人 間 総 合 学 部

人間総合学部

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

人間総合学部 卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

2023年度以降入学者用

1. 卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【児童文化学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必須な能力を身につけている。

本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部の「学部共通科目」を設定している。その学修を通じて、人間存在について客観的・科学的な理解にもとづき共感的な人間観を身につけている。

子どもを起点としつつ生涯にわたる発達過程と発達像について学ぶことで、人間のもつ多様性と可能性について理解している。

それらの知識を実践するための、社会や文化、教育や保育活動の現状および可能性についての知識を獲得している。

子どもの頃親しみ今も関心をもっている児童文化・児童文学について、自身の興味を活かし、自ら問いをたて、主体的に探究することができる。

子どもと大人が共有する文化の多様性を把握し、現代社会が求める文化の創造にかかわる知識・発想力・思考力・表現力を身につけている。

人間の原点である「子ども」の視点に立って文化を見直し、子どもを通して伝承されてきた文化や次世代を担う子どもの視点を活かした文化に関与しうる知識やコミュニケーション力を身につけている。

【発達心理学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必須な能力を身につけている。

本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部の「学部共通科目」を設定している。その学修を通じて、人間存在について客観的・科学的な理解にもとづき共感的な人間観を身につけている。

子どもを起点としつつ生涯にわたる発達過程と発達像について学ぶことで、人間のもつ多様性と可能性について理解している。

それらの知識を実践するための、社会や文化、教育や保育活動の現状および可能性についての知識を獲得している。

心理学の主要分野の基礎的理論を理解し、人間の心を探求する基本的なデータサイエンススキル（知識・技能）を身につけている。

人間は遺伝的・生得的に規定されると同時に、社会文化的文脈によっても大きく左右されるという生涯発達心理学の考え方（思考・判断能力）を身につけている。

発達心理学および発達臨床心理学に関する専門知識を有し、その知識を適切に表現し、説明する力（表現力・説明力）を身につけている。

現代社会における発達心理学的課題に関心を持ち、その課題解決に向けて自発的に取り組む姿勢（関心・意欲・態度）を身につけている。

【初等教育学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部の「学部共通科目」を設定している。その学修を通じて、人間存在について客観的・科学的な理解にもとづき共感的な人間観を身につけている。

子どもを起点としつつ生涯にわたる発達過程と発達像について学ぶことで、人間のもつ多様性と可能性について理解している。

それらの知識を実践するための、社会や文化、教育や保育活動の現状および可能性についての知識を獲得している。

保育者・教師としての実践の基礎となる知識や技能を身につけ、その基盤となる保育・教育に関する諸理論について理解できている。

大学で修得した理論や知識及び技能を、保育・教育の現場で活用することの意義と課題について理解できている。

保育・教育に関わる者として生涯学び続けるための探究の方法を身につけ、自ら取り組むべき課題について見通しを持っている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

建学の精神と教育理念に基づいて、修得した知識を自己の人格的成長と他者への愛に変えうる豊かな知性と感性を身につけるために、1・2年次に必修科目の「キリスト教学」を、3・4年次に多彩な科目の中から自己の関心と意欲に応じて選択必修科目として履修する「宗教学」を配置する。

1. 「キリスト教学Ⅰ」では、建学の精神を学び、その根底にあるキリスト教的価値観に基づく生き方に触れるとともに、福音書を中心とした聖書の基礎的知識を学ぶ。受講者相互によるプレゼンテーションを実施し、自己理解と他者理解を深める。
2. 「キリスト教学Ⅱ」では、建学の精神の理解を深め、キリスト教の人間観・世界観とその今日的意義について考察する。聖書の主要箇所とキリスト教の歴史的展開を人間の生きる意義と現代世界の多様な課題とに関連づけて学び、現代に生きる私たちの在り方を考える。
3. 「宗教学」では、キリスト教学での基礎的な学びを土台に、本学の教育目標「真・善・美」に向かって諸学問・諸宗教との関連から広い視野で学ぶ。思索の基盤を養い、人間の尊厳といのちの意味について考え、他者の苦しみや痛みを目に向け、地球規模での現代世界の諸問題と対峙し、社会の中での具体的な生き方につなげていく。

幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために以下の科目群を設置する。

1. 初年次科目群
2. 教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）
3. 健康・スポーツ科目群
4. 情報・データサイエンス科目群

グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の必修・選択科目を提供する。

1. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。
2. 学生個々のレベルにあわせた習熟度別のクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、ICT設備を利用する。

各学科の専門性の中から領域横断的な「学部共通科目」を設置している。学習者の進捗や興味に応じて、視野を広げるべく、履修の順序や対象学年の制約を設けず、1～4年次に履修できるようにしている。

【児童文化学科】

児童文学・児童文化・制作創作の3分野にわたって〔選択科目〕を置き、自身の関心に合わせて主体的に履修することを重視する。それらの学修成果を結びつけて自己ステップアップができるように1年次から4年次までの各年次に〔必修科目〕を置く。

〔選択科目〕

自らの関心を持って主体的に学べるように、学生が子どもの頃や今も関心を抱いている「絵本」「児童文学」「マンガ」「アニメ」「おもちゃ」「人形」「キャラクター」等に関する科目を1年次から履修できるように配備する。また、「伝承文学」「ファンタジー」「YA文学」「サブカルチャー」等、子どもに限らず大人も共有する分野にかかわる科目を設け、ボーダーレス化が進む現代社会の文化について学べるようにする。

〔必修科目〕

選択科目で得たものを、専門的な知識とともに自身の発想力・思考力・表現力・コミュニケーション力の養成に役立て、自ら確認し成長していけるように必修科目を設ける。

1年次では、「児童文化入門」「児童文学入門」等を履修し、専門分野の基礎となる知識や考え方を学ぶ。2年次「基礎演習」では、半期ずつ異なる領域（児童文学・児童文化・制作創作）から履修することにより、自身の関心や学修方法を見極めることを目指す。3年次「演習」では、履修してきた科目や基礎演習の学修をもとに、専任教員が開くゼミを選択し、卒業論文・卒業制作に向けて、より専門的な知識を修得しつつ思考力や表現力を磨く。4年次では、4年間の学修の集大成として、自らの関心を活かしたテーマを選び、分析し考察し表現する形で卒業論文・卒業制作を完成させる。

【発達心理学科】

ディプロマ・ポリシーを踏まえて、心理学の基礎的領域・発達心理学および発達臨床心理学に特化した高度な専門領域・発達心理学の応用領域の3つの領域にわたって科目を設置している。

〔心理学の基礎的領域〕

1・2年次では、心理学全般に関する概論や基本的方法論を学ぶ実習科目を通じて、心理学の基礎的理論と各種方法論（実験・調査・観察・面接・検査、文献講読）について学ぶ。また、実証科学としての心理学の基礎である心理統計学について、基本的な考え方と基礎的なデータ分析法を修得する。

3・4年次では、認知心理学、パーソナリティ心理学、社会心理学、教育心理学、健康・医療心理学、犯罪心理学などについての講義科目を通して、心理学の主要分野について幅広く理解する。

〔発達心理学及び発達臨床心理学に特化した専門領域〕

1・2年次では、発達心理学と発達臨床心理学に関する概論および基礎的な演習科目を通じて、生涯にわたる心理的発達の様相とそれぞれの発達段階での臨床的支援の課題について理解する。

3・4年次では、発達心理学及び発達臨床心理学に特化した専門的・臨床的な理論と方法論について、各自の興味・関心に応じた多様な講義と演習科目を通じて学ぶ。また、公認心理師資格科目の履修者については、指定講義・演習科目のほか、学外の臨床関連施設（病院・福祉施設・学校・司法矯正機関など）での学外実習をおこなう。

[発達心理学の応用領域]

3年次には研究法に関する演習科目を通して、卒論に向けた具体的な課題設定をおこない、研究計画の立案や具体的なデータ収集・分析の作業を通じて研究方法論を修得する。

4年次には学修の集大成として、人間の生涯にわたる発達や心の健康に関する発達心理学的課題について実証的な検討をおこない、卒業論文を作成する。

【初等教育学科】

幼稚園教諭・保育士と小学校教諭の養成を学科の目標とするが、学校・園の種別による教育内容・教育方法の違いに対応できるように、履修上のコースとして、幼児教育コースと児童教育コースを設定する。いずれのコースにおいても、教育職員免許状、また保育士資格が取得できるように、法令に準拠したカリキュラムとして設定する。

まず、幼稚園・小学校で取り扱われる教育内容の基盤となる知識や技能を養う科目としての「領域及び保育内容の指導法に関する科目」や「教科及び教科の指導法に関する科目」、教育及び教育的指導に関する基礎的・理論的また実践的な内容を取り扱う科目としての「教育の基礎的理解に関する科目等」を学ぶ。「保育に関する科目」においても、保育に関する理論と知識・技能、またそれらを実践の場で活かすための内容を学ぶ。

次に、学校や園において子どもとともに活動する体験を通じて学ぶ【教育体験】【保育体験】、そして【教育実習】【保育実習】では、現場の保育者・教師の指導のもとに、子どもの活動を見守り、支え、指導する経験から学ぶ。総まとめとして履修する【保育実践演習】【教職実践演習】では、幼稚園・小学校教職課程、保育士養成課程の学修を総括し、実践的な力量形成を目指す。

そして、専門的職業人としての教師・保育者は、自ら課題を設定し、学修・研究を深めていくこともまた重要である。教科内容や教職に直接係わる課題、さらに教育学や保育学の研究領域について広く関心を持ち、理論と実践を結びつけながら自らの興味に基づいて研究していただくの力量を形成することを目指す。総まとめとしての【卒業研究】に向けて、2年次の【初等教育基礎演習】、3年次の【初等教育演習】を中心として、隣接領域科目としての児童文化学科、発達心理学科の科目履修も視野に入れながら、学生の関心に応じた幅広く専門的な学修に発展するよう配慮していく。

2022年度以前入学者用

1. 卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【児童文化学科】

（2021年度入学者）

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

子どもに限らず大人も共有する文化の特性を把握し、その社会的意味を理解している。すなわち、文化のボーダーレス化が進む現代社会において、その原点となる〈子ども〉の視点や感受性・発想を分析・考察する能力を身につけている。

子どもにかかわる文化や文学について、理論的かつ実践的に探究することができ、その理解を通して、文化の伝承や創造に直接的あるいは間接的にかかわることができる。

（2020年度以前入学者）

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

人間社会の基盤となる子ども・大人・社会の関係について、また、子どもにかかわる文化や文学について、深い理解と学際的で幅広い知識を持ち、分析と考察をする能力を身につけている。

また、これらの知識と豊かな発想力を生かした創作・制作活動により、子どもと大人の双方に向けた文化活動、創作活動ができる。

【発達心理学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

胎児期から老年期にいたる生涯発達の標準形と多様性を、生物学的・社会文化的な背景とともに理解している。すなわち人間は遺伝学的・生得的に規定されると同時に、どのような環境で育ち大人になっていくかという社会文化的文脈によっても大きく左右されるという生涯発達心理学の考え方を身につけ、人間を発達の視点から捉えることができる。

人生のさまざまな時期に遭遇する発達の課題や危機を理解し、発達障害や精神疾患等の臨床的な問題とそれらへの対応に関する専門知識を、人々の心の健康の増進を図るためのスキルとして活かすことができる。

実験や調査、観察などの心理学の基本的な方法を身につけるとともに、それを使って現代社会の発達心理学的課

題を積極的に見出して探求することができる。

【初等教育学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような専門的力量を身につけた学生に学位を授与する。

時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必須な能力を身につけている。

子ども一人一人をかけがえのない存在としてとらえ、その個性を尊重しながら知性と感性をともに育てていくことができる。

子どもをめぐる社会や文化の状況を理解し、子どもの心身の発達を十全に保証する場と機会を創り出そうと努力することができる。

人間の生涯発達を見通し、子どもに必要な支援を与えることができ、また保護者にも適切な情報や助言を提供することができる。

これらにより、常に理論と実践の往還を図りつつ、専門的職業人である小学校教諭、幼稚園教諭・保育士として社会的使命を全うできる卒業生、及び地域社会における子ども支援・子育て支援の活動に携わることによって社会に貢献できる卒業生を送り出す。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

建学の精神の基礎である聖書、およびカトリックの人間観・世界観を学ぶために次の科目を全学年にわたって必修・選択必修としてすべての学生に提供する。

1. キリスト教学Ⅰ・Ⅱ（第1・2学年必修）

- ・出会う他者を共感的に受け入れる力と自己肯定力を養成する。
- ・創立母体・シャルトル聖パウロ修道女会の精神を学びすべての人々、特に困難の中にある人々との連帯の態度を養成する。
- ・白百合学園の歴史を学び本大学のメンバーとしての自覚を涵養する。
- ・聖書についての基礎的な知識を学び、それを実生活に生かす態度を養成する。

2. 宗教学（第3・4学年選択必修）

キリスト教学Ⅰ・Ⅱの学びを前提として建学の精神をさらに発展させた形でとらえるために＜学びの体系＞として以下の6領域を設ける。

- 「聖書・神学」「哲学・思想」「芸術・文化」「いのちの倫理・霊性」「社会倫理・実践」「諸宗教・その他」
- ・この6領域から学生の自己意欲、将来のライフデザインにしたがって必修選択した科目を通して本学の建学の精神に直接根差した教養と生きる力を養成する。
- ・時流を越えて普遍的に守るべき価値を保ち、自分と世界の未来を創造的に切り開くためには生涯にわたって人格形成に取り組む必要があることを自覚する力を養成する。

深い教養と知性、奉仕の心を持つ自立した女性になるための土台を培う目的で、次の科目を必修・選択必修として全学の学生に提供する。

1. 「白百合事始め」科目：人が人として有意義に生きることを考えるとともに、生活の質をより豊かなものにするための幅広い知識を身につける（生命・健康・福祉・人生観・仕事観に関わる科目）。
2. 「学問の作法」科目：自らの問題を発見し、自ら考え、それを自らの言葉で表現するための理解力と思考力と表現力とを養う（理解力・思考力・表現力養成に関わる科目群）。

3. 「基礎的素養」科目：過去から現代に至る人間精神の多様な所産に目を開くことを通じて様々なものの見方を習得し、文化の基本的な理解を図る（哲学・歴史・文学・社会学・人間科学・芸術・宗教・自然科学に関わる科目群）。

4. 「多角的視点」科目：現代社会において求められている多角的な視点からものごとを探求する能力を、体験や実践を通して修得する（フィールド演習科目、プロジェクト科目、異文化コミュニケーション科目）

グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の必修・選択科目を提供する。

1. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。

2. 学生個々のレベルにあわせた習熟度別のクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、LL 教室や情報科学教室など ICT 設備を利用する。

以上に掲げる本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部では、1～4 年次に「学部共通科目」を設定する。人間とは何か、特に子どもとはどのような存在か、どのようにして人間として発達していくのか、その養いとなる文化的な営みとは何かなどについて、3 学科の専門領域に共通して関連する知識や理論を学び、専門科医学修の視野を広げるよう配慮している。

そして各学科の「専門科目」を通じて、学生に豊かな文化的見識と創造性に満ちた人間としての成長を促すため、専門的知識と理論の学修を深め、それぞれの領域における方法論の習得を通じて物事を批判的に考察する態度を身につけることを企図して、それぞれの専門教育カリキュラムを構成する。

【児童文化学科】

〔2021 年度入学者〕

子どもを取り巻く文化的環境を、子どもの理解だけでなく、人間としての総合的教養に結びつくものととらえ、児童文化および児童文学の分析・考察や制作・創作を通して、子どもの世界を深く掘り下げることのできる専門的な知識・思考力・表現力を育成する。

科目の配置は、児童文化・児童文学についての基礎から、卒業論文・卒業制作へと段階的に学べるようになっている。また、児童文化・児童文学にかかわる多彩な科目を準備し、自由選択科目の幅を広く設定している。

初年次では、児童文化入門・児童文学入門を通して専門分野の基礎知識を身につける。

2 年次では、児童文化および児童文学に対する理論的アプローチや実践的アプローチの基本的考え方や方法について、少人数クラスで学ぶ。

3 年次では、児童文化研究、児童文学研究のテーマに沿った分析・考察方法について、あるいは制作・創作の基礎および技法について、少人数クラスで学ぶ。

4 年間の学びの集大成として、各人の児童文化・児童文学への関心を活かして卒業論文の執筆、あるいは制作・創作を行う。

学生が広く学べるよう、自由選択科目群を低学年にも配置し、学生の知的関心を呼び起こし、研究分野選択の道しるべとしている。これらの選択科目は、実践的な科目と講義科目に分け、学生が両者をバランスよく学べるように配置している。

〔2020 年度以前入学者〕

子どもを取り巻く文化的環境を、子どもの理解だけでなく、人間としての総合的教養に結びつくものととらえ、児童文化や児童文学の分析と考察を通して、子どもの世界を深く掘り下げることのできる専門的な知識と思考力を育成する。また、これを基盤として、絵本・物語などの創作力・制作力を育てる。

科目の配置は、児童文学・文化についての基礎から、卒業論文・卒業制作へと段階的に学べるようになっている。また、児童文学・文化にかかわる多彩な科目を準備し、自由選択科目の幅を広く設定している。

初年次では、児童文学、児童文化、創作・制作を専門的に学ぶ上で必要な、児童文学、伝承文学、児童観の変遷、子どもの特性など専門分野の基礎知識を身につける。

2 年次、3 年次では、児童文学研究、児童文化研究のテーマに沿った調査・考察方法について、また創作・制作

の基礎および技法を少人数クラスで学ぶ。

4年間の学びの集大成として、児童文学・文化に関心を持つ学生は卒業論文の執筆、創作・制作を目指した学生は、絵本、アニメーション、児童文学作品等の卒業制作・創作を行う。

学生が広く学べるよう、自由選択科目群を低学年にも配置し、学生の知的関心を呼び起こし、研究分野選択の道しるべとしている。これらの選択科目は、実践的な科目と講義科目に分け、学生が両者をバランスよく学べるように配置している。

1年次から4年次にわたり学部共通科目を選択履修することで、発達心理学や初等教育学に関する知識にも触れ、児童文化学科の知識にとどまらない人間総合学部の学生にふさわしい広い知的視野を養う。

【発達心理学科】

生涯発達心理学を理解し、発達の視点から人間を包括的に理解する学生を育てるという発達心理学科の教育研究上の目的に対応して、心理学の基礎理論および方法論を十分に修得した上で発達心理学を学ぶという基本方針のもとにカリキュラムを編成している。また、人生のさまざまな時期に遭遇する発達の課題や危機を理解し、発達障害や精神疾患等の臨床的問題の解決や支援に心理学の知識を活かすことができるよう、発達障害や臨床心理学の科目を設けている。

〔心理学の基礎〕として、心理学を専門的に学ぶ上での基礎となる理論と各種方法論を、1・2年次で学ぶ。

〔心理学の方法〕として、実証科学としての心理学の基礎である心理統計学について、基本的考え方からやや高度の分析方法までを1・2年次で学ぶ。それと並行して、実験・調査・観察・検査という心理学の基本的方法について、実際に自分たちでデータを取り、それを分析することを通して学ぶ。

〔心理学の主要分野〕として、認知心理学、パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学などの心理学の主要分野について、3・4年次に学習する。

〔発達心理学高度専門分野〕として、発達心理学及び発達臨床心理学に特化した内容について、専門的・臨床的な理論と方法を、3・4年次で学ぶ。

〔発達心理学応用的関連分野〕では、心理学の理論と方法の実践的応用としての「子ども観察」、児童文化についての「児童文化・子ども論」などを、3・4年次で学ぶ。

〔卒業論文〕では、4年間の学習の集大成として4年次に、発達を中心とした心理学的問題関心にもとづいてデータ収集と分析を行い、卒業論文を作成する。

【初等教育学科】

(2022年度入学者)

幼稚園教諭・保育士の養成と小学校教諭の養成を目標としつつ、学校・園の種別による教育内容・教育方法の違いに対応できるように、履修上のコースとして、幼児教育コースと児童教育コースを設定する。

まず、法令に準拠して設定される科目群として、幼稚園・小学校で取り扱われる教育内容の基盤となる知識や技能を養う科目としての「領域及び保育内容の指導法に関する科目」や「教科及び教科の指導法に関する科目」、教育及び教育的指導に関する基礎的・理論的、また実践的な内容を取り扱う科目としての「教育の基礎的理解に関する科目等」、保育に関する理論と知識・技能、またそれらを実践の場で活かすための科目としての「保育に関する科目」を学ぶ。さらに、学校や園において子どもとともに活動する体験を通じて学ぶ【教育体験】【保育体験】、そして【教育実習】【保育実習】では現場の保育者・教師の指導のもとに、子どもの活動を見守り、支え、指導する経験から学ぶ。総まとめとして履修する【保育・教職実践演習】【教職実践演習(小)】は、大学における初等教職課程、保育士養成課程の学修を総括し、卒業後も学び続ける教師・保育者として研鑽を積んでいけるように見通す。これらの科目は1・2年次から、3・4年次まで順次開講される。

次に、専門的職業人としての教師・保育者は、自ら課題を設定し、学修・研究を深めていくこともまた重要である。教科内容や教職に直接係わる課題、さらに教育学や保育学の研究領域について広く関心を持ち、理論と実践を結びつけながら自らの興味に基づいて研究していただくの力量を形成することを目指す。総まとめとしての【卒業研究】に向けて、2年次の【初等教育基礎演習】、3年次の【初等教育演習】を中心として、隣接領域科

目としての児童文化学科、発達心理学科の科目履修も視野に入れながら、学生の関心に応じた幅広く専門的な学修に発展するよう配慮している。

(2021年度以前入学者)

幼稚園教諭・保育士の養成と、幼児教育・保育に対する理解を深めた小学校教諭の養成を目標としつつ、学校・園の種別による教育内容・教育方法の違いに対応できるように、履修上のコースとして、幼児教育コースと児童教育コースを設定する。

まず、法令に準拠して設定される科目群として、幼稚園・小学校で取り扱われる教育内容の基盤となる知識や技能を養う科目としての「教科に関する科目」、教育及び教育的指導に関する基礎的・理論的、また実践的な内容を取り扱う科目としての「教職に関する科目」、保育に関する理論と知識・技能、またそれらを実践の場で活かすための科目としての「保育に関する科目」を学ぶ。さらに、学校や園において子どもとともに活動する体験を通じて学ぶ「教育体験」「保育体験」、そして「教育実習」「保育実習」では現場の保育者・教師の指導のもとに、子どもの活動を見守り、支え、指導する経験から学ぶ。総まとめとして「保育・教職実践演習」「教職実践演習」では、大学における保育士養成課程、幼稚園・小学校教員免許課程の学修を総括し、卒業後も学び続ける保育者・教師として研鑽を積んでいけるように見通す。これらの科目は1・2年次を中心に、3・4年次まで順次開講される。

次に、専門的職業人としての教師・保育者は、自ら課題を設定し、学修・研究を深めていくこともまた重要である。教科内容や教職に直接係わる課題、さらに教育学や保育学の研究領域について広く関心を持ち、理論と実践を結びつけながら自らの興味に基づいて研究していただくの力量を形成することを目指す。総まとめとしての「卒業研究」に向けて、2年次の「初等教育基礎演習」、3年次の「初等教育演習」を中心として、「隣接領域科目」としての児童文化学科、発達心理学科の科目履修も視野に入れながら、学生の関心に応じた幅広く専門的な学修に発展するよう配慮している。

人間総合学部

卒業要件単位数

人間総合学部 卒業要件単位数

人間総合学部に在籍する学生は、以下の表に示す科目区分ごとの要件を満たした上で、合計124単位以上修得することが卒業の要件となります。「科目区分を特定しない自由選択単位」とは、「各科目区分の要件単位数合計」と「卒業要件単位数(124単位)」との「差」にあたる単位です。本学で開講されているすべての科目より履修可能な科目を選んで履修し、その差をうめるよう単位を修得してください。

なお、入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目の修得単位について本学での単位認定を希望する場合は、入学年度前期の履修登録申請期間終了時まで、教務課へ申し出てください。

科目区分 \ 学 科	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
宗 教 学 科 目	8	8	8
共 通 科 目	12	12	12
外 国 語 科 目	8	8	8
学 部 共 通 科 目	8	8	8
所 属 学 科 専 門 科 目	80	78	88
科目区分を特定しない自由選択単位 (各科目区分の要件単位数合計と卒業要件単位数との「差の単位」)	8	10	—
卒 業 要 件 単 位	124		

人間総合学部

宗教学科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 宗教学科目

1. カリキュラム

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ	キリスト教の基礎を学び、建学の精神について理解します。	キリスト教の人間観・価値観、建学の精神について理解を深めます。	聖書、神学、哲学、歴史、芸術、倫理、社会課題、霊性、宗教学等に関わる種々のテーマを扱う開設科目から選択し、キリスト教学Ⅰ、Ⅱでの学びを各自の問題関心に応じて発展・深化させます。			
	キリスト教学Ⅰ、Ⅱを通して、私たちの生きる基盤がどこにあるかをイエス・キリストの教えを通じて学びます。自分を越えた存在からの関わりに気づくことで、出会った他者を共感的に受け入れ、他者を自分と同じように大切にすることを養います。					
必修	キリスト教学ⅠA (1) キリスト教学ⅠB (1)	キリスト教学ⅡA (1) キリスト教学ⅡB (1)			4単位	
選択必修			宗教学ⅠA (1) 宗教学ⅠN (1) 宗教学ⅠB (1) 宗教学ⅠO (1) 宗教学ⅠC (1) 宗教学ⅠP (1) 宗教学ⅠD (1) 宗教学ⅠQ (1) 宗教学ⅠE (1) 宗教学ⅠR (1) 宗教学ⅠF (1) 宗教学ⅠS (1) 宗教学ⅠG (1) 宗教学ⅠT (1) 宗教学ⅠH (1) 宗教学ⅠU (1) 宗教学ⅠI (1) 宗教学ⅠV (1) 宗教学ⅠJ (1) 宗教学ⅠW (1) 宗教学ⅠK (1) 宗教学ⅠX (1) 宗教学ⅠL (1) 宗教学ⅠY (1) 宗教学ⅠM (1) 宗教学ⅠZ (1)		1単位	
			宗教学ⅡA (1) 宗教学ⅡN (1) 宗教学ⅡB (1) 宗教学ⅡO (1) 宗教学ⅡC (1) 宗教学ⅡP (1) 宗教学ⅡD (1) 宗教学ⅡQ (1) 宗教学ⅡE (1) 宗教学ⅡR (1) 宗教学ⅡF (1) 宗教学ⅡS (1) 宗教学ⅡG (1) 宗教学ⅡT (1) 宗教学ⅡH (1) 宗教学ⅡU (1) 宗教学ⅡI (1) 宗教学ⅡV (1) 宗教学ⅡJ (1) 宗教学ⅡW (1) 宗教学ⅡK (1) 宗教学ⅡX (1) 宗教学ⅡL (1) 宗教学ⅡY (1) 宗教学ⅡM (1) 宗教学ⅡZ (1)		1単位	
				宗教学ⅢA (1) 宗教学ⅢN (1) 宗教学ⅢB (1) 宗教学ⅢO (1) 宗教学ⅢC (1) 宗教学ⅢP (1) 宗教学ⅢD (1) 宗教学ⅢQ (1) 宗教学ⅢE (1) 宗教学ⅢR (1) 宗教学ⅢF (1) 宗教学ⅢS (1) 宗教学ⅢG (1) 宗教学ⅢT (1) 宗教学ⅢH (1) 宗教学ⅢU (1) 宗教学ⅢI (1) 宗教学ⅢV (1) 宗教学ⅢJ (1) 宗教学ⅢW (1) 宗教学ⅢK (1) 宗教学ⅢX (1) 宗教学ⅢL (1) 宗教学ⅢY (1) 宗教学ⅢM (1) 宗教学ⅢZ (1)		1単位
				宗教学ⅣA (1) 宗教学ⅣN (1) 宗教学ⅣB (1) 宗教学ⅣO (1) 宗教学ⅣC (1) 宗教学ⅣP (1) 宗教学ⅣD (1) 宗教学ⅣQ (1) 宗教学ⅣE (1) 宗教学ⅣR (1) 宗教学ⅣF (1) 宗教学ⅣS (1) 宗教学ⅣG (1) 宗教学ⅣT (1) 宗教学ⅣH (1) 宗教学ⅣU (1) 宗教学ⅣI (1) 宗教学ⅣV (1) 宗教学ⅣJ (1) 宗教学ⅣW (1) 宗教学ⅣK (1) 宗教学ⅣX (1) 宗教学ⅣL (1) 宗教学ⅣY (1) 宗教学ⅣM (1) 宗教学ⅣZ (1)		1単位

8
単
位

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部_に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、宗教学科目を8単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は、指定された年次・学期に履修し、単位を修得してください。

科目名	履修すべき年次・学期	指定された年次・学期に単位を修得できなかった場合の履修方法
宗教学Ⅰ A～Z	3年次前期	次学期以降、宗教学ⅠまたはⅡを履修することで、修得できなかった分を補うことができます 例：3年次前期「宗教学Ⅰ」単位未修得 → 3年次後期「宗教学Ⅱ」を2科目履修 (1科目は指定年次・学期分として、1科目は「宗教学Ⅰ」の未修得単位を補う分として履修)
宗教学Ⅱ A～Z	3年次後期	例：3年次後期「宗教学Ⅱ」単位未修得 → 4年次前期「宗教学Ⅲ」と「宗教学Ⅰ」を履修 (「宗教学Ⅲ」は指定年次・学期分として、「宗教学Ⅰ」は「宗教学Ⅱ」の未修得単位を補う分として履修)
宗教学Ⅲ A～Z	4年次前期	次学期以降、宗教学ⅢまたはⅣを履修することで、修得できなかった分を補うことができます
宗教学Ⅳ A～Z	4年次後期	例：4年次前期「宗教学Ⅲ」単位未修得 → 4年次後期「宗教学Ⅳ」を2科目履修 (1科目は指定年次・学期分として、1科目は「宗教学Ⅲ」の未修得単位を補う分として履修)

なお、宗教学は3・4年次合同で授業が行われるため、「Ⅰ」と「Ⅲ」、「Ⅱ」と「Ⅳ」の組み合わせにおいて、前年度までに単位を修得した科目と同じアルファベットの科目を履修することはできません。

3) アセンブリー行事「修養会」

「キリスト教学Ⅰ B」「キリスト教学Ⅱ B」の履修者(再履修者含む)は、後期に行われるアセンブリー行事「修養会」へ必ず出席してください。修養会での取り組みも成績評価に含まれます。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ(キャンパスライフ > 授業・履修)で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目(指定された年次に単位を修得できなかった必修科目)については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目(開講授業科目表に「制」マークのある科目)については、**事前登録**を行ってください。事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してく

ださい。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) 宗教学科目の履修・登録に関するサポート

宗教学科目の履修・登録についての質問は、カトリック教育センターへお問い合わせください。

人間総合学部

共通科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

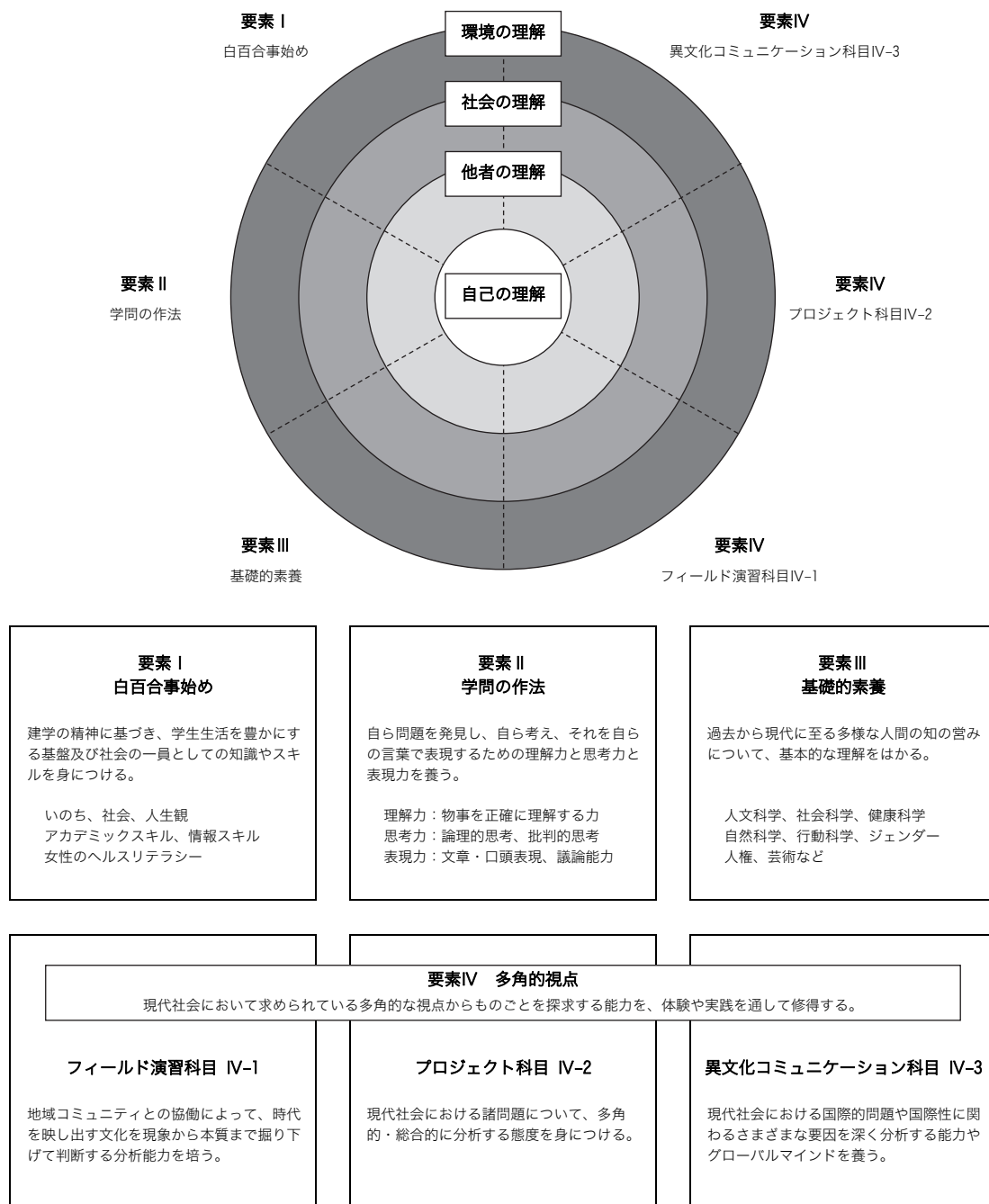
人間総合学部 共通科目

1. カリキュラム

共通科目は、人間的・知的基盤を提供するもので、幅広い見識のもと、課題を見つけ出し解決策を自分で考え、自立的に行動できる女性の育成にその教育目標をおいています。

この目標達成のために、カリキュラムを4つの要素に分類し、要素ごとに習得目標を明示しました。この分類は、シラバスの備考欄に記載されていますので、履修科目を決めるにあたり参考にして、4つの要素からバランスよく学習するようにして下さい。

共通科目習得要素分類表



2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、共通科目を12単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。なお、共通科目において開講されている、資格課程等に関連する科目の単位を修得した場合、それらはすべて共通科目の単位となります。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学ホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 共通科目の履修・登録に関するサポート

共通科目の履修・登録についての質問は、基礎教育センターへお問い合わせください。

人間総合学部

外国語科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 外国語科目

1. カリキュラム

2024年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
必修	英語コミュニケーションⅠ (1) 英語コミュニケーションⅡ (1) 総合英語Ⅰ (1) 総合英語Ⅱ (1)	英語コミュニケーションⅢ (1) 英語コミュニケーションⅣ (1) 総合英語Ⅲ (1) 総合英語Ⅳ (1)			8単位	8 単 位
選択	選択フランス語Ⅰ (1) 選択フランス語Ⅱ (1)	選択フランス語Ⅲ (1) 選択フランス語Ⅳ (1)				
	ドイツ語AⅠ (1) ドイツ語AⅡ (1) ドイツ語BⅠ (1) ドイツ語BⅡ (1)	ドイツ語AⅢ (1) ドイツ語AⅣ (1) ドイツ語BⅢ (1) ドイツ語BⅣ (1)				
	選択中国語Ⅰ (2)*1 選択中国語Ⅱ (2)*1	選択中国語Ⅲ (1) 選択中国語Ⅳ (1)				
	選択韓国語Ⅰ (2)*1 選択韓国語Ⅱ (2)*1	選択韓国語Ⅲ (1) 選択韓国語Ⅳ (1)				
	海外研修(韓国) (2) 海外研修(中国語圏) (2)					
			English for JFL TeachersAⅠ (1) English for JFL TeachersAⅡ (1)	English for JFL TeachersBⅠ (1) English for JFL TeachersBⅡ (1)		

*1 週2回授業です。

2023 年度以前入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
必修	英語コミュニケーションⅠ (1) 英語コミュニケーションⅡ (1) 総合英語Ⅰ (1) 総合英語Ⅱ (1)	英語コミュニケーションⅢ (1) 英語コミュニケーションⅣ (1) 総合英語Ⅲ (1) 総合英語Ⅳ (1)			8 単位	
選択	選択フランス語Ⅰ (1) 選択フランス語Ⅲ (1) 選択フランス語Ⅱ (1) 選択フランス語Ⅳ (1) 【▽23 フランス語入門 (2)】 【▽23 初級フランス語 (2)】 【▽23 中級フランス語 (2)】				8 単位	
	ドイツ語 AⅠ (1) ドイツ語 AⅡ (1) 【▽23 ドイツ語Ⅰ A (2)】	ドイツ語 AⅢ (1) ドイツ語 AⅣ (1) 【▽23 ドイツ語Ⅱ A (2)】				
	ドイツ語 BⅠ (1) ドイツ語 BⅡ (1) 【▽23 ドイツ語Ⅰ B (2)】	ドイツ語 BⅢ (1) ドイツ語 BⅣ (1) 【▽23 ドイツ語Ⅱ B (2)】				
	選択中国語Ⅰ (2)*2 選択中国語Ⅱ (2)*2 【▽23 中国語 (初級) (4)】	選択中国語Ⅲ (1) 選択中国語Ⅳ (1) 【▽23 中国語 (中級) A (2)】 【▽23 中国語 (中級) B (2)】				
	選択韓国語Ⅰ (2)*2 選択韓国語Ⅱ (2)*2 【▽23 韓国語 (初級) (4)】	選択韓国語Ⅲ (1) 選択韓国語Ⅳ (1) 【▽23 韓国語 (中級) A (2)】 【▽23 韓国語 (中級) B (2)】				
	海外研修 (韓国) (2) 【▽23 海外研修 (韓国語) (2)】 【▽22 韓国の言語と文化 (2)】 海外研修 (中国語圏) (2)					
			English for JFL Teachers AⅠ (1) English for JFL Teachers AⅡ (1) 【▽23 English for JFL TeachersⅠ (2)】	English for JFL Teachers BⅠ (1) English for JFL Teachers BⅡ (1) 【▽23 English for JFL TeachersⅡ (2)】		

▽→以前開講科目 (最終開講年度を西暦下 2 桁で表示)

*1 週 2 回授業です。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部 に在籍する学生は、カリキュラム表に示すとおり、外国語必修科目を8単位修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

なお、英語の必修科目については、入学時と1年次学年末に実施される英語プレイズメントテストの結果に基づきクラス分けが行われます。英語プレイズメントテストの実施詳細については、対象者へ別途通知いたします。

2) 必修科目の単位認定（TOEICの点数による外国語科目「英語」単位認定について）

TOEIC（TOEIC-IPテスト含む）の点数を自ら申し出ることにより、以下の表のとおり外国語科目「英語」の単位認定を受けることができます（再履修科目を除く）。単位認定を希望する場合は、事前登録期間が始まる前までに教務課へ連絡し、指示された方法で申請書類（①TOEICの点数による単位認定申請書、②申請より1年以内に発行された「Official Score Certificate（公式認定証、デジタル公式認定証のいずれも可）」）を提出してください。なお、申請は年度ごとに行う必要があります。

単位認定可能科目		最大認定単位	認定基準
1年次科目	英語コミュニケーションⅠ（1） 総合英語Ⅰ（1）	英語コミュニケーションⅡ（1） 総合英語Ⅱ（1） 4単位	TOEIC 600点以上
2年次科目	英語コミュニケーションⅢ（1） 総合英語Ⅲ（1）	英語コミュニケーションⅣ（1） 総合英語Ⅳ（1） 4単位	TOEIC 700点以上

※単位認定科目の成績は「T（成績認定）」となります。

※認定単位数は履修登録単位数の上限には含まれません。

※認定単位は資格取得のための単位とすることができない場合があります。詳細については各資格課程のページを参照してください。

※本制度で単位を認定された場合には、英語英文学科専門科目「TOEIC上級A」「TOEIC上級B」を履修することを推奨します。

3) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラム等に必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、相応の学習歴がある場合は、Ⅰ・Ⅱ（初級程度）を履修せずに、Ⅲ・Ⅳ（中級程度）から履修を開始することも可能です。

なお、ドイツ語の選択科目は開講されていませんが、必修用のクラスを選択科目として履修することができます。システム上、自分では履修登録できませんので、希望者は事前登録・本登録期間中に教務課へ申し出てください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。
英語は再履修用クラスで再履修することになります。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、当該年次必修科目と再履修科目を同時履修する場合など、やむを得ない場合にはこの限りではありません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の科目の授業登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 外国語科目の履修・登録に関するサポート

外国語科目の履修・登録についての質問は、教務課へお問い合わせください。内容により、教務課より各言語担当へ連携いたします。

人間総合学部

学部共通科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 学部共通科目

1. カリキュラム

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
選択 必修	子どものイメージ (2) 子どもとファンタジー (2) 子どもと社会 (2)	学校と発達 (2) 家庭の教育・地域の教育 (2) 子どもと福祉 (2)	子育て支援論 (2) ジェンダーと社会 (2) 現代社会と生涯発達 (2) (▽19 発達と文化 (2))		8単位

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部 に在籍する学生は、カリキュラム表に示すとおり、学部共通科目を8単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。
CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 選択必修科目の登録

すべての授業科目について[本登録](#)を行ってください。

3) 学部共通科目の履修・登録に関するサポート

学部共通科目の履修・登録についての質問は、各自の所属学科研究室もしくは教務課へお問い合わせください。

人間総合学部

児童文化学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 児童文化学科

1. カリキュラム

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	「児童文学入門」や「児童文化入門をはじめとする科目を履修し、子どもに関わる文学と文化の基礎を学ぶ。	「基礎演習」などを履修しながら自らの関心を絞り込むとともに、専門領域の研究の仕方やリサーチの手法、創作や制作を実践的に学ぶ。	卒業論文・卒業制作を視野に入れながら、「演習」などを通じて自分が取り組みたいテーマや方向性を確立する。	担当教員の指導を受けながら、4年間にわたる児童文化学科での学びの集大成として、卒業論文・卒業制作に取り組む。	
必修	児童文学入門A (2) 児童文学入門B (2) 児童文学史・日本I (2) 児童文学史・日本II (2) 児童文化入門A (2) 児童文化入門B (2)	児童文学史・英語圏I (2) 児童文学史・英語圏II (2) 基礎演習A (2) 基礎演習B (2) キャリア研究 (2)	演習 (4)	卒業論文 (4-8)	2024.03.14訂正 34単位
選択A	日本児童文学研究A (2) 日本児童文学研究B (2) 英米児童文学研究A (2) 英米児童文学研究B (2) 伝承文学研究 (2) 創作文化研究I (2) 創作文化研究II (2)	キャラクター文化研究 (2) ストーリーテリング研究I (2) ストーリーテリング研究II (2) ストーリーテリング研究III (2) わらべうた研究 (2) マザーグース研究 (2)	編集研究 (2) 出版演習I (2) 出版演習II (2) アニメーション制作A (2) (▽19 アニメーション制作I (2)) アニメーション制作B (2) (▽19 アニメーション制作II (2))		80単位
		絵本制作研究I (2) 絵本制作研究II (2)			
選択B	児童文学・日本A (2) 児童文学・日本B (2) 児童文学・ドイツA (2) 児童文学・ドイツB (2) 児童文学・イギリスA (2) 児童文学・イギリスB (2) 児童文学・フランスA (2) 児童文学・フランスB (2)	児童文学・アメリカA (2) 児童文学・アメリカB (2) 児童文学・カナダ (2) 児童文学・北欧 (2) 児童文学・韓国 (2) 児童文学・YA文学A (2) 児童文学・YA文学B (2) (▽20 児童文学・YA文学 (2))	おもちゃ論A (2) おもちゃ論B (2) キャラクター論 (2) マンガ論A (2) (▽20 マンガ論 (2)) マンガ論B (2) アニメ論 (2) サブカルチャー論 (2) 人形文化論A (2) 人形文化論B (2) 絵本論A (2) (▽20 絵本論 (2)) 絵本論B (2)	創作演習A I (2) 創作演習A II (2) 創作演習B I (2) 創作演習B II (2) 翻訳演習I (2) 翻訳演習II (2) (▽20 児童文学・日本C (2)) (▽20 児童文学・日本D (2))	
		伝承文学 (2) ネオ・ファンタジーA (2) (▽20 ネオ・ファンタジーI (2)) ネオ・ファンタジーB (2) (▽20 ネオ・ファンタジーII (2))	児童文化・紙芝居 (2) 児童文化・民俗と子ども (2) 児童文化・子ども論 (2)	絵本演習I (2) 絵本演習II (2) 絵本制作I (2) 絵本制作II (2) (▽23 S Fファンタジー (2)) (▽20 S FファンタジーI (2)) (▽20 S FファンタジーII (2))	

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

児童文化学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、児童文化学科専門科目を80単位以上修得することが卒業の要件となります。

2) 「卒業論文」の履修条件

4年次必修科目「卒業論文」の履修にあたっては、前年度までに1・2年次必修科目（但し「キャリア研究」を除く）を合計20単位修得していることが条件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。児童文化学科の成績基準は次のとおりです。

「学科の1・2年次必修科目（但し「キャリア研究」を除く）の10科目中、8科目以上の成績が「S」であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

なお、「基礎演習A」と「基礎演習B」は、それぞれ異なる担当で履修します。

3) 選択科目A・Bの履修

選択科目A・Bは1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、児童文化学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 児童文化学科専門科目の履修・登録に関するサポート

児童文化学科専門科目の履修・登録についての質問は、児童文化学科研究室へお問い合わせください。

人間総合学部

発達心理学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 発達心理学科

1. カリキュラム

2022年度以降入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ		心理学全体の概要を学びながら、発達心理学の講義・演習・研究法に関する基礎を学習。	演習形式の授業で基礎となる理論や知識を習得する。実験・調査を通じて研究のノウハウを身に付ける。	発達心理学のさまざまなテーマによる講義や演習を履修。3年次末の卒論ゼミ決定を前に自由研究を進める。	発達心理学の基本的なテーマに沿った研究課題を決定。観察・実験・調査・分析等を行い、卒業論文を完成させる。		
必修		<u>心理学概論A</u> (2) <u>心理学概論B</u> (2) 発達心理学基礎演習A (2) 発達心理学基礎演習B (2) <u>心理学統計法ⅠA</u> (2) <u>臨床心理学概論</u> (2)	<u>発達心理学概論A</u> (2) <u>発達心理学概論B</u> (2) 発達臨床心理学概論 (2) <u>心理学実験Ⅰ</u> (4) <u>心理学実験Ⅱ</u> (4) <u>心理学統計法ⅠB</u> (2) <u>心理学統計法Ⅱ</u> (2) 論文講義基礎演習 (2) 英語論文講義演習 (2) キャリア研究 (2)	<u>心理学研究法</u> (2) 心理学専門演習 (2)	卒業論文 (8)	48単位	78単位
選択必修	特講科目			<u>知覚・認知心理学</u> (2) <u>感情・人格心理学</u> (2) <u>社会・集団・家族心理学</u> (2) 発達心理学特講A (2) 発達心理学特講B (2)	<u>教育・学校心理学</u> (2) <u>精神疾患とその治療</u> (2) <u>障害者・障害児心理学</u> (2) 臨床心理学特講A (2) 臨床心理学特講B (2)	10単位以上	
	演習科目			発達心理学演習A (2) 発達心理学演習B (2) 発達心理学演習C (2) 発達心理学演習D (2) 発達心理学演習E (2)	発達心理学演習F (2) 発達心理学演習G (2) 発達心理学演習H (2) <u>心理的アセスメントA</u> (2) <u>心理的アセスメントB</u> (2)	8単位以上	
選択		<u>公認心理師の職責</u> (2) <u>福祉心理学</u> (2) <u>健康・医療心理学</u> (2) <u>人体の構造と機能及び疾病</u> (2)	<u>司法・犯罪心理学</u> (2) <u>産業・組織心理学</u> (2)	<u>関係行政論</u> (2) <u>学習・言語心理学</u> (2)	<u>神経・生理心理学</u> (2) <u>心理学的支援法</u> (2)		
				<u>心理演習</u> (2) *2			
				<u>心理実習</u> (2) *2	児童文化・民俗と子ども (2) 児童文化・子ども論 (2)		

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

*1 公認心理師科目は太字・下線で表示されています。

*2 「心理演習」「心理実習」は、公認心理師カリキュラム志望届（Web）を提出し、履修要件（「人間総合学部 公認心理師カリキュラム 4. 心理演習 及び 5. 心理実習」参照）を満たした学生のみ履修できます。

2021年度以前入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ		心理学全体の概要を学びながら、発達心理学の講義・演習・研究法に関する基礎を学習。	演習形式の授業で基礎となる理論や知識を習得する。実験・調査を通じて研究のノウハウを身に付ける。	発達心理学のさまざまなテーマによる講義や演習を履修。3年次末の卒論ゼミ決定を前に自由研究も進める。	発達心理学の基本的なテーマに沿った研究課題を決定。観察・実験・調査・分析等を行い、卒業論文を完成させる。		
必修		<u>心理学概論 A</u> (2) <u>心理学概論 B</u> (2) 発達心理学基礎演習 A (2) 発達心理学基礎演習 B (2) <u>心理学統計法 I A</u> (2) <u>臨床心理学概論</u> (2)	<u>発達心理学概論 A</u> (2) <u>発達心理学概論 B</u> (2) 発達臨床心理学概論 (2) <u>心理学実験 I</u> (4) <u>心理学実験 II</u> (4) <u>心理学統計法 I B</u> (2) <u>心理学統計法 II</u> (2) 論文講義基礎演習 (2) 英語論文講義演習 (2) キャリア研究 (2)	<u>心理学研究法 I</u> (2) <u>心理学研究法 II</u> (2)	卒業論文 (8)	48 単位	
選択必修	特講科目			<u>知覚・認知心理学</u> (2) <u>感情・人格心理学</u> (2) <u>社会・集団・家族心理学</u> (2) 発達心理学特講 A (2) 発達心理学特講 B (2) 発達心理学特講 C (2) 発達心理学特講 D (2)	<u>教育・学校心理学</u> (2) <u>精神疾患とその治療</u> (2) <u>障害者・障害児心理学</u> (2) 臨床心理学特講 A (2) 臨床心理学特講 B (2)	10 単位以上	78 単位
	演習科目			発達心理学演習 A (2) 発達心理学演習 B (2) 発達心理学演習 C (2) 発達心理学演習 D (2) 発達心理学演習 E (2) 発達心理学演習 F (2) 発達心理学演習 G (2) 発達心理学演習 H (2) 発達心理学演習 I (2) 発達心理学演習 J (2) 発達心理学演習 K (2) 発達心理学演習 L (2)	臨床心理学演習 A (2) 臨床心理学演習 B (2) 臨床心理学演習 C (2) 臨床心理学演習 D (2) <u>心理的アセスメント A</u> (2) <u>心理的アセスメント B</u> (2)	8 単位以上	
選択		<u>公認心理師の職責</u> (2) <u>福祉心理学</u> (2) <u>健康・医療心理学</u> (2) <u>人体の構造と機能及び疾病</u> (2)	<u>司法・犯罪心理学</u> (2) <u>産業・組織心理学</u> (2)	<u>関係行政論</u> (2) <u>学習・言語心理学</u> (2)	<u>神経・生理心理学</u> (2) <u>心理学的支援法</u> (2)		
				<u>心理演習</u> (2) *2			
				<u>心理実習</u> (2) *2	児童文化・民俗と子ども (2) 児童文化・子ども論 (2)		

▽→以前開講科目（最終開講年度を西暦下 2 桁で表示）

*1 公認心理師科目は太字・下線で表示されています。

*2 「心理演習」「心理実習」は、公認心理師カリキュラム志望届（Web）を提出し、履修要件（「人間総合学部 公認心理師カリキュラム 4. 心理演習 及び 5. 心理実習」参照）を満たした学生のみ履修できます。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

発達心理学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、発達心理学科専門科目を78単位以上修得することが卒業の要件となります。

2) 「卒業論文」の履修条件

4年次必修科目「卒業論文」の履修にあたっては、前年度までに1・2年次必修科目(34単位、但し「キャリア研究」を除く)および選択必修科目(2単位以上)を含めて、発達心理学科専門科目を36単位以上修得していることが条件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位(資格課程等履修者は30単位)

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

ただし、公認心理師カリキュラムは加算対象外です(学科専門科目の履修・学修に含まれるため)。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。発達心理学科の成績基準は次のとおりです。

「学科の1～3年次必修科目合計18科目中、14科目以上の成績が「S」であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度(または次学期)以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目(特講科目・演習科目)の履修

選択必修科目は計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、演習科目は、3年次に2科目(4単位)、4年に2科目(4単位)を目安に履修計画を立ててください。

4) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、資格課程に必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

5) その他

必修科目、選択必修科目(特講科目・演習科目)の要件を満たした上で78単位に満たない分は、選択必修科目(特講科目・演習科目)の科目をさらに履修する、もしくは、選択科目を履修することで、残りの単位を修得してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ([キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#))で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、発達心理学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 発達心理学科専門科目の履修・登録に関するサポート

発達心理学科専門科目の履修・登録についての質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

人間総合学部

初等教育学科

児童教育コース・幼児教育コース

I. 2022・2023・2024 年度入学者

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録
5. 実習諸経費について
6. 小学校教諭一種免許状の取得について
7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について
8. 保育士養成課程について
9. 年間予定

II. 2021 年度入学者

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録
5. 実習諸経費について
6. 小学校教諭一種免許状の取得について
7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について
8. 保育士養成課程について
9. 年間予定

III. 2019・2020 年度入学者

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録
5. 実習諸経費について
6. 小学校教諭一種免許状の取得について
7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について
8. 保育士養成課程について
9. 年間予定

人間総合学部 初等教育学科

1. 2022・2023・2024年度入学者

1. カリキュラム

【児童教育コース】

2022・2023・2024年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	教職論など教職に関する基礎科目、小学校の教育内容と、算数・生活・道徳の指導法を学び始める。	小学校の教育課程や生徒指導、特別活動、各教科の指導法について学び、実際に小学校へ出向き、学校支援ボランティアを通じた教育体験を行う。	3年次後期に行う教育実習に備え、事前指導を受け、総合的な学習の時間、特別支援教育等について学び、卒業研究に向けて演習を選択する。	各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、採用試験に向けて教職課程の学びを確認し、これまでの学修を振り返る。	26単位
必修	教育原理 (2) *1 教育の制度と経営(幼・小) (2) *1 教育心理学 (2) *1	初等教育基礎演習A (2) 初等教育基礎演習B (2) キャリア研究 (2) 教育方法 (ICT活用の理論と実践を含む。) (2) *1	初等教育演習Ⅰ (2) 初等教育演習Ⅱ (2) 特別な支援を要する子どもの理解と支援 (2) *1 教育相談(幼・小) (2) *1	卒業研究 (4)	
選択必修	国語 (2) *1 社会 (2) *1 算数 (2) *1 生活 (2) *1 音楽 (2) *1 図画工作 (2) *1 体育 (2) *1 初等算数科指導法 (2) *1 初等生活科指導法 (2) *1 教職論(小) (2) *1 道徳教育(小) (2) *1 教育体験Ⅰ (1) *1 領域健康 (1) 領域環境 (1) 領域言葉 (1) 保育者論 (2) 保育原理 (2) 子ども家庭福祉Ⅰ (2) 社会福祉 (2) 保育の心理学 (2) 子どもの保健 (2) 教育体験Ⅰ (1) 統計データの理解と活用 (2) 心理学概論A (2) 心理学概論B (2)	理科 (2) *1 家庭 (2) *1 小学校外国語(英語) (2) *1 初等国語科指導法 (2) *1 初等社会科指導法 (2) *1 初等理科指導法 (2) *1 初等音楽科指導法 (2) *1 初等図画工作科指導法 (2) *1 初等体育科指導法 (2) *1 初等外国語(英語)指導法 (2) *1 教育課程論(小) (2) *1 特別活動(小) (2) *1 生徒指導・進路指導(小) (2) *1 教育体験ⅡA (1) *1 教育体験ⅡB (1) *1 領域人間関係 (1) 領域表現 (1) 保育内容総論 (2) 保育カリキュラム論 (2) 子ども家庭支援論 (2) 社会的養護Ⅰ (2) 子ども家庭支援の心理学 (2) 子どもの食と栄養 (2) 乳児保育Ⅰ (2) 子どもの健康と安全 (2) 保育実習指導ⅠA (1) 保育体験ⅡA (1) 保育体験ⅡB (1) 学習指導法演習(国語) (2) 発達心理学概論A (2) 発達心理学概論B (2) 発達臨床心理学概論 (2)	初等家庭科指導法 (2) *1 総合的な学習の時間の指導法(小) (2) *1 教育実習(幼・小)事前事後指導 (1) *1 教育体験ⅢA (1) *1 教育体験ⅢB (1) *1 保育内容演習(健康) (2) 保育内容演習(人間関係) (2) 保育内容演習(環境) (2) 保育内容演習(言葉) (2) 保育内容演習(表現) (2) 幼児理解 (2) 乳児保育Ⅱ (2) 社会的養護Ⅱ (2) 保育実習Ⅰ (4) 保育実習指導ⅠB (1) 保育実習Ⅱ (2) 保育実習指導Ⅱ (1)	教職実践演習(小) (2) *1 保育・教職実践演習 (2) 子育て支援 (2) 子ども家庭福祉Ⅱ (2) 保育実習Ⅲ (2) 保育実習指導Ⅲ (1)	62単位以上
	音楽演習(器楽) (2) *1	おもちゃ論A (2)	絵本論A (2)	絵本論B (2)	
		音楽演習(合唱) (2) *1 児童文化・子ども論 (2)	図画工作演習(造形・描画) (2) *1	体育演習(体づくり・体操) (2) *1	
			教育実習(幼・小) (4) *1 学級経営論 (2) *1 学校臨床心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)		
選択			学校経営と学校図書館 (2) *1 *3 学校図書館メディアの構成 (2) *1 *2 学習指導と学校図書館 (2) *1 *3 読書と豊かな人間性 (2) *1 *3 情報メディアの活用 (2) *1 *2		88単位

*1 小学校教諭一種免許取得に関する授業科目です。

(小学校教諭一種免許取得のための教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)

*2 「司書教諭課程」履修者のみ履修可能な授業科目です。

*3 「司書教諭課程」又は「学校司書のモデルカリキュラム」履修者のみ履修可能な授業科目です。

【幼児教育コース】

2022・2023・2024 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ	教育原理、保育原理、子ども家庭福祉、保育者論など、教職及び保育に関する学びがスタートする。	保育の内容、方法に関して学び、1 年後期から始まる保育所での保育体験を通年で実施。後期に保育実習がスタートする。	5 領域を視点に保育内容・指導法に関する学びを深める。後期に行う教育実習に備え、事前指導や幼児理解について学ぶ。卒業研究に向けてのテーマを考え、演習を選択する。	前期には2 週間の本格的な教育実習を行う。各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、保育・教職課程での学びを振り返る。		
必修	教育原理 (2) *1 教育の制度と経営(幼・小) (2) *1 教育心理学 (2) *1	初等教育基礎演習 A (2) 初等教育基礎演習 B (2) キャリア研究 (2) 教育方法 (ICT活用の理論と実践を含む。) (2) *1	初等教育演習 I (2) 初等教育演習 II (2) 特別な支援を要する子どもの理解と支援 (2) *1 教育相談(幼・小) (2) *1	卒業研究 (4)	26 単位	
選択必修	国語 (2) *1 社会 (2) 算数 (2) *1 生活 (2) *1 音楽 (2) *2 図画工作 (2) *2 体育 (2) *2 初等算数科指導法 (2) 初等生活科指導法 (2) 教職論(小) (2) 道徳教育(小) (2) 教育体験 I (1) 領域健康 (1) *1 領域環境 (1) *1 領域言葉 (1) *1 保育者論 (2) *1 保育原理 (2) *1 子ども家庭福祉 I (2) *1 社会福祉 (2) *3 保育の心理学 (2) *1 子どもの保健 (2) *3 教育体験 I (1) *3 統計データの理解と活用 (2) 心理学概論 A (2) 心理学概論 B (2)	理科 (2) 家庭 (2) 小学校外国語(英語) (2) 初等国語科指導法 (2) 初等社会科指導法 (2) 初等理科指導法 (2) 初等音楽科指導法 (2) 初等図画工作科指導法 (2) 初等体育科指導法 (2) 初等外国語(英語)指導法 (2) 教育課程論(小) (2) 特別活動(小) (2) 生徒指導・進路指導(小) (2) 教育体験 II A (1) 教育体験 II B (1) 領域人間関係 (1) *1 領域表現 (1) *1 保育内容総論 (2) *1 保育カリキュラム論 (2) *1 子ども家庭支援論 (2) *1 社会的養護 I (2) *1 子ども家庭支援の心理学 (2) *3 子どもの食と栄養 (2) *3 乳児保育 I (2) *3 子どもの健康と安全 (2) *3 保育実習指導 I A (1) *3 保育体験 II A (1) *3 保育体験 II B (1) *3 学習指導法演習(国語) (2) 発達心理学概論 A (2) 発達心理学概論 B (2) 発達臨床心理学概論 (2)	初等家庭科指導法 (2) 総合的な学習の時間の指導法(小) (2) 教育実習(幼・小)事前事後指導 (1) *2 教育体験 III A (1) 教育体験 III B (1) 保育内容演習(健康) (2) *1 保育内容演習(人間関係) (2) *1 保育内容演習(環境) (2) *1 保育内容演習(言葉) (2) *1 保育内容演習(表現) (2) *1 幼児理解 (2) *1 乳児保育 II (2) *3 社会的養護 II (2) *3 保育実習 I (4) *3 保育実習指導 I B (1) *3 保育実習 II (2) *3 保育実習指導 II (1) *3	教職実践演習(小) (2) 保育・教職実践演習 (2) *1 子育て支援 (2) *3 子ども家庭福祉 II (2) *3 保育実習 III (2) *3 保育実習指導 III (1) *3	62 単位以上	88 単位
	音楽演習(器楽) (2)	おもちゃ論 A (2)	絵本論 A (2)	絵本論 B (2)		
		音楽演習(合唱) (2) 児童文化・子ども論 (2)	図画工作演習(造形・描画) (2)	体育演習(体づくり・体操) (2)		
			教育実習(幼・小) (4) *2 学級経営論 (2) 学校臨床心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)			
選択			学校経営と学校図書館 (2) *5 学校図書館メディアの構成 (2) *4 学習指導と学校図書館 (2) *5 読書と豊かな人間性 (2) *5 情報メディアの活用 (2) *4			

- *1 幼稚園教諭一種免許及び保育士資格取得に関する授業科目です。
(幼稚園教諭一種免許取得のための教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目及び保育士資格取得のための教養科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)
 - *2 幼稚園教諭一種免許取得に関する授業科目です。
(幼稚園教諭一種免許取得のための教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)
 - *3 保育士資格取得に関する授業科目です。
(保育士資格取得のための教養科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)
 - *4 「司書教諭課程」履修者のみ履修可能な授業科目です。
 - *5 「司書教諭課程」又は「学校司書のモデルカリキュラム」履修者のみ履修可能な授業科目です。
- ※ 資格取得には、卒業の要件を超えた単位の修得が必要となります。

2. 卒業の要件

初等教育学科に在籍する学生は、入学時に選択した履修上のコース（幼児教育コース・児童教育コース）において、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、初等教育学科専門科目を88単位以上修得することが卒業の要件となります（資格取得には、卒業の要件を超えた単位を修得する必要があります）。

3. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限について

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。初等教育学科の成績基準は次のとおりです（自コース以外の資格取得を目指す場合に限り。アドバイザーとの面談が必要）。

「学科の必修科目の半数以上の成績が「S」又は「A」、かつ「F」は5科目以下であること」

2) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目の履修

原則として、定められた年次に必要な授業科目を履修し、62単位以上を修得してください。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページ（6、7、8）を参照してください。

4) 他コース科目の履修

自コースにない他コースの授業科目も履修することができます。ただし、履修にあたってはアドバイザーとよく相談してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目及び同一名称で複数開講されている科目（クラス指定あり）については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、初等教育学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他のすべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 初等教育学科専門科目の履修・登録に関するサポート

初等教育学科専門科目の履修・登録についての質問は、初等教育学科研究室(3号館地階)へお問い合わせください。

5. 実習諸経費について

初等教育学科では教育実習・保育実習等に伴う諸経費が必要となります。なお、一旦納入された実習諸経費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

納入時期： 1年次後期

納入金額： 【児童教育コース：小学校教諭一種免許状取得】 18,000円

【幼児教育コース：幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得】 45,000円

納入方法： 別途指示をします。

6. 小学校教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において小学校教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修
- ⑤ 介護等体験の実施
- ⑥ 基礎資格を有すること(学士の学位を取得＝大学を卒業すること)

2022・2023・2024年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑥ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								⑤ 介護等体験の実施	
		①	②	③	①②③ 合計	④					
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	30	27	2	59	2	2	2	2	必要
	本学における最低修得単位数		40	31	2	73	2	2	2	2	必要

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 教科及び教科の指導法に関する科目

小学校教員は全教科担任制を原則としているので、小学校の10教科すべてについて履修します。

2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年	
				必修	選択	幼	保		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	30	国語	2		幼	保	1	
			社会	2				1	
			算数	2		幼	保	1	
			理科	2				2	
			生活	2		幼	保	1	
			音楽	音楽	2		幼		1
				音楽演習（器楽）		2			1-4
				音楽演習（合唱）		2			2-4
			図画工作	図画工作	2		幼		1
				図画工作演習（造形・描画）		2			2-4
			家庭	2				2	
			体育	体育	2		幼		1
				体育演習（体づくり・体操）		2			2-4
	外国語	2				2			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語（書写を含む。）		初等国語科指導法	2				2
		社会		初等社会科指導法	2				2
		算数		初等算数科指導法	2				1
		理科		初等理科指導法	2				2
		生活		初等生活科指導法	2				1
		音楽		初等音楽科指導法	2				2
図画工作			初等図画工作科指導法	2				2	
家庭			初等家庭科指導法	2				3	
体育			初等体育科指導法	2				2	
外国語			初等外国語（英語）指導法	2				2	
合計		30	本学が定める最低修得単位数	40					

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2022・2023・2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
				必修	選択	幼	保	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		幼	保	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論（小）	2				1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営（幼・小）	2		幼	保	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		幼	保	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を要する子どもの理解と支援	2		幼	保	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論（小）	2				2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育（小）	2				1
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法（小）	2				3
	特別活動の指導法		特別活動（小）	2				2
	教育の方法及び技術		教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）*1	2		幼	保	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		*1					
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導（小）*2	2				2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（幼・小）	2		幼	保	3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		*2					
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		幼		3
			教育実習（幼・小）	4		幼		3-4
	教職実践演習	2	教職実践演習（小）*3	2				4
合計		27	本学が定める最低修得単位数	31				

*1 「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）」に「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項を1単位含みます。

*2 「生徒指導・進路指導（小）」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*3 「教職実践演習（小）」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて2単位以上を修得する必要があります。

本学では「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等			
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		対象学年
			必修	選択	
大学が独自に設定する科目	2	教育体験Ⅰ		1	1
		教育体験Ⅱ A	1		2
		教育体験Ⅱ B	1		2
		教育体験Ⅲ A		1	3
		教育体験Ⅲ B		1	3
		学級経営論		2	3-4
		学校経営と学校図書館 *2		2	3-4
		学校図書館メディアの構成 *1		2	3-4
		学習指導と学校図書館 *2		2	3-4
		読書と豊かな人間性 *2		2	3-4
		情報メディアの活用 *1		2	3-4
合計	2	本学が定める最低修得単位数	2		

*1 司書教諭課程履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。

司書教諭課程は、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するコース」です。授業科目の開講は3年次からとなります。「司書教諭課程」のページを参考にして、履修計画を立ててください（司書教諭の資格を得るためには、*2の科目を合わせ、5科目10単位が必要となります）。

*2 司書教諭課程履修者又は学校司書のモデルカリキュラム履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。

司書教諭課程は「司書教諭課程」のページを、「学校司書のモデルカリキュラム」は「学校司書のモデルカリキュラム」のページを参考にして、履修計画を立ててください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等						
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設	
				必修	選択必修		幼	保
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2			幼	
体育	2	スポーツ科学概論	共通科目	1		これらの科目から1単位選択必修	幼	保
		スポーツ・身体運動実習A			1		幼	保
		スポーツ・身体運動実習B			1		幼	保
		スポーツ・身体運動実習C			1		幼	保
		スポーツ・身体運動実習D			1		幼	保
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	外国語科目		1	これらの科目から2単位選択必修	幼	保
		英語コミュニケーションⅡ			1		幼	保
		英語コミュニケーションⅢ			1		幼	保
		英語コミュニケーションⅣ			1		幼	保
		フランス語AⅠ			1		幼	
		フランス語AⅡ			1		幼	
		フランス語AⅢ			1		幼	
		フランス語AⅣ			1		幼	
		ドイツ語AⅠ			1		幼	
		ドイツ語AⅡ			1		幼	
		ドイツ語AⅢ			1		幼	
		ドイツ語AⅣ			1		幼	
		中国語AⅠ			1		幼	
		中国語AⅡ			1		幼	
		中国語AⅢ			1		幼	
		中国語AⅣ			1		幼	
韓国語AⅠ	1	幼						
韓国語AⅡ	1	幼						
韓国語AⅢ	1	幼						
韓国語AⅣ	1	幼						
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	はじめてのデータサイエンス	共通科目	2			幼	

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を 1 単位修得し、「スポーツ・身体運動実習 A」、「スポーツ・身体運動実習 B」、「スポーツ・身体運動実習 C」又は「スポーツ・身体運動実習 D」から 1 単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2 単位）を満たしてください。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位数や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位数等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2 単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

2022・2023 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等									
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設				
				必修	選択必修		幼	保			
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2			幼				
体育	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修	幼 幼 幼 幼	保 保 保 保			
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修	幼 幼 幼 幼	保 保 保 保			
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2		幼 幼 幼 幼 幼				
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		幼 幼 幼 幼				
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 1 2		幼 幼 幼 幼 幼				
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		幼 幼 幼 幼				
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2		幼 幼				
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2		幼 幼 幼 幼 幼 幼				
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1		幼 幼				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2			幼	

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。
- TOEICの点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

⑤ 介護等体験

小学校教諭免許状を取得するためには、7日間（原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等の体験を行う必要があります。本学では、原則として2年次に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の介護等体験を実施しています。介護等体験を行うにあたっては、介護等体験実施の前年度（1年次）に行われる「次年度介護等体験実施予定者説明会」（12月を予定）に出席し、体験実施年度（2年次）に行われる「介護等体験の事前事後指導」（4回程度を予定）に必ず出席してください。

なお、介護等体験実施にあたっては、体験実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。詳細は上記の説明会でお知らせします。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、体験先から体験実施年度の証明書を求められた場合は、体験先の指示に従ってください。

※介護等体験が免除される者

以下に該当する者は介護等体験が免除されます。該当者は介護等体験実施予定者説明会（12月を予定）までに初等教育学科研究室へ申し出てください（希望があれば体験することは可能）。

- ア) 保健師、助産師、看護師、准看護師、特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者。
- イ) 身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるものとして記載されている者。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習校又は実習園での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、「教育実習（幼・小）」を履修する前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合で、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「教科に関する専門的事項」

「国語」、「社会」、「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」、「図画工作」、「家庭」、「体育」、
「小学校外国語（英語）」
の10科目のうち7科目以上履修済であること

「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」

「初等国語科指導法」、「初等社会科指導法」、「初等算数科指導法」、「初等理科指導法」、「初等生活科指導法」、
「初等音楽科指導法」、「初等図画工作科指導法」、「初等家庭科指導法」、「初等体育科指導法」、
「初等外国語（英語）指導法」
の10科目のうち6科目以上履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「教職論（小）」、「教育の制度と経営（幼・小）」、「教育心理学」、
「特別な支援を要する子どもの理解と支援」、「教育課程論（小）」、「道徳教育（小）」、
「総合的な学習の時間の指導法（小）」、「特別活動（小）」、「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）」、
「生徒指導・進路指導（小）」、「教育相談（幼・小）」
の12科目のうち
「教育原理」、「教職論（小）」、「教育心理学」、「道徳教育（小）」
を含む6科目以上履修済であること

「大学が独自に設定する科目」

「教育体験ⅡA」、「教育体験ⅡB」を履修済であること

4) 「教職実践演習(小)」

「教職実践演習(小)」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります(対象者はあらかじめ登録されています)。

原則として4年次前期までに「教職実践演習(小)」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済であり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート(履修カルテ)へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件(授与条件)を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます(以下、大学一括申請)。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き(宣誓書への署名、本籍地の確認等)を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ①「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の履修
- ②「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修
- ⑤ 基礎資格を有すること(学士の学位を取得=大学を卒業すること)

2022・2023・2024年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑤ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								
		①	②	③	①②③ 合計	④				
		領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目				
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	16	21	14	51	2	2	2	2
	本学における最低修得単位数		17	25	10*	52	2	2	2	2

*7.2) ③で詳しく説明します。

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 領域及び保育内容の指導法に関する科目

2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	単位数		共通開設		対象学年
				必修	選択必修	保	小	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	領域健康	1		保		1
		人間関係	領域人間関係	1		保		2
		環境	領域環境	1		保		1
		言葉	領域言葉	1		保		1
		表現	領域表現	1		保		2
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	16	保育内容総論	2		保		2
			保育内容演習（健康）	2		保		3
			保育内容演習（人間関係）	2		保		3
			保育内容演習（環境）	2		保		3
			保育内容演習（言葉）	2		保		3
			保育内容演習（表現）	2		保		3
	合計		16	本学が定める最低修得単位数	17			

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2022・2023・2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	共通開設		対象学年
				必修	保	小	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	保	小	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2	保		1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営（幼・小）	2	保	小	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	保	小	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を要する 子どもの理解と支援	2	保	小	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		保育カリキュラム論	2	保		2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）	2	保	小	2
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解	2	保		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（幼・小）	2	保	小	3
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		小	3
	教職実践演習		教育実習（幼・小）	4		小	3-4
		2	保育・教職実践演習 *1	2	保		4
合計		21	本学が定める最低修得単位数	25			

*1 「保育・教職実践演習」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて14単位以上を修得する必要があります。

本学では「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等					
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
			必修	選択	保	小	
大学が独自に設定する科目	14	保育原理	2		保		1
		子ども家庭福祉Ⅰ	2		保		1
		社会的養護Ⅰ	2		保		2
		保育の心理学	2		保		1
		子ども家庭支援論	2		保		2
		国語		2	保	小	1
		算数		2	保	小	1
		生活		2	保	小	1
		音楽		2		小	1
		図画工作		2		小	1
		体育		2		小	1
合計	14	本学が定める最低修得単位数	10				

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2024 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等						
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設	
				必修	選択必修		保	小
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2				小
体育	2	スポーツ科学概論	共通科目	1		これらの科目から1単位選択必修	保	小
		スポーツ・身体運動実習A			1		保	小
		スポーツ・身体運動実習B			1		保	小
		スポーツ・身体運動実習C			1		保	小
		スポーツ・身体運動実習D			1		保	小
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	外国語科目		1	これらの科目から2単位選択必修	保	小
		英語コミュニケーションⅡ			1		保	小
		英語コミュニケーションⅢ			1		保	小
		英語コミュニケーションⅣ			1		保	小
		フランス語AⅠ			1			小
		フランス語AⅡ			1			小
		フランス語AⅢ			1			小
		フランス語AⅣ			1			小
		ドイツ語AⅠ			1			小
		ドイツ語AⅡ			1			小
		ドイツ語AⅢ			1			小
		ドイツ語AⅣ			1			小
		中国語AⅠ			1			小
		中国語AⅡ			1			小
		中国語AⅢ			1			小
		中国語AⅣ			1			小
韓国語AⅠ	1		小					
韓国語AⅡ	1		小					
韓国語AⅢ	1		小					
韓国語AⅣ	1		小					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	はじめてのデータサイエンス	共通科目	2				小

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

2022・2023年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等								
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設			
				必修	選択必修		保	小		
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2				小		
体育	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修	保 保 保 保	小 小 小 小		
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1		これらの科目から2単位選択必修	保 保 保 保	小 小 小 小	
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2	小 小 小 小 小 小				
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1	小 小 小 小				
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 1 2	小 小 小 小 小 小				
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1	小 小 小 小				
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2	小 小				
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2	小 小 小 小 小 小				
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1	小 小				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目	2				小

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数(2単位)を満たしてください。
- TOEICの点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修(夏期・春期)による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数(2単位)は本学で修得してください(他の科目区分も同様)。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習園又は実習校での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、教育実習を行う前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。ただし、幼稚園教職課程では教育実習を2回に分けて行いますので、2回目の教育実習までに以下に指定されている授業科目の単位を修得する必要があります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合で、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「領域に関する専門的事項」

「領域健康」、「領域人間関係」、「領域環境」、「領域言葉」、「領域表現」をすべて履修済であること

「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

「保育内容総論」、「保育内容演習（健康）」、「保育内容演習（人間関係）」、「保育内容演習（環境）」、「保育内容演習（言葉）」、「保育内容演習（表現）」をすべて履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「保育者論」、「教育の制度と経営（幼・小）」、「教育心理学」、「特別な支援を要する子どもの理解と支援」、「保育カリキュラム論」、「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）」、「幼児理解」、「教育相談（幼・小）」の9科目のうち「教育原理」、「保育者論」、「教育心理学」、「保育カリキュラム論」、「幼児理解」を含む7科目以上を履修済であること

4) 「保育・教職実践演習」

「保育・教職実践演習」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

原則として4年次前期までに「保育・教職実践演習」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済であり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

8. 保育士養成課程について

1) 保育士資格を取得するための所要単位数

2022・2023・2024 年度入学者用

科 目	厚生労働省告示による 最低修得単位数	本学における修得単位数
① 教養科目	8 単位以上	10 単位以上
② 必修科目	51 単位	63 単位
③ 選択必修科目	9 単位以上 ※保育実習 2 単位・保育実習指導 1 単位含む	9 単位以上

別表 保育士養成課程科目表

① 教養科目

2022・2023・2024 年度入学者用

厚生労働省告示による教科目			本学における開講教科目					共通開設		
科 目	授業 形態	設置 単位	左記に対応して 開講されている教科目	授業 形態	単位数			対象 学年	幼	小
					必修	選択 必修	備考			
外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	学校と発達	講義	2			1・2 3・4		
			初等教育基礎演習A	演習	2			2		
			初等教育基礎演習B	演習	2			2		
外国語	演習	2 以上	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	これらの科目から2単位以上選択必修	1	幼	小
			英語コミュニケーションⅡ	演習		1		1	幼	小
			英語コミュニケーションⅢ	演習		1		2	幼	小
			英語コミュニケーションⅣ	演習		1		2	幼	小
体育	講義	1	スポーツ科学概論	講義	1		1・2 3・4	幼	小	
	実技	1	スポーツ・身体運動実習A	実技		1		これらの科目から1単位以上選択必修	幼	小
			スポーツ・身体運動実習B	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習C	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習D	実技		1			幼	小
最低修得単位数	8 単位以上	本学が定める最低修得単位数	10 単位以上							

履修上の注意事項

- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得してください。
- TOEICの点数による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教養科目における「外国語」の単位とすることはできないため、最低2単位は本学で修得してください。

② 必修科目

2022・2023・2024年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目				共通開設	
系列	科目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数	対象学年	幼	小
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	1	幼	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	1	幼	小
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2	1	幼	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	1		
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	2	幼	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	2	幼	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	1	幼	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2	1	幼	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	2		
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解	演習	2	3	幼	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	1		
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2	2		
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	2	2	幼	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2	2	幼	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習（健康）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（人間関係）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（環境）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（言葉）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（表現）	演習	2	3	幼	
	保育内容の理解と方法	演習	4	領域健康	演習	1	1	幼	
				領域人間関係	演習	1	2	幼	
				領域環境	演習	1	1	幼	
				領域言葉	演習	1	1	幼	
				領域表現	演習	1	2	幼	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	2		
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2	3		
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2	2		
障害児保育	演習	2	特別な支援を要する子どもの理解と支援	演習	2	3	幼	小	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	3			
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2	4			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習	4	3		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習	1	2		
				保育実習指導ⅠB	演習	1	3		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	2	4	幼	
最低修得単位数		51単位		本学が定める最低修得単位数		63単位			

③ 選択必修科目

2022・2023・2024年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目						共通開設	
系 列	科 目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数		対象学年	備考	幼	小
						選択必修	選択				
保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	教育の制度と経営(幼・小)	講義		2	1		幼	小
				子ども家庭福祉Ⅱ	講義		2	4			
				教育心理学	講義		2	1		幼	小
				保育体験Ⅰ	演習		1	1			
				教育方法(ICT活用の理論と実践を含む。)	講義		2	2		幼	小
				教育相談(幼・小)	講義		2	3		幼	小
				保育体験ⅡA	演習		1	2			
				保育体験ⅡB	演習		1	2			
				国語	講義		2	1		幼	小
				算数	講義		2	1		幼	小
				生活	講義		2	1		幼	小
保育実習	保育実習Ⅱ 又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2		3	保育実習Ⅱと 保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習Ⅲと 保育実習指導Ⅲ を履修する		
				保育実習Ⅲ	実習	2		4			
	保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習	1		3			
				保育実習指導Ⅲ	演習	1		4			
最低修得単位数		9単位以上 (保育実習2単位・保育実習指導1単位を含む)		本学が定める最低修得単位数		3単位	6単位以上				
						9単位以上					

2) 保育実習

「保育実習」は「保育所、乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設での実習」と「実習の事前及び事後指導」から成り立っています。保育士養成課程における学外での実習の種別・期間(予定)等は次のとおりです。実習先決定後、一覧表を所定の掲示板に掲示しますので、日程・実習施設の確認を各自必ず行ってください。なお、決定した日程や、実習施設は原則として変更できません。よく確認をして、スケジュール管理をしてください。

■保育実習予定について

科目区分	科目名	単位数	実習施設		学年	実習時期	単位取得のための必要実習時間
必修	保育実習Ⅰ	4	公立・民間	保育所	2年	2月	90時間
			公立・民間	施設 ※1	3年	8月～2月	90時間
選択必修	保育実習Ⅱ	2	民間	保育所	3年	8月～9月	90時間
選択必修	保育実習Ⅲ	2	公立・民間	施設 ※2	4年	8月～12月	90時間

*実習時期・日程は実習先によって異なります。

※1 保育所以外の児童福祉施設

※2 ※1の他、児童館などの児童厚生施設、又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって、保育実習を行う施設として適当なもの。

3) 保育・教職実践演習

4年次にこの科目の履修登録を行う際には、「保育実習Ⅰ」と、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修済又は履修中で、当該年度に保育士資格の登録申請が可能な状態であることが履修条件になりますので、計画的に履修を進めて下さい。(対象者はあらかじめ登録されています。)

4) 保育士登録

① 保育士登録

保育士として業務を行う者は、必ず保育士登録を受けなければなりません。ただし、保育士として業務を行わない場合は、必ずしも登録をする必要はなく、登録をしなくても資格がなくなるわけではありません。

② 保育士登録手続きについて

保育士登録を希望する学生は、4年次に所定の手続き(登録手数料等の支払いや必要書類の提出等)を行ってください。手続きに関する連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。

登録資格	保育士登録を希望する指定保育士養成施設の最終学年に在籍する者であって、当該年度中に卒業することが見込まれる者(学生)であると当該指定保育士養成施設の長が認めた者(=「卒業見込者」)。
登録手数料	4,200円(国で定める標準額であり、最終的には都道府県の条例で定められます。)
保育士登録用証明書発行手数料	400円(予定)

9. 年間予定

1) 児童教育コース (小一免)

2022・2023・2024 年度入学者用

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
4 月	児童教育コースガイダンス 健康診断	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育体験ⅡA ※1	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育実習(幼・小)事前事後指導	児童教育コースガイダンス 健康診断 教員採用試験学長推薦 学内選考試験 ※2
5 月		介護等体験(2日間) 教育実習説明会		
6 月				
7 月				
8 月		介護等体験(5日間)		
9 月	教育体験Ⅰ ※1	教育体験ⅡB ※1		教職実践演習(小)
10 月	実習諸経費納入		教育実習開始	
11 月		*東京教師養成塾 入塾説明会	教育実習 ※1 (小学校で3~4週間)	教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 免許状交付手数料等納入
12 月	介護等体験実施予定者 説明会			
1 月		*東京教師養成塾 学内選考試験		
2 月				
3 月				(学位記授与式当日) 教育職員免許状受領

年間予定は、変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE 及び掲示等に注意してください。

※1 「教育実習」(3年次・後期)だけでなく、「教育体験Ⅰ」(1年次・後期)、「教育体験ⅡA」(2年次・前期)、「教育体験ⅡB」(2年次・後期)で教育現場での体験学習を行います。

※2 推薦制度が変更された場合は、学内選考試験の時期も変わることがあります。

教員採用試験は、年度や自治体等によりスケジュールが異なり、3年生も対象に含まれる場合があります。1年次から情報収集を行うことを推奨します。授業外で採用試験対策講座を行いますので、学内掲示等を確認してください。

2) 幼児教育コース（幼一免・保育士）

2022・2023・2024年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	幼児教育コースガイダンス 健康診断	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育体験ⅡA ※2	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育実習指導ⅠB 教育実習（幼・小） 事前事後指導 保育実習指導Ⅱ ※1	幼児教育コースガイダンス 健康診断 教育実習（幼・小） 保育実習指導Ⅲ ※1
5月				
6月				【必修】 幼稚園教育実習 （2回目）
7月				
8月			【必修】 保育実習Ⅰ （施設実習） （8～2月まで順次）	【選択必修】 保育実習Ⅲ ※1 （施設実習） （8～12月まで順次）
9月	保育体験Ⅰ ※2	保育体験ⅡB ※2 保育実習指導ⅠA	【選択必修】 保育実習Ⅱ ※1 （保育所実習）	保育・教職実践演習
10月	実習諸経費納入			
11月			【必修】 幼稚園教育実習 （1回目）	保育士登録・教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 保育士登録、教育職員免許状 に関する関係書類の配布等 ↓ 保育士登録申請関係書類提出 免許状交付手数料等納入
12月				
1月				
2月		【必修】 保育実習Ⅰ （保育所実習）		
3月				（学位記授与式当日） 指定保育士養成施設卒業証 明書受領 教育職員免許状受領

年間予定は変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE及び掲示等に注意してください。

※1 「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」を履修する場合は、それぞれ「実習の事前及び事後指導」である「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習指導Ⅲ」を併せて必ず履修して下さい。

※2 「保育体験Ⅰ、ⅡA、ⅡB」の履修については、幼児教育コースガイダンスで説明します。

II. 2021年度入学者

1. カリキュラム

【児童教育コース】

2021年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	教職論など教職に関する基礎科目、小学校の教育内容と、算数・生活・道徳の指導法を学び始める。	小学校の教育課程や生徒指導、特別活動、各教科の指導法について学び、実際に小学校へ出向き、学校支援ボランティアを通して教育体験を行う。	3年次後期に行う教育実習に備え、事前指導を受け、総合的な学習の時間、特別支援教育等について学び、卒業研究に向けて演習を選択する。	各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、採用試験に向けて教職課程の学びを確認し、これまでの学修を振り返る。	
卒業研究				卒業研究 (4)	4単位
専門科目 コース共通	統計データの理解と活用 (2)	初等教育基礎演習A (2)*1 初等教育基礎演習B (2)*1 キャリア研究 (2)*1 学習指導法演習(国語) (2)	初等教育演習 (4)*1		10単位以上 *1の科目をすべて含む
			学校臨床心理学 (2)		
初等教職科目Ⅰ	国語 (2)*2 社会 (2)*2 算数 (2)*2 生活 (2)*2 音楽 (2)*2 図画工作 (2)*2 体育 (2)*2	理科 (2)*2 家庭 (2)*2 小学校外国語(英語) (2)*2			20単位以上 *2の科目をすべて含む
	音楽演習(器楽) (2)	音楽演習(合唱) (2)	図画工作演習(造形・描画) (2)	体育演習(体づくり・体操) (2)	
コース共通科目Ⅱ	教育原理 (2)*3 教育の制度と経営(幼・小) (2)*3 教育心理学 (2)*3	教育方法 (2)*3	特別な支援を要する 子どもの理解と支援 (2)*3 教育相談(幼・小) (2)*3 教育実習(幼・小)事前事後指導 (1)		12単位以上 *3の科目をすべて含む
			教育実習(幼・小) (4)		
児童教育コース科目 初等教職科目Ⅲ	初等算数科指導法 (2)*4 初等生活科指導法 (2)*4 教職論(小) (2)*4 道徳教育(小) (2)*4	初等国語科指導法 (2)*4 初等社会科指導法 (2)*4 初等理科指導法 (2)*4 初等音楽科指導法 (2)*4 初等図画工作科指導法 (2)*4 初等体育科指導法 (2)*4 初等外国語(英語)指導法 (2)*4 教育課程論(小) (2)*4 特別活動(小) (2)*4 生徒指導・進路指導(小) (2)*4	初等家庭科指導法 (2)*4 総合的な学習の時間の指導法(小) (2)*4	教職実践演習(小) (2)	32単位以上 *4の科目をすべて含む
	教育体験Ⅰ (1)	教育体験ⅡA (1)*5 教育体験ⅡB (1)*5	教育体験ⅢA (1) 教育体験ⅢB (1)		
初等教職科目Ⅳ			学級経営論 (2)		2単位以上 *5の科目をすべて含む
			学校経営と学校図書館 (2)*7 学校図書館メディアの構成 (2)*6 学習指導と学校図書館 (2)*7 読書と豊かな人間性 (2)*7 情報メディアの活用 (2)*6		
隣接領域科目	心理学概論A (2) 心理学概論B (2)	発達心理学概論A (2) 発達心理学概論B (2) 発達臨床心理学概論 (2)			※
	おもちゃ論A (2)	絵本論A (2)	絵本論B (2)		
		児童文化・子ども論 (2)			
			障害者・障害児心理学 (2)		
その他	児童教育コースにはない 幼児教育コース科目				※
合 計					88単位

注) 資格取得には、卒業の要件を超えた単位の修得が必要となります。

※ 修得すべき単位数の条件はありません。

【幼児教育コース】

2021 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位
学びの流れ	教育原理、保育原理、子ども家庭福祉、保育者論など、教職及び保育に関する学びがスタートする。	保育の内容、方法に関して学び、1 年後期から始まる保育所での保育体験を通年で実施。後期に保育実習がスタートする。	5 領域を視点に保育内容・指導法に関する学びを深める。後期に行う教育実習に備え、事前指導や幼児理解について学ぶ。卒業研究に向けてのテーマを考え、演習を選択する。	前期には 2 週間の本格的な教育実習を行う。各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、保育・教職課程での学びを振り返る。	
卒業研究				卒業研究 (4)	4 単位
専門科目	統計データの理解と活用 (2)	初等教育基礎演習 A (2) *1 初等教育基礎演習 B (2) *1 キャリア研究 (2) *1 学習指導法演習 (国語) (2)	初等教育演習 (4) *1		10 単位以上 *1 の科目をすべて含む
共通科目	国語 (2) 算数 (2) 生活 (2) 音楽 (2) 図画工作 (2) 体育 (2)		学校臨床心理学 (2)		※
初等教職科目 I	教育原理 (2) *3 教育の制度と経営 (幼・小) (2) *3 教育心理学 (2) *3	教育方法 (2) *3	特別な支援を要する子どもの理解と支援 (2) *3 教育相談 (幼・小) (2) *3 教育実習 (幼・小) 事前事後指導 (1)		12 単位以上 *3 の科目をすべて含む
初等教職科目 II			教育実習 (幼・小) (4)		
初等教職科目 III	領域健康 (1) *4 領域環境 (1) *4 領域言葉 (1) *4 保育者論 (2) *4 保育原理 (2) *4 子ども家庭福祉 I (2) *4 保育の心理学 (2) *4	領域人間関係 (1) *4 領域表現 (1) *4 保育カリキュラム論 (2) *4 保育内容総論 (2) *4 子ども家庭支援論 (2) *4 社会的養護 I (2) *4	幼児理解 (2) *4 保育内容演習 (健康) (2) *4 保育内容演習 (人間関係) (2) *4 保育内容演習 (環境) (2) *4 保育内容演習 (言葉) (2) *4 保育内容演習 (表現) (2) *4	保育・教職実践演習 (2)	33 単位以上 *4 の科目をすべて含む
幼児教育コース科目	社会福祉 (2) *5 子どもの保健 (2) *5 保育体験 I (1)	子ども家庭支援の心理学 (2) *5 子どもの食と栄養 (2) *5 乳児保育 I (2) *5 子どもの健康と安全 (2) *5 保育実習指導 I A (1) 保育体験 II A (1) 保育体験 II B (1)	乳児保育 II (2) *5 社会的養護 II (2) *5 保育実習 I (4) 保育実習指導 I B (1) 保育実習 II (2) 保育実習指導 II (1)	子育て支援 (2) *5 子ども家庭福祉 II (2) 保育実習 III (2) 保育実習指導 III (1)	18 単位以上 *5 の科目をすべて含む
隣接領域科目	心理学概論 A (2) 心理学概論 B (2)	発達心理学概論 A (2) 発達心理学概論 B (2) 発達臨床心理学概論 (2)			※
	おもちゃ論 A (2)	絵本論 A (2)	絵本論 B (2)		
		児童文化・子ども論 (2)			
			障害者・障害児心理学 (2)		
その他	幼児教育コースにはない 児童教育コース科目				※
合 計					88 単位

注) 資格取得には、卒業の要件を超えた単位を修得する必要があります。

※修得すべき単位数の条件はありません。

2. 卒業の要件

初等教育学科に在籍する学生は、入学時に選択した履修上のコース（幼児教育コース・児童教育コース）において、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、初等教育学科専門科目を88単位以上修得することが卒業の要件となります（資格取得には、卒業の要件を超えた単位を修得する必要があります）。

3. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限について

1年次～4年次において、24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。初等教育学科の成績基準は次のとおりです（自コース以外の資格取得を目指す場合に限る。アドバイザーとの面談が必要）。

「学科の必修科目の半数以上の成績が「S」又は「A」、かつ「F」は5科目以下であること」

2) 必修科目の履修（必修科目→各資格のページ 6.7.8 を参照）

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学科または次年度以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目の履修（選択必修科目→各資格のページ 6.7.8 を参照）

選択必修科目の履修にあたっては、各年次における履修すべき単位数を満たすように修得してください。

4) 他コース科目の履修

他コースの科目は選択科目として履修することができます。ただし、履修にあたってはアドバイザーとよく相談してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目及び同一名称で複数開講されている科目（クラス指定あり）については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがある場合はすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、初等教育学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他のすべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 初等教育学科専門科目の履修・登録に関するサポート

初等教育学科専門科目の履修・登録についての質問は、初等教育学科研究室(3号館地階)へお問い合わせください。

5. 実習諸経費について

初等教育学科では教育実習・保育実習等に伴う諸経費が必要となります。なお、一旦納入された実習諸経費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

納入時期： 1年次後期

納入金額： 【児童教育コース：小学校教諭一種免許状取得】 18,000円

【幼児教育コース：幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得】 45,000円

納入方法： 別途指示をします。

6. 小学校教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において小学校教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修
- ⑤ 介護等体験の実施
- ⑥ 基礎資格を有すること(学士の学位を取得＝大学を卒業すること)

2021年度入学者用

免許状の種類	⑥ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								⑤ 介護等体験の実施	
		①	②	③	①②③ 合計	④					
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	30	27	2	59	2	2	2	2	必要
	本学における最低修得単位数		40	31	2	73	2	2	2	2	必要

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 教科及び教科の指導法に関する科目

小学校教員は全教科担任制を原則としているので、小学校の10教科すべてについて履修します。

2021年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年	
				必修	選択	幼	保		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	30	国語（書写を含む。）	2		幼	保	1	
			社会	2				1	
			算数	2		幼	保	1	
			理科	2				2	
			生活	2		幼	保	1	
			音楽	音楽	2		幼		1
				音楽演習（器楽）		2			1-4
				音楽演習（合唱）		2			2-4
			図画工作	図画工作	2		幼		1
				図画工作演習（造形・描画）		2			2-4
			家庭	2				2	
			体育	体育	2		幼		1
	体育演習（体づくり・体操）				2			2-4	
	外国語		2				2		
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		初等国語科指導法	2				2	
			初等社会科指導法	2				2	
			初等算数科指導法	2				1	
			初等理科指導法	2				2	
			初等生活科指導法	2				1	
			初等音楽科指導法	2				2	
初等図画工作科指導法		2				2			
初等家庭科指導法		2				3			
初等体育科指導法		2				2			
初等外国語（英語）指導法		2				2			
合計	30	本学が定める最低修得単位数	40						

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2021年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
				必修	選択	幼	保	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		幼	保	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職論(小)	2				1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育の制度と経営(幼・小)	2		幼	保	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		幼	保	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を要する子どもの理解と支援	2		幼	保	3
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論(小)	2				2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育(小)	2				1
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法(小)	2				3
	特別活動の指導法		特別活動(小)	2				2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法	2		幼	保	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導(小) *1	2				2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談(幼・小)	2		幼	保	3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		*1					
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習(幼・小)事前事後指導	1		幼		3
			教育実習(幼・小)	4		幼		3-4
	教職実践演習	2	教職実践演習(小) *2	2				4
合計		27	本学が定める最低修得単位数	31				

*1 「生徒指導・進路指導(小)」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*2 「教職実践演習(小)」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート(履修カルテ)を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて2単位以上を修得する必要があります。

本学では「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2021年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等			
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		対象学年
			必修	選択	
大学が独自に設定する科目	2	教育体験Ⅰ		1	1
		教育体験ⅡA	1		2
		教育体験ⅡB	1		2
		教育体験ⅢA		1	3
		教育体験ⅢB		1	3
		学級経営論		2	3-4
		学校経営と学校図書館 *2		2	3-4
		学校図書館メディアの構成 *1		2	3-4
		学習指導と学校図書館 *2		2	3-4
		読書と豊かな人間性 *2		2	3-4
		情報メディアの活用 *1		2	3-4
合計	2	本学が定める最低修得単位数	2		

*1 司書教諭課程履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。

司書教諭課程は、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するコース」です。授業科目の開講は3年次からとなります。「司書教諭課程」のページを参考にして、履修計画を立ててください（司書教諭の資格を得るためには、*2の科目を合わせ、5科目10単位が必要となります）。

*2 司書教諭課程履修者又は学校司書のモデルカリキュラム履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。

司書教諭課程は「司書教諭課程」のページを、「学校司書のモデルカリキュラム」は「学校司書のモデルカリキュラム」のページを参考にして、履修計画を立ててください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等									
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設				
				必修	選択必修		幼	保			
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2			幼				
体育 *1	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習 A スポーツ・身体運動実習 B スポーツ・身体運動実習 C スポーツ・身体運動実習 D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修	幼	保			
		▽21 身体運動の科学					共通科目	3		幼	保
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修	幼	保			
		フランス語 AⅠ フランス語 AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語 AⅢ フランス語 AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2		幼				
		ドイツ語 AⅠ ドイツ語 AⅡ ドイツ語 AⅢ ドイツ語 AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		幼				
		中国語 AⅠ 中国語 AⅡ (▽23 中国語Ⅰ A) 中国語 AⅢ 中国語 AⅣ (▽23 中国語Ⅱ A)	外国語科目		1 1 2 1 1 2		幼				
		韓国語 AⅠ 韓国語 AⅡ 韓国語 AⅢ 韓国語 AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		幼				
		▽23 English for JFL TeachersⅠ ▽23 English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2		幼				
		1年フランス語コミュニケーションⅠ B 1年フランス語コミュニケーションⅡ B (▽23 フランス語コミュニケーションⅠ B) 1年フランス語コミュニケーションⅠ B (既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡ B (既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠ B (既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2		幼				
		オール・コミュニケーションⅠ オール・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1		幼				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2			幼	

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

*1：2022年度以降に免許法施行規則に定める「体育」（2単位）を履修する場合は、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。2021年度に「身体運動の科学」を履修した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。（「身体運動の科学」を既に履修している場合は「スポーツ科学概論」を履修することはできません。）

履修上の注意事項

- この表に示す科目の修得単位数は、「本学における科目区分」に示す卒業要件単位として算入されます。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

⑤ 介護等体験

小学校教諭免許状を取得するためには、7日間（原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等の体験を行う必要があります。本学では、原則として2年次に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の介護等体験を実施しています。介護等体験を行うにあたっては、介護等体験実施の前年度（1年次）に行われる「次年度介護等体験実施予定者説明会」（12月を予定）に出席し、体験実施年度（2年次）に行われる「介護等体験の事前事後指導」（4回程度を予定）に必ず出席してください。

なお、介護等体験実施にあたっては、体験実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。詳細は上記の説明会でお知らせします。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、体験前から体験実施年度の証明書を求められた場合は、体験先の指示に従ってください。

※介護等体験が免除される者

以下に該当する者は介護等体験が免除されます。該当者は介護等体験実施予定者説明会（12月を予定）までに初等教育学科研究室へ申し出てください（希望があれば体験することは可能）。

- ア) 保健師、助産師、看護師、准看護師、特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者。
- イ) 身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるものとして記載されている者。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習校又は実習園での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、「教育実習（幼・小）」を履修する前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合で、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習前から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「教科に関する専門的事項」

「国語」、「社会」、「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」、「図画工作」、「家庭」、「体育」、
「小学校外国語（英語）」
の10科目のうち7科目以上履修済であること

「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

「初等国語科指導法」、「初等社会科指導法」、「初等算数科指導法」、「初等理科指導法」、「初等生活科指導法」、
「初等音楽科指導法」、「初等図画工作科指導法」、「初等家庭科指導法」、「初等体育科指導法」、
「初等外国語（英語）指導法」
の10科目のうち6科目以上履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「教職論（小）」、「教育の制度と経営（幼・小）」、「教育心理学」、
「特別な支援を要する子どもの理解と支援」、「教育課程論（小）」、「道徳教育（小）」、
「総合的な学習の時間の指導法（小）」、「特別活動（小）」、「教育方法」、「生徒指導・進路指導（小）」、
「教育相談（幼・小）」
の12科目のうち
「教育原理」、「教職論（小）」、「教育心理学」、「道徳教育（小）」
を含む6科目以上履修済であること

「大学が独自に設定する科目」

「教育体験ⅡA」、「教育体験ⅡB」を履修済であること

4) 「教職実践演習(小)」

「教職実践演習(小)」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります(対象者はあらかじめ登録されています)。

原則として4年次前期までに「教職実践演習(小)」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済みであり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート(履修カルテ)へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件(授与条件)を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます(以下、大学一括申請)。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き(宣誓書への署名、本籍地の確認等)を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修
- ⑤ 基礎資格を有すること (学士の学位を取得＝大学を卒業すること)

2021 年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑤ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								
		①	②	③	①②③ 合計	④				
		領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目				
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	16	21	14	51	2	2	2	2
		本学における最低修得単位数	17	25	10*	52	2	2	2	2

* 7. 2) ③で詳しく説明します。

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 領域及び保育内容の指導法に関する科目

2021年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目区分	各科目に含めること が必要な事項	最低修得 単位数	左記に対応する開設授業科目	単位数		共通 開設		対象 学年
				必修	選択 必修	保	小	
領域及び 保育内容の 指導法に関する 科目	領域に関する 専門的 事項	16	領域健康	1		保		1
			領域人間関係	1		保		2
			領域環境	1		保		1
			領域言葉	1		保		1
			領域表現	1		保		2
	保育内容の指導法（情報機器及び 教材の活用を含む。）		保育内容総論	2		保		2
			保育内容演習（健康）	2		保		3
			保育内容演習（人間関係）	2		保		3
			保育内容演習（環境）	2		保		3
			保育内容演習（言葉）	2		保		3
			保育内容演習（表現）	2		保		3
			合計	16	本学が定める最低修得単位数	17		

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	共通開設		対象学年
				必修	保	小	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	保	小	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2	保		1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営（幼・小）	2	保	小	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	保	小	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を要する子どもの理解と支援	2	保	小	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		保育カリキュラム論	2	保		2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育方法	2	保	小	2
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解	2	保		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（幼・小）	2	保	小	3
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		小	3
	教職実践演習	2	教育実習（幼・小）	4		小	3-4
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習 *1	2	保		4
合計		21	本学が定める最低修得単位数	25			

*1 「保育・教職実践演習」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて14単位以上を修得する必要があります。

本学では「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2021年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等					
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
			必修	選択	保	小	
大学が独自に設定する科目	14	保育原理	2		保		1
		子ども家庭福祉Ⅰ	2		保		1
		社会的養護Ⅰ	2		保		2
		保育の心理学	2		保		1
		子ども家庭支援論	2		保		2
		国語		2	保	小	1
		算数		2	保	小	1
		生活		2	保	小	1
		音楽		2		小	1
		図画工作		2		小	1
		体育		2		小	1
合計	14	本学が定める最低修得単位数	10 *1				

*1 本学では、「大学が独自に設定する科目」として必要な単位は、すべて「初等教職科目Ⅲ」における必修科目の単位を修得することにより、満たすことが可能です。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2021 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等									
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設				
				必修	選択必修		保	小			
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2				小			
体育 *1	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習 A スポーツ・身体運動実習 B スポーツ・身体運動実習 C スポーツ・身体運動実習 D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から 1 単位選択必修	保	小			
		▽21 身体運動の科学					共通科目	3		保	小
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から 2 単位選択必修	保	小			
		フランス語 AⅠ フランス語 AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語 AⅢ フランス語 AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2		保	小			
		ドイツ語 AⅠ ドイツ語 AⅡ ドイツ語 AⅢ ドイツ語 AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		保	小			
		中国語 AⅠ 中国語 AⅡ (▽23 中国語Ⅰ A) 中国語 AⅢ 中国語 AⅣ (▽23 中国語Ⅱ A)	外国語科目		1 1 2 1 1 2		保	小			
		韓国語 AⅠ 韓国語 AⅡ 韓国語 AⅢ 韓国語 AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		保	小			
		▽23 English for JFL TeachersⅠ ▽23 English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2		保	小			
		1 年フランス語コミュニケーションⅠ B 1 年フランス語コミュニケーションⅡ B (▽23 フランス語コミュニケーションⅠ B) 1 年フランス語コミュニケーションⅠ B (既習) 1 年フランス語コミュニケーションⅡ B (既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠ B (既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2		保	小			
		オール・コミュニケーションⅠ オール・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1		保	小			
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2				小

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下 2 桁で表示）

*1：2022 年度以降に免許法施行規則に定める「体育」（2 単位）を履修する場合は、「スポーツ科学概論」を 1 単位修得し、「スポーツ・身体運動実習 A」、「スポーツ・身体運動実習 B」、「スポーツ・身体運動実習 C」又は「スポーツ・身体運動実習 D」から 1 単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2 単位）を満たしてください。2021 年度に「身体運動の科学」を履修した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習 A」、「スポーツ・身体運動実習 B」、「スポーツ・身体運動実習 C」又は「スポーツ・身体運動実習 D」を履修する必要はありません。（「身体運動の科学」を既に履修している場合は「スポーツ科学概論」を履修することはできません。）

履修上の注意事項

- この表に示す科目の修得単位数は、「本学における科目区分」に示す卒業要件単位として算入されます。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2 単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習園又は実習校での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、教育実習を行う前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。ただし、幼稚園教職課程では教育実習を2回に分けて行いますので、2回目の教育実習までに以下に指定されている授業科目の単位を修得する必要があります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合で、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「領域に関する専門的事項」

「領域健康」、「領域人間関係」、「領域環境」、「領域言葉」、「領域表現」をすべて履修済であること

「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

「保育内容総論」、「保育内容演習（健康）」、「保育内容演習（人間関係）」、「保育内容演習（環境）」、「保育内容演習（言葉）」、「保育内容演習（表現）」をすべて履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「保育者論」、「教育の制度と経営（幼・小）」、「教育心理学」、「特別な支援を要する子どもの理解と支援」、「保育カリキュラム論」、「教育方法」、「幼児理解」、「教育相談（幼・小）」の9科目のうち「教育原理」、「保育者論」、「教育心理学」、「保育カリキュラム論」、「幼児理解」を含む7科目以上を履修済であること

4) 「保育・教職実践演習」

「保育・教職実践演習」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

原則として4年次前期までに「保育・教職実践演習」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済であり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

8. 保育士養成課程について

1) 保育士資格を取得するための所要単位数

2021年度入学者用

科 目	厚生労働省告示による 最低修得単位数	本学における修得単位数
① 教養科目	8 単位以上	10 単位以上
② 必修科目	51 単位	63 単位
③ 選択必修科目	9 単位以上 ※保育実習 2 単位・保育実習指導 1 単位含む	9 単位以上

別表 保育士養成課程科目表

① 教養科目

2021年度入学者用

厚生労働省告示による教科目			本学における開講教科目					共通開設		
科 目	授業 形態	設置 単位	左記に対応して 開講されている教科目	授業 形態	単位数			対象 学年	幼	小
					必修	選択 必修	備考			
外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	学校と発達	講義	2			1・2 3・4		
			初等教育基礎演習A	演習	2			2		
			初等教育基礎演習B	演習	2			2		
外国語	演習	2 以上	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	これらの科 目から2単 位以上選択 必修	1	幼	小
			英語コミュニケーションⅡ	演習		1		1	幼	小
			英語コミュニケーションⅢ	演習		1		2	幼	小
			英語コミュニケーションⅣ	演習		1		2	幼	小
体育 *1 (2022年度以降に履修する場合)	講義	1	スポーツ科学概論	講義	1		これらの科 目から1単 位以上選択 必修	1・2 3・4	幼	小
	実技	1	スポーツ・身体運動実習A	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習B	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習C	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習D	実技		1			幼	小
体育 *1 (2021年度に履修した場合)	講義	1	▽21 身体運動の科学	講義	3		1・2 3・4	幼	小	
	実技	1		実技						
最低修得単位数	8 単位以上		本学が定める最低修得単位数		10 単位以上					

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

*1: 「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得してください。

2021年度に「身体運動の科学」の単位を修得した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。（「身体運動の科学」を既に履修した場合は、「スポーツ科学概論」を履修することはできません。）

②必修科目

2021 年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目				共通開設	
系 列	科 目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数	対象学年	幼	小
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	1	幼	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	1	幼	小
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2	1	幼	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	1		
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	2	幼	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	2	幼	
保育の対象の理解に関する科目	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	1	幼	
	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2	1	幼	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	2		
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解	演習	2	3	幼	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	1		
保育の内容・方法に関する科目	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2	2		
	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	2	2	幼	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2	2	幼	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習（健康）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（人間関係）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（環境）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（言葉）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（表現）	演習	2	3	幼	
	保育内容の理解と方法	演習	4	領域健康	演習	1	1	幼	
				領域人間関係	演習	1	2	幼	
				領域環境	演習	1	1	幼	
				領域言葉	演習	1	1	幼	
	領域表現	演習	1	2	幼				
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	2		
乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2	3			
子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2	2			
障害児保育	演習	2	特別な支援を要する子どもの理解と支援	演習	2	3	幼	小	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	3			
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2	4			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習	4	3		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習	1	2		
				保育実習指導ⅠB	演習	1	3		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	2	4	幼	
最低修得単位数		51 単位		本学が定める最低修得単位数		63 単位			

③ 選択必修科目

2021年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目							
系列	科目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数		対象学年	備考	共通開設	
						選択必修	選択			幼	小
保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	教育の制度と経営(幼・小)	講義		2	1		幼	小
				子ども家庭福祉Ⅱ	講義		2	4			
				教育心理学	講義		2	1		幼	小
				保育体験Ⅰ	演習		1	1			
				教育方法	講義		2	2		幼	小
				教育相談(幼・小)	講義		2	3		幼	小
				保育体験ⅡA	演習		1	2			
				保育体験ⅡB	演習		1	2			
				国語	講義		2	1		幼	小
				算数	講義		2	1		幼	小
				生活	講義		2	1		幼	小
保育実習	保育実習Ⅱ 又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2		3	保育実習Ⅱと 保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習Ⅲと 保育実習指導Ⅲ を履修する		
				保育実習Ⅲ	実習	2		4			
	保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習	1		3			
				保育実習指導Ⅲ	演習	1		4			
最低修得単位数		9単位以上 (保育実習2単位・保育実習指導1単位を含む)		本学が定める最低修得単位数		3単位	6単位以上				
						9単位以上					

履修上の注意事項

TOEICの点数による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修(夏期・春期)による外国語科目「英語」の認定単位等は、保育士養成課程の「①教養科目」の「外国語」の単位とすることはできないため、最低2単位は本学で修得してください。

2) 保育実習

「保育実習」は「保育所、乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設での実習」と「実習の事前及び事後指導」から成り立っています。保育士養成課程における学外での実習の種別・期間(予定)等は次のとおりです。実習先決定後、一覧表を所定の掲示板に掲示しますので、日程・実習施設の確認を各自必ず行ってください。なお、決定した日程や、実習施設は原則として変更できません。よく確認をして、スケジュール管理をしてください。

■保育実習予定について

2021年度入学者用

科目区分	科目名	単位数	実習施設		学年	実習時期	単位取得のための必要実習時間
必修	保育実習Ⅰ	4	公立・民間	保育所	2年	2月	90時間
			公立・民間	施設 ※1	3年	8月～2月	90時間
選択必修	保育実習Ⅱ	2	民間	保育所	3年	8月～9月	90時間
選択必修	保育実習Ⅲ	2	公立・民間	施設 ※2	4年	8月～12月	90時間

*実習時期・日程は実習先によって異なります。

※1 保育所以外の児童福祉施設

※2 ※1の他、児童館などの児童厚生施設、又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって、保育実習を行う施設として適当なもの。

3) 保育・教職実践演習

4年次にこの科目の履修登録を行う際には、「保育実習Ⅰ」と、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修済又は履修中で、当該年度に保育士資格の登録申請が可能な状態であることが履修条件になりますので、計画的に履修を進めて下さい。(対象者はあらかじめ登録されています。)

4) 保育士登録

① 保育士登録

保育士として業務を行う者は、必ず保育士登録を受けなければなりません。ただし、保育士として業務を行わない場合は、必ずしも登録をする必要はなく、登録をしなくても資格がなくなるわけではありません。

② 保育士登録手続きについて

保育士登録を希望する学生は、4年次に所定の手続き(登録手数料等の支払いや必要書類の提出等)を行ってください。手続きに関する連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。

登録資格	保育士登録を希望する指定保育士養成施設の見込最終学年に在籍する者であって、当該年度中に卒業することが見込まれる者(学生)であると当該指定保育士養成施設の長が認めた者(=「卒業見込者」)。
登録手数料	4,200円(国で定める標準額であり、最終的には都道府県の条例で定められます。)
保育士登録用証明書発行手数料	400円(予定)

9. 年間予定

1) 児童教育コース (小一免)

2021 年度入学者用

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
4 月	児童教育コースガイダンス 健康診断	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育体験ⅡA ※1	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育実習(幼・小)事前事後指導	児童教育コースガイダンス 健康診断 教員採用試験学長推薦 学内選考試験 ※2
5 月		介護等体験(2日間) 教育実習説明会		
6 月				
7 月				
8 月		介護等体験(5日間)		
9 月	教育体験Ⅰ ※1	教育体験ⅡB ※1		教職実践演習(小)
10 月	実習諸経費納入		教育実習開始 教育実習 ※1 (小学校で3~4週間)	
11 月		*東京教師養成塾 入塾説明会		教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 免許状交付手数料等納入
12 月	介護等体験実施予定者 説明会			
1 月		*東京教師養成塾 学内選考試験		
2 月				
3 月				(学位記授与式当日) 教育職員免許状受領

年間予定は、変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE 及び掲示等に注意してください。

※1 「教育実習」(3年次・後期)だけでなく、「教育体験Ⅰ」(1年次・後期)、「教育体験ⅡA」(2年次・前期)、「教育体験ⅡB」(2年次・後期)で教育現場での体験学習を行います。

※2 推薦制度が変更された場合は、学内選考試験の時期も変わることがあります。

教員採用試験は、年度や自治体等によりスケジュールが異なり、3年生も対象に含まれる場合があります。1年次から情報収集を行うことを推奨します。授業外で採用試験対策講座を行いますので、学内掲示等を確認してください。

2) 幼児教育コース（幼一免・保育士）

2021年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	幼児教育コースガイダンス 健康診断	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育体験ⅡA ※2	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育実習指導ⅠB 教育実習（幼・小） 事前事後指導 保育実習指導Ⅱ ※1	幼児教育コースガイダンス 健康診断 教育実習（幼・小） 保育実習指導Ⅲ ※1
5月				
6月				【必修】 幼稚園教育実習 （2回目）
7月				
8月			【必修】 保育実習Ⅰ （施設実習） （8～2月まで順次）	【選択必修】 保育実習Ⅲ ※1 （施設実習） （8～12月まで順次）
9月	保育体験Ⅰ ※2	保育体験ⅡB ※2 保育実習指導ⅠA	【選択必修】 保育実習Ⅱ ※1 （保育所実習）	保育・教職実践演習
10月	実習諸経費納入			
11月			【必修】 幼稚園教育実習 （1回目）	保育士登録・教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 保育士登録、教育職員免許状 に関する関係書類の配布等 ↓ 保育士登録申請関係書類提出 免許状交付手数料等納入
12月				
1月				
2月		【必修】 保育実習Ⅰ （保育所実習）		
3月				（学位記授与式当日） 指定保育士養成施設卒業証 明書受領 教育職員免許状受領

年間予定は変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE及び掲示等に注意してください。

※1 「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」を履修する場合は、それぞれ「実習の事前及び事後指導」である「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習指導Ⅲ」を併せて必ず履修して下さい。

※2 「保育体験Ⅰ、ⅡA、ⅡB」の履修については、幼児教育コースガイダンスで説明します。

III. 2019・2020年度入学者

1. カリキュラム 【児童教育コース】

2019・2020年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	教職論など教職に関する基礎科目、小学校の教育内容と、算数・生活・道徳の指導法を学び始める。	小学校の教育課程や生徒指導、特別活動、各教科の指導法について学び、実際に小学校へ出向き、学校支援ボランティアを通じた教育体験を行う。	3年次後期に行う教育実習に備え、事前指導を受け、総合的な学習の時間、特別支援教育等について学び、卒業研究に向けて演習を選択する。	各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、採用試験に向けて教職課程の学びを確認し、これまでの学修を振り返る。	
卒業研究				卒業研究 (4)	4単位
専門科目 コース共通	統計データの理解と活用 (2)	初等教育基礎演習A (2)*1 初等教育基礎演習B (2)*1 キャリア研究 (2)*1 学習指導法演習(国語) (2)	初等教育演習 (4)*1		10単位以上 *1の科目をすべて含む
			学校臨床心理学 (2)		
初等教職科目Ⅰ	国語 (2)*2 社会 (2)*2 算数 (2)*2 生活 (2)*2 音楽 (2)*2 図画工作 (2)*2 体育 (2)*2	理科 (2)*2 家庭 (2)*2 小学校外国語(英語) (2)*2			20単位以上 *2の科目をすべて含む
	音楽演習(器楽) (2)				
		音楽演習(合唱) (2)	図画工作演習(造形・描画) (2)	体育演習(体づくり・体操) (2)	
コース共通科目Ⅱ	教育原理 (2)*3 教育の制度と経営(幼・小) (2)*3 教育心理学 (2)*3	教育方法 (2)*3	特別な支援を要する 子どもの理解と支援 (2)*3 教育相談(幼・小) (2)*3 教育実習(幼・小)事前事後指導 (1)		12単位以上 *3の科目をすべて含む
			教育実習(幼・小) (4)		
児童教育コース科目Ⅲ	初等算数科指導法 (2)*4 初等生活科指導法 (2)*4 教職論(小) (2)*4 道徳教育(小) (2)*4	初等国語科指導法 (2)*4 初等社会科指導法 (2)*4 初等理科指導法 (2)*4 初等音楽科指導法 (2)*4 初等図画工作科指導法 (2)*4 初等体育科指導法 (2)*4 初等外国語(英語)指導法 (2)*4 教育課程論(小) (2)*4 特別活動(小) (2)*4 生徒指導・進路指導(小) (2)*4	初等家庭科指導法 (2)*4 総合的な学習の時間の指導法(小) (2)*4	教職実践演習(小) (2)	32単位以上 *4の科目をすべて含む
	教育体験Ⅰ (1)	教育体験ⅡA (1)*5 教育体験ⅡB (1)*5	教育体験ⅢA (1) 教育体験ⅢB (1)		
初等教職科目Ⅳ			学級経営論 (2)		2単位以上 *5の科目をすべて含む *6は司書教諭課程履修者のみ履修可 *7は司書教諭課程又は学校司書のモジュールカリキュラム履修者のみ履修可
			学校経営と学校図書館 (2)*7 学校図書館メディアの構成 (2)*6 学習指導と学校図書館 (2)*7 読書と豊かな人間性 (2)*7 情報メディアの活用 (2)*6		
隣接領域科目	心理学概論A (2) 心理学概論B (2)	発達心理学概論A (2) 発達心理学概論B (2) 発達臨床心理学概論 (2)			※
	児童文学・日本C (2)	児童文学・日本D (2)	おもちゃ論A (2)	絵本論A (2) 〔V20絵本論 (2)〕 絵本論B (2)	
		児童文化・子ども論 (2)			
			障害者・障害児心理学 (2)		
その他	児童教育コースにはない 幼児教育コース科目				※
合 計					88単位

注) 資格取得には、卒業の要件を超えた単位の修得が必要となります。
※修得すべき単位数の条件はありません。

【幼児教育コース】

2019・2020年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位
学びの流れ	教育原理、保育原理、子ども家庭福祉、保育者論など、教職及び保育に関する学びがスタートする。	保育の内容、方法に関して学び、1 年後期から始まる保育所での保育体験を通年で実施。後期に保育実習がスタートする。	5 領域を視点に保育内容・指導法に関する学びを深める。後期に行う幼稚園実習に備え、事前指導や幼児理解について学ぶ。卒業研究に向けてのテーマを考え、演習を選択する。	前期には 2 週間の本格的な教育実習を行う。各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、保育・教職課程での学びを振り返る。	
卒業研究				卒業研究 (4)	4 単位
専門科目 コース共通	統計データの理解と活用 (2)	初等教育基礎演習 A (2) *1 初等教育基礎演習 B (2) *1 キャリア研究 (2) *1 学習指導法演習 (国語) (2)	初等教育演習 (4) *1		10 単位以上 *1 の科目をすべて含む
初等教職科目 I	国語 (2) 算数 (2) 生活 (2) 音楽 (2) *2 図画工作 (2) *2 体育 (2) *2				6 単位以上 *2 の科目をすべて含む
	音楽演習 (器楽) (2)				
		音楽演習 (合唱) (2)	図画工作演習 (造形・描画) (2)	体育演習 (体づくり・体操) (2)	
コース共通科目 II	教育原理 (2) *3 教育の制度と経営 (幼・小) (2) *3 教育心理学 (2) *3	教育方法 (2) *3	特別な支援を要する 子どもの理解と支援 (2) *3 教育相談 (幼・小) (2) *3 教育実習 (幼・小) 事前事後指導 (1)		12 単位以上 *3 の科目をすべて含む
初等教職科目 III 幼児教育コース科目	保育者論 (2) *4	保育カリキュラム論 (2) *4 保育内容総論 (4) *4	幼児理解 (2) *4 保育内容演習 (健康) (2) *4 保育内容演習 (人間関係) (2) *4 保育内容演習 (環境) (2) *4 保育内容演習 (言葉) (2) *4 保育内容演習 (表現) (2) *4	保育・教職実践演習 (2)	20 単位以上 *4 の科目をすべて含む
	保育原理 (2) *5 子ども家庭福祉 I (2) *5 社会福祉 (2) *5 保育の心理学 (2) *5 子どもの保健 (2) *5 領域健康 (1) *5 領域環境 (1) *5 領域言葉 (2) *5 保育体験 I (1)	子ども家庭支援論 (2) *5 社会的養護 I (2) *5 子ども家庭支援の心理学 (2) *5 子どもの食と栄養 (2) *5 領域人間関係 (1) *5 領域表現 (1) *5 乳児保育 I (2) *5 子どもの健康と安全 (2) *5 保育実習指導 I A (1) 保育体験 II A (1) 保育体験 II B (1)	乳児保育 II (2) *5 社会的養護 II (2) *5 保育実習 I (4) 保育実習指導 I B (1) 保育実習 II (2) 保育実習指導 II (1)	子育て支援 (2) *5 子ども家庭福祉 II (2) 保育実習 III (2) 保育実習指導 III (1)	34 単位以上 *5 の科目をすべて含む
隣接領域科目	心理学概論 A (2) 心理学概論 B (2)	発達心理学概論 A (2) 発達心理学概論 B (2) 発達臨床心理学概論 (2)			※
	児童文学・日本 C (2)	児童文学・日本 D (2)	おもちゃ論 A (2)	絵本論 A (2) (▽20 絵本論 (2)) 絵本論 B (2)	
		児童文化・子ども論 (2)			
その他	幼児教育コースにはない 児童教育コース科目				※
合 計					88 単位

注) 資格取得には、卒業の要件を超えた単位を修得する必要があります。

※修得すべき単位数の条件はありません。

2. 卒業の要件

初等教育学科に在籍する学生は、入学時に選択した履修上のコース（幼児教育コース・児童教育コース）において、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、初等教育学科専門科目を88単位以上修得することが卒業の要件となります（資格取得には、卒業の要件を超えた単位を修得する必要があります）。

3. 履修の方法・留意事項

1) 履修登録単位数の上限について

1年次～4年次において、半期で24単位を超えて履修することはできません。

1年次～4年次 半期24単位（資格課程等履修者は30単位）

※集中講義の単位数は上限の範囲外とします。

※資格課程および一部プログラム履修者は、さらに半期で6単位の加算が認められます。

加算対象となる資格課程・プログラム等については、「文学部・人間総合学部共通事項 授業・履修」のページを参照してください。

※4年次に限り、成績優秀者は上限を超えての履修を認められる場合があります。初等教育学科の成績基準は次のとおりです（自コース以外の資格取得を目指す場合に限る。アドバイザーとの面談が必要）。

「学科の必修科目の半数以上の成績が「S」又は「A」、かつ「F」は5科目以下であること」

2) 必修科目の履修（必修科目→各資格のページ 6.7.8 を参照）

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

3) 選択必修科目の履修（選択必修科目→各資格のページ 6.7.8 を参照）

選択必修科目の履修にあたっては、各年次における履修すべき単位数を満たすように修得してください。

4) 他コース科目の履修

他コースの科目は選択科目として履修することができます。ただし、履修にあたってはアドバイザーとよく相談してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目及び同一名称で複数開講されている科目（クラス指定あり）については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがある場合はすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、初等教育学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他のすべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 初等教育学科専門科目の履修・登録に関するサポート

初等教育学科専門科目の履修・登録についての質問は、初等教育学科研究室(3号館地階)へお問い合わせください。

5. 実習諸経費について

初等教育学科では教育実習・保育実習等に伴う諸経費が必要となります。なお、一旦納入された実習諸経費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

納入時期： 1年次後期

納入金額： 【児童教育コース：小学校教諭一種免許状取得】 18,000円

【幼児教育コース：幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得】 45,000円

納入方法： 別途指示をします。

6. 小学校教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において小学校教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修
- ⑤ 介護等体験の実施
- ⑥ 基礎資格を有すること(学士の学位を取得＝大学を卒業すること)

2019・2020年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑥ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								⑤ 介護等体験の実施	
		①	②	③	①②③ 合計	④					
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	30	27	2	59	2	2	2	2	必要
		本学における最低修得単位数	40	31	2	73	2	2	2	2	必要

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 教科及び教科の指導法に関する科目

小学校教員は全教科担任制を原則としているので、小学校の10教科すべてについて履修します。

2019・2020年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年	
				必修	選択	幼	保		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	30	国語	2		幼	保	1	
			社会	2				1	
			算数	2		幼	保	1	
			理科	2				2	
			生活	2		幼	保	1	
			音楽	音楽	2		幼		1
				音楽演習（器楽）		2	幼		1-4
				音楽演習（合唱）		2	幼		2-4
			図画工作	図画工作	2		幼		1
				図画工作演習（造形・描画）		2	幼		2-4
	家庭	2				2			
	体育	体育	2		幼		1		
		体育演習（体づくり・体操）		2	幼		2-4		
	外国語	2				2			
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語（書写を含む。）	2				2		
		社会	2				2		
		算数	2				1		
		理科	2				2		
		生活	2				1		
		音楽	2				2		
図画工作		2				2			
家庭		2				3			
体育		2				2			
外国語		2				2			
合計	30	本学が定める最低修得単位数	40						

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2019・2020年度入学用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
				必修	選択	幼	保	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		幼	保	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論（小）	2				1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営（幼・小）	2		幼	保	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		幼	保	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を要する子どもの理解と支援	2		幼	保	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論（小）	2				2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育（小）	2				1
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法（小）	2				3
	特別活動の指導法		特別活動（小）	2				2
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法	2		幼	保	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導（小） *1	2				2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（幼・小）	2		幼	保	3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		*1					
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		幼		3
			教育実習（幼・小）	4		幼		3-4
	教職実践演習	2	教職実践演習（小） *2	2				4
合計		27	本学が定める最低修得単位数	31				

*1 「生徒指導・進路指導（小）」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*2 「教職実践演習（小）」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて2単位以上を修得する必要があります。

本学では「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2019・2020年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等			
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		対象学年
			必修	選択	
大学が独自に設定する科目	2	教育体験Ⅰ		1	1
		教育体験Ⅱ A	1		2
		教育体験Ⅱ B	1		2
		教育体験Ⅲ A		1	3
		教育体験Ⅲ B		1	3
		学級経営論		2	3-4
		学校経営と学校図書館 *2		2	3-4
		学校図書館メディアの構成 *1		2	3-4
		学習指導と学校図書館 *2		2	3-4
		読書と豊かな人間性 *2		2	3-4
		情報メディアの活用 *1		2	3-4
合計	2	本学が定める最低修得単位数	2		

*1 司書教諭課程履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。

司書教諭課程は、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するコース」です。授業科目の開講は3年次からとなります。「司書教諭課程」のページを参考にして、履修計画を立ててください（司書教諭の資格を得るためには、*2の科目を合わせ、5科目10単位が必要となります）。

*2 司書教諭課程履修者又は学校司書のモデルカリキュラム履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。

司書教諭課程は「司書教諭課程」のページを、「学校司書のモデルカリキュラム」は「学校司書のモデルカリキュラム」のページを参考にして、履修計画を立ててください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2019・2020 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等									
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設				
				必修	選択必修		幼	保			
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2			幼				
体育 *1	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習 A スポーツ・身体運動実習 B スポーツ・身体運動実習 C スポーツ・身体運動実習 D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修	幼 幼 幼 幼	保 保 保 保			
		▽21 身体運動の科学	共通科目	3			幼	保			
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修	幼 幼 幼 幼	保 保 保 保			
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2		幼 幼 幼 幼 幼				
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		幼 幼 幼 幼				
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 1 2		幼 幼 幼 幼 幼				
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		幼 幼 幼 幼				
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2		幼 幼				
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2		幼 幼 幼 幼 幼 幼				
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ	英語英文学 専門科目		1 1		幼 幼				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2			幼	

▽→以前開講科目(最終開講年度を西暦下2桁で表示)

*1: 「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数(2単位)を満たしてください。
2021年度以前に「身体運動の科学」の単位を修得した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。(「身体運動の科学」を既に履修した場合は、「スポーツ科学概論」を履修することはできません。)

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学学科が主催する海外語学研修(夏期・春期)による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数(2単位)は本学で修得してください(他の科目区分も同様)。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

⑤ 介護等体験

小学校教諭免許状を取得するためには、7日間（原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等の体験を行う必要があります。本学では、原則として2年次に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の介護等体験を実施しています。介護等体験を行うにあたっては、介護等体験実施の前年度（1年次）に行われる「次年度介護等体験実施予定者説明会」（12月を予定）に出席し、体験実施年度（2年次）に行われる「介護等体験の事前事後指導」（4回程度を予定）に必ず出席してください。

なお、介護等体験実施にあたっては、体験実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。詳細は上記の説明会でお知らせします。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、体験先から体験実施年度の証明書を求められた場合は、体験先の指示に従ってください。

※介護等体験が免除される者

以下に該当する者は介護等体験が免除されます。該当者は介護等体験実施予定者説明会（12月を予定）までに初等教育学科研究室へ申し出てください（希望があれば体験することは可能）。

ア) 保健師、助産師、看護師、准看護師、特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者。

イ) 身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるものとして記載されている者。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習校又は実習園での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、「教育実習（幼・小）」を履修する前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「教科に関する専門的事項」

「国語」、「社会」、「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」、「図画工作」、「家庭」、「体育」、
「小学校外国語（英語）」
の10科目のうち7科目以上履修済であること

「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

「初等国語科指導法」、「初等社会科指導法」、「初等算数科指導法」、「初等理科指導法」、「初等生活科指導法」、
「初等音楽科指導法」、「初等図画工作科指導法」、「初等家庭科指導法」、「初等体育科指導法」、
「初等外国語（英語）指導法」
の10科目のうち6科目以上履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「教職論（小）」、「教育の制度と経営（幼・小）」、「教育心理学」、
「特別な支援を要する子どもの理解と支援」、「教育課程論（小）」、「道德教育（小）」、
「総合的な学習の時間の指導法（小）」、「特別活動（小）」、「教育方法」、「生徒指導・進路指導（小）」、
「教育相談（幼・小）」
の12科目のうち
「教育原理」、「教職論（小）」、「教育心理学」、「道德教育（小）」
を含む6科目以上履修済であること

「大学が独自に設定する科目」

「教育体験ⅡA」、「教育体験ⅡB」を履修済であること

4) 「教職実践演習(小)」

「教職実践演習(小)」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります(対象者はあらかじめ登録されています)。

原則として4年次前期までに「教職実践演習(小)」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済みであり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート(履修カルテ)へ入力済であること。
--

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件(授与条件)を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます(以下、大学一括申請)。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き(宣誓書への署名、本籍地の確認等)を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。（以下、同様）
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修
- ⑤ 基礎資格を有すること（学士の学位を取得＝大学を卒業すること）

2019・2020 年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑤ 基礎資格	科目及び最低修得単位数							
		①	②	③	①②③ 合計	④			
		領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目			
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	16	21	14	51	2	2	2	2
	本学における最低修得単位数	26	25	*	51	2	2	2	2

* 7. 2) ③で詳しく説明します。

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学及等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 領域及び保育内容の指導法に関する科目【改正施行規則附則第7項】

2019・2020年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	単位数		共通開設		対象学年	履修方法
				必修	選択必修	保	小		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項【改正施行規則附則第7項】	国語	国語		2	保	小	1	「音楽」「図画工作」「体育」を含み12単位以上修得
		算数	算数		2	保	小	1	
		生活	生活		2	保	小	1	
		音楽	音楽	2			小	1	
			音楽演習（器楽）		2		小	1-4	
		音楽演習（合唱）		2		小	2-4		
		図画工作	図画工作	2			小	1	
			図画工作演習（造形・描画）		2		小	2-4	
		体育	体育	2			小	1	
	体育演習（体づくり・体操）			2		小	2-4		
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	4		保		2		
		保育内容演習（健康）	2		保		3		
		保育内容演習（人間関係）	2		保		3		
		保育内容演習（環境）	2		保		3		
		保育内容演習（言葉）	2		保		3		
		保育内容演習（表現）	2		保		3		
	合計		16	本学が定める最低修得単位数	26				

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2019・2020年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	共通開設		対象学年
				必修	保	小	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	保	小	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2	保		1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営（幼・小）	2	保	小	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	保	小	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を要する子どもの理解と支援	2	保	小	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		保育カリキュラム論	2	保		2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育方法	2	保	小	2
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解	2	保		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（幼・小）	2	保	小	3
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		小	3
			教育実習（幼・小）	4		小	3-4
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習 *1	2	保		4
合計		21	本学が定める最低修得単位数	25			

*1 「保育・教職実践演習」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて14単位以上を修得する必要があります。

本学では「大学が独自に設定する科目」を開設していませんが、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の必修科目（選択必修科目を含む）及び「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を履修することにより、「大学が独自に設定する科目」の14単位を修得することができます。必要に応じて、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の選択科目を履修してください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2019・2020 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等									
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設				
				必修	選択必修		保	小			
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2				小			
体育 *1	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習 A スポーツ・身体運動実習 B スポーツ・身体運動実習 C スポーツ・身体運動実習 D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修	保 保 保 保	小 小 小 小			
		▽21 身体運動の科学		共通科目	3			保	小		
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	外国語科目		1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修	保 保 保 保	小 小 小 小			
		フランス語AⅠ フランス語AⅡ (▽23 フランス語Ⅰ(会話)) フランス語AⅢ フランス語AⅣ (▽23 フランス語Ⅱ(会話))	外国語科目		1 1 2 1 1 2		小 小 小 小 小 小				
		ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		小 小 小 小				
		中国語AⅠ 中国語AⅡ (▽23 中国語ⅠA) 中国語AⅢ 中国語AⅣ (▽23 中国語ⅡA)	外国語科目		1 1 2 1 1 2		小 小 小 小 小 小				
		韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1		小 小 小 小				
		▽23English for JFL TeachersⅠ ▽23English for JFL TeachersⅡ	外国語科目		2 2		小 小				
		1年フランス語コミュニケーションⅠB 1年フランス語コミュニケーションⅡB (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB) 1年フランス語コミュニケーションⅠB(既習) 1年フランス語コミュニケーションⅡB(既習) (▽23 フランス語コミュニケーションⅠB(既習))	フランス語フランス文学科専門科目		1 1 2 1 1 2		小 小 小 小 小 小				
		オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ	英語英文学科専門科目		1 1		小 小				
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	共通科目		2				小

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）
*1: 「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。
2021年度以前に「身体運動の科学」の単位を修得した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。（「身体運動の科学」を既に履修した場合は、「スポーツ科学概論」を履修することはできません。）

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- TOEIC の点数等による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修（夏期・春期）による外国語科目「英語」の認定単位等は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習園又は実習校での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、教育実習を行う前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。ただし、幼稚園教職課程では教育実習を2回に分けて行いますので、2回目の教育実習までに以下に指定されている授業科目の単位を修得する必要があります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合で、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「領域に関する専門的事項」

「音楽」、「図画工作」、「体育」をすべて履修済であること

「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

「保育内容総論」、「保育内容演習（健康）」、「保育内容演習（人間関係）」、「保育内容演習（環境）」、「保育内容演習（言葉）」、「保育内容演習（表現）」をすべて履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「保育者論」、「教育の制度と経営（幼・小）」、「教育心理学」、「特別な支援を要する子どもの理解と支援」、「保育カリキュラム論」、「教育方法」、「幼児理解」、「教育相談（幼・小）」の9科目のうち「教育原理」、「保育者論」、「教育心理学」、「保育カリキュラム論」、「幼児理解」を含む7科目以上を履修済であること

4) 「保育・教職実践演習」

「保育・教職実践演習」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

原則として4年次前期までに「保育・教職実践演習」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済であり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期や再試験の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

8. 保育士養成課程について

1) 保育士資格を取得するための所要単位数

2019・2020 年度入学者用

科 目	厚生労働省告示による 最低修得単位数	本学における修得単位数
① 教養科目	8 単位以上	10 単位以上
② 必修科目	51 単位	66 単位
③ 選択必修科目	9 単位以上 ※保育実習 2 単位・保育実習指導 1 単位含む	9 単位以上

別表 保育士養成課程科目表

① 教養科目

2019・2020 年度入学者用

厚生労働省告示による教科目			本学における開講教科目					共通開設		
科 目	授業 形態	設置 単位	左記に対応して 開講されている教科目	授業 形態	単位数			対象 学年	幼	小
					必修	選択 必修	備考			
外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	学校と発達	講義	2			1・2 3・4		
			初等教育基礎演習A	演習	2			2		
			初等教育基礎演習B	演習	2			2		
外国語	演習	2 以上	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	これらの科 目から2単 位以上選択 必修	1	幼	小
			英語コミュニケーションⅡ	演習		1		1	幼	小
			英語コミュニケーションⅢ	演習		1		2	幼	小
			英語コミュニケーションⅣ	演習		1		2	幼	小
体育 *1 (2022 年度以降に履修する場合)	講義	1	スポーツ科学概論	講義	1		これらの科 目から1単 位以上選択 必修	1・2 3・4	幼	小
	実技	1	スポーツ・身体運動実習A	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習B	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習C	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習D	実技		1			幼	小
体育 *1 (2021 年度以前に履修した場合)	講義	1	▽21 身体運動の科学	講義	3		1・2 3・4	幼	小	
	実技	1		実技						
最低修得単位数	8 単位以上		本学が定める最低修得単位数		10 単位以上					

▽以前開講科目（最終開講年度を西暦下2桁で表示）

*1: 「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得してください。

2021 年度以前に「身体運動の科学」の単位を修得した場合は、改めて「スポーツ科学概論」及び「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」を履修する必要はありません。（「身体運動の科学」を既に履修した場合は、「スポーツ科学概論」を履修することはできません。）

② 必修科目

2019・2020 年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目				共通開設	
系列	科目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数	対象学年	幼	小
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	1		
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	1	幼	小
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2	1		
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	1		
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	2		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	2		
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	1	幼	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2	1		
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	2		
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解	演習	2	3	幼	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	1		
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2	2		
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	2	2	幼	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	4	2	幼	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習（健康）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（人間関係）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（環境）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（言葉）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（表現）	演習	2	3	幼	
	保育内容の理解と方法	演習	4	領域健康	演習	1	1		
				領域人間関係	演習	1	2		
				領域環境	演習	1	1		
				領域言葉	演習	2	1		
				領域表現	演習	1	2		
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	2		
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2	3		
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2	2		
障害児保育	演習	2	特別な支援を要する子どもの理解と支援	演習	2	3	幼	小	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	3			
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2	4			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習	4	3		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習	1	2		
				保育実習指導ⅠB	演習	1	3		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	2	4	幼	
最低修得単位数		51 単位		本学が定める最低修得単位数		66 単位			

③ 選択必修科目

2019・2020 年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目							
系 列	科 目	授業 形態	設置 単位	左記に対応して 開講されている教科目	授業 形態	単位数		対象 学年	備考	共通 開設	
						選択 必修	選択			幼	小
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	教育の制度と経営(幼・小)	講義		2	1		幼	小
				子ども家庭福祉Ⅱ	講義		2	4			
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学	講義		2	1		幼	小
保育の内容・方法に関する科目				保育体験Ⅰ	演習		1	1			
				教育方法	講義		2	2		幼	小
				教育相談(幼・小)	講義		2	3		幼	小
				保育体験ⅡA	演習		1	2			
				保育体験ⅡB	演習		1	2			
				国語	講義		2	1		幼	小
				算数	講義		2	1		幼	小
	生活	講義		2	1		幼	小			
保育実習	保育実習Ⅱ 又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2		3	保育実習Ⅱと 保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習Ⅲと 保育実習指導Ⅲ を履修する		
				保育実習Ⅲ	実習	2		4			
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習	1		3			
				保育実習指導Ⅲ	演習	1		4			
最低修得単位数		9単位以上 (保育実習2単位・保育実習指導1単位を含む)		本学が定める最低修得単位数		3単位	6単位以上				
						9単位以上					

履修上の注意事項

TOEICの点数による外国語科目「英語」の認定単位や、英語英文学科が主催する海外語学研修(夏期・春期)による外国語科目「英語」の認定単位等は、保育士養成課程の「①教養科目」の「外国語」の単位とすることはできないため、最低2単位は本学で修得してください。

2) 保育実習

「保育実習」は「保育所、乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設での実習」と「実習の事前及び事後指導」から成り立っています。保育士養成課程における、学外での実習の種別・期間（予定）等は次のとおりです。実習先決定後、一覧表を所定の掲示板に掲示しますので、日程・実習施設の確認を各自必ず行ってください。なお、決定した日程や、実習施設は原則として変更できません。よく確認をして、スケジュール管理をしてください。

■保育実習予定について

2019・2020年度入学者用

科目区分	科目名	単位数	実習施設		学年	実習時期	単位取得のための必要実習時間
必修	保育実習Ⅰ	4	公立・民間	保育所	2年	2月	90時間
			公立・民間	施設 ※1	3年	8月～2月	90時間
選択必修	保育実習Ⅱ	2	民間	保育所	3年	8月～9月	90時間
選択必修	保育実習Ⅲ	2	公立・民間	施設 ※2	4年	8月～12月	90時間

*実習時期・日程は実習先によって異なります。

※1 保育所以外の児童福祉施設

※2 ※1の他、児童館などの児童厚生施設、又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって、保育実習を行う施設として適当なもの。

3) 保育・教職実践演習

4年次にこの科目の履修登録を行う際には、「保育実習Ⅰ」と、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修済又は履修中で、当該年度に保育士資格の登録申請が可能な状態であることが履修条件になりますので、計画的に履修を進めて下さい。（対象者はあらかじめ登録されています。）

4) 保育士登録

① 保育士登録

保育士として業務を行う者は、必ず保育士登録を受けなければなりません。ただし、保育士として業務を行わない場合は、必ずしも登録をする必要はなく、登録をしなくても資格がなくなるわけではありません。

② 保育士登録手続きについて

保育士登録を希望する学生は、4年次に所定の手続き（登録手数料等の支払いや必要書類の提出等）を行ってください。手続きに関する連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。

登録資格	保育士登録を希望する指定保育士養成施設の最終学年に在籍する者であって、当該年度中に卒業することが見込まれる者（学生）であると当該指定保育士養成施設の長が認めた者（＝「卒業見込者」）。
登録手数料	4,200円(国で定める標準額であり、最終的には都道府県の条例で定められます。)
保育士登録用証明書発行手数料	400円（予定）

9. 年間予定

1) 児童教育コース (小一免)

2019・2020年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	児童教育コースガイダンス 健康診断	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育体験ⅡA ※1	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育実習(幼・小)事前事後指導	児童教育コースガイダンス 健康診断 教員採用試験学長推薦 学内選考試験 ※2
5月		介護等体験(2日間) 教育実習説明会		
6月				
7月				
8月		介護等体験(5日間)		
9月	教育体験Ⅰ ※1	教育体験ⅡB ※1		教職実践演習(小)
10月	実習諸経費納入		教育実習開始	
11月		*東京教師養成塾 入塾説明会	教育実習 ※1 (小学校で3~4週間)	教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 免許状交付手数料等納入
12月	介護等体験実施予定者 説明会			
1月		*東京教師養成塾 学内選考試験		
2月				
3月				(学位記授与式当日) 教育職員免許状受領

年間予定は、変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE 及び掲示等に注意してください。

※1 「教育実習」(3年次・後期)だけでなく、「教育体験Ⅰ」(1年次・後期)、「教育体験ⅡA」(2年次・前期)、「教育体験ⅡB」(2年次・後期)で教育現場での体験学習を行います。

※2 推薦制度が変更された場合は、学内選考試験の時期も変わることがあります。

教員採用試験は、年度や自治体等によりスケジュールが異なり、3年生も対象に含まれる場合があります。1年次から情報収集を行うことを推奨します。授業外で採用試験対策講座を行いますので、学内掲示等を確認してください。

2) 幼児教育コース（幼一免・保育士）

2019・2020 年度入学者用

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
4 月	幼児教育コースガイダンス 健康診断	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育体験ⅡA ※2	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育実習指導ⅠB 教育実習（幼・小） 事前事後指導 保育実習指導Ⅱ ※1	幼児教育コースガイダンス 健康診断 教育実習（幼・小） 保育実習指導Ⅲ ※1
5 月				
6 月				【必修】 幼稚園教育実習 （2 回目）
7 月				
8 月			【必修】 保育実習Ⅰ （施設実習） （8～2 月まで順次）	【選択必修】 保育実習Ⅲ ※1 （施設実習） （8～12 月まで順次）
9 月	保育体験Ⅰ ※2	保育体験ⅡB ※2 保育実習指導ⅠA	【選択必修】 保育実習Ⅱ ※1 （保育所実習）	保育・教職実践演習
10 月	実習諸経費納入			
11 月			【必修】 幼稚園教育実習 （1 回目）	保育士登録・教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 保育士登録、教育職員免許状 に関する関係書類の配布等 ↓ 保育士登録申請関係書類提出 免許状交付手数料等納入
12 月				
1 月				
2 月		【必修】 保育実習Ⅰ （保育所実習）		
3 月				（学位記授与式当日） 指定保育士養成施設卒業証 明書受領 教育職員免許状受領

年間予定は変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE及び掲示等に注意してください。

※1 「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」を履修する場合は、それぞれ「実習の事前及び事後指導」である「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習指導Ⅲ」を併せて必ず履修して下さい。

※2 「保育体験Ⅰ、ⅡA、ⅡB」の履修については、幼児教育コースガイダンスで説明します。

人間総合学部

資格課程

公認心理師カリキュラム

司書課程

司書教諭課程

1. 人間総合学部で取得できる資格

人間総合学部で取得できる資格については、以下のとおりです。

それぞれの資格課程の履修にあたっては、学修上の順序性や系統性が厳格に定められていますので、各自で十分にスケジュールを管理するよう心がけてください。

2. 履修上の注意

- 1) 複数の資格（プログラムを含む。以下、資格等）を取得しようとする場合、時間割上で授業が重複すること等により、卒業までに一部又は全部の資格等を取得することが困難となる可能性があります。よって、複数の資格等の取得を目指す場合は、これらのことに十分留意をしてください。
- 2) 資格課程に関わる連絡は、原則として CAMPUS SQUARE の掲示板で行います。掲示は適時確認するようにしてください。掲示を確認しなかったために起こる不利益は本人の責任となります。

①教職課程

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
幼稚園教諭一種	▲	▲	○
小学校教諭一種	▲	▲	○

○＝履修可能

▲＝選考で合格した者のみ履修可能

②保育士養成課程

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
保育士養成課程	－	－	○

○＝履修可能

－＝履修不可

③公認心理師カリキュラム

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
公認心理師カリキュラム	－	○	－

○＝履修可能

－＝履修不可

④司書課程、司書教諭課程

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
司書課程	○	○	○
司書教諭課程	※	※	※

○＝履修可能

※＝教職課程（幼稚園教諭を除く）履修者のみ履修可能

公認心理師カリキュラム

1. カリキュラム（学部）
2. 公認心理師について
3. 公認心理師になるには
4. 本学における公認心理師カリキュラム（学部）の履修について
5. 心理演習
6. 心理実習
7. 公認心理師カリキュラム（学部）に対応する科目

人間総合学部 公認心理師カリキュラム

1. カリキュラム (学部)

2022年度以降入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	
公認心理師必修科目	心理学基礎科目	公認心理師の職責 (2) 心理学概論A (2) 心理学概論B (2) 臨床心理学概論 (2) 心理学統計法ⅠA (2)	心理学実験Ⅰ (4) 心理学実験Ⅱ (4) 心理学統計法ⅠB (2) 心理学統計法Ⅱ (2)	心理学研究法 (2)		
	基礎心理学		発達心理学概論A (2) 発達心理学概論B (2)	知覚・認知心理学 (2) 感情・人格心理学 (2) 社会・集団・家族心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)	心理的アセスメントA (2) 心理的アセスメントB (2)	
				学習・言語心理学 (2)	神経・生理心理学 (2)	心理学的支援法 (2)
	心理学発展科目	実践心理学	健康・医療心理学 (2) 福祉心理学 (2)	司法・犯罪心理学 (2) 産業・組織心理学 (2)	教育・学校心理学 (2)	
		心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病 (2)	関係行政論 (2)	精神疾患とその治療 (2)	
	心理実習科目				心理演習 (2)	
				心理実習 (2)		

2018～2021 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
公認心理師必修科目	心理学基礎科目	公認心理師の職責 (2) 心理学概論A (2) 心理学概論B (2) 臨床心理学概論 (2) 心理学統計法ⅠA (2)	心理学実験Ⅰ (4) 心理学実験Ⅱ (4) 心理学統計法ⅠB (2) 心理学統計法Ⅱ (2)	心理学研究法Ⅰ (2) 心理学研究法Ⅱ (2)		
	基礎心理学		発達心理学概論A (2) 発達心理学概論B (2)	知覚・認知心理学 (2) 感情・人格心理学 (2) 社会・集団・家族心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)	心理的アセスメントA (2) 心理的アセスメントB (2)	
				学習・言語心理学 (2)	神経・生理心理学 (2)	心理学的支援法 (2)
	実践心理学	健康・医療心理学 (2) 福祉心理学 (2)	司法・犯罪心理学 (2) 産業・組織心理学 (2)	教育・学校心理学 (2)		
		心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病 (2)	関係行政論 (2)	精神疾患とその治療 (2)	
	心理実習科目				心理演習 (2)	
					心理実習 (2)	

2. 公認心理師について

1) 公認心理師について

公認心理師は、公認心理師法で定められている国家資格です。公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2) 公認心理師になるには

公認心理師になるには、次の3つのステップが必要です。大学（学部）で履修できるのは以下に記載している（1）のみで、さらに加えて（2）と（3）が必要であることを十分に理解した上で、今後の学修計画や進路選択を行きましょう。

- (1) 公認心理師カリキュラムをもつ大学において、所定の科目を履修し、卒業する。
- (2) 公認心理師カリキュラムをもつ大学院において、所定の科目を履修し、修了する。もしくは、学部卒業後2年間の実務経験を積む。
- (3) 国家試験である公認心理師試験に合格する。

3. 本学における公認心理師カリキュラム（学部）の履修について

1) 対象

公認心理師カリキュラム（学部）は、人間総合学部発達心理学科の学生が対象となります。

2) 履修

「1. カリキュラム表（学部）」および「6. 公認心理師カリキュラム（学部）に対応する科目」に示すとおり、公認心理師カリキュラム（学部）においては、文部科学省令・厚生労働省令で定められている所定の科目すべての単位を修得する必要があります。入学年度により履修科目名が異なりますので、履修にあたっては十分注意してください。特に、「5. 心理実習 1) 履修要件」にある科目は優先的に履修できるよう計画してください。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

公認心理師カリキュラム（学部）は、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) カリキュラム履修の届出・辞退

公認心理師カリキュラム（学部）の履修を希望する学生は、公認心理師カリキュラムガイダンス（1年次7月）に出席し、所定の期日までに志望届（Web）を提出してください。また、2年次までに「公認心理師の職責」の単位を必ず修得してください。履修を取り下げの場合は、「心理実習」担当教員（主担当）に申し出て必要な手続きをしてください。

5) 公認心理師カリキュラム（学部）に関するサポート

公認心理師カリキュラム（学部）に関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

4. 心理演習

1) 履修要件

【2024年度以降入学者】

「心理演習」を履修するためには、以下の17科目38単位を前学期までに修得していることが必要です。

発達心理学科 1 年次必修科目 (6 科目 12 単位)

心理学概論 A (2)、心理学概論 B (2)、発達心理学基礎演習 A (2)、発達心理学基礎演習 B (2)、心理学統計法 I A (2)、臨床心理学概論 (2)

発達心理学科 2 年次必修科目 (10 科目 24 単位)

発達心理学概論 A (2)、発達心理学概論 B (2)、発達臨床心理学概論 (2)、心理学実験 I (4)、心理学実験 II (4)、心理学統計法 I B (2)、心理学統計法 II (2)、論文講読基礎演習 (2)、英語論文講読演習 (2)、キャリア研究 (2)

発達心理学科 選択科目のうち対象学年 1 年次科目 (1 科目 2 単位)

公認心理師の職責 (2)

【2021・2022・2023 年度入学者】

「心理演習」を履修するためには、以下の 17 科目 38 単位を前学期までに修得していること、また、前述 17 科目の GPA が 2.5 以上であることが必要です。

発達心理学科 1 年次必修科目 (6 科目 12 単位)

心理学概論 A (2)、心理学概論 B (2)、発達心理学基礎演習 A (2)、発達心理学基礎演習 B (2)、心理学統計法 I A (2)、臨床心理学概論 (2)

発達心理学科 2 年次必修科目 (10 科目 24 単位)

発達心理学概論 A (2)、発達心理学概論 B (2)、発達臨床心理学概論 (2)、心理学実験 I (4)、心理学実験 II (4)、心理学統計法 I B (2)、心理学統計法 II (2)、論文講読基礎演習 (2)、英語論文講読演習 (2)、キャリア研究 (2)

発達心理学科 選択科目のうち対象学年 1 年次科目 (1 科目 2 単位)

公認心理師の職責 (2)

2) 履修登録

3 年次前期にあらかじめ研究室登録されています。事前登録申請期間に各自で確認してください。

5. 心理実習

1) 履修要件

「心理実習」を履修するためには、以下の 21 科目 46 単位を前学期までに修得していることが必要です。

発達心理学科 1 年次必修科目 (6 科目 12 単位)

心理学概論 A (2)、心理学概論 B (2)、発達心理学基礎演習 A (2)、発達心理学基礎演習 B (2)、心理学統計法 I A (2)、臨床心理学概論 (2)

発達心理学科 2 年次必修科目 (10 科目 24 単位)

発達心理学概論 A (2)、発達心理学概論 B (2)、発達臨床心理学概論 (2)、心理学実験 I (4)、心理学実験 II (4)、心理学統計法 I B (2)、心理学統計法 II (2)、論文講読基礎演習 (2)、英語論文講読演習 (2)、キャリア研究 (2)

発達心理学科 選択科目のうち対象学年 1 年次科目 (4 科目 8 単位)

公認心理師の職責 (2)、福祉心理学 (2)、健康・医療心理学 (2)、人体の構造と機能及び疾病 (2)

発達心理学科 3 年次 (前期) 選択科目 (1 科目 2 単位)

心理演習 (2)

2) 履修登録

3 年次後期にあらかじめ研究室登録されています。事前登録申請期間に各自で確認してください。

3) 実習費

学外実習につき別途実習費の納入が必要になります。納入金額・方法等については、別途対象者へ連絡いたします。

(参考：約 30,000 円、9 月中旬から 10 月初旬に証明書自動発行機にて納入)

期間内に納入手続きを行わない場合「心理実習」を履修することはできません。また、一旦納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

なお、実習費の他に、予防接種関係費用、白衣クリーニング代、交通費、食事代、証明書発行手数料等の実費が自己負担となります。

4) 実習期間・時間帯

3年次後期から4年次前期までの期間に実習が行われます。3年次後期の月3・4限に心理実習の履修が登録されますが、外部実習時の移動の関係で3年次後期の月曜5限も空けておくようになしてください。

また、月3・4限とは別枠で外部実習が行われます。春休みに単発で外部実習に行く他、主に木1・2限の時間帯に小学校実習を予定しています。詳しくは、実習ガイダンス、担当教員の指導にしたがってください。

5) 成績通知および単位認定時期

実習終了後の4年次学年末に成績が通知され、合格すると単位が認定されます。

6. 公認心理師カリキュラム（学部）に対応する科目

2022年度以降入学者用

	公認心理師法施行規則に定める科目	本学における開講科目	単位数	対象年次
公 認 心 理 師 必 修 科 目	① 公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	1
	② 心理学概論	心理学概論A	2	1
		心理学概論B	2	1
	③ 臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	1
	④ 心理学研究法	心理学研究法	2	3
	⑤ 心理学統計法	心理学統計法ⅠA	2	1
		心理学統計法ⅠB	2	2
		心理学統計法Ⅱ	2	2
	⑥ 心理学実験	心理学実験Ⅰ	4	2
		心理学実験Ⅱ	4	2
	⑦ 知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	3・4
	⑧ 学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2・3・4
	⑨ 感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	3・4
	⑩ 神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2・3・4
	⑪ 社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	3・4
	⑫ 発達心理学	発達心理学概論A	2	2
		発達心理学概論B	2	2
	⑬ 障害者（児）心理学	障害者・障害児心理学	2	3・4
	⑭ 心理的アセスメント (この中で2単位を修得すること)	心理的アセスメントA *	2	3・4
		心理的アセスメントB *	2	3・4
	⑮ 心理学的支援法	心理学的支援法	2	2・3・4
	⑯ 健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	1
	⑰ 福祉心理学	福祉心理学	2	1
	⑱ 教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3・4
	⑲ 司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2・3・4
⑳ 産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	2・3・4	
㉑ 人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	1	
㉒ 精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	3・4	
㉓ 関係行政論	関係行政論	2	2・3・4	
㉔ 心理演習	心理演習	2	3	
㉕ 心理実習	心理実習	2	3・4	
本学が定める最低修得単位数			66単位	

* 心理的アセスメントAおよび心理的アセスメントBは1科目で公認心理師カリキュラムの要件を満たしますが、科目内容が異なるため、卒業までに両方を履修することを推奨します。

2018～2021 年度入学者用

	文部科学省令・厚生労働省令で定められている科目	本学における開講科目	単位数	対象年次
公認心理師必修科目	① 公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	1
	② 心理学概論	心理学概論A	2	1
		心理学概論B	2	1
	③ 臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	1
	④ 心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	2	3
		心理学研究法Ⅱ	2	3
	⑤ 心理学統計法	心理学統計法ⅠA	2	1
		心理学統計法ⅠB	2	2
		心理学統計法Ⅱ	2	2
	⑥ 心理学実験	心理学実験Ⅰ	4	2
		心理学実験Ⅱ	4	2
	⑦ 知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	3・4
	⑧ 学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2・3・4
	⑨ 感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	3・4
	⑩ 神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2・3・4
	⑪ 社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	3・4
	⑫ 発達心理学	発達心理学概論A	2	2
		発達心理学概論B	2	2
	⑬ 障害者（児）心理学	障害者・障害児心理学	2	3・4
	⑭ 心理的アセスメント (この中で2単位を修得すること)	心理的アセスメントA *	2	3・4
		心理的アセスメントB *	2	3・4
	⑮ 心理学的支援法	心理学的支援法	2	2・3・4
	⑯ 健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	1
	⑰ 福祉心理学	福祉心理学	2	1
	⑱ 教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3・4
⑲ 司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	
⑳ 産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	2・3・4	
㉑ 人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	1	
㉒ 精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	3・4	
㉓ 関係行政論	関係行政論	2	2・3・4	
㉔ 心理演習	心理演習	2	3	
㉕ 心理実習	心理実習	2	3・4	

* 心理的アセスメントAおよび心理的アセスメントBは1科目で公認心理師カリキュラムの要件を満たしますが、科目内容が異なるため、卒業までに両方を履修することを推奨します。

人間総合学部

司書課程

文学部 資格課程 司書課程 のページを参照してください

人間総合学部

司書教諭課程

1. 司書教諭課程について
2. 司書教諭に関する科目
3. 司書教諭課程の履修について

人間総合学部 司書教諭課程

1. 司書教諭課程について

1) 概要

司書教諭課程は、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するコース」です。司書教諭とは、学校図書館法第5条の規定に基づいて設けられている（小・中・高等）学校図書館において専門職務に従事する教員のことをいいます。本学では、履修資格として「教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）を有する者、または卒業時に教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）取得見込みである者」であることが求められます。

2. 司書教諭に関する科目（人間総合学部） ※初等教育学科専門科目として開講

	学校図書館司書教諭講習規程の科目	単位数	本学における開講科目	対象年次	単位数
必	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	3・4	2
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2・3・4	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2・3・4	2
修	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2・3・4	2
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	3・4	2
本学における司書教諭課程修了に必要な単位数 合計					10

3. 司書教諭課程の履修について

1) 対象

司書教諭課程は人間総合学部初等教育学科児童教育コースの学生および同学科同コースを他学科・他コース履修している学生が履修できます。履修開始は3年次からとなります。

2) 修了要件

必修科目5科目（10単位）を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、学校図書館司書教諭講習規程第6条により修了証書が文部科学省より交付されます。なお、修了証書の交付はすべての単位を修得した年度末から1年後（予定）となります。

3) 履修登録単位数の上限（加算あり）

司書教諭課程は、履修登録単位数の上限への加算があります。司書教諭課程履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

人間総合学部における司書教諭に関する科目は、初等教育学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

初等教育学科の学生

初等教育学科専門科目の単位

初等教育学科児童コースを他学科履修している学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) 履修開始までの流れ

司書教諭課程の履修開始までの流れは以下のとおりです。

履修手続きの確認

初等教育学科より配布される資料「『司書教諭課程』履修手続き」をよく読んでください。

履修申込フォームの入力・送信 および 履修費の納入

3月末の指定期日までに履修申込フォームの入力・送信を、4月の指定期日までに司書教諭課程履修費の納入を行ってください。

6) 履修費

司書教諭課程を履修するには、履修費 20,000 円（履修初年度4月納入）が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

7) 留意事項

司書教諭課程への履修者登録は、卒業時までには課程修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、司書課程に関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

8) 辞退

司書教諭課程の履修を辞退する場合は、基礎教育センターへ辞退届を提出してください。

9) 司書教諭課程に関するサポート

司書教諭課程に関する質問は、基礎教育センター（4号館1F）へお問い合わせください。

人間総合学部

プログラム等

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

日本語教育副専攻

グローバルビジネスプログラム

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）

学校司書のモデルカリキュラム

1. 人間総合学部で学べるプログラム

人間総合学部で学べるプログラムについては、以下のとおりです。

それぞれのプログラムの履修にあたっては、学修上の順序性や系統性が厳格に定められていますので、各自で十分にスケジュールを管理するよう心がけてください。

2. 履修上の注意

- 1) 複数のプログラム（資格を含む。以下、プログラム等）を取得しようとする場合、時間割上で授業が重複すること等により、卒業までに一部又は全部のプログラム等を取得することが困難となる可能性があります。よって、複数のプログラム等の取得を目指す場合は、これらのことに十分留意をしてください。
- 2) プログラムに関わる連絡は、原則として CAMPUS SQUARE の掲示板で行います。掲示は適時確認するようにしてください。掲示を確認しなかったために起こる不利益は本人の責任となります。

①白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム	○	○	○

○＝履修可能

*カリキュラムや履修方法等については、文学部の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」のページを参照してください。

②日本語教育副専攻

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
日本語教育副専攻	○	○	○

○＝履修可能

*カリキュラムや履修方法等については、文学部の「日本語教育副専攻」のページを参照してください。

③グローバルビジネスプログラム

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
グローバルビジネスプログラム	○	○	○

○＝履修可能

*カリキュラムや履修方法等については、文学部の「グローバルビジネスプログラム」のページを参照してください。

④ホスピタリティ・マネジメントプログラム

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
ホスピタリティ・マネジメントプログラム	○	○	○

○＝履修可能

*カリキュラムや履修方法等については、文学部の「ホスピタリティ・マネジメントプログラム」のページを参照してください。

⑤児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）	※	※	※

※＝小学校教諭免許状取得予定者のみ履修可能

⑥学校司書のモデルカリキュラム

	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
学校司書のモデルカリキュラム	※	※	※

※＝司書課程又は教職課程（幼稚園教諭を除く）履修者のみ履修可能

人間総合学部

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

文学部 プログラム等 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム のページを参照してください

人間総合学部

日本語教育副専攻

文学部 プログラム等 日本語教育副専攻 のページを参照してください

人間総合学部

グローバルビジネスプログラム

文学部 プログラム等 グローバルビジネスプログラム のページを参照してください

人間総合学部

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

文学部 プログラム等 [ホスピタリティ・マネジメントプログラム](#) のページを参照してください

児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）

1. 児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）について
2. 児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）に関する科目
3. 児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）の履修について

児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）

1. 児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）について

1) 概要

子どもに英語を教えることに関心のある人を対象とするプログラムです。世界の多くの国では、公立・私立の小学校ばかりでなく、民間の教育機関や小グループでの指導を含めた子どもたちへの外国語指導の実践がなされてきました。日本においても、2020年度より小学校において外国語（英語）教育が始まりました。それに伴い、子どもたちを対象とする外国語教育の必要性がますます高まっています。

プログラム修了後に想定されるキャリア・プランとしては、児童英語教室で教える、小学校の外国語・外国語活動の授業支援者（アシスタント）となる、児童英語教材のデザイナーになる等の幅広い分野での活動が期待できます。また、小学校教諭免許状の取得に加えて本プログラムを履修することにより、児童英語の指導法を強みとする小学校教員としての活躍も期待されます。

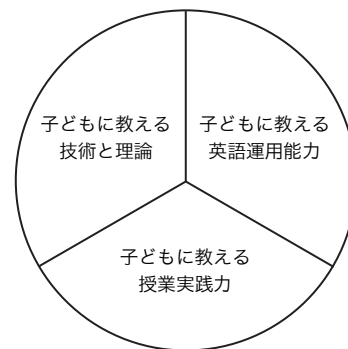
2) 目標

本プログラムでは、子どもたちに英語を教える指導者に求められる資質を、

1. 子どもに教える技術と理論
2. 子どもに教える英語運用力
3. 子どもに教える授業実践力

の3つの領域から成るものと考え、これら3つの力をバランスよく身に付けた上で、実際に小学生を相手に英語の授業を行うことを目標としています。

子どもに英語を教える力



3) 小学校英語教育推進協議会（J-SHINE）に対応した2つのコース

本学は「小学校での英語教育の普及と発展を支援する」という趣旨のもとに指導者の資格認定を行う特定非営利法人「小学校英語教育推進協議会（J-SHINE）」への登録団体です。本プログラムでは、J-SHINEの小学校英語準認定指導者資格に対応した「基礎コース」と小学校英語指導者資格・小学校英語指導者+（プラス）に対応した「実践コース」の2つのコースを設定しています。本プログラム修了者には、白百合女子大学児童英語指導者養成プログラムの修了証書を授与すると同時に、希望者についてはJ-SHINEの資格認定を申請することも可能です。

本プログラムにおけるコースとJ-SHINE認定資格の対応表

	基礎コース	実践コース
プログラム修了に必要な単位数	21単位	27単位（基礎コース21単位+6単位）
目標とする英語運用能力	指導者としての基本的英語運用能力	英語で教えることができる英語運用能力
小学校における指導体験時間数	20時間程度	50時間程度
対応するJ-SHINE認定資格	小学校英語準認定指導者資格	小学校英語指導者資格、 小学校英語指導者+（プラス）*

* 小学校英語指導者+（プラス）は、CEFR B2以上の英語運用能力と50時間以上の指導体験時間数が要件となります。申請には以下のいずれかの提出が必要です。

実用英語技能検定	準1級以上の合格証明書
TOEIC L&W/S&W	1560点以上の公式認定書
TOEFL (iBT)	72点以上のスコアレポート（発行後2年以内）
Cambridge English	160点以上のCertificate Statement of Results
IELTS	5.5以上の成績証明書
TEAP	309点以上の成績表（発行後2年以内）
TEAP (CBT)	600点以上の成績表（発行後2年以内）

2. 児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）に関する科目

種別	科目区分	科目名	対象年次	単位数	プログラム修了に必要な単位数		
					基礎コース	実践コース	
基礎	人初	小学校外国語（英語）	2	2	2	21 単位	27 単位
	人初	初等外国語（英語）指導法	2	2	2		
	人初	教育体験Ⅱ A	2	1	1		
	人初	教育体験Ⅱ B	2	1			
発展	文英	子どもに教えるための英語Ⅱ *1	3・4	2	2		
	人初	児童英語指導法ワークショップⅠ *1	3・4	4	4		
	人初	児童英語指導法ワークショップⅡ *1	3・4	4			
その他	人初	教育心理学	1	2	2		
	文英	児童英語教材研究	2・3・4	2	2		
	文英	英語教育の理論と実践Ⅱ	2・3・4	2	2		
	文英	言語習得論Ⅰ	2・3・4	2	2		
	文英	言語習得論Ⅱ	2・3・4	2			
	文英	英語音声学Ⅰ	2・3・4	2	2		
	文英	英語音声学Ⅱ	2・3・4	2			
指導法	文英	児童英語教育法 *1	3・4	2	2		
指導体験	文英	児童英語アシスタント実習Ⅰ *2	4	4	4 *3		
	文英	児童英語アシスタント実習Ⅱ *2	4	4			

*1 基礎3科目（「小学校外国語（英語）」「初等外国語（英語）指導法」「教育体験Ⅱ A（またはⅡ B）」）のすべての単位を修得していることが履修の要件となります。

*2 「児童英語指導法ワークショップⅠ」「児童英語ワークショップⅡ」のいずれか一方の単位を修得していることが履修の要件となります。

*3 3年次に「児童英語指導法ワークショップⅠ」「児童英語指導法ワークショップⅡ」の両方の単位を修得した場合は、「児童英語アシスタント実習Ⅰ」または「児童英語アシスタント実習Ⅱ」の代わりに、「児童英語指導法ワークショップⅡ」の修得済単位をもって要件単位数を満たすことができます。

3. 児童英語指導者養成プログラム（小学校英語オプション）の履修について

1) 対象

本プログラム（小学校英語オプション）は人間総合学部初等教育学科児童教育コースの学生および同学科同コースを他学科・他コース履修している学生が履修できます。履修開始は1年次からとなりますが、希望すれば2・3年次からでも履修を開始することが可能です。

2) 修了要件

基礎コースは10科目（21単位）以上修得すること、実践コースは基礎コースに2科目（6単位）を加えて合計12科目（27単位）以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算あり）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算があります。プログラム履修者は、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位となります。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分が所属しない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位

（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。ただし、初等教育学科には「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」がありませんが、卒業の単位には含まれます。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、3・4月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し出

4月の指定期日までに児童英語指導者養成プログラム担当教員（jidoeigo@shirayuri.ac.jp）へメールでプログラム履修を希望する旨を申し出てください。

なお、本プログラム（小学校英語オプション含む）の定員40名を超える申し出があった場合のみ、①小学校教諭免許状の取得予定者 ②英語英文学科の学生 の優先基準をもとに履修者数の調整を行います。

6) プログラムに関する費用

本プログラムを履修にあたり、学外における授業や研修のために必要な交通費等は実費負担となります。また、本学のプログラムの修了をもってJ-SHINEの資格認定を希望する場合は、J-SHINE資格認定審査料（6,000円程度）がかかります。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

8) プログラム履修の辞退

原則として年度途中でのプログラム辞退は認められません。毎年度末（2月～3月）、履修者全員へメールにて翌年度もプログラム履修を継続するか意思確認を行います。辞退を希望する場合はそのタイミングで申し出てください。なお、年度途中で辞退の意思を固めている場合は、プログラム科目を自身で履修取消申請してもかまいません。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、児童英語指導者養成プログラム担当教員 (jidoeigo@shirayuri.ac.jp) へお問い合わせください。

学校司書のモデルカリキュラム

1. 学校司書のモデルカリキュラムについて
2. 学校司書のモデルカリキュラムに関する科目（人間総合学部）
3. 学校司書のモデルカリキュラムの履修について

人間総合学部 学校司書のモデルカリキュラム

1. 学校司書のモデルカリキュラムについて

1) 概要

学校司書とは、学校図書館を運営していくために必要な専門的・技術的職務に従事しながら、学校図書館を活用した授業やその他の教育活動を教員とともに進める職員です。学校図書館法（1953年・法律185号）が2014年に改正され、学校には学校司書を置くよう努めなければならないと規定されました。

本学の学校司書のモデルカリキュラムは「学校司書のモデルカリキュラム」（2016年・文部科学省通知〔28文科初第1172号〕）に基づいており、司書課程、中等教職課程、人間総合学部初等教育学科の科目区分より所定の科目を履修することで学校司書のモデルカリキュラムの履修証明を得ることができます。

2. 学校司書のモデルカリキュラムに関する科目（人間総合学部）

	学校司書のモデルカリキュラム (文部科学省通知科目)	単位数	本学における開講科目	科目区分	対象年次	単位数
必 修	学校図書館概論	2	学校経営と学校図書館	人初	3・4	2
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	司書	2・3・4	2
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習（目録）	司書	3・4	2
			情報資源組織演習（分類）	司書	3・4	2
	学校図書館サービス論	2	図書館サービス特論（学校） *1	司書	3・4	2
	学校図書館情報サービス論	2	情報サービス論	司書	2・3・4	2
			情報サービス演習Ⅰ	司書	3・4	2
			情報サービス演習Ⅱ	司書	3・4	2
	学校教育概論	2	教育原理	人初	2 *3	2
			教育心理学	人初	1 *3	2
			特別な支援を要する子どもの理解と支援	人初	1 *3	2
			教職課程論（小） *2	人初	2 *3	2
			教育課程論（中・高） *2	教職	3 *4	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	人初	3・4	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	人初	3・4	2	
本学における学校司書のモデルカリキュラム修了に必要な単位数 合計						32

*1 司書課程を履修している学生は、司書課程選択必修として履修可能な2科目のうちの1科目として、「図書館サービス特論（学校）」を必ず含めるようにしてください。また、本科目は2024年度以降隔年開講となります。学校司書のモデルカリキュラムの修了のためには、開講された年度に先送りすることなく必ず履修してください。

*2 初等教育学科の学生および同他学科履修の学生は「教職課程論（小）」を、司書課程を履修している学生は「教職課程論（中・高）」を履修し、2単位を修得してください。

*3 初等教育学科における対象学年を示しています。初等教育学科以外の学生は、上の表で示されている対象学年以降に履修してもかまいません。

*4 中等教職課程における対象学年を示しています。中等教職課程を履修していない学生は、上の表で示されている対象学年以降に履修してもかまいません。

3. 学校司書のモデルカリキュラムの履修について

1) 対象

人間総合学部の学校司書のモデルカリキュラムは司書課程を履修している学生、人間総合学部初等教育学科児童教育コースの学生および同学科同コースを他学科・他コース履修している学生が履修できます。履修開始は原則2年次からとなります。3年次以降の履修開始を希望する場合は、前期の事前登録期間終了までに基礎教育センターへ申し出ることで履修を認められることがあります。

2) 修了要件

本カリキュラムは、必修科目16科目(32単位)を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたカリキュラム履修者には、卒業時に本学が発行する「学校司書のモデルカリキュラム修了証」を授与します。

3) 履修登録単位数の上限(加算なし)

人間総合学部初等教育学科児童コースの学生においては、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

司書課程を履修している学生および人間総合学部初等教育学科児童教育コースを他学科履修している学生においては、すでに履修登録単位数の上限への加算(半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位)が認められていることから、それ以上のさらなる加算はありません。

4) 単位の取り扱い

本カリキュラムの科目は、司書に関する科目、教職に関する科目(中等教職課程)、初等教育学科専門科目から成っています。初等教育学科の学生における初等教育学科専門科目をのぞき、修得した単位は「科目区分を特定しない自由選択単位(差の単位)」として卒業の単位に含まれます。

5) カリキュラム履修開始までの流れ

本カリキュラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

登録説明会への参加

カリキュラム履修を希望する学生は、1年次後期実施の登録説明会へ必ず参加してください。

履修届の提出

指定期日までに履修届を提出してください。

履修登録

本カリキュラムの科目のうち、司書に関する科目と初等教育学科専門科目は、事前登録申請期間に履修登録してください。

6) カリキュラム履修の留意事項

本カリキュラムへの登録は、卒業時までカリキュラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、カリキュラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。

7) カリキュラム履修の辞退

本カリキュラムの履修を辞退する場合は、基礎教育センターへ辞退届を提出してください。

8) カリキュラムに関するサポート

本カリキュラムに関する質問は、基礎教育センター(4号館1F)へお問い合わせください。

大学院 文学研究科

修了認定に関する方針

／教育課程の編成及び実施に関する方針

課程修了および学位取得スケジュール

指導教員

修了要件単位数およびカリキュラム

授業・履修

大学院科目履修取消申請

委託特別聴講生制度

修士論文および特定の課題についての研究の成果

博士学位論文（課程博士）

在学延長・単位取得退学

専修免許状の取得

公認心理師カリキュラム

臨床心理士カリキュラム

臨床発達心理士カリキュラム

修了認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

2023年度以降入学者用

【発達心理学専攻】

1. 教育研究上の目的

博士課程（前期）

発達心理学専攻（博士課程（前期））は、人間の生涯にわたる心と行動の発達とその臨床的な対応について、発達心理学および発達臨床心理学の立場から専門的に研究・教育を行い、専門的な知識、理論および技能を備え、他の領域の専門家とも連携しつつ幅広い分野で発達支援を行うことのできる人材の養成を目的とする。

博士課程（後期）

発達心理学専攻（博士課程（後期））は、人間の生涯にわたる心と行動の発達とその臨床的な対応について、発達心理学および発達臨床心理学の立場から専門的に研究・教育を行い、高度に専門的な知識、理論および技能を備え、他の領域の専門家とも連携しつつ幅広い分野で発達支援を行うことができる人材、またこの領域に関する理論と知識の創生に寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

発達心理学専攻は、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）それぞれの課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに学位論文に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し、それぞれ修士（心理学）、博士（心理学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表する能力。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、臨床実践の場において、または研究の場において、専門的に貢献する能力。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、これを総合的にまとめ、現実的問題に柔軟に対応する能力。

博士課程（後期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する広範かつ高度な専門的な理論や知識、技能を修得し、専門的かつ詳細なデータ分析を行い、そこから得られた知見を専門的な論文に発表し、その領域での研究者としての基盤を作る能力。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、臨床実践の場において、または研究の場において、専門家として貢献し、時に指導的な立場を担う能力。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に細心の注意を払い、それらをまとめて独自の理論を創造的・学問的に考える能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文・博士論文については、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性

- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性と創造性
- 3) 先行研究のレビューの広範囲な引用による適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その高度な手法を用いた分析の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

発達心理学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のように教育課程を編成・実施する。

博士課程（前期）

- 1) 発達心理学・発達障害および臨床心理学、さらには隣接諸領域に関する専門的な理論や知識、また研究方法や臨床的な技能を身につけるために、発達心理学を中心に心理学および臨床心理学の各領域にわたる演習科目を設置している。
- 2) 本学附属の発達臨床センターや学外の医療機関・学校等における実習科目を開設している。これは臨床心理士、及び公認心理師の資格試験の受験要件を満たすようにしている。加えて、生涯発達研究教育センターが開催する研究会に参加することを求め、学内外の研究者の研究発表と討論の場に参加して学ぶ機会を設けている。
- 3) 本課程の学修の集大成として修士論文研究を課している。発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向への関心に基づき、「修士論文指導」科目において指導教員から「論文審査基準」について指導を受けつつ研究を進める。その成果を「修士論文（中間）発表会」で口頭発表したり、『発達臨床センター紀要』・『生涯発達心理学研究（生涯発達研究教育センター紀要）』に投稿したりすることを通じて、研究発表の現実的な仕方についても学ぶことを期している。

博士課程（後期）

- 1) 「研究指導」科目においては、「論文審査基準」に掲げる各項目の内容に沿って指導教員とともに検討しながら、創造的な思考に基づき博士論文作成の過程を進めていく。あわせてこの科目では、国内外での学会発表におけるポスターや発表原稿の作成、口頭発表の行い方、ジャーナル・ペーパーの作成、そして最新の研究動向の把握など、研究者として必要な資質の育成も期している。
- 2) 本専攻のカリキュラムではないが、他の研究機関等でのプロジェクトへの参加や臨床現場での実務経験、非常勤講師の経験などを通じて、研究者・臨床家・教育者として指導的な立場になるための実践的な力量形成を図ることも奨励している。
- 3) 「心理学実験指導法」科目では、将来教育職に就く可能性を見通して、学部学生を対象として心理学の方法（実験法・調査法等の研究方法全般、データ分析と心理統計、レポート作成と発表）を指導する経験を通じて、この面での力量形成を期している。さらに、必要に応じて博士課程（前期）科目を履修することを認めており、研究を発展させる上での知識基盤の拡充を図る。

【児童文学専攻】

1. 教育研究上の目的

博士課程（前期）

児童文学専攻（博士課程（前期））は、児童の環境を形成する児童文学・児童文化の研究を通して、想像力と創造力に基づいた専門的知識をもった人材の養成を目的とする。

博士課程（後期）

児童文学専攻（博士課程（後期））は、児童の環境を形成する児童文学・児童文化の研究を通して、想像力と創造力に基づいた専門的知識および高度な研究能力をもった人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

児童文学専攻は、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）それぞれの課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに学位論文に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し、それぞれ修士（文学）、博士（文学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 児童文学および児童文化に関する広い視野と高度な知識に基づいた思考能力。
- 2) 研究倫理を遵守し、専門分野に関する適切な研究方法に従って、情報収集を行う能力および文献・資料を読み解く能力。
- 3) 独自性のある研究成果を導き出し、それを的確な表現力をもって発信する能力。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、専門的な知識に基づいて現実的諸問題に対応する能力。

博士課程（後期）

- 1) 児童文学および児童文化における深い学術的知見に基づき、独自の研究課題を追求する能力。
- 2) 博士課程（前期）で培った調査力・分析力・考察力をさらに発展させ、独創的かつ自立した研究を遂行し、その成果を正確かつ高度な表現力をもって発信する能力。
- 3) 専門分野およびそれらに隣接する領域の動向に関心を持ち、柔軟な想像力・創造力を用いて学問的・実践的諸問題に対応する能力。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、実践および研究・教育の場において、精深な学識に基づいて寄与・貢献する能力。

3. 論文審査基準

上記の目標を踏まえ、修士論文・博士論文は、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における学術的寄与および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における高度の学術的寄与および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性

- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

児童文学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよ
うに教育課程を編成・実施する。

博士課程（前期）

- 1) 学生が児童文学・児童文化に関する専門的な知識や理論および研究方法を身につけ、自らの想像力・創造力を
発展させるために、児童文学・文化に特化した科目を設置する。
- 2) 学生が学修の成果を修士論文にまとめるために、「修士論文指導」科目を設置する。学生は複数の教員の指導
を受け、「課程修了および学位取得スケジュール」に基づき、本専攻の修士論文審査基準にしたがって、修士
論文を執筆していく。
- 3) 学生は、本学附属の「児童文化研究センター」が刊行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）へ
の投稿や、修士論文発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や発表の仕方を学ぶことができる。
- 4) 学生は、「児童文化研究センター」が主催する各種プログラム（研究会、講演会、プロジェクト等）への参加
を通じて、専門分野に関する社会的要請を理解することができる。

博士課程（後期）

- 1) 学生が児童文学・児童文化の専門的な研究の成果として博士論文を作成するために、「研究指導」科目を設置
する。学生は複数の教員の指導を受け、「課程修了および学位取得スケジュール」に基づき、本専攻の博士論
文審査基準にしたがって、博士論文を執筆していく。
- 2) 学生は、本学附属の「児童文化研究センター」が刊行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）へ
の投稿や、研究発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や学会等での発表の作法を学ぶことができる。
- 3) 学生が児童文学・児童文化固有の各ジャンルに適した研究方法を身につけるために、必修科目「児童文学研究
法」を設置する。学生は、必要に応じて、博士課程（前期）科目を履修し、研究の基礎となる知識や理論を幅
広く拡充することもできる。
- 4) 学生は、「児童文化研究センター」が主催する各種プログラム（研究会、講演会、プロジェクト等）に参加し
て内外の研究者と交流することによって、専門分野に関する社会的要請を理解し、専門領域ならびに関連領域
に関する最新の学問動向に触れることができる。

【国語国文学専攻】

1. 教育研究上の目的

国語国文学専攻（修士課程）は、国語および国語を用いて表現されたもの全般に関する研究をとおして体系的な専門
知識を身につけ、研究者、教育者をはじめ、わが国の文化の発展に積極的に寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国語国文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、学業成績並びに、学位論文または特別
の課題についての研究の成果に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し修士（文学）の学位を授与す
る。

- 1) 自らの研究関心によって必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、得られた知見を専門的な論文
などによって発表する能力。
- 2) 国語学、国文学、また、国語教育、日本語教育などに関する専門的な理論や幅広い知識、技能を修得し、日本
の言語文化に関する社会的な要請を理解することで、専門的な貢献をする能力。
- 3) 国語国文学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応する
能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II 教材研究

- 1) 自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 教育実践上の成果が期待できるものであること。
- 3) 研究の目的および方法が明確であること。
- 4) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 翻刻・注釈・現代語訳

- 1) 既存の翻刻・注釈・現代語訳が備わらず、研究上有用と認められる作品・資料を対象としていること。
- 2) 原文の内容を正確に把握した翻刻・現代語訳であること。もしくは、作品の理解に寄与する注釈を施していること。
- 3) 作品の研究上の位置づけや、翻刻・注釈・現代語訳にあたっての方針が、明確に示されていること。
- 4) 指導教員の指導が反映されたものであること。

IV 研究資料（年譜・参考文献目録等）

- 1) 既存の年譜・参考文献目録等が備わらない作家・研究領域を対象とし、網羅的な内容かつ研究対象の理解に寄与するものであること。
- 2) 研究対象の客観的位置づけや、資料作成にあたっての方針が、明確に示されていること。
- 3) 指導教員の指導が反映されたものであること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

国語国文学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよう

に教育課程を編成・実施する。

- 1) 学生自身の関心と課題に基づく修士論文作成を目的として、「修士論文指導」科目を設置する。また、修士論文に代わる、特定の課題についての研究を希望する学生に対しては「特定の課題に関する研究指導」科目を設置し、複数の教員による指導を行う。これらの科目は「課程修了および学位取得スケジュール」、国語国文学専攻の「論文審査基準」に従う。
- 2) 国語学、国文学、また国語教育、日本語教育など国語および国語を用いて表現されるもの全般に関する専門的な理論・教養・知識・技能を身につけることで、広く社会に貢献しうることが目的として、専攻に関わる各時代・各分野の演習科目を設置する。
- 3) 言語文学に対して、より深く幅広い教養・知識を身につけることを目的として、他言語他文化を含めた講義「オ

ムニバス」科目を履修することができる。また、専攻内での隣接分野にも広く接することを目的として、修士論文または特定の課題についての研究の成果を執筆する年度には、年に一度開催される「研究発表会」で発表の機会を設け、専攻全体で指導を行う機会を持つ。

【フランス語フランス文学専攻】

1. 教育研究上の目的

フランス語フランス文学専攻は、フランス語、フランス文学・文化およびフランス語教育の研究において体系的に学識を深め、幅広い専門知識と研究能力、言語運用能力を持ち、教育・研究機関のみならず多様な分野において、文化の進展に寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

フランス語フランス文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、学業成績並びに、学位論文または特定の課題についての研究の成果に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し修士（文学）の学位を授与する。

- 1) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する体系的な理論と知識を学び、自らの研究の必要性に応じて文献、データを収集・分析し、そこから得られた知見をもとに独自の考察を行う能力。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、または実践の場において、研究の経験を活かした貢献をする能力。
- 3) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する最新の学問的達成を注視し、学問上の新たな課題にも柔軟に対応する能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 研究対象および関連事項を精査したものであること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 内容の展開が論理的であること。
- 4) 記述の表現が緻密であること。
- 5) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 6) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（4本）

- 1) 4つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 4つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 仏和翻訳

- 1) フランス語で書かれ公刊された作品で、かつ既訳のないものの日本語訳であること。

- 2) フランス語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) フランス語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけや、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

フランス語フランス文学専攻では、修了認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のように教育課程を編成・実施する。

- 1) 学生がフランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な知識や技能を修得することを目的とした研究科目を置く。また、専門領域に関わらず、すべての基礎となるフランス語運用能力の向上を目的とした演習科目を置く。
- 2) 修士論文および特定の課題についての研究については、その作成を指導教員が指導するため、「修士論文指導」科目、「特定の課題に関する研究指導」科目を置く。また、学生が言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけ、専門的立場からの社会に貢献できるように、「オムニバス」科目の履修ができるようにする。
- 3) 以上の授業科目と並行する形で年間2回の中間発表会を催し、修士論文または特定の課題について、その中間成果のまとめを学生に促すとともに、研究成果を口頭で発表する訓練を行う機会を学生に提供する。なお、指導教員は、修士課程入学直後より学生との連絡を密にし、授業内、授業外において研究の進め方や論文の作成の仕方についてアドバイスを与え指導を行う。

【英語英文学専攻】

1. 教育研究上の目的

英語英文学専攻は、イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化の領域において、体系的に学識を深め、高い専門性と幅広い教養を学び、修得した専門知識や研究能力を基盤に、将来、研究職や英語教育の場で活躍できる人材、ならびに高い英語運用力を活用して、国際社会にも寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英語英文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに、学位論文または特定の課題についての研究成果に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) 英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化に関する専門的な理論や知識を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析し、同時に収集したデータや先行研究に基づいて考察する方法を身につけ、得られた知見を発表する能力。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、また実践の場において専門的な貢献をする能力。
- 3) 英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化、さらには隣接する諸領域の研究動向に学際的な視野から関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応する能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

- ・ 修士論文は、以下の基準によって評価される。
 - 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
 - 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていると認められるものであること。
 - 3) 研究の目的と方法が適切であると認められるものであること。
 - 4) 論理的な構成をとり、正確な記述であると認められるものであること。
 - 5) 研究が論理的に適切であると認められるものであること。
- ・ 特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導が反映されたものであること。

III 翻訳

- 1) 英語で書かれ公刊された作品であること。
- 2) 英語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) 英語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけやコンテキスト、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

英語英文学専攻では、修了認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよう
に教育課程を編成・実施する。

- 1) イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化領域の専門にかかわる学識を得ると同時に、専門分野の論文や資料を読み解き、自らの課題を発見、調査、論考、発表する能力を養うために、それぞれの分野の演習科目を置いている。学修の集大成として修士論文作成、ないし特定の課題についての研究の成果作成を課している。「修士論文指導」科目、「特定の課題に関する研究指導」科目において、論文や研究成果として完成する方法を学ぶ機会を設けている。
- 2) 「中間発表会」等の機会を設け、口頭による研究発表の方法についても学ぶ機会を設けている。
- 3) 加えて、言語・文学研究センター主催の英語圏文化・文学コロキウム研究会に参加を求め、学内外の研究者の研究発表と討論の場に参加して学ぶ機会を設けている。また、言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけるために、「オムニバス」科目を履修することができる。

【言語・文学専攻】

1. 教育研究上の目的

言語・文学専攻は、日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般に関する学術研究の方法を身につけ、国際的・学際的な視野にたつ深い学識と高度な専門的研究能力を磨き、専門分野に新たな知見を加えて、その発展に寄与し、また学識を広く社会に還元できる研究者、教育者の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

言語・文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに学位論文に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し博士（文学）の学位を授与する。

- 1) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般に関する深い学識と高度な専門的研究能力を身につけ、国際的な水準の研究によって当該学界に貢献する能力。
- 2) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般にかかわる社会的な要請を理解し、研究者としての学問成果を広く社会に還元し、後進の養成する能力。
- 3) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般またそれに隣接する諸領域の研究

動向に関心を持ち、学際的な視野にたつて複雑な学問的あるいは現実的諸問題に柔軟に対応する能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される博士論文については、以下の基準によって評価される。

- 1) 当該学界に学術上の寄与がなされるものであること。
- 2) 先行研究の取り扱いが適切であること。
- 3) 資料の取り扱いが適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

言語・文学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよう
に教育課程を編成・実施する。

- 1) 学生がそれぞれの関心と課題に基づく研究を深化させ、博士論文を作成するために「研究指導」科目を設置する。「課程修了および学位取得スケジュール」に基づき、言語・文学専攻の博士論文審査基準にしたがって、指導教員とともに論文の内容を吟味しながら、博士論文を執筆していく。
- 2) 本学附属の「言語・文学研究センター」の一員として、センターのプログラムに参加したり、『言語・文学研
論集』に投稿することができる。これを通じて、各学問分野における社会的要請に接し、学会等での発表の方法、投稿論文の執筆の作法を学ぶことができる。
- 3) 日本語圏、フランス語圏、英語圏の三つの領域の言語、文学、文化全般にわたる視野と問題意識を涵養するた
めに、三つの専門分野の教員が共同で担当する「オムニバス科目」を設置する。外部の講師も交えた多様な研
究に接することで、三つの領域全般の最新の研究動向に関する知識を得るとともに、学際的な視野を獲得し、
自らの関心と課題にふさわしい研究方法を見いだしていく。

2022年度以前入学者用

1. 修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【発達心理学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

発達心理学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）のそれぞれの教育・研究の深まりに応じて、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、それぞれ修士（心理学）、博士（心理学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表することができること。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、実践の場において、または研究の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

博士課程（後期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表することができること。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、実践の場において、または研究の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。
- 4) 学術審査論文を2本以上、発表するように努めること。
- 5) 研究は研究倫理審査会の承認を得ること。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文・博士論文については、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における高度の学術的寄与、および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性

- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

【児童文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

児童文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）それぞれの教育・研究の進捗・深度に応じて、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、それぞれ修士（文学）、博士（文学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 児童文学および児童文化に関する広い視野と高度な知識を身につけていること。
- 2) 研究倫理の遵守と、専門分野に関する適切な研究方法に支えられた、高度な情報収集能力を持ち、文献・資料を読み解く力を身につけていること。
- 3) 独自性のある研究成果を導き出し、それを的確な表現力をもって発信できること。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、実践および研究の場において、専門的な寄与・貢献ができること。

博士課程（後期）

- 1) 児童文学および児童文化に関する広範な視野と学識を持ち、専門分野における深い学術的知見を獲得していること。
- 2) 博士課程（前期）で培った調査力・分析力・考察力をさらに発展させ、独創的かつ自立した研究活動ができること。
- 3) 専門分野およびそれらに隣接する領域の動向に関心を持ち、学問的・実践的な新たな問題に対応できる柔軟な想像力・創造力を身につけていること。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、実践および研究の場において、専門的な寄与・貢献ができること。

2. 論文審査基準

上記の目標を踏まえ、修士論文・博士論文は、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における学術的寄与および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における高度の学術的寄与および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性

- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

【国語国文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

国語国文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) 国語国文学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、得られた知見を専門的な論文によって発表することができること。
- 2) 日本の言語文化に関する社会的な要請を理解し、専門的な貢献ができること。
- 3) 国語国文学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

日本語学、日本文学、漢文学、日本語教育、国語教育の分野において、研究上一定の成果が認められ、高度の専門性を有する職業を担い得る能力を身につけていることが認定できるものであること。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II 教材研究

- 1) 自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 教育実践上の成果が期待できるものであること。
- 3) 研究の目的および方法が明確であること。
- 4) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 翻刻・注釈・現代語訳

- 1) 既存の翻刻・注釈・現代語訳が備わらず、研究上有用と認められる作品・資料を対象としていること。
- 2) 原文の内容を正確に把握した翻刻・現代語訳であること。もしくは、作品の理解に寄与する注釈を施していること。
- 3) 作品の研究上の位置づけや、翻刻・注釈・現代語訳にあたっての方針が、明確に示されていること。
- 4) 指導教員の指導が反映されたものであること。

IV 研究資料（年譜・参考文献目録等）

- 1) 既存の年譜・参考文献目録等が備わらない作家・研究領域を対象とし、網羅的な内容かつ研究対象の理解に寄与するものであること。
- 2) 研究対象の客観的位置づけや、資料作成にあたっての方針が、明確に示されていること。
- 3) 指導教員の指導が反映されたものであること。

【フランス語フランス文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

フランス語フランス文学専攻は教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、または実践の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心をもち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目的を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 研究対象および関連事項を精査したものであること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 内容の展開が論理的であること。
- 4) 記述の表現が厳密であること。
- 5) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 6) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（4本）

- 1) 4つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 4つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 仏和翻訳

- 1) フランス語で書かれ公刊された作品で、かつ既訳のないものの日本語訳であること。
- 2) フランス語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) フランス語原文のニュアンスを正確に伝えていること。

- 4) 作品の客観的位置づけや、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

【英語英文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

英語英文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) 英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、得られた知見を発表することができること。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、また実践の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) 英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心をもち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていると認められるものであること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であると認められるものであること。
- 4) 論理的な構成をとり、正確な記述であると認められるものであること。
- 5) 研究が論理的に適切であると認められるものであること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導が反映されたものであること。

III 翻訳

- 1) 英語で書かれ公刊された作品であること。
- 2) 英語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) 英語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけやコンテキスト、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

【言語・文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

言語・文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につける

ることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、博士（文学）の学位を授与する。

- 1) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて学術的研究の方法を身につけ、得られた知見を論文として発表し、当該学界に貢献し得ること。
- 2) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般にかかわる社会的な要請を理解し、高度に専門的な貢献ができること。
- 3) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般またそれに隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的諸問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される博士論文については、以下の基準によって評価される。

- 1) 当該学界に学術上の寄与がなされるものであること。
- 2) 先行研究の取り扱いが適切であること。
- 3) 資料の取り扱いが適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【発達心理学専攻】

博士課程（前期）

発達心理学・発達障害および臨床心理学、さらには隣接諸領域に関する専門的な理論や知識、また研究方法や臨床的な技能を身につけるために、発達心理学を中心に心理学および臨床心理学の各領域にわたる講義科目・演習科目を設置するとともに、付属の発達臨床センターや学外の医療機関・学校等における実習科目を開設している。加えて、生涯発達研究教育センターが開催する研究会に参加することを求め、学内外の研究者の研究発表と討論の場に参加して学ぶ機会を設けている。

これらの学修の集大成として修士論文研究を課しているが、「修士論文指導」科目において指導教員から「論文審査基準」について指導を受けつつ研究を進めるとともに、その成果を「修士論文（中間）発表会」で口頭発表したり、『発達臨床センター紀要』・『生涯発達心理学研究（生涯発達研究教育センター紀要）』に投稿したりすることを通じて、研究発表の仕方についても学ぶことを期している。

博士課程（後期）

「研究指導」科目においては、「論文審査基準」に掲げる各項目の内容に沿って指導教員とともに検討しながら、博士論文作成の過程を進めていく。あわせてこの科目では、国内外での学会発表におけるポスターや発表原稿の作成、口頭発表の行い方、ジャーナル・ペーパーの作成、そして最新の研究動向の把握など、研究者として必要な資質の育成も期している。

「心理学実験観察指導法」科目では、将来教育職に就く可能性を見通して、学部学生を対象として心理学の方法（実験法・調査法等の研究手法全般、データ分析と心理統計、レポート作成と発表）を指導する経験を通じて、この面での力量形成を期している。

さらに、必要に応じて博士課程（前期）科目を履修することを認めており、研究を発展させる上での知識基盤の拡充を図る。

本専攻のカリキュラムではないが、他の研究機関等でのプロジェクトへの参加や臨床現場での実務経験、非常勤講師の経験などを通じて、研究者・臨床家・教育者としての実践的な力量形成を図ることも奨励している。

【児童文学専攻】

博士課程（前期）

（2022年度入学者）

児童文学・児童文化に関する専門的な知識や理論および研究方法を身につけ、自らの想像力・創造力を発展させるために、児童文学を中心とした科目を設置する。とくに、文学一般ではなく児童文学に特化していること、日本児童文学・海外児童文学（リアリズム、ファンタジー）、伝承文学、児童文化、その他（社会史、文学理論、絵本、サブカルチャー）など児童文学研究に関わる領域を網羅していることを特徴とする。

それらの学修の成果を修士論文にまとめるために「修士論文指導」科目を設置し、複数の教員の指導を受けることができる。

また、附属研究施設の発行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）への投稿や、大学院生および同センター構成員の開催する修士論文発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や発表の仕方を学ぶこともできる。

（2021年度以前入学者）

児童文学・児童文化に関する専門的な知識や理論および研究方法を身につけ、自らの想像力・創造力を発展させるために、児童文学を中心とした講義科目・演習科目を設置する。とくに、文学一般ではなく児童文学に特化していること、日本児童文学・海外児童文学（リアリズム、ファンタジー）、伝承文学、児童文化、その他（社会史、文学理論、絵本、サブカルチャー）など児童文学研究に関わる領域を網羅していることを特徴とする。

それらの学修の成果を修士論文にまとめるために「修士論文指導」科目を設置し、複数の教員の指導を受けることができる。

また、附属研究施設の発行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）への投稿や、大学院生および同センター構成員の開催する修士論文発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や発表の仕方を学ぶこともできる。

博士課程（後期）

児童文学・児童文化の専門的な研究の成果として博士論文を作成するために、「研究指導」科目を設置する。自らの研究計画に基づき、複数の教員の指導を受け、本専攻の「論文審査基準」の内容にそって論文の作成を行っていく。また、日本児童文学、海外児童文学、伝承文学、児童文化など、それぞれのジャンルに適した研究方法を身につけるために、選択科目「児童文学研究法」を設置する。

さらに、必要に応じて、博士課程（前期）科目の履修が認められ、研究の基礎となる知識や理論を拡充することができる。

また、附属研究施設の発行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）への投稿や、同センターの開催する博士課程（後期）在学生研究発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や発表の仕方を学ぶこともできる。

【国語国文学専攻】

修士課程

国語学および国文学、また、国語教育、日本語教育など、国語および国語を用いて表現されるもの全般に関する専門的な教養や知識を身につけ、社会に貢献することができるために、それぞれの時代や分野の演習科目と、各時代や分野を超えた研究科目を置く。また、修士論文を書くために、「修士論文指導」科目を置くとともに、修士論文に代わる、特定の課題についての研究を希望する学生に対しては、「特定の課題に関する研究指導」科目を置き、複数の教員による指導を行う。修士論文と、特定の課題についての研究の成果を執筆する年度には、年に一度開催される「研究発表会」においてその内容を発表し、指導を受ける。

また、言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけるために、「オムニバス」科目を履修することもできる。

【フランス語フランス文学専攻】

修士課程

フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な知識や技能を修得し、専門的立場から社会に貢献することができるように、これらの分野の研究科目を置く。また、すべての基礎となるフランス語

運用能力の向上を目的とした演習科目を置く。

修士論文および特定の課題についての研究については、その作成を指導するため、「修士論文指導」科目、「特定の課題に関する研究指導」科目を置く。

さらに、言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけるために、「オムニバス」科目を履修することもできる。

これらの授業科目と並行する形で年間2回の中間発表会を催し、修士論文や特定の課題についての研究の成果作成に向けての中間成果のまとめを促すとともに、それを口頭で発表する訓練を行う。

以上に加え、修士課程入学直後より指導教員は学生との連絡を密にし、授業内、授業外において研究の進め方や論文の作成の仕方についてアドバイスを与え指導を行う。

【英語英文学専攻】

修士課程

イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化領域の専門にかかわる学識を得ると同時に、専門分野の論文や資料を読み解き、自らの課題を発見、調査、論考、発表する能力を養うために、それぞれの分野の演習科目を置いている。加えて、言語・文学研究センター主催の英語圏文化・文学コロキウム研究会に参加を求め、学内外の研究者の研究発表と討論の場に参加して学ぶ機会を設けている。

これらの学修の集大成として修士論文作成、ないし特定の課題についての研究の成果作成を課している。「修士論文指導」科目、「特定の課題に関する研究指導」科目において、論文や研究成果として完成する方法を学ぶ機会を設けている。さらに「中間発表会」等で、口頭による研究発表の方法についても学ぶ機会を設けている。

また、言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけるために、「オムニバス」科目を履修することもできる。

【言語・文学専攻】

博士課程（後期）

日本語圏、フランス語圏、英語圏の三つの領域の言語、文学、文化全般にわたる視野と問題意識を涵養するために、三つの専門分野の教員が共同で担当する「オムニバス科目」を設置する。外部の講師も交えた多様な研究に接することで、三つの領域全般の最新の研究動向に関する知識を得るとともに、自らの関心と課題にふさわしい研究方法を見いだしていく。

それぞれの関心と課題に基づく研究を深化させ、博士論文を作成するために「研究指導」科目を設置する。言語・文学専攻の博士論文審査基準にしたがって、指導教員とともに論文の内容を吟味しながら、博士論文を執筆していく。

また、附属する「言語・文学研究センター」の一員として、センターのプログラムに参加したり、『言語・文学研究論集』に投稿することができる。これを通じて、学会等での発表の方法、投稿論文の執筆の作法を学ぶことができる。

課程修了および学位取得スケジュール

文学研究科における課程修了および学位取得までのおもなスケジュールは以下のとおりです。詳細については、履修要覧該当ページを確認するとともに、各専攻の指示にしたがってください。

1. 修士課程／博士課程（前期）

2024年度入学者用

年次	3月修了	9月修了	詳細
1	4月～5月		研究倫理教育の実施 *1
	4月～7月		指導教員の決定
	7月～1月		修士論文／特定の課題についての研究の成果 中間（構想）発表会 *1
	1月末		修士論文／特定の課題についての研究の成果届（国・フ・英のみ） *2
2	7月～10月		修士論文／特定の課題についての研究の成果 中間発表会 *1
	10月末	4月末	修士論文／特定の課題についての研究の成果 題目届
	発のみ 12月	6月	修士論文／特定の課題についての研究の成果 提出 （提出要件）前年度末において修了要件を16単位以上修得していること （評価要件）所定の単位（30単位以上）を修得していること
	児・国・フ・英 1月		
	2月	8月	修士論文／特定の課題についての研究の成果 口述試験 *1
	3月	9月	課程修了・学位授与

*1 実施時期は専攻により異なる。

*2 国語国文学専攻、フランス語フランス文学専攻、英語英文学専攻では、「修士論文」に代えて「特定の課題についての研究の成果」の提出が可能なため、いずれを選択するかについて届出を行う。

2022・2023年度入学者用

年次	3月修了	9月修了	詳細
1	4月～5月		研究倫理教育の実施 *1
	4月～7月		指導教員の決定
	7月～1月		修士論文／特定の課題についての研究の成果 中間（構想）発表会 *1
	1月末		修士論文／特定の課題についての研究の成果届（国・フ・英のみ） *2
2	7月～10月		修士論文／特定の課題についての研究の成果 中間発表会 *1
	10月末	4月末	修士論文／特定の課題についての研究の成果 題目届
	1月	6月	修士論文／特定の課題についての研究の成果 提出 （提出要件）前年度末において修了要件を16単位以上修得していること （評価要件）所定の単位（30単位以上）を修得していること
	2月	8月	修士論文／特定の課題についての研究の成果 口述試験 *1
	3月	9月	課程修了・学位授与

*1 実施時期は専攻により異なる。

*2 国語国文学専攻、フランス語フランス文学専攻、英語英文学専攻では、「修士論文」に代えて「特定の課題についての研究の成果」の提出が可能なため、いずれを選択するかについて届出を行う。

2. 博士課程（後期）

2022 年度以降入学者用

年次	3月修了	9月修了	詳細
1	4月～5月		研究倫理教育の実施 *1
	4月		指導教員の決定
	4月～		指導教員による指導開始
	4月～		博士学位論文提案書（プロポーザル）作成
2	4月～10月		博士学位論文提案書（プロポーザル）提出 *1 〔提出要件〕1年以上在学し、「研究指導」を2単位以上修得していること 〔結果通知〕「合格」「不合格」 〔備考〕「不合格」の場合、あらためて提案書の作成より取り組みなおし
	提案書合格後～1年間		博士学位論文執筆、指導委員会設置および指導 〔特記事項〕提案書合格より1年以内に論文を完成できなかった場合、提案書は無効となり、あらためて提案書の作成より取り組みなおし
3	6月末	12月末	博士学位予備論文 提出 〔提出要件〕2年以上在学し、「研究指導」を4単位以上修得していること また、修了要件単位を修得済もしくは修得見込であること
	4週以内	4週以内	博士学位予備論文審査委員会設置および審査 〔結果通知〕「可」「修正の上、可」「不可」 〔備考〕「修正の上、可」の場合、修正確認後、博士学位論文を提出可 「不可」の場合、提案書は無効となり、あらためて提案書の作成より取り組みなおし
	10月末	翌4月末	博士学位論文 提出
	11月	5月	博士学位論文審査委員会設置および審査 〔公表準備〕公開審査終了後、授与論文全文データと公開許諾申請書を主査へ提出 ※やむを得ない事由により授与後1年以内に公表できない場合のみ、審査委員会承認のうえ、要約データも同時に提出 〔結果通知〕「授与可」「授与否」
	1月	7月	博士学位論文審査委員会審査終了
	3月	9月	課程修了・学位授与

*1 実施時期は専攻により異なる。

※ 論文執筆に時間を要し、年度末までに課程修了を見込めない3年次は、1月（9月修了の場合は翌6月）に「在学延長届」もしくは「単位取得退学願」を提出すること。

※ 提案書作成や論文執筆に時間を要する1～3年次は、一旦退学し、再入学することも可。論文再入学の条件は以下のとおり。

1. 退学から4月再入学までの期間が1年以上あること
2. 残りの在籍可能年数が2年以上あること
3. 博士学位論文提案書の合格（退学前に合格していなかった場合、再入学手続時に提案書を提出のうえ合格することが必要）

指導教員

大学院学生は、履修科目の選択、研究一般、学位論文等の作成、および各手続における承認等、全般にわたって指導教員による指導を受けてください。なお、指導教員決定までの期間は、所属専攻の各専攻主任が代わって指導教員の任にあたります。

1. 指導教員届

入学年度には、「指導教員届」（4月専攻ガイダンスにて配布）に指導教員の署名を受けて教務課へ提出する必要があります。修士課程／博士課程（前期）1年生は7月上旬、博士課程（後期）1年生は4月中旬の、それぞれ学事日程で示されている期日までに提出してください。

2. 指導教員の変更

特別の事情（サバチカル等による指導教員の不在、研究テーマの変更等）によって指導教員の変更を要する場合、「指導教員変更届」（教務課備付）に新旧の指導教員の署名を受け、学事日程で示されている4月中旬の期日までに教務課へ提出してください。なお、年度途中で指導教員を変更しなければならない事情が生じた場合は教務課へ申し出てください。

修了要件単位数およびカリキュラム

1. 修士課程／博士課程 (前期)

1) 全専攻 修了要件単位数

専攻名		発達心理学	児童文学	国語国文学	フランス語フランス文学	英語英文学
修了要件単位数		30単位 *1 *2 *3				
修了要件単位数に含めることのできる科目と単位数の上限	他専攻科目	8単位	8単位	8単位	8単位	8単位
	委託特別聴講科目	10単位 *4	8単位	4単位	8単位	8単位

- *1 既修得単位（入学前に他大学院等において修得した単位）の認定を希望する場合は、入学年度の履修登録申請期間終了までに教務課へ申し出る必要があります。
- *2 既修得、留学、委託特別聴講の認定単位は、あわせて10単位を限度に、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。ただし、委託特別聴講科目については、上の表のとおり、所属専攻ごとに修了要件単位数に含めることのできる上限が定められています。
- *3 発達心理学専攻および児童文学専攻においては、指導教員の承認を得たうえで学部科目を履修することができますが、修得した単位を修了要件単位数に含めることはできません。
- *4 発達心理学専攻においてのみ、委託特別聴講で修得した単位を、科目によって他専攻科目として認定する場合があります。認定の別については、科目の内容により指導教員が判断します。他専攻科目として認定された委託特別聴講の単位は、大学院履修規程第2条第3項に定める本学の他専攻科目認定の扱いに準じ、8単位を上限として修了要件単位数に含めることができます。

2) 発達心理学専攻 博士課程（前期）カリキュラム

2024 年度入学者用

【発達心理学コース】

	1 年次	2 年次	修了要件	
必修		修士論文指導 (2) 修士論文 (0)	2 単位	
選択必修	認知心理学特論 (2) 臨床心理学研究法特論 (2) 心理学研究法特論 (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 A (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 B (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 A (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 B (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 A (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 B (2) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (2) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 (2)	心理的アセスメントに関する理論と実践 B (2) 心理支援に関する理論と実践 B (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 A (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 B (2) 心の健康教育に関する理論と実践 (2) 心理実践実習 A (2) 心理実践実習 C (2)	30 単位 *1	
	心理実践実習 B I (4)	心理実践実習 B II (4)		

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

【発達臨床心理学コース】

	1 年次	2 年次	修得要件	
必修		修士論文指導 (2) 修士論文 (0)	2 単位	
選択必修	臨床心理学特論 I (2) 臨床心理学特論 II (2) 認知心理学特論 (2) 臨床心理基礎実習 (4) 臨床心理実習 I (心理実践実習 B III) (2) 臨床心理実習 II (2) 臨床心理学研究法特論 (2) 心理学研究法特論 (2) 投影法特論 (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 A (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 B (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 A (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 B (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 A (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 B (2) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (2) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 (2)	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践 A) (2) 臨床心理査定演習 II (2) 心理的アセスメントに関する理論と実践 B (2) 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践 A) (2) 臨床心理面接特論 II (2) 心理支援に関する理論と実践 B (2) 心理支援に関する理論と実践 C (心理療法特論) (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 A (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 B (2) 心の健康教育に関する理論と実践 (2) 心理実践実習 A (2) 心理実践実習 C (2)	30 単位 *1	
	心理実践実習 B I (4)	心理実践実習 B II (4)		

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

2023 年度入学者用

【発達心理学コース】

	1 年次	2 年次	修了要件	
必修		修士論文指導 (2) 修士論文 (0)	2 単位	30 単位 *1
選択必修	認知心理学特論 (2) 臨床心理学研究法特論 (2) 心理学研究法特論 (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 A (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 B (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 A (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 B (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 A (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 B (2) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (2) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 (2)	心理的アセスメントに関する理論と実践 B (2) 心理支援に関する理論と実践 B (2) 心理支援に関する理論と実践 C (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 A (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 B (2) 心の健康教育に関する理論と実践 (2) 心理実践実習 A (2) 心理実践実習 C (2)		
	心理実践実習 B I (4)	心理実践実習 B II (4)		

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

【発達臨床心理学コース】

	1 年次	2 年次	修得要件	
必修		修士論文指導 (2) 修士論文 (0)	2 単位	30 単位 *1
選択必修	臨床心理学特論 I (2) 臨床心理学特論 II (2) 認知心理学特論 (2) 臨床心理基礎実習 (4) 臨床心理実習 I (心理実践実習 B III) (2) 臨床心理実習 II (2) 臨床心理学研究法特論 (2) 心理学研究法特論 (2) 投影法特論 (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 A (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 B (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 A (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 B (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 A (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 B (2) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (2) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 (2)	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践 A) (2) 臨床心理査定演習 II (2) 心理的アセスメントに関する理論と実践 B (2) 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践 A) (2) 臨床心理面接特論 II (2) 心理支援に関する理論と実践 B (2) 心理支援に関する理論と実践 C (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 A (2) 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 B (2) 心の健康教育に関する理論と実践 (2) 心理実践実習 A (2) 心理実践実習 C (2)		
	心理実践実習 B I (4)	心理実践実習 B II (4)		

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

3) 児童文学専攻 博士課程（前期）カリキュラム

	1年次	2年次	修得要件	
必修		修士論文指導 (2) 修士論文 (0)	2単位	
選択必修	児童文学特殊研究A (2) 児童文学特殊研究B (2) 児童文学特殊研究C (2) 児童文学特殊研究D (2) 児童文学特殊研究E (2) 児童文学特殊研究F (2) 児童文学特殊研究G (2) 児童文学特殊研究H (2) 海外児童文学特殊研究A (2) 海外児童文学特殊研究B (2) 海外児童文学特殊研究C (2) 海外児童文学特殊研究D (2) 海外児童文学特殊研究E (2) 海外児童文学特殊研究F (2) 伝承文学特殊研究A (2) 伝承文学特殊研究B (2) 児童文化特殊研究A (2) 児童文化特殊研究B (2) 児童文化特殊研究C (2) 児童文化特殊研究D (2) 児童文化特殊研究E (2) 児童文化特殊研究F (2)	(▽23 児童文学特殊研究A (4)) (▽23 児童文学特殊研究B (4)) (▽23 児童文学特殊研究C (4)) (▽23 児童文学特殊研究D (4)) (▽23 海外児童文学特殊研究A (4)) (▽23 海外児童文学特殊研究B (4)) (▽23 海外児童文学特殊研究C (4)) (▽23 伝承文学特殊研究 (4)) (▽23 児童文化特殊研究A (4)) (▽23 児童文化特殊研究B (4)) (▽23 児童文化特殊研究C (4))		30単位*

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、学部科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

4) 国語国文学専攻 修士課程 カリキュラム

	1年次	2年次	修得要件	
選 択 必 修 Ⅰ		修士論文指導 (2) 修士論文 (0) 特定の課題についての研究指導 (2) 特定の課題についての研究 (0) *1	2単位	30 単 位 *2
選 択 必 修 Ⅱ	国語学演習(古代語) (4) 国語学演習(近代語) (4) 古代文学演習A (4) 古代文学演習B (4) 中世文学演習 (4) 近世文学演習 (4) 近代文学演習A (4) 近代文学演習B (4) 近代文学演習C (4) 近代文学演習D (4)	中国文学特殊研究 (4) 日本漢文学演習 (4) 日本語教育研究A (4) 日本語教育研究B (4) 日本語教育演習 (4) オムニバスA (2) オムニバスB (2)		

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

- *1 国語国文学専攻では、修士論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することができます。1年次1月にどちらを選択するかについて申請してください。
- *2 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

5) フランス語フランス文学専攻 修士課程 カリキュラム

	1年次	2年次	修得要件	
必修	フランス語演習Ⅰ (2) フランス語演習Ⅱ (2)	フランス語演習Ⅲ (2) フランス語演習Ⅳ (2)	8単位	30 単 位 *1
選択必修Ⅰ		修士論文指導 (2) 修士論文 (0) 特定の課題についての研究指導 (2) 特定の課題についての研究 (0) *1	2単位	
選択必修Ⅱ	フランス語学研究A (2) フランス語学研究B (2) フランス語学研究C (2) フランス語学研究D (2) フランス語翻訳研究A (2) フランス語翻訳研究B (2) フランス語教育研究A (2) フランス語教育研究B (2) フランス語教育研究C (2) フランス語教育研究D (2) フランス語教育研究E (2) フランス語教育研究F (2) フランス文学研究A (2) フランス文学研究B (2) フランス文学研究C (2) フランス文学研究D (2) フランス文学研究E (2) フランス文学研究F (2) フランス文学研究G (2) フランス文学研究H (2)	フランス文化史研究A (2) フランス文化史研究B (2) フランス文化史研究C (2) フランス文化史研究D (2) フランス文化史研究E (2) フランス文化史研究F (2) フランス文化史研究G (2) フランス文化史研究H (2) オムニバスA (2) オムニバスB (2)		

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

- *1 フランス語フランス文学専攻では、修士論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することができます。1年次1月にどちらを選択するかについて申請してください。
- *2 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

6) 英語英文学専攻 修士課程 カリキュラム

	1年次	2年次	修得要件	
選択必修Ⅰ		修士論文指導 (2) 修士論文 (0) 特定の課題についての研究指導 (2) 特定の課題についての研究 (0) *1	2単位	
選択必修Ⅱ	英語学演習 A (4) 英語学演習 B (4) 英語学演習 C (4) 英語学演習 D (4) 英語学演習 E (4) 英語学演習 F (4) 英語学演習 G (4) 英米文学演習 A (4) 英米文学演習 B (4) 英米文学演習 C (4) 英米文学演習 D (4) 英米文学演習 E (4) 英米文学演習 F (4) 英米文学演習 G (4) 英米文学演習 H (4)	英米文化演習 (4) 国際社会・文化演習 A (4) 国際社会・文化演習 B (4) オムニバス A (2) オムニバス B (2)		30単位 *2

(履修年次指定のある科目以外はすべて再度履修可)

*1 英語英文学専攻では、修士論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することができます。1年次1月にどちらを選択するかについて申請してください。

*2 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表にある修了要件に含めることのできる単位数の上限の範囲内で算入してください。

2. 博士課程（後期）

1) 全専攻 修了要件単位数

専攻名	発達心理学	児童文学	言語・文学
修了要件単位数	10単位 *1 *2 *3		

*1 全専攻で「研究指導」を必修とします。「研究指導」はすべての年次・年度において履修してください。

*2 指導教員の承認を得たうえで、他専攻および修士課程／博士課程（前期）の科目を履修することができます。ただし、修得した単位を修了要件単位数に含めることはできません。

*3 本学大学院と協定を結ぶ他の大学院の科目（委託特別聴講）または本学が認定した外国の大学院の科目（留学）については、10単位を限度に本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができますが、そのうち修了要件単位数に含めることができるのは、留学により修得した2単位を限度とします。委託特別聴講により修得した単位を修了要件単位数に含めることはできません。

2) 発達心理学専攻 博士課程（後期）カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	修得要件
必修	研究指導 (2) *1 心理学実験指導法Ⅰ (2) *2 心理学実験指導法Ⅱ (2) *2			10 単 位

(すべて再度履修可)

*1 「研究指導」はすべての年次・年度において履修してください。

*2 「心理学実験指導法Ⅰ」「心理学実験指導法Ⅱ」は各自が希望する年次に履修してください。

3) 児童文学専攻 博士課程（後期）カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	修得要件
必修	研究指導 (2) *1 児童文学研究法 (4) *2			10 単 位
選択必修	(▽22 児童文学研究法A (4) *3) (▽22 児童文学研究法B (4) *3)			

(すべて再度履修可)

*1 「研究指導」はすべての年次・年度において履修してください。

*2 「児童文学研究法」は各自が希望する年次に履修してください。

*3 2022年度以前入学者は、「児童文学研究法A」「児童文学研究法B」のうち、少なくともいずれか1科目を履修してください。2023年度以降に履修する場合は「児童文学研究法」を履修してください。

4) 言語・文学専攻 博士課程（後期）カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	修得要件
必修	研究指導 (2) *1			10 単 位
選択必修	オムニバスA (2) *2 オムニバスB (2) *2			

(すべて再度履修可)

*1 「研究指導」はすべての年次・年度において履修してください。

*2 「オムニバスA」「オムニバスB」は、少なくともいずれか1科目を各自が希望する年次に履修してください。

授業・履修

1. 授業科目

1) 履修要覧

履修要覧は、大学院の学修において必要な基本事項、修了要件単位数、専攻別カリキュラム、資格課程別カリキュラムなどが掲載されています。なお、2024年度履修要覧(冊子)は、在籍している間、修了まで続けて使用します。大切に保管し、必要に応じて随時確認してください。

2) 開講授業科目表

当該年度に開講される授業科目の一覧表は、専攻ごとに大学ホームページで確認することができます。開講授業科目表には、授業科目名、担当教員名、科目区分、開講期、開講曜日・時限、必選区分、授業形態、対象年次、他専攻開放の有無、履修上の注意事項などが掲載されています。

3) 時間割表

当該年度に開講される授業科目の時間割は、曜日・時限ごとに大学ホームページで確認することができます。

4) シラバス

当該年度に開講される授業科目のシラバスは、CAMPUS SQUAREで確認することができます。シラバスには、授業科目の達成目標・概要・計画、履修上の注意、授業時間外学修の内容、教科書・参考書、成績評価方法・基準などが掲載されています。履修を選択する際のみならず、履修中のコースガイドとしても随時参照するようにしてください。

5) 科目区分

文学研究科の科目区分は、専攻・課程ごとの専門科目で分かれています。

6) 開講期

授業科目には、開講期によって、前期科目、後期科目、通年科目(前期から後期まで通して行われる授業科目)、集中講義(春期または夏期休暇期間等に集中して行われる授業科目)の別があります。

7) 必選区分

授業科目には、必修科目、選択必修科目、選択科目の別があります。必選区分は、修了または資格取得に対し、それぞれの単位修得の優先度合いを表すものです。所属専攻や入学年度によっても異なりますので、当該カリキュラムをよく確認してください。なお、必修科目については、単位を修得できなかった場合、次学期または次年度以降に再履修することになります。

8) 対象年次

授業科目には、各カリキュラムにおいて示されている履修するのに望ましい対象年次が示されています。対象年次が指定されている授業科目は、原則としてその年次において履修してください。ただし、自分より下級年次を対象とする授業科目を履修することは可能です。その履修に際しては、特に許可を得る必要はありません。

9) 授業形態

授業科目には、講義、演習、実験、実習、実技、または、それらを2つ以上組み合わせた授業形態があります。

10) 他専攻開放科目

各専攻専門科目の中には、その専攻に所属していない学生の履修が認められている授業科目もあります。開講授業科目表の他専攻開放欄に「○」のある授業科目が該当します。自分の所属以外の専門科目を履修して修得した単位の扱いは、「修了要件単位数およびカリキュラム」のページで確認してください。

11) 再度履修できる科目

大学院開講科目については、対象年次が指定されている授業科目以外、すべて再度履修可となります。

12) 授業科目と修了認定に関する方針（ディプロマポリシー）の対応

修了認定に関する方針（ディプロマポリシー）で示す本学での学びで身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を示した一覧を大学ホームページで公開しています。適宜確認の上、体系的な学びを理解し、計画的に学修をすすめてください。

13) 科目ナンバリング

学問上の分類や学修段階・順序を示した科目ナンバリングを大学ホームページで公開しています。履修科目を選択する際の一助としてください。

2. 科目履修登録申請

1) 科目履修登録申請と履修上の原則

科目履修登録申請（以下、履修登録という）は、その学期に履修するすべての授業科目を所定の期日までに届け出るものです。履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス、開講授業科目表、時間割表や、各種ガイダンスでの説明、専攻の指示等をあらかじめよく確認し、自分にとって必要な手続きを確実に行うようにしてください。履修上の原則は、以下のとおりです。

- ・対象年次が指定されている授業科目は、その年次において履修すること
- ・再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、再履修科目を優先して履修すること

なお、原則として、所定の期日を過ぎてからの履修科目の登録・変更はできません*。必要な手続きを怠ったことにより発生する履修上の不利益は学生本人の責任とします。所定の期日までに履修登録を行うことのできないやむを得ない事情がある場合は、事前に教務課へ連絡して指示をうけてください。

※修了・資格取得要件に対してその条件を満たせない状態にある場合に限り、必要最低限の登録・変更を許可されることがあります。

2) 履修科目の選択・決定

すべての履修科目の選択・決定にあたっては、指導教員（登録申請時に指導教員の決定していない専攻の学生は専攻主任）による承認を必ず得てください。

他専攻科目、学部科目については、履修することのできる科目（大学院履修規程第2条別表）と修了要件に含めることのできる単位数の上限が専攻ごとに定められていますので、「修了要件単位数およびカリキュラム」のページを参照してください。履修することができる科目以外の授業科目を履修登録申請することはできませんが、授業科目担当教員へ申し出ることによって聴講を認められることもあります。

なお、資格課程（教職課程、司書課程、司書教諭課程、日本語教育副専攻）履修のために学部科目を履修する場合は、科目等履修生としての出願・登録手続きが別途必要となります。詳細については、次項「3. 資格課程の履修（科目等履修生）」を参照してください。

また、本大学院と協定を結ぶ他の大学院において開講されている授業科目を委託特別聴講生として履修することができます。詳細については、「委託特別聴講生制度」のページを参照してください。

3) 科目履修登録申請

履修登録の日程（前期 3月下旬～4月初旬、後期 9月中旬）

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修

当該年度の履修登録日程については、大学ホームページで確認することができます。

履修登録の方法

履修登録には「事前登録申請」と「本登録申請」の2つのステップがありますが、大学院開講科目は「本登録申請」のみCAMPUS SQUAREで行います。操作方法詳細については、大学ホームページを参照してください。

履修計画・指導教員による承認

履修要覧、シラバス、時間割表などを参照し、あらかじめ履修計画を立てたうえで履修登録期間にのぞんでください。履修科目の決定にあたっては、指導教員（登録申請時に指導教員の決定していない専攻の学生は専攻主任）による承認を必ず得てください。

履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 履修登録・登録状況照会

当該年次必修科目や履修することが確定している授業科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを事前登録期間内に確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

事前登録申請

※学部科目のみ対象（学部科目の履修を希望するM発・M児の学生は、指導教員の承認を得た上で所属専攻へ申し出て手続きを行ってください）

本登録申請

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 履修登録・登録状況照会

すべての授業科目を**本登録**申請期間に登録します。博士課程（後期）1年次は、指導教員が担当する「研究指導」を自分で登録してください。登録不備がないか十分に確認のうえ、登録作業を終えてください。

履修登録申請内容の最終確認

CAMPUS SQUARE [PC版] > 履修 > 履修登録・登録状況照会

授業開始日より1週間以内に、その学期に履修すべき科目が正しく登録できていることを最終確認してください。万一、重大な登録不備が見つかった場合は、ただちに教務課へ申し出てください。

履修取消申請（希望する場合のみ）

履修登録済の大学院開講科目の内、単位を修得しない授業科目については、指導教員の承認を得たうえで履修取消申請を行う必要があります。詳細については「大学院科目履修取消申請」のページを確認してください。前期科目・通年科目・集中講義は5月、後期科目・通年科目は10月の、それぞれ学事日程で示されている期日までにWEBフォームより申請してください。WEBフォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREでお知らせします。

3. 資格課程の履修（科目等履修生）

1) 資格課程の履修

本学大学院学生は、科目等履修生として、学部における資格課程（教職課程・司書課程・司書教諭課程・日本語教育副専攻）を履修することができます。なお、資格課程の履修において修得した単位は、大学院の修了要件単位に含まれる学部科目（大学院履修規程第2条に定める科目）としての認定は行いません。

2) 科目等履修生の出願および科目履修登録申請

資格課程の履修を希望する学生は、科目等履修生の出願手続きを以下のとおり行ってください。なお、科目等履修生の出願は、履修年度ごとに毎回行う必要があります。

〔出願期間〕 当該年度学事日程に示す3月中旬から4月初旬にかけての指定期間

〔出願場所〕 教務課（11号館2F）

〔出願書類〕 履修願書、身分証台紙（教務課備付書式）

3) 費用

本学大学院学生が科目等履修生として資格課程を履修する場合、科目等履修生規程第8条に定める選考料、登録認定料および受講料は免除となります。

4) 身分証

科目等履修生として資格課程を履修する学生は、身分証の交付を受け、常に携帯してください。

資格課程の履修においては、大学院学生としてのものとは別に、科目等履修生としての学籍・学籍番号を有することになります。授業出席・試験受験等にあたっては注意してください。

4. 履修

1) 学事日程

学事日程は、大学ホームページで確認することができます。例年3月中旬に翌年度の学事日程を公開します。授業日程はもちろんのこと、履修登録などの各種申請日程についても、各自でよく確認してください。

2) 休講

授業科目の休講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、教室での対面授業に代えて遠隔授業が行われる場合は、担当教員より連絡します。配信日や配信方法など、担当教員の指示にしたがってください。また、緊急時（台風など）における休講措置については、大学ホームページ等でお知らせします。緊急時の休講措置基準については、学生生活ガイドブックを参照してください。

3) 補講

授業科目の補講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。補講は、学事日程に示されている補講日だけでなく、通常授業期間内に行われる場合もあります。また、通常と異なる曜日・時限・教室に補講を実施する場合もあります。CAMPUS SQUAREの補講情報に加え、担当教員からの事前連絡についてもよく確認してください。

4) 出席・欠席

授業科目ごとの方法により出席を確認します。

授業科目の欠席については、特に連絡の必要はありません。ただし、試験欠席の場合や授業内発表担当などの場合は、事前に（遅くとも当日中までに）、メール等で担当教員へ直接連絡し、必要な指示を仰いでください。

5) 教室

授業科目が行われる教室は、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールで確認することができます。教室の変更（一時的な変更含む）は、原則としてCAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、授業進行上の理由で、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールには反映されず、担当教員より使用教室を直接指示される場合もあります。特に、授業期間開始直後は多くの授業科目において教室変更が発生します。各自で適宜確認してください。

6) 教科書

授業科目で使用する教科書は、アマカピア（購買部）のWEB販売サイトにて所定の販売期間に購入することができます。WEB販売サイトのURLや販売期間は、CAMPUS SQUAREにてお知らせします。必修科目など履修があらかじめ決まっている科目以外の教科書は、履修が確定してから購入するようにしてください。なお、教科書販売についての質問は、アマカピア（03-5313-1620 / 1号館地下）へ直接お問い合わせください。

7) 学習支援システム

本学における主な学習支援システムには、CAMPUS SQUARE（履修登録申請のほか、授業科目のシラバス・教室・休講・補講・授業連絡・成績、大学からのお知らせなどを確認できるポータルサイト）、manabacourse（授業科目の資料・コンテンツ配信、リアクションペーパー・レポート提出、オンラインテスト受験、授業指示や意見交換などが行われる学習支援システム）、白百合メール（@shirayuri.ac.jpの個別アカウント）などがあります。また、授業科目によっては、これ以外のツールを使用することもあります。学習支援システムを積極的に活用するとともに、自分にとって必要な情報を、日々責任をもって確認してください。

CAMPUS SQUARE <https://cs.shirayuri.ac.jp/campusweb/>
 manabacourse <https://shirayuri.manaba.jp/>
 白百合メール <https://mail.google.com/>

9) 大学ホームページ (授業・履修に関するページ)

履修要覧をはじめとする授業・履修に関する情報は、大学ホームページでも公開しています。スマートフォンなどから以下のページへアクセスして、必要な情報を適宜確認してください。

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修 (CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセス可)

5. 成績評価

1) 成績評価方法

成績評価方法は、試験、レポート、課題、発表、授業内外での取り組みなど、授業科目ごとにそれぞれ適切な方法が設定されています。シラバスに記載されている授業科目ごとの成績評価方法・基準を確認するとともに、評価物の提出期日・内容、試験の日程・出題範囲・条件などについては担当教員からの説明をよく聞いて学修にあたってください。なお、試験の受験上の注意やレポートに関する注意事項については、学生生活ガイドブックで確認することができます。

2) 成績評価

成績評価とその基準は、以下のとおりです。

評 点	表 記	評 価 基 準	合 否
5	5	達成目標を十分に満たし、秀でている。	合 格
4	4	達成目標を十分に満たしている。	
3	3	達成目標をほぼ満たしている。	
2	2	達成目標の最低水準を満たしている。	
1	1	達成目標の最低水準を満たしていない。	不 合 格
試 験 未 済	未	試験未済	
成 績 認 定	T	留学等、学外で履修した科目を本学の授業科目として認定する。	認 定

3) 成績通知

成績は、前期は9月初旬、後期は3月初旬の学事日程で示されている成績発表日よりCAMPUS SQUAREで通知します。授業科目の成績（通年科目の中間点を含む）については履修成績照会画面、修得済単位数については単位修得状況照会画面で確認してください。3月上旬には学生本人住所へ成績通知書を郵送します。

なお、入学前既修得、留学、再入学、委託特別聴講などの理由により、学外で履修した学修を本学における授業科目の履修とみなして単位を認定された場合は、認定学期の成績発表日以降に、CAMPUS SQUAREの単位修得状況照会画面で認定科目名と単位数を確認することができます。

6. その他

1) 学則および各種規程

白百合女子大学大学院学則、各種規程は学生生活ガイドブックの巻末に掲載しています。

2) 授業・履修に関するサポート

授業・履修についての質問は、研究・学修全般に関しては指導教員へ、授業内容に関しては担当教員へ、それ以外は教務課 (11号館2F) または各研究室へお問い合わせください。

大学院科目履修取消申請

大学院履修規程第5条に定める「登録済みの大学院開講科目の内、単位を修得しない科目」については、指導教員の承認を得たうえで履修取消申請を行う必要があります。5月は前期科目・通年科目・集中講義について、10月は後期科目・通年科目について、それぞれ学事日程で示されている期日までにWEBフォームより申請してください。WEBフォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

なお、修士論文もしくは特定の課題についての研究の成果の提出要件を満たしているにもかかわらず、修士論文もしくは特定の課題についての研究の成果を提出しない修士課程／博士課程（前期）2年生は、「修士論文未提出届」もしくは「特定の課題についての研究の成果未提出届」を教務課へ提出するとともに、「修士論文」もしくは「特定の課題についての研究」の履修取消申請を行ってください。

委託特別聴講生制度

大学院学則第 22～25 条に基づき、教育研究上有益と認められる場合、本学大学院と協定を結ぶ他の大学院において開講されている授業科目を委託特別聴講生として履修することができます。

〔協定校〕

本学大学院 全専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 聖心女子大学大学院 全専攻
清泉女子大学大学院 全専攻
本学大学院 発達心理学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 上智大学大学院 総合人間科学研究科 全専攻
日本女子大学大学院 人間社会研究科 心理学専攻
本学大学院 フランス語フランス文学専攻・・・・ 大学院フランス語フランス文学専攻協議会（仏専協）

1. 手続き

委託特別聴講を希望する学生は、研究室または教務課にて各大学院の要覧・時間割を確認し、指導教員の承認を得たうえで、4月初旬までに教務課へ申し出てください。手続方法・期限は出願先により異なります。原則として、出願後は履修を取りやめることはできません。やむを得ない理由により履修を継続できない場合は、本学教務課へ届け出てください。

2. 聴講料

委託特別聴講における聴講料は、半期科目（2単位科目）1,000円、通年科目（4単位科目）2,000円となります。

3. 単位の認定

委託特別聴講により他大学院で修得した単位は、既修得と留学の認定単位があればそれらとあわせて10単位を限度に、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

委託特別聴講認定単位は、修士課程／博士課程（前期）においては所属専攻ごとに定められている以下の単位数を限度に修了要件単位に含めることができます。博士課程（後期）においては修了要件単位に含めることはできません。

修士課程／博士課程（前期）	発達心理学	児童文学	国語国文学	フランス語フランス文学	英語英文学
委託特別聴講により他大学院で修得した単位のうち修了要件単位数に含めることのできる単位数の上限	10単位 *1	8単位	4単位	8単位	8単位

*1 発達心理学専攻においてのみ、委託特別聴講で修得した単位を、科目によって他専攻科目として認定する場合があります。認定の別については、科目の内容により指導教員が判断します。他専攻科目として認定された委託特別聴講の単位は、大学院履修規程第2条第3項に定める本学の他専攻科目認定の扱いに準じ、8単位を上限として修了要件単位に含めることができます。

修士論文および特定の課題についての研究の成果

修士論文および特定の課題についての研究の成果については、大学院学則、大学院学位規則、大学院履修規程、大学院学位論文取扱要綱、修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき取り扱われます。本要覧の「課程修了および学位取得スケジュール」のページもあわせて確認してください。

1. 修士論文または特定の課題についての研究の成果の選択について（M国・Mフ・M英のみ）

国語国文学専攻、フランス語フランス文学専攻、英語英文学専攻においては、修士論文の審査または特定の課題についての研究の成果の審査のいずれかを選択することができます。3専攻の修士課程1年生は、指導教員と相談のうえいずれを選択するかを決め、学事日程で示されている1月中旬の期日までに、「修士論文／特定の課題についての研究の成果提出届」を提出してください。申請フォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

2. 修士論文または特定の課題についての研究の成果の提出について

1) 提出の要件

大学院履修規程第8条のとおり、前年度末までに修了要件単位のうち16単位以上修得していることが修士論文または特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）の提出の要件となります。

2) 題目届

修士論文等を提出する学生は、指導教員の承認を得たうえで、学事日程で示されている10月下旬の期日までに、「修士論文／特定の課題についての研究の成果題目届」を提出してください。申請フォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

3) 題目変更届

届け出た題目を変更する場合は、指導教員の承認を得たうえで、修士論文等の提出前までに「修士論文／特定の課題についての研究の成果題目変更届」を提出してください。申請フォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

4) 提出

修士論文等の提出については以下のとおりとします。届け出た題目と完全に一致した題目で提出するものとし、届出の題目を変更する場合は、前項のとおり変更届を提出してください。原則として本人が提出するものとし、一度受理した論文等は理由の如何を問わず返却しません。なお、論文を提出した者に対し、口述試験を行います。日程等詳細については所属専攻の指示にしたがってください。

【2024年度入学者のうち発達心理学専攻以外 および 2023年度以前入学者全専攻】

- 〔提出期間〕 学事日程に示す1月中旬の3日間（土日含まず）
- 〔提出期限〕 提出期間最終日の16時30分まで（時間厳守）
- 〔提出方法〕 所属専攻指定の方法による

【2024年度入学者のうち発達心理学専攻のみ】

- 〔提出期間〕 学事日程に示す12月中旬の3日間（土日含まず）
- 〔提出期限〕 提出期間最終日の16時30分まで（時間厳守）
- 〔提出方法〕 所属専攻指定の方法による

5) 未提出届

修士論文等を提出しない場合は、「修士論文／特定の課題についての研究の成果未提出届」を教務課へ提出してください。なお、科目履修取消申請期間前に未提出届を提出する場合は、「修士論文」「特定の課題についての研究」の履修取消申請を自分で行ってください。ただし、科目履修取消申請期間後に未提出届を提出する場合は、「修士

論文」「特定の課題についての研究」を履修取消することはできず、その評価は「未（試験未済）」となります。

6) 評価

大学院履修規程第9条のとおり、修士論文等の評価は、修了要件単位である30単位以上を修得した者についてのみ行います（「修了要件単位数およびカリキュラム」のページを参照）。

博士学位論文（課程博士）

博士学位論文については、大学院学則、大学院学位規則、大学院履修規程、大学院学位論文取扱要綱、大学院文学研究科博士課程（後期）における博士学位論文予備審査に関する細則、修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき取り扱われます。本要覧の「課程修了および学位取得スケジュール」のページもあわせて確認してください。

2022年度以降入学者

1. 博士学位論文提案書（プロポーザル）の提出について

1) 提出の要件

博士課程（後期）に1年以上在学していること、「研究指導」を2単位以上修得していることが提出の要件となります。

2) 提出

提出時期や方法、書式等については、すべて当該専攻（言語・文学専攻の場合は専門分野、以下「当該専攻等」という）の指示にしたがってください。

3) 審査

審査に関することは、すべて当該専攻等の指示にしたがってください。

4) 結果通知

「合格」「不合格」のいずれかの判定を当該専攻より連絡します。

5) 結果通知後の流れ

「合格」の判定を受けた者は、合格と同時に設置される指導委員会による指導のもと、博士学位論文を執筆・完成させて予備審査を申請します。ただし、合格より1年以内に論文を完成できなかった場合には、提案書（プロポーザル）は無効となり、あらためて提案書（プロポーザル）の作成より取り組みなおすことになります。

「不合格」の判定を受けた者は、あらためて提案書（プロポーザル）の作成より取り組みなおしてください。

2. 博士学位論文の予備審査について

1) 申請の要件

博士課程（後期）に2年以上在学していること、「研究指導」を4単位以上修得していること、修了要件単位を修得済みもしくは12カ月以内に修得見込みであること、かつ、博士学位論文提案書（プロポーザル）合格より1年以内であることが予備審査の申請の要件となります。

2) 申請

予備審査の申請は、以下のとおりとします。

〔申請期間〕 学事日程に示す6月末/12月の3日間 いずれも9:00~16:30

〔申請場所〕 11号館2階 教務課

〔申請書類等〕 1. 学位予備論文 正本1部・副本3部
2. 学位予備審査申請書 6部（うち5部はコピー可）
3. 学位論文要旨 6部（ ” ）

※論文書式は、当該専攻等の指示にしたがってください。

※申請書類書式は、申請予定者へ教務課よりデータでお渡しします。

3) 審査

予備審査に関することは、すべて予備審査委員会の指示にしたがってください。

4) 結果通知

博士学位論文の提出について「可」「修正の上、可」「不可」のいずれかの判定を教務課より白百合メールアドレスあてに通知します。

5) 結果通知後の流れ

「可」「修正の上、可」の判定を受けた者は、博士学位論文を提出することができます。ただし、「修正の上、可」の判定を受けた者は、必要な修正が施されていると、予備審査委員会が確認することを提出の要件とします。

「不可」の判定を受けた者は、同一の論文で再度の予備審査申請はできません。あらためて提案書（プロポーザル）の作成より取り組みなおしてください。

3. 博士学位論文の提出について

1) 提出の要件

博士学位論文の予備審査において、論文の提出について「可」「修正の上、可」の判定を受けていることが提出の要件となります。ただし、「修正の上、可」の判定を受けた者については、必要な修正が施されていると、予備審査委員会が確認することが提出の追加要件となります。

2) 提出および受理

博士学位論文の提出は、以下のとおりとします。論文・申請書類の提出をもって受理となります。

〔提出期間〕 学事日程に示す10月末／4月末の3日間 いずれも9:00～16:30

〔提出場所〕 11号館2階 教務課

〔提出書類等〕

1. 学位論文	正本1部・副本5部
2. 学位申請書	8部（うち7部はコピー可）
3. 学位論文要旨	8部（　　　　）
4. 修正指示書兼確認書	8部（　　　　、予備審査で「修正の上、可」の判定を受けた者のみ）
5. 参考論文	1点あたり6部（提出の必要がある場合のみ）

※論文書式は、当該専攻等の指示にしたがってください。

※申請書類書式は、申請予定者へ教務課よりデータでお渡しします。

※申請書類は、不備のないよう正確に記載してください。

氏名 → 外国籍の方の氏名は、以下のとおり記載してください。

論文題目 → 論文・申請書類へは、同一の題目を記載してください。

副題がある場合は、副題も必ず記載してください。

題目が外国文の場合は、学位申請書のみ題目の和訳を付記してください。

3) 審査

審査に関することは、すべて審査委員会の指示にしたがってください。

4) 審査済論文全文データCD、機関リポジトリ登録・公開許諾申請書の提出

公開審査後すみやかに、審査済論文全文データCDと機関リポジトリ登録・公開許諾申請書を審査委員会（主査）へ提出してください。学位授与後1年以内の全文公表ができないやむを得ない事情がある場合は、要約データも追加提出してください。

5) 結果通知

博士学位授与の可否については、大学へ登録している本人住所あてに教務課より文書郵送にて通知いたします。

6) 課程修了および学位取得

博士学位授与が可とされた者は、学位記授与式において、博士課程（後期）修了と同時に博士の学位が授与されます。なお、学位の種類については、発達心理学専攻は「博士（心理学）」、児童文学専攻および言語・文学専攻は「博士（文学）」となります。

7) 学位論文全文の公表

博士学位論文全文は、学位授与日から1年以内に、白百合女子大学学術機関リポジトリ、次いで、国立国会図書館において公表されます。やむを得ない事由がある場合には、本学研究科委員会の事前承認を経て、事由解消までの間、全文に代えて要約が公表されます。

2021年度以前入学者

1. 博士学位論文の提出について

1) 提出および受理

博士学位論文の提出は、以下のとおりとします。論文・申請書類の提出をもって受理となります。

〔提出期間〕 教務課開室日（随時） いずれも 9:00～16:30
提出の1週間前までに教務課へ連絡してください。

〔提出場所〕 11号館2階 教務課

〔提出書類等〕

1. 学位論文	正本1部・副本5部
2. 学位申請書	8部（うち7部はコピー可）
3. 学位論文要旨	8部（ ” ）
4. 参考論文	1点あたり6部（提出の必要がある場合のみ）

※論文書式は、当該専攻等の指示にしたがってください。

※申請書類書式は、申請予定者へ教務課よりデータでお渡しします。

※申請書類は、不備のないよう正確に記載してください。

氏 名 → 外国籍の方の氏名は、以下のとおり記載してください。

論文題目 → 論文・申請書類へは、同一の題目を記載してください。

副題がある場合は、副題も必ず記載してください。

題目が外国文の場合は、学位申請書のみ題目の和訳を付記してください。

2) 審査

審査に関することは、すべて審査委員会の指示にしたがってください。

3) 審査済論文全文データCD、機関リポジトリ登録・公開許諾申請書の提出

公開審査済すみやかに、審査済論文全文データCDと機関リポジトリ登録・公開許諾申請書を審査委員会（主査）へ提出してください。学位授与後1年以内の全文公表ができないやむを得ない事情がある場合は、要約データも追加提出してください。

4) 結果通知

博士学位授与の可否については、大学へ登録している本人住所あてに教務課より文書郵送にて通知いたします。

5) 課程修了および学位取得

博士学位授与が可とされた者が在学中の場合は、学位記授与式において、博士課程（後期）修了と同時に博士の学位が授与されます。博士学位授与が可とされた者が在学中に論文提出したのち単位取得退学していた場合は、課程博士の扱いで博士の学位が授与されます。なお、学位の種類については、発達心理学専攻は「博士（心理学）」、児童文学専攻および言語・文学専攻は「博士（文学）」となります。

6) 学位論文全文の公表

博士学位論文全文は、学位授与日より1年以内に、白百合女子大学学術機関リポジトリ、次いで、国立国会図書館において公表されます。やむを得ない理由がある場合には、本学研究科委員会の事前承認を経て、事由解消までの間、全文に代えて要約が公表されます。

在学延長・単位取得退学

博士課程（後期）3年生は、指導教員と相談のうえ、学事日程で示されている1月中旬の期日までに翌年度の学籍に関する書類を教務課へ提出してください。なお、当該年度末において博士課程（後期）修了および博士学位授与が見込まれる学生は、いずれの書類も提出の必要はありません。

研究継続のために、翌年度も引き続き在学を希望する学生・・・「在学延長届」
修了要件単位数を満たし、当該年度末をもって退学を希望する学生・・・「単位取得退学願」

専修免許状の取得

1. 専修免許状の種類および免許教科について

中学校及び高等学校一種免許状を取得（見込を含む）している学生は、修士課程を修了（修士課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む）し、所定の授業科目の単位を修得することにより、本人の申請に基づいて専修免許状を取得することができます。ただし、取得できる専修免許状は、原則として一種免許状と同一教科に限ります。専修免許状取得希望者は、「教育職員免許状（専修免許状）取得申請書」を期日までに教務課（資格担当）に提出してください。

なお、本学において取得できる免許状と専攻の組み合わせは、以下のとおりです。

課程認定を受けた専攻 (修士課程)	免許状の種類	免許教科
国語国文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
フランス語フランス文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（フランス語）
英語英文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（英語）

2. 専修免許状を取得するための基礎資格と最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	本学大学院修士課程における 授業科目の最低修得単位数
中学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること。 (修士課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む。)	24 単位
高等学校教諭専修免許状		

3. 一種免許状に係る単位の修得について

一種免許状に係る単位を修得するためには、科目等履修生（学部）としての登録が必要となりますので、期日までに手続を行ってください（「履修登録」の「10. 資格課程科目の履修登録について」参照）。ただし、登録にあたっては、指導教員の承認が必要となります。単位の修得状況にもよりますが、2種免許相当（教育実習及び教職実践演習を除く。）の単位を修得していない場合は、最低でも3年間の学修が必要になります。

なお、事前に教務課（資格担当）までご相談ください（継続の学生は除く）。原則として、中等教職課程担当教員と面談を行っていただきます。

4. 教育職員免許状の取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、専修免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、2年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各専攻を通してお渡しする予定です。なお、修了できない場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

5. 対象授業科目一覧

本学大学院修士課程において、専修免許状を取得するための授業科目として認定されているものは、以下のとおりです。

1) 「中学校教諭専修免許状（国語）」及び「高等学校教諭専修免許状（国語）」

認定を受けた専攻：国語国文学専攻

2020・2021・2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目区分		最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数等			
		中学校教諭 専修免許状	高等学校 教諭専修 免許状		中学校教諭 専修免許状		高等学校教諭 専修免許状	
					選択 必修	履修 方法	選択 必修	履修 方法
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	24	24	国語学演習（古代語）	4	これらの科目から24単位選択必修	4	これらの科目から24単位選択必修
				国語学演習（近代語）	4		4	
				古代文学演習A	4		4	
				古代文学演習B	4		4	
				中世文学演習	4		4	
				近世文学演習	4		4	
				近代文学演習A	4		4	
				近代文学演習B	4		4	
				近代文学演習C	4		4	
				近代文学演習D	4		4	
合計		24	24	本学が定める最低修得単位数		24	24	

2) 「中学校教諭専修免許状（フランス語）」及び「高等学校教諭専修免許状（フランス語）」

認定を受けた専攻：フランス語フランス文学専攻

2021・2022・2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目区分	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数等				
	中学校教諭 専修免許状	高等学校 教諭専修 免許状		中学校教諭 専修免許状		高等学校教諭 専修免許状		
				選択 必修	履修 方法	選択 必修	履修 方法	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	24	24	フランス語演習Ⅰ	2	これらの科目から24単位選択必修	2	これらの科目から24単位選択必修
				フランス語演習Ⅱ	2		2	
				フランス語演習Ⅲ	2		2	
				フランス語演習Ⅳ	2		2	
				フランス語学研究A	2		2	
				フランス語学研究B	2		2	
				フランス文学研究A	2		2	
				フランス文学研究B	2		2	
				フランス文学研究C	2		2	
				フランス文学研究D	2		2	
				フランス文学研究E	2		2	
				フランス文学研究F	2		2	
				フランス文学研究G	2		2	
				フランス文学研究H	2		2	
				フランス語翻訳研究A	2		2	
				フランス語翻訳研究B	2		2	
				フランス文化史研究A	2		2	
				フランス文化史研究B	2		2	
				フランス文化史研究C	2		2	
				フランス文化史研究D	2		2	
				フランス文化史研究E	2		2	
				フランス文化史研究F	2		2	
				フランス文化史研究G	2		2	
				フランス文化史研究H	2		2	
フランス語教育研究A	2	2						
フランス語教育研究B	2	2						
フランス語教育研究C	2	2						
フランス語教育研究D	2	2						
フランス語教育研究E	2	2						
フランス語教育研究F	2	2						
合計	24	24	本学が定める最低修得単位数	24		24		

3) 「中学校教諭専修免許状（英語）」及び「高等学校教諭専修免許状（英語）」

認定を受けた専攻：英語英文学専攻

2023・2024年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目区分		最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数等			
		中学校教諭 専修免許状	高等学校 教諭専修 免許状		中学校教諭 専修免許状		高等学校教諭 専修免許状	
					選択 必修	履修 方法	選択 必修	履修 方法
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	24	24	英語学演習 A	4	これらの科目から24単位選択必修	4	これらの科目から24単位選択必修
				英語学演習 B	4		4	
				英語学演習 C	4		4	
				英米文学演習 A	4		4	
				英米文学演習 B	4		4	
				英米文学演習 C	4		4	
				英米文学演習 D	4		4	
				英米文学演習 E	4		4	
				英米文化演習	4		4	
				国際社会・文化演習 A	4		4	
国際社会・文化演習 B	4	4						
合計		24	24	本学が定める最低修得単位数		24	24	

博士課程（前期） 公認心理師カリキュラム

1. 公認心理師について

1) 公認心理師について

公認心理師は、公認心理師法で定められている国家資格です。公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2) 公認心理師になるには

公認心理師になるには、次の3つのステップが必要です。博士課程（前期）で履修できるのは以下に記載している(2)のみで、さらに加えて(1)と(3)が必要であることを十分に理解した上で、今後の学修計画や進路選択を行いましょう。

- (1) 公認心理師カリキュラムをもつ大学において、所定の科目を履修し、卒業する。
- (2) 公認心理師カリキュラムをもつ大学院において、所定の科目を履修し、修了する。もしくは、学部卒業後2年間の実務経験を積む。
- (3) 国家試験である公認心理師試験に合格する。

2. 本学における公認心理師カリキュラム（大学院）の履修について

1) 対象

公認心理師カリキュラム（大学院）は、文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）の学生が対象となります。

2) 履修

「3. 公認心理師カリキュラム（大学院）に対応する科目」に示すとおり、公認心理師カリキュラム（大学院）においては、文部科学省令・厚生労働省令で定められている所定の科目すべての単位を修得する必要があります。入学年度により履修科目名が異なる場合がありますので、履修にあたっては十分注意してください。

3) 学外実習における実習費および単位認定時期

「心理実践実習A」「心理実践実習C」を履修する年度に、実習費（参考：心理実践実習A：40,000円、心理実践実習C：40,000円）の納入が必要となります。期間内に納入手続きを行わない場合、履修することはできません。また、一旦納入された実習費は、いかなる理由があっても返還することはできません。なお、実習費の他に、予防接種関係費用、白衣クリーニング代、交通費、食事代、証明書発行手数料等の実費が自己負担となります。

「心理実践実習A」「心理実践実習C」については、実習時期が年度をまたぐことから、その単位認定は博士課程（前期）修了年度末となります。

4) 公認心理師カリキュラム（大学院）に関するサポート

公認心理師カリキュラム（大学院）に関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

3. 公認心理師カリキュラム（大学院）に対応する科目

2024年度入学者用

	公認心理師法施行規則に定める科目	本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
公認心理師に対応する科目	① 保健医療分野に関する理論と支援の展開	保健医療分野に関する理論と支援の展開 A *1	1・2	2	2
		保健医療分野に関する理論と支援の展開 B *1	1・2	2	
	② 福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野に関する理論と支援の展開 A	1・2	2	2
		福祉分野に関する理論と支援の展開 B	1・2	2	
	③ 教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野に関する理論と支援の展開 A *1	1・2	2	2
		教育分野に関する理論と支援の展開 B *1	1・2	2	
	④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 *1	1・2	2	2
	⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開 *1	1・2	2	2
	⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践A)	1・2	2	2
		心理的アセスメントに関する理論と実践B	1・2	2	
	⑦ 心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践A)	1・2	2	2
		心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	
		心理支援に関する理論と実践C (心理療法治論) *3	1・2	2	
	⑧ 家族関係・集団・地域における心理支援に関する理論と実践	家族関係・集団・地域における心理支援に関する理論と実践A *1	1・2	2	2
		家族関係・集団・地域における心理支援に関する理論と実践B *1	1・2	2	
	⑨ 心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	2
⑩ 心理実践実習 (450 時間以上)	心理実践実習 A *2*4	1・2	2	14 (12) *5	
	心理実践実習 BⅠ	1	4		
	心理実践実習 BⅡ	2	4		
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習 BⅢ) *3	2	2		
	心理実践実習 C *2	1・2	2		
本学が定める最低修得単位数					32 単位 (30 単位) *5

*1 隔年開講科目

*2 学外実習

*3 発達臨床心理学コースの学生のみ履修可 (発達心理学コースの学生は履修不可)

*4 「心理学実践実習 A」の履修にあたっては、「保健医療分野に関する理論と支援の展開 A」の単位を修得済みであることを強く推奨します。

*5 () 内は、発達心理学コースの学生の最低修得単位数

2023 年度入学者用

	公認心理師法施行規則に定める科目	本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
公認心理師に対応する科目	① 保健医療分野に関する理論と支援の展開	保健医療分野に関する理論と支援の展開 A *1	1・2	2	2
		保健医療分野に関する理論と支援の展開 B *1	1・2	2	
	② 福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野に関する理論と支援の展開 A	1・2	2	2
		福祉分野に関する理論と支援の展開 B	1・2	2	
	③ 教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野に関する理論と支援の展開 A *1	1・2	2	2
		教育分野に関する理論と支援の展開 B *1	1・2	2	
	④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 *1	1・2	2	2
	⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開 *1	1・2	2	2
	⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践A)	1・2	2	2
		心理的アセスメントに関する理論と実践B	1・2	2	
⑦ 心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践A)	1・2	2	2	
	心理支援に関する理論と実践B	1・2	2		
	心理支援に関する理論と実践C	1・2	2		
⑧ 家族関係・集団・地域における心理支援に関する理論と実践	家族関係・集団・地域における心理支援に関する理論と実践A *1	1・2	2	2	
	家族関係・集団・地域における心理支援に関する理論と実践B *1	1・2	2		
⑨ 心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	2	
⑩ 心理実践実習 (450 時間以上)	心理実践実習 A *2	1・2	2	14 (12) *4	
	心理実践実習 BⅠ	1	4		
	心理実践実習 BⅡ	2	4		
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習 BⅢ) *3	2	2		
	心理実践実習 C *2	1・2	2		
本学が定める最低修得単位数					32 単位 (30 単位) *4

*1 隔年開講科目

*2 学外実習

*3 発達臨床心理学コースの学生のみ履修可 (発達心理学コースの学生は履修不可)

*4 () 内は、発達心理学コースの学生の最低修得単位数

博士課程（前期） 臨床心理士カリキュラム

1. 臨床心理士について

1) 臨床心理士について

臨床心理士とは、臨床心理士は、心の問題に取り組む“心理専門職”の証となる資格です。臨床心理士に求められる専門行為とは、次のとおりです。

- (1) 種々の心理テスト等を用いての心理査定技法や面接査定に精通していること。
- (2) 一定の水準で臨床心理学的にかかわる面接援助技法を適用して、その的確な対応・処置能力を持っていること。
- (3) 地域の心の健康活動にかかわる人的援助システムのコーディネーティングやコンサルテーションにかかわる能力を保持していること。
- (4) 自らの援助技法や査定技法を含めた多様な心理臨床実践に関する研究・調査とその発表等についての資質の涵養が要請されること。

2) 臨床心理士になるには

臨床心理士になるには、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格することが必要です。同協会が発表している主な受験資格は次のとおりです。

- (1) 指定大学院（1種・2種）を修了し、所定の条件を充足している者
- (2) 臨床心理士養成に関する専門職大学院を修了した者
- (3) 諸外国で指定大学院と同等以上の教育歴があり、修了後の日本国内における心理臨床経験2年以上を有する者
- (4) 医師免許取得者で、取得後、心理臨床経験2年以上を有する者

2. 本学における臨床心理士カリキュラムの履修について

1) 対象

臨床心理士カリキュラムは、文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）のうち発達臨床心理学コースの学生が対象となります。

2) 履修

「3. 臨床心理士カリキュラムに対応する科目」に示すとおり、臨床心理士カリキュラムにおいては、日本臨床心理士資格認定協会で定められている所定の科目を修得する必要があります。本学においては、協会の定める必修5科目（16単位）に対応する本学開講科目9科目（20単位）、および選択必修科目群（A、B、C、D、E）からそれぞれ2単位以上で計10単位以上、合計26単位以上を修得する必要があります。

3) 臨床心理士カリキュラムに関するサポート

臨床心理士カリキュラムに関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

3. 臨床心理士カリキュラムに対応する科目

2024年度入学者用

	臨床心理士資格認定に必要な科目	本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
必修	臨床心理学特論	臨床心理学特論Ⅰ	1・2	2	20 *2
		臨床心理学特論Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理学面接特論	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A）	1・2	2	
		臨床心理面接特論Ⅱ *1	1・2	2	
	臨床心理査定演習	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践A）	1・2	2	
		臨床心理査定演習Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理基礎演習	臨床心理基礎実習	1・2	4	
	臨床心理実習	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習BⅢ）	1・2	2	
臨床心理実習Ⅱ		1・2	2		
選択必修A	心理学研究法特論	心理学研究法特論	1・2	2	2
	心理統計法特論	—	—	—	
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特論	1・2	2	
選択必修B	人格心理学特論	—	—	—	2
	発達心理学特論	心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	
		心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	
	学習心理学特論	—	—	—	
	認知心理学特論	認知心理学特論	1・2	2	
	比較行動学特論	—	—	—	
選択必修C	社会心理学特論	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	2
	人間関係学特論	—	—	—	
	社会病理学特論	—	—	—	
	家族心理学特論	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A	1・2	2	
	犯罪心理学特論	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	
	臨床心理関連行政論	—	—	—	
選択必修D	精神医学特論	保健医療分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	2
	心身医学特論	—	—	—	
	神経生理学特論	保健医療分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	老年心理学特論	福祉分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	障害者（児）心理学特論	福祉分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	
	精神薬理学特論	—	—	—	
選択必修E	投影法特論	投影法特論	1・2	2	2
	心理療法特論	心理支援に関する理論と実践C（心理療法特論）	1・2	2	
	学校臨床心理学特論	—	—	—	
	グループ・アプローチ特論	—	—	—	
	臨床心理地域援助特論	—	—	—	
		修士論文	2	0	0*3
本学が定める最低修得単位数					26単位以上

*1 「臨床心理面接特論Ⅱ」の履修にあたっては、「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A）」の単位を修得済みであることを強く推奨します。

*2 本学では、9科目（20単位）を必修科目とします。

*3 修士論文のテーマと内容が臨床心理学であることが求められます。

2023 年度入学者用

	臨床心理士資格認定に必要な科目	本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
必修	臨床心理学特論	臨床心理学特論Ⅰ	1・2	2	20 *1
		臨床心理学特論Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理学面接特論	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A）	1・2	2	
		臨床心理面接特論Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理査定演習	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践A）	1・2	2	
		臨床心理査定演習Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理基礎演習	臨床心理基礎実習	1・2	4	
臨床心理実習	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習BⅢ）	1・2	2		
	臨床心理実習Ⅱ	1・2	2		
選択必修A	心理学研究法特論	心理学研究法特論	1・2	2	2
	心理統計法特論	—	—	—	
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特論	1・2	2	
選択必修B	人格心理学特論	—	—	—	2
	発達心理学特論	心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	
		心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	
	学習心理学特論	—	—	—	
	認知心理学特論	認知心理学特論	1・2	2	
	比較行動学特論	—	—	—	
選択必修C	社会心理学特論	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	2
	人間関係学特論	—	—	—	
	社会病理学特論	—	—	—	
	家族心理学特論	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A	1・2	2	
	犯罪心理学特論	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	
	臨床心理関連行政論	—	—	—	
選択必修D	精神医学特論	保健医療分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	2
	心身医学特論	—	—	—	
	神経生理学特論	保健医療分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	老年心理学特論	福祉分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	障害者（児）心理学特論	福祉分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	
	精神薬理学特論	—	—	—	
選択必修E	投影法特論	投影法特論	1・2	2	2
	心理療法特論	—	—	—	
	学校臨床心理学特論	—	—	—	
	グループ・アプローチ特論	—	—	—	
	臨床心理地域援助特論	—	—	—	
		修士論文	2	0	0*2
本学が定める最低修得単位数					26 単位以上

*1 本学では、9科目（20単位）を必修科目とします。

*2 修士論文のテーマと内容が臨床心理学であることが求められます。

博士課程（前期） 臨床発達心理士カリキュラム

1. 臨床発達心理士について

1) 臨床発達心理士について

臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。臨床発達心理士に求められる専門行為とは、次のとおりです。

- (1) 発達心理学を中心とした心理学諸分野の科学的・理論的な知識。
- (2) 人間が実際に発達する場に関する社会的・実践的な知識。
- (3) 人間の発達をアセスメントし支援する臨床的な知識・技能。

2) 臨床発達心理士になるには

一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構が発表している主な受験資格はタイプⅠ～タイプⅣまであります。文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）にかかわるタイプⅠ（大学院修了タイプ）および、タイプⅡ-Ⅰ（現職者大学院修了）について以下に記載します。その他のタイプについては、同機構Webページで確認してください。

(1) タイプⅠ（大学院修了タイプ）

大学院の博士前期課程において、必要な教育歴と実習経験を満たすものであり、大学院博士前期課程終了後、臨床発達に関する実践経験年数が3年未満の者や、大学院博士後期課程の者もこれに含まれる。以下、3つの条件を満たす必要があり、一次審査では書類審査に加えて、筆記試験を受験することが求められる。

- ① 発達心理学隣接諸科学大学院博士前期課程を修了している、または修了年度で修了見込みである。
- ② 5つの指定科目のうち、必修2科目8単位、選択必修1科目4単位以上の単位を大学院の授業、または、臨床発達心理士認定運営機構が主催する「指定科目講習会」で取得している、または申請年度において取得見込みである。尚、「認知発達とその支援に関する科目」「社会・情動の発達とその支援に関する科目」「言語発達とその支援に関する科目」については、〈基礎〉と〈支援〉の各々を満たして4単位とすること。
- ③ 200時間以上の臨床発達支援に関する臨床実習の経験を有する、または申請年度において修了見込みである。現職者が、大学院に入学した場合など、一定の条件で臨床経験を臨床実習に換算することもある。

(2) タイプⅡ-Ⅰ（現職者大学院修了）

大学院修了の現職者が申請できる。以下、3つの条件を満たすとともに、一次審査では書類審査に加えて、筆記試験を受験することが求められる。ただし、筆記試験の受験を臨床実務経験に関する事例報告書の審査によって替えることができる。

- ① 発達心理学隣接諸科学大学院博士前期課程を修了している、または修了年度で修了見込みである。
- ② 3年以上の臨床発達支援に関する臨床実務経験を有する。
- ③ 5つの指定科目のうち、必修2科目8単位、選択必修1科目4単位以上の単位を大学院の授業、または、臨床発達心理士認定運営機構が主催する「指定科目講習会」で取得している、または申請年度において取得見込みである。

2. 本学における臨床発達心理士カリキュラムの履修について

1) 対象

臨床発達心理士カリキュラムは、文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）の学生が対象となります。

2) 履修

「3. 臨床発達心理士カリキュラムに対応する科目」に示すとおり、臨床発達心理士カリキュラムにおいては、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構で定められている所定の科目を修得する必要があります。本学においては、指定6科目（12単位）と臨床実習科目の修得が求められます。

3) 学外実習における実習費および単位認定時期

「心理実践実習 A」「心理実践実習 C」を履修する年度に、実習費（参考：心理実践実習 A：40,000 円、心理実践実習 C：40,000 円）の納入が必要となります。期間内に納入手続きを行わない場合、履修することはできません。また、一旦納入された実習費は、いかなる理由があっても返還することはできません。なお、実習費の他に、予防接種関係費用、白衣クリーニング代、交通費、食事代、証明書発行手数料等の実施が自己負担となります。

「心理実践実習 A」「心理実践実習 C」については、実習時期が年度をまたぐことから、その単位認定は博士課程（前期）修了年度末となります。

4) 臨床発達心理士カリキュラムに関するサポート

臨床発達心理士カリキュラムに関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

3. 臨床発達心理士カリキュラムに対応する科目

	臨床発達心理士カリキュラムに定められている科目		本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
必修	臨床発達心理学の基礎に関する科目	4	認知心理学特論	1・2	2	4
			福祉分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	
	臨床発達支援の専門性に関する科目	4	教育分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	4
			福祉分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	臨床実習	200 時間	心理実践実習 A *1*2	1・2	2	12 (200時間)
			心理実践実習 B I	1	4	
心理実践実習 B II			2	4		
心理実践実習 C *1			1・2	2		
選択必修*3	社会・情動の発達とその支援に関する科目	4	心の健康に関する理論と実践	1・2	2	4
			心理支援に関する理論と実践 B <small>2024.04.02訂正</small>	1・2	2	
	認知発達とその支援に関する科目	4	—	—	—	
			—	—	—	
	言語発達とその支援に関する科目	4	—	—	—	
			—	—	—	
本学が定める最低修得単位数						24単位

*1 学外実習

*2 「心理学実践実習 A」の履修にあたっては、「保健医療分野に関する理論と支援の展開 A」の単位を修得済みであることを強く推奨します。

*3 本学では、選択必修として「社会・情動の発達とその支援に関する科目」へ2科目のみ設定しているため、両科目の単位修得が求められます。

※ 臨床発達心理士カリキュラムは、臨床発達心理師認定運営機構が主催する「指定科目取得講習会」(有料)でも受講可能です。

詳細は同機構 Web ページ (<https://www.jocdp.jp/>) で確認してください。